

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ノートルダムセイシンガクエン 学校法人 ノートルダム清心学園							
フリガナ大学の名称	ノートルダムセイシンジョシダイガク ノートルダム清心女子大学 (Notre Dame Seishin University)							
大学本部の位置	岡山県岡山市北区伊福町2丁目16番9号							
大学の目的	<p>本学は、キリスト教精神に基づくリベラル・アーツ・カレッジとして、女子学生に広い教養を施し、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、倫理性と国際性をもちリーダーシップを発揮し、社会・地域に貢献できる誠実で有能な人材を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>本学は1949年、中四国初の4年制女子大学の一つとして出発し、地域及び国際社会に貢献する女性を、27,400人以上輩出し、社会から高い評価と信頼を得ている。その結果、安定した志願者と定員充足率を確保し、キリスト教精神に根ざした一人ひとりの人格を大切にする全人教育により、全国トップクラスの就職率と極めて低い退学率を実現している。現在、世界にネットワークをもち、国連公認NGOとしてSDGs制定、推進に貢献し、国際的に活動するカトリック女子修道会(SNDdeN)を設立母体に2学部6学科、大学院2研究科を有する女子高等教育機関の特質を生かすことで、広い教養と高い倫理性及び国際的視野で考え、社会・地域で活躍できるグローバル力をもってリーダーシップを発揮できる女性を育成し、地域連携やSDGsの取り組み等を推し進め、持続可能な社会・地域の創出への貢献に力を注いでいる。</p> <p>今後ますます「女性のエンパワーメント」の推進が求められる社会にあって、岡山の地で唯一の女子大学として、より多くの有能で高い倫理性とグローバル力をもつ女性を社会に送り出し、本学に寄せられる社会・地域からの期待と要請に長期的に応え続けるため、本学のリベラル・アーツ教育の強化と5学科の専門教育内容の更なる充実を図り、収容定員を増やす。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 【The Faculty of Literature】 英語英文学科 【Department of English Language and Literature】	4年	90 (80)	—	360 (320)	学士 (英語英文学) 【Bachelor of Arts in English Language and Literature】	令和3年4月 第1年次	岡山県岡山市北区伊福町2丁目16番9号
	日本語日本文学科 【Department of Japanese Language and Literature】	4年	70 (60)	—	280 (240)	学士 (日本語日本文学) 【Bachelor of Arts in Japanese Language and Literature】	令和3年4月 第1年次	同上
	現代社会学科 【Department of Contemporary Sociological Studies】 人間生活学部 【The Faculty of Human Life Sciences】	4年	70 (60)	—	280 (240)	学士 (現代社会学) 【Bachelor of Arts in Contemporary Sociological Studies】	令和3年4月 第1年次	同上

	人間生活学科 【Department of Human Living Sciences】	4	80 (70)	—	320 (280)	学士 (人間生活学) 【Bachelor of Arts in Human Living Sciences】	令和3年4月 第1年次	同上	
	児童学科 【Department of Child Welfare】	4	130 (120)	—	520 (480)	学士 (児童学) 【Bachelor of Arts in Child Welfare】	令和3年4月 第1年次	同上	
	食品栄養学科 【Department of Foods and Human Nutrition】	4	80	—	320	学士 (食品栄養学) 【Bachelor of Arts in Foods and Human Nutrition】	昭和40年4月 第1年次	同上	
	計		520 (470)	—	2,080 (1,880)				
	同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	— 単位			
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	文学部 英語英文学科	人	人	人	人	人	人	人
			7 (7)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	114 (114)
			3 (3)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	126 (126)
			5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	118 (118)
			5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	131 (131)
			8 (8)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	135 (135)
			4 (4)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	4 (4)	112 (112)
	計		32 (32)	40 (40)	10 (10)	0 (0)	82 (82)	4 (4)	— (—)
	既設	キリスト教文化研究所	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
			0 (0)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
			3 (3)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	— (—)
合計		35 (35)	44 (44)	11 (11)	1 (1)	91 (91)	4 (4)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
			人		人		人		
	事務職員		65 (65)		19 (19)		84 (84)		
	技術職員		2 (2)		2 (2)		4 (4)		
	図書館専門職員		4 (4)		0 (0)		4 (4)		
	その他の職員		6 (6)		1 (1)		7 (7)		
計		77 (77)		22 (22)		99 (99)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地は ノートルダム清 心女子大学附属 小学校との共用 (収容定員360 名, 運動場面積 基準3,590㎡)				
	校 舎 敷 地	32,011 ㎡	0 ㎡	4,504 ㎡	36,515 ㎡					
	運 動 場 用 地	0 ㎡	11,033 ㎡	1,172 ㎡	12,205 ㎡					
	小 計	32,011 ㎡	11,033 ㎡	5,676 ㎡	48,720 ㎡					
	そ の 他	26,879 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	26,879 ㎡					
	合 計	58,890 ㎡	11,033 ㎡	5,676 ㎡	75,599 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	法人部と共用				
		29,352 ㎡ (29,352 ㎡)	323 ㎡ (323 ㎡)	4,916 ㎡ (4,916 ㎡)	35,591 ㎡ (35,591 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	53 室	23 室	18 室	4 室 (補助職員 4 人)	2 室 (補助職員 4 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	大学全体				
		大学全体			91 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	361,739 [84,730] (361,739 [84,730])	2,892 [423] (2,892 [423])	6,211 [5,642] (6,211 [5,642])	11,095 (11,095)	2,215 (2,215)	1 (1)			
	計	361,739 [84,730] (361,739 [84,730])	2,892 [423] (2,892 [423])	6,211 [5,642] (6,211 [5,642])	11,095 (11,095)	2,215 (2,215)	1 (1)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体			
		3,172 ㎡	367	324,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		6,061 ㎡	水泳プール, テニスコート							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	大学全体(共同研 究費等については 申請に基づき各委 員会等において審 査し, その都度予 算化するため, 現 時点では未定)
		教員 1 人当り研究費等		550 千円	550 千円	550 千円	550 千円	-	-	
		共 同 研 究 費 等		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	-	-	
		図 書 購 入 費	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円	-	-	
	設 備 購 入 費	67,000 千円	67,000 千円	67,000 千円	67,000 千円	67,000 千円	-	-		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
文学部	1,225 千円	1,025 千円	1,025 千円	1,025 千円	-	-				
人間生活学部	1,228 千円	1,028 千円	1,028 千円	1,028 千円	-	-				
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			私立大学等経常費補助金, 手数料収入, 雑収入 等							
大 学 の 名 称		ノートルダム清心女子大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	岡山県岡山市北区 伊福町2丁目16番9 号
文学部		年	人	年次 人	人		倍			
英語英文学科		4	80	-	320	学士 (英語英文学)	1.06	昭和24年度		
日本語日本文学科		4	60	-	240	学士 (日本語日本文学)	1.02	昭和27年度		
現代社会学科		4	60	-	240	学士 (現代社会学)	1.22	平成15年度		
人間生活学部							1.06			
人間生活学科		4	70	-	280	学士 (人間生活学)	1.11	昭和24年度		
児童学科		4	120	-	480	学士 (児童学)	1.10	昭和39年度		
食品栄養学科		4	80	-	320	学士 (食品栄養学)	0.97	昭和40年度		

既設大学等の状況	大学の名称	ノートルダム清心女子大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	文学研究科	年	人	年次人	人		倍		
	博士前期・修士課程						0.24		
	日本語日本文学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.33	平成7年度	岡山県岡山市北区伊福町2丁目16番9号
	英語英米文学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	平成7年度	
	社会文化学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.25	平成19年度	
	博士後期課程						0.00		
	日本語日本文学専攻	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	平成9年度	
	人間生活学研究科								
	修士課程						0.17		
	人間発達学専攻	2	11	—	22	修士(学術)	0.04	平成7年度	
	食品栄養学専攻	2	3	—	6	修士(学術)	0.99	平成7年度	
	人間生活学専攻	2	6	—	12	修士(学術)	0.00	平成9年度	
	博士後期課程						0.00		
	人間複合科学専攻	3	3	—	9	博士(学術)	0.00	平成12年度	
附属施設の概要	<p>名称：ノートルダム清心女子大学附属小学校 目的：教育の理論および実際に関する研究や教職に関わる実践的な指導力を育成するための施設 所在地：岡山県岡山市北区伊福町2丁目16番9号 設置年月：昭和42年4月 規模等：土地面積2,936㎡ 建物面積3,645㎡</p> <p>名称：ノートルダム清心女子大学附属幼稚園 目的：教育の理論および実際に関する研究や教職に関わる実践的な指導力を育成するための施設 所在地：岡山県岡山市北区伊福町2丁目16番9号 設置年月：昭和40年4月 規模等：土地面積2,740㎡ 建物面積1,426㎡</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人ノートルダム清心学園 設置認可等に係る組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
ノートルダム清心女子大学				ノートルダム清心女子大学				
文学部				文学部				
英語英文学科	80	-	320	英語英文学科	<u>90</u>	-	<u>360</u>	定員変更 (10)
日本語日本文学科	60	-	240	日本語日本文学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更 (10)
現代社会学科	60	-	240	現代社会学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更 (10)
人間生活学部				人間生活学部				
人間生活学科	70	-	280	人間生活学科	<u>80</u>	-	<u>320</u>	定員変更 (10)
児童学科	120	-	480	児童学科	<u>130</u>	-	<u>520</u>	定員変更 (10)
食品栄養学科	80	-	320	食品栄養学科	80	-	320	
計	470	-	1,880	計	<u>520</u>	-	<u>2,080</u>	
ノートルダム清心女子大学大学院				ノートルダム清心女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
日本語日本文学専攻 (M)	6	-	12	日本語日本文学専攻 (M)	6	-	12	
英語英米文学専攻 (M)	4	-	8	英語英米文学専攻 (M)	4	-	8	
社会文化学専攻 (M)	4	-	8	社会文化学専攻 (M)	4	-	8	
日本語日本文学専攻 (D)	2	-	6	日本語日本文学専攻 (D)	2	-	6	
人間生活学研究科				人間生活学研究科				
人間発達学専攻 (M)	11	-	22	人間発達学専攻 (M)	11	-	22	
食品栄養学専攻 (M)	3	-	6	食品栄養学専攻 (M)	3	-	6	
人間生活学専攻 (M)	6	-	12	人間生活学専攻 (M)	6	-	12	
人間複合科学専攻 (D)	3	-	9	人間複合科学専攻 (D)	3	-	9	
計	39	-	83	計	39	-	83	

別記様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部英語英文学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	人間論	1前	2			○									兼3	オムニバス・ ※実習 ※演習 共同・ ※実習 ※演習 ※演習 ※演習
	キリスト教学Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅱ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○									兼4	
	キリスト教学Ⅳ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅵ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅶ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅷ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅸ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅹ	2・3・4後		2		○									兼2	
	キリスト教学ⅩⅠ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学ⅩⅡ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学ⅩⅢ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学ⅩⅣ	3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学ⅩⅤ	3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学ⅩⅥ	3・4前		2		○									兼1	
	小計 (17科目)	—	2	32	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 科目	教養科目	哲学Ⅰ		2		○									兼1	隔年
	哲学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	倫理学Ⅰ	2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	倫理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	文学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	文学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	文学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	文学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	文学Ⅴ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	文学Ⅵ	1・2・3・4前	2		○				1					兼2	集中	
	文学Ⅶ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	芸術Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	芸術Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	集中	
	芸術Ⅲ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中	
	芸術Ⅳ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中	
	歴史学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	歴史学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	歴史学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	歴史学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	日本国憲法Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	日本国憲法Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	法律学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	法律学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	社会学	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	言語学	1・2・3・4前	2		○				2					兼1	オムニバス	
	心理学Ⅰ (心理学概論)	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	心理学Ⅱ (臨床心理学概論)	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	心理学Ⅲ (健康・医療心理学)	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	情報学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	情報学Ⅱ	2・3・4前	2		○									兼1		
	数学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	数学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	物理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	物理学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	化学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1	隔年	
	化学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年	
	生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	生物学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	科学史Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	科学史Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	医学Ⅰ (人体の構造と機能及び疾病)	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	医学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1		
小計 (42科目)		—	0	84	0	—			3	0	0	0	0	兼31	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	特別演習英語A	1・2・3・4前・後		1			○								兼1	集中・隔年・集中・実習
	特別演習英語B	1・2・3・4前・後		1			○								兼1	
	特別演習英語C	1・2・3・4前・後		1			○								兼1	
	特別演習英語D	1・2・3・4前・後		1			○								兼1	
	特別演習英語E	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習英語F	1・2・3・4後		1			○								兼1	
	特別演習英語G	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習英語H	1・2・3・4後		1			○								兼1	
	特別演習英語I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習英語J	1・2・3・4後		1			○								兼1	
	海外英語演習A	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	海外英語演習B	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	ドイツ語ⅠA	1前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅠB	1前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅡA	1後		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅡB	1後		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅢA	2前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅢB	2前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅣA	2後		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅣB	2後		1			○								兼1	
	特別演習ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	フランス語ⅠA	1前		1			○								兼1	
	フランス語ⅠB	1前		1			○								兼1	
	フランス語ⅡA	1後		1			○								兼1	
	フランス語ⅡB	1後		1			○								兼1	
	フランス語ⅢA	2前		1			○								兼1	
	フランス語ⅢB	2前		1			○								兼1	
	フランス語ⅣA	2後		1			○								兼1	
	フランス語ⅣB	2後		1			○								兼1	
	特別演習フランス語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習フランス語Ⅱ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習中国語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○								兼1	
	特別演習日本語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	特別演習日本語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○								兼1	
小計(36科目)		—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	—
健康科目	心と体の健康論	1前	2				○								兼3	オムニバス
	体育実技Ⅰ	1前	1					○							兼2	
	体育実技Ⅱ	2・3・4前		1				○							兼1	
	体育実技Ⅲ	2・3・4後		1				○							兼1	
小計(4科目)		—	3	2	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—	
自立力育成科目	A 群 わたしたちの社会と経済	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	集中・※ 講義 オムニバス・ ※演習 ※演習 ※演習 ※演習
	わたしたちの社会と政治	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	わたしたちの社会と法	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	わたしたちの社会とボランティア	1・2・3・4通		2				○							兼1	
	人材育成論	1・2・3・4前		2			○								兼3	
	わたしたちの社会と科学	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	世界の中のわたしたち	1・2・3・4前・後		2				○							兼1	
	ことばと社会	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン基礎	1・2後		2			○								兼1	
	キャリアデザイン発展	2・3前		2			○								兼1	
小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
全学 共通 科目	B 群 自立 力育 成科 目	ボランティア実践Ⅰ		2		○									兼2	共同・ 集中・ ※実習	
		ボランティア実践Ⅱ	2・3・4通	2		○										兼1	集中・ ※実習
		ボランティア実践Ⅲ	1・2・3・4前	2		○										兼1	集中・ ※実習
		ボランティア実践Ⅳ	1・2・3・4後	2		○										兼1	集中・ ※実習
		日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	※演習
		日本語表現Ⅱ	1・2・3・4前・後	2				○								兼1	
		日本語表現Ⅲ	1・2・3・4前	2			○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅳ	1・2・3・4後	2			○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅴ	1・2・3・4前	2			○									兼2	ムニバス・ ※演習
		日本語表現Ⅵ	1・2・3・4後	2			○									兼2	ムニバス・ ※演習
		アジアと平和を考える	2・3・4前	2			○									兼2	共同・ 集中・ ※実習
		「いのち」と「くらし」の倫理	1・2・3・4後	2			○									兼1	隔年・ ※演習
		ディスカッションから社会 を考える	1・2・3・4前	2			○									兼1	※演習
		女性の自立を考える	1・2・3・4後	2			○									兼1	隔年・ ※演習
		共生と文化を考える	1・2・3・4後	2			○					1					
		自立力育成ゼミⅠ	1・2・3・4前・後	2					○							兼1	
		自立力育成ゼミⅡ	2・3・4前	2					○							兼1	
		自立力育成ゼミⅢ	2・3・4前	2					○							兼1	
		自立力育成ゼミⅣ	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		自立力育成ゼミⅤ	1・2・3・4前・後	2					○		1	1					集中・ ※講義
		自立力育成ゼミⅥ	1・2・3・4後	2					○							兼2	共同・ 集中・
		自立力育成ゼミⅦ	1・2・3・4後	2					○							兼1	集中・ ※実習
		自立力育成ゼミⅧ	1・2・3・4後	2					○							兼1	※実習
小計（23科目）	—	0	46	0	—				1	2	0	0	0	兼20	—		
科情 目報	情報メディア演習	1・2・3・4前・後		2		○									兼5	※演習	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	Active English I	1前	2				○		2	3					兼1
	Communicative English I	1前	1				○		2	3					
	Active English II	1後	2				○		2	3					
	Communicative English II	1後	1				○		2	3					
	英文法 I	1前	2				○		1						
	英文法 II	1後	2				○								
	英語講読 I	1前・後	2				○		2	1					
	英語講読 II	1前・後	2				○		2		1				
専攻科目	英文学概論 I	1前	2				○		1	1					兼1 兼1
	英文学概論 II	1後	2				○		1	1	1				
	英国文学史 I	1前		2			○			1	1				
	英国文学史 II	1後		2			○			1					
	米国文学史 I	2・3・4前		2			○								
	米国文学史 II	2・3・4後		2			○								
	西洋現代文学概論 I	3・4前		2			○		1						
	西洋現代文学概論 II	3・4後		2			○		1						
	英米文学研究 I A	2・3・4前		2			○		1						
	英米文学研究 I B	2・3・4後		2			○		1						
	英米文学研究 II A	2・3・4前		2			○		1						
	英米文学研究 II B	2・3・4後		2			○		1						
	英米文学研究 III A	2・3・4前		2			○			1					
	英米文学研究 III B	2・3・4後		2			○			1					
	英米文学研究 IV A	3・4前		2			○		1						
	英米文学研究 IV B	3・4後		2			○		1						
	英米文学研究 V A	3・4前		2			○		1						
	英米文学研究 V B	3・4後		2			○		1						
	英米文学研究 VI A	3・4前		2			○			1					
	英米文学研究 VI B	3・4後		2			○			1					
	聖書文学 I	2・3・4前		2			○		1						
	聖書文学 II	3・4後		2			○		1						
	英米文学講読 I	2・3・4前		2			○		1						
	英米文学講読 II	2・3・4後		2			○		1						
	英米文学演習 I	3・4前		2				○	3	1					
	英米文学演習 II	3・4後		2				○	3	1					
	英語学概論 I	1前	2				○		1	1					
	英語学概論 II	1後	2				○		1	1					
	英語史 I	3・4前		2			○			1	1				
	英語史 II	3・4後		2			○			1	1				
	現代言語学概論 I	3・4前		2			○		1						
	現代言語学概論 II	3・4後		2			○		1						
	英語音声学	1後		2			○		1						
	英語学・言語学研究 I A	2・3・4前		2			○		1						
	英語学・言語学研究 I B	2・3・4後		2			○		1						
	英語学・言語学研究 II A	2・3・4前		2			○			1				※演習	
	英語学・言語学研究 II B	2・3・4後		2			○			1				※演習	
	英語学・言語学研究 III A	2・3・4前		2			○		1						
	英語学・言語学研究 III B	2・3・4後		2			○		1						
	英語学・言語学研究 IV A	3・4前		2			○		1						
英語学・言語学研究 IV B	3・4後		2			○		1							
英語学・言語学研究 V A	3・4前		2			○			1				※演習		
英語学・言語学研究 V B	3・4後		2			○			1				※演習		
英語学・言語学研究 VI A	3・4前		2			○				1					
英語学・言語学研究 VI B	3・4後		2			○				1					
英語学講読 I	2・3・4前		2			○				1					
英語学講読 II	2・3・4後		2			○				1					
英語学・言語学演習 I	3・4前		2				○	2	1	1					
英語学・言語学演習 II	3・4後		2				○	2	1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 攻 科 目	General Introduction to International Communication I	1前	2				○		1	1					※講義
	General Introduction to International Communication II	1後	2				○		1	1					※講義
	International Communication IA	2・3・4前		2			○			1					※演習
	International Communication IB	2・3・4後		2			○			1					※講義
	International Communication IIA	2・3・4前		2			○		1						
	International Communication IIB	2・3・4後		2			○		1						
	International Communication IIIA	2・3・4前		2			○			1					
	International Communication IIIB	2・3・4後		2			○			1					
	International Communication Research IA	3・4前		2				○			1				
	International Communication Research IB	3・4後		2				○			1				※講義
	International Communication Research II A	3・4前		2				○		1					
	International Communication Research II B	3・4後		2				○		1					
	International Communication Research III A	3・4前		2				○			1				
	International Communication Research III B	3・4後		2				○						兼1	※演習
	Practical Communication IA	3・4前		2				○						兼1	
	Practical Communication IB	3・4後		2				○						兼1	
	Practical Communication IIA	3・4前		2				○		1					※演習
	Practical Communication IIB	3・4後		2				○		1					※演習
	Practical Communication IIIA	3・4前		2				○			1				
	Practical Communication IIIB	3・4後		2				○			1				
Media Literacy I	3・4前		2				○				1				
Media Literacy II	2・3・4前・後		2				○				1				
Business English I	3・4前		2				○		1	1					
Business English II	3・4後		2				○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	English for Study Abroad I	2・3・4前		2			○			1					※講義
	English for Study Abroad II	2・3・4後		2			○				1				
	International Communication Seminar I	3・4前		2			○		2	4					
	International Communication Seminar II	3・4後		2			○		2	4					
	Interactive English I	2前	2				○			1					兼2
	Interactive English II	2後	2				○			1					兼2
	Advanced English I	3前	1				○			2					兼2
	Advanced English II	3後	1				○			2					兼2
	英語 I	2・3・4前		1			○								兼1
	英語 II	2・3・4後		1			○								兼1
	英語 III	2・3・4前		1			○				1				
	英語 IV	2・3・4後		1			○				1				
	English Writing I	2前	2				○			1					兼2
	English Writing II	2後	2				○			1					兼2
	English Writing III	3・4前		2			○								兼1
	English Writing IV	3・4前		2			○			1					
	異文化理解 I	2・3・4前		2			○			1					
	異文化理解 II	2・3・4後		2			○			1					
	卒業論文	4通		6				○		7	6	1			
	比較文学概論 I	2・3・4前		2			○			1					
	比較文学概論 II	2・3・4後		2			○			1					
	実験音声学 I	2・3・4前		2				○			1				
	実験音声学 II	2・3・4後		2				○			1				
英語科教育法 I	2後		2			○			1						
英語科教育法 II	3前		2			○			1						
小計 (106科目)			86	166	0				7	6	1	0	0	兼8	—
研究 所 開 講 教 科 文 化 目 化	キリスト教思想特講 I	2・3・4前		2			○								兼1
	キリスト教思想特講 II	2・3・4後		2			○								兼1
	キリスト教文化特講 I	2・3・4前		2			○								兼1
	キリスト教文化特講 II	2・3・4後		2			○								兼1
	キリスト教文学特講 I	2・3・4前		2			○								兼1
	キリスト教文学特講 II	2・3・4後		2			○								兼1
	キリスト教文学演習 I	3・4前		2				○							兼1
	キリスト教文学演習 II	3・4前		2				○							兼1
小計 (8科目)			0	16	0				0	0	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教職基礎	1後			2	○									兼1	
	教育原理	2後			2	○									兼1	
	教育心理学	2前			2	○									兼1	
	発達心理学	2前			2	○									兼1	
	学校経営論	3前			2	○			1							
	特別支援教育基礎論	1後			2	○									兼1	
	教育課程論	2前			2	○									兼1	
	英語科指導法演習Ⅰ	3後			2		○		1							
	英語科指導法演習Ⅱ	3後			2		○		1							
	道徳教育の理論と方法	2後			2	○									兼1	※演習
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2後			2	○									兼2	
	教育方法論	3前			2	○									兼1	
	生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	3後			2	○									兼1	※演習
	生徒指導論	3前			2	○									兼1	
	教育相談	3後			2	○									兼1	
	中等教育実習事前事後指導	4前			1	○			1							※演習
	中等教育実習Ⅰ	4前			4			○	1							集中
	中等教育実習Ⅱ	4前			2			○	1							集中
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○		1							集中
	介護等体験の理論	2後			1	○									兼1	
	介護等体験の実践	3通			1			○							兼1	※講義
	教職特講Ⅰ	3後			2	○									兼1	※演習
	教職特講Ⅱ	4前			2	○									兼1	※演習
	教職特講Ⅲ	4後			2	○									兼1	※演習
小計(24科目)	—		0	0	47	—			1	0	0	0	0	兼14	—	
学校図書司書に関する科目	学校経営と学校図書館	2・3・4前			2	○									兼1	
	学校図書館メディアの構成	2・3・4前			2	○									兼1	※演習
	学習指導と学校図書館	2・3・4後			2	○									兼1	
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後			2	○									兼1	※演習
小計(5科目)	—		0	0	10	—			0	0	0	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
図書館に関する科目	図書館概論	1前			2	○								兼1	
	図書館制度・経営論	3後			2	○								兼1	
	図書館情報技術論	2後			2	○								兼1	※演習
	図書館サービス概論	2前			2	○								兼1	
	情報サービス論	3前			2	○								兼1	
	児童サービス論	1前			2	○								兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○							兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○								兼1	
	情報資源組織論	2前			2	○								兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○							兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○							兼1	
	図書館サービス特論	3後			2	○								兼1	
	図書・図書館史	1後			2	○								兼1	
	図書館施設論	3後			2	○								兼1	
小計(15科目)	—	0	0	26	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2	○								兼1	※演習
	生涯学習概論Ⅱ	1後			2	○								兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅰ	1後			2	○								兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅱ	2前			2	○								兼1	※演習
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2	○								兼1	※集中
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2	○								兼1	※集中
	社会教育実践演習	3・4通			4		○							兼4	※講義・実習
地域創生論	1・2・3・4後			2	○								兼1	※演習	
小計(8科目)	—	0	0	18	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
博物館に関する科目	博物館概論	1前			2	○								兼1	
	博物館経営論	2後			2	○								兼1	
	博物館資料論	2前			2	○								兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○								兼1	※演習
	博物館展示論	2前			2	○								兼1	※実習・演習
	博物館教育論	2前			2	○								兼1	※集中
	博物館情報・メディア論	2前			2	○								兼1	※演習
	博物館実習	3通			3		○							兼2	※講義
小計(8科目)	—	0	0	17	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
関養日 成本 る課 科語 程教 目に員	日本語教授法Ⅰ	2通			4	○									兼1 ※演習
	日本語教授法Ⅱ	3通			4	○									兼1 ※演習
	日本語教授法Ⅲ	4通			2		○								兼1
	日本語教育実習	4通			1			○							兼1 集中
	小計(4科目)	—	0	0	11	—			0	0	0	0	0	0	兼2
合計(311科目)			91	406	129	—			7	6	1	0	0	兼11	—
学位又は称号		学士 (英語英文学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通科目30単位以上修得すること(5単位必修, 選択必修16単位を含む)。 学科科目76単位以上修得すること(基礎科目14単位必修, 専攻科目30単位選択必修及び卒業論文6単位必修を含む)。 4年間以上在学し, 合計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限: 49単位(年間)							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要															
(文学部日本語日本文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 科目	人間論	1前	2			○								兼3	オムニバス・ ※実習 ※演習 共同・ ※実習 ※演習 ※演習 ※演習
	キリスト教学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼4	
	キリスト教学Ⅳ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅵ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅷ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅸ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼2	
	キリスト教学ⅩⅠ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅡ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅢ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅣ	3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅤ	3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅥ	3・4前		2		○								兼1	
	小計 (17科目)	—	2	32	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	教養科目	哲学Ⅰ		2		○									兼1	隔年
	哲学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	倫理学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	倫理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	文学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○				1						集中
	文学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	文学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中	
	文学Ⅳ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	文学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中	
	文学Ⅵ	1・2・3・4前		2		○								兼2		
	文学Ⅶ	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中	
	芸術Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	芸術Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中	
	芸術Ⅲ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	芸術Ⅳ	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中	
	歴史学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	歴史学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	歴史学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	歴史学Ⅳ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	日本国憲法Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	日本国憲法Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年	
	法律学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	法律学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	オムニバス	
	社会学	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	言語学	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス	
	心理学Ⅰ (心理学概論)	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	心理学Ⅱ (臨床心理学概論)	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	心理学Ⅲ (健康・医療心理学)	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報学Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年	
	情報学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1		
	数学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	数学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	物理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	物理学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	化学Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年	
	化学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	生物学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	生物学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	科学史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	科学史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	医学Ⅰ (人体の構造と機能及び疾病)	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	医学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
小計 (42科目)		—	0	84	0	—			0	1	0	0	0	兼33	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	外国語科目	英語ⅠA		1			○								兼3	集中・隔年・集中・※実習	
	英語ⅠB	1前	1			○									兼4		
	英語ⅡA	1後		1		○									兼3		
	英語ⅡB	1後	1			○									兼4		
	英語ⅢA	2前		1		○									兼3		
	英語ⅢB	2前		1		○									兼4		
	英語ⅣA	2後		1		○									兼3		
	英語ⅣB	2後		1		○									兼4		
	特別演習英語A	1・2・3・4前・後		1		○											兼1
	特別演習英語B	1・2・3・4前・後		1		○											兼1
	特別演習英語C	1・2・3・4前・後		1		○											兼1
	特別演習英語D	1・2・3・4前・後		1		○											兼1
	特別演習英語E	1・2・3・4前		1		○											兼1
	特別演習英語F	1・2・3・4後		1		○											兼1
	特別演習英語G	1・2・3・4前		1		○											兼1
	特別演習英語H	1・2・3・4後		1		○											兼1
	特別演習英語I	1・2・3・4前		1		○											兼1
	特別演習英語J	1・2・3・4後		1		○											兼1
	海外英語演習A	1・2・3・4前		2		○											兼1
	海外英語演習B	1・2・3・4前		2		○											兼1
	ドイツ語ⅠA	1前		1		○											兼1
	ドイツ語ⅠB	1前		1		○											兼1
	ドイツ語ⅡA	1後		1		○											兼1
	ドイツ語ⅡB	1後		1		○											兼1
	ドイツ語ⅢA	2前		1		○											兼1
	ドイツ語ⅢB	2前		1		○											兼1
	ドイツ語ⅣA	2後		1		○											兼1
	ドイツ語ⅣB	2後		1		○											兼1
	特別演習ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		1		○											兼1
	特別演習ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4前		1		○											兼1
	フランス語ⅠA	1前		1		○											兼1
	フランス語ⅠB	1前		1		○											兼1
	フランス語ⅡA	1後		1		○											兼1
	フランス語ⅡB	1後		1		○											兼1
	フランス語ⅢA	2前		1		○											兼1
	フランス語ⅢB	2前		1		○											兼1
	フランス語ⅣA	2後		1		○											兼1
	フランス語ⅣB	2後		1		○											兼1
	特別演習フランス語Ⅰ	1・2・3・4前		1		○											兼1
	特別演習フランス語Ⅱ	1・2・3・4前		1		○											兼1
	中国語ⅠA	1前		1		○											兼2
	中国語ⅠB	1前		1		○											兼1 ※講義
	中国語ⅡA	1後		1		○											兼2
	中国語ⅡB	1後		1		○											兼1 ※講義
	中国語ⅢA	2前		1		○											兼2 ※講義
	中国語ⅢB	2前		1		○											兼1
中国語ⅣA	2後		1		○										兼1 ※講義		
中国語ⅣB	2後		1		○										兼1		
特別演習中国語Ⅰ	1・2・3・4前		1		○										兼1 ※講義		
特別演習中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1		○										兼1		
特別演習日本語Ⅰ	1・2・3・4前		1		○					1					※講義		
特別演習日本語Ⅱ	1・2・3・4後		1		○										兼1		
小計(52科目)		—	2	52	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼18	—		
健康科目	心と体の健康論	1前	2			○									兼3	オムニバス	
	体育実技Ⅰ	1前	1				○								兼2		
	体育実技Ⅱ	2・3・4前		1			○								兼1		
	体育実技Ⅲ	2・3・4後		1			○								兼1		
小計(4科目)		—	3	2	0	—	—	0	0	0	0	0	兼5	—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	A 群 自立力育成科目	わたしたちの社会と経済	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		わたしたちの社会と政治	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		わたしたちの社会と法	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		わたしたちの社会とボランティア	1・2・3・4通	2			○								兼1	集中・ ※講義
		人材育成論	1・2・3・4前	2		○									兼3	ムニバス・ ※演習
		わたしたちの社会と科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	※演習
		世界の中のわたしたち	1・2・3・4前・後	2			○								兼1	
		ことばと社会	1・2・3・4前	2			○								兼1	※演習
		キャリアデザイン基礎	1・2後	2			○								兼1	※演習
		キャリアデザイン発展	2・3前	2			○								兼1	※演習
	小計(10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
	B 群	ボランティア実践Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼2	共同・ 集中・ ※実習
		ボランティア実践Ⅱ	2・3・4通	2		○									兼1	集中・ ※実習
		ボランティア実践Ⅲ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中・ ※実習
		ボランティア実践Ⅳ	1・2・3・4後	2		○									兼1	集中・ ※実習
		日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅱ	1・2・3・4前・後	2			○								兼1	
		日本語表現Ⅲ	1・2・3・4前	2		○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅳ	1・2・3・4後	2		○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅴ	1・2・3・4前	2		○									兼2	ムニバス・ ※演習
		日本語表現Ⅵ	1・2・3・4後	2		○									兼2	ムニバス・ ※演習
		アジアと平和を考える	2・3・4前	2		○									兼2	共同・ 集中・ ※実習
		「いのち」と「くらし」の倫理	1・2・3・4後	2		○									兼1	隔年・ ※演習
ディスカッションから社会 を考える		1・2・3・4前	2		○									兼1	※演習	
女性の自立を考える		1・2・3・4後	2		○									兼1	隔年・ ※演習	
共生と文化を考える		1・2・3・4後	2		○									兼1		
自立力育成ゼミⅠ		1・2・3・4前・後	2				○							兼1		
自立力育成ゼミⅡ		2・3・4前	2				○							兼1		
自立力育成ゼミⅢ		2・3・4前	2				○							兼1		
自立力育成ゼミⅣ		1・2・3・4後	2				○							兼1		
自立力育成ゼミⅤ		1・2・3・4前・後	2				○							兼2	集中・ ※講義	
自立力育成ゼミⅥ		1・2・3・4後	2				○							兼2	共同・ 集中・	
自立力育成ゼミⅦ		1・2・3・4後	2				○							兼1	集中・ ※実習	
自立力育成ゼミⅧ	1・2・3・4後	2				○							兼1			
小計(23科目)	—	0	46	0	—			0	0	0	0	0	0	兼21	—	
科情 目報	情報メディア演習	1・2・3・4前・後	2			○								兼5	※演習	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	古典文学基礎演習	1前・後		2			○		1	1	2			※演習 兼1 オムニバス 兼1 兼1
	近代文学基礎演習	1前・後		2			○		1	1				
	日本語学基礎演習	1前・後		2			○		1	1				
	古典文学入門	1後		2			○			1				
	日本語学概論Ⅰ	1前	2				○		1					
	日本語学概論Ⅱ	1後	2				○			1				
	日本文学概論Ⅰ	2前後	2				○			1				
	日本文学概論Ⅱ	2後	2				○		1	1				
	日本語史Ⅰ	2前		2			○			1				
	日本語史Ⅱ	2後		2			○			1				
	日本文学史Ⅰ	1前		2			○			1				
	日本文学史Ⅱ	1後		2			○			1	1			
	日本語音声学Ⅰ	2前		2			○							
	日本語音声学Ⅱ	2後		2			○							
日本語文法論Ⅰ	1前		2			○				1				
日本語文法論Ⅱ	1後		2			○				1				
専攻科目	古代文学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○		1					兼1 集中 兼1 集中 兼1 兼1 兼1 ※演習 兼1 ※演習
	古代文学特講Ⅱ	2・3・4後		2			○		1					
	古代文学特講Ⅲ	2・3・4前		2			○			1				
	古代文学特講Ⅳ	2・3・4後		2			○			1				
	中世文学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○				1			
	中世文学特講Ⅱ	2・3・4後		2			○				1			
	中世文学特講Ⅲ	2・3・4前		2			○							
	中世文学特講Ⅳ	2・3・4前		2			○							
	近世文学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○				1			
	近世文学特講Ⅱ	2・3・4後		2			○				1			
	近世文学特講Ⅲ	2・3・4前		2			○							
	近世文学特講Ⅳ	2・3・4後		2			○							
	近代文学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○			1				
	近代文学特講Ⅱ	2・3・4後		2			○			1				
	近代文学特講Ⅲ	2・3・4前		2			○			1				
	近代文学特講Ⅳ	2・3・4後		2			○			1				
	近代文学特講Ⅴ	2・3・4前		2			○				1			
	近代文学特講Ⅵ	2・3・4後		2			○				1			
	古代文学講読Ⅰ	2・3・4後		2				○		1				
	古代文学講読Ⅱ	2・3・4後		2				○		1				
	古代文学講読Ⅲ	2・3・4前		2				○			1			
	古代文学講読Ⅳ	2・3・4後		2				○			1			
	中世文学講読Ⅰ	2・3・4前		2				○				1		
	中世文学講読Ⅱ	2・3・4後		2				○				1		
	中世文学講読Ⅲ	2・3・4前		2				○					1	
	中世文学講読Ⅳ	2・3・4後		2				○					1	
	近世文学講読Ⅰ	2・3・4前		2				○				1		
	近世文学講読Ⅱ	2・3・4後		2				○				1		
	近世文学講読Ⅲ	2・3・4前		2				○				1		
	近世文学講読Ⅳ	2・3・4後		2				○				1		
近代文学講読Ⅰ	2・3・4前		2				○			1				
近代文学講読Ⅱ	2・3・4後		2				○			1				
近代文学講読Ⅲ	2・3・4前		2				○			1				
近代文学講読Ⅳ	2・3・4後		2				○			1				
近代文学講読Ⅴ	2・3・4前		2				○				1			
近代文学講読Ⅵ	2・3・4後		2				○				1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 攻 科 目	古代文学演習Ⅰ	3・4前		2			○		1						兼1 兼1
	古代文学演習Ⅱ	3・4後		2			○		1						
	古代文学演習Ⅲ	3・4前		2			○			1					
	古代文学演習Ⅳ	3・4後		2			○			1					
	中世文学演習Ⅰ	3・4前		2			○				1				
	中世文学演習Ⅱ	3・4後		2			○				1				
	中世文学演習Ⅲ	3・4前		2			○								
	中世文学演習Ⅳ	3・4後		2			○								
	近世文学演習Ⅰ	3・4前		2			○			1					
	近世文学演習Ⅱ	3・4後		2			○			1					
	近世文学演習Ⅲ	3・4前		2			○				1				
	近世文学演習Ⅳ	3・4後		2			○				1				
	近代文学演習Ⅰ	3・4前		2			○		1						
	近代文学演習Ⅱ	3・4後		2			○		1						
	近代文学演習Ⅲ	3・4前		2			○			1					
	近代文学演習Ⅳ	3・4後		2			○			1					
近代文学演習Ⅴ	3・4前		2			○		1							
近代文学演習Ⅵ	3・4後		2			○		1							
日本語学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○		1							
日本語学特講Ⅱ	2・3・4前		2			○		1							
日本語学特講Ⅲ	2・3・4前		2			○			1						
日本語学特講Ⅳ	2・3・4前		2			○			1						
日本語学講読Ⅰ	2・3・4後		2				○	1						※講義	
日本語学講読Ⅱ	2・3・4後		2				○	1						※講義	
日本語学講読Ⅲ	2・3・4前		2			○			1					※演習	
日本語学講読Ⅳ	2・3・4前		2			○			1					※演習	
日本語学演習Ⅰ	3・4後		2				○	1							
日本語学演習Ⅱ	3・4後		2				○	1							
日本語学演習Ⅲ	2・3・4後		2				○		1						
日本語学演習Ⅳ	2・3・4後		2				○		1						
対照言語学Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1 ※演習	
対照言語学Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1 ※演習	
漢文学Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
漢文学Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
日本漢文学史	2・3・4前		2			○								兼1	
日本語表現法Ⅰ	3前		2			○			1					集中	
日本語表現法Ⅱ	3後		2			○			1					※演習	
書論・鑑賞法Ⅰ	2・3前		2			○				1				【隔年】	
書論・鑑賞法Ⅱ	2・3後		2			○				1				【隔年】	
日本書法史	2・3後		2			○				1				【隔年】	
中国書法史	2・3前		2			○				1				【隔年】	
文学創作論Ⅰ	2・3・4前		2			○		1						【隔年】	
文学創作論Ⅱ	2・3・4後		2			○		1						【隔年】	
文学創作論Ⅲ	2・3・4前		2			○		1						【隔年】	
文学創作論Ⅳ	2・3・4後		2			○		1						【隔年】	
国語科教育法Ⅰ	2後		2			○			1					※演習	
国語科教育法Ⅱ	3前		2			○			1					※演習	
書道科教育法Ⅰ	3前		2				○			1					
書道科教育法Ⅱ	3後		2				○			1					
書道卒業制作	4通		4				○				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	書写法Ⅰ	3前		1				○			1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	書写法Ⅱ	3後		1				○			1				
	硬筆書法	3前		1				○							
	書式研究	3後		1				○							
	書法基礎	1前		1				○			1				
	漢字仮名交じり書法Ⅰ	1前		1				○							
	漢字仮名交じり書法Ⅱ	3前		1				○							
	楷・行書法Ⅰ	1後		1				○			1				
	楷・行書法Ⅱ	2前		1				○							
	草書法	2後		1				○							
	篆・隸書法	3前		1				○			1				
	篆刻法	3後		1				○			1				
	仮名書法Ⅰ	1後		1				○							
	仮名書法Ⅱ	3後		1				○							
総合探究Ⅰ	2・3・4前		2				○		1	1				オムニバス	
総合探究Ⅱ	2・3・4後		2				○		1	1				オムニバス	
卒業論文	4通		6				○		3	4	4			兼1	
日本文化史Ⅰ	2・3・4後		2				○							兼1 【隔年】	
日本文化史Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1 【隔年】	
日本美術史Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1 【隔年】	
日本美術史Ⅱ	2・3・4前		2				○							兼1 【隔年】	
小計(121科目)	—		14	224	0				3	4	4	0		兼14	
研究 所 開 講 教 科 目 化	キリスト教思想特講Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1
	キリスト教思想特講Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1
	キリスト教文化特講Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1
	キリスト教文化特講Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1
	キリスト教文学演習Ⅰ	3・4前		2											兼1
	キリスト教文学演習Ⅱ	3・4前		2											兼1
小計(8科目)	—		0	16	0				0	0	0	0	0	兼4	
教職に関する科目	教職基礎	1後			2			○							兼1
	教育原理	2後			2			○							兼1
	教育心理学	2前			2			○							兼1
	発達心理学	2前			2			○							兼1
	学校経営論	3前			2			○							兼1
	特別支援教育基礎論	1後			2			○							兼1
	教育課程論	2前			2			○							兼1
	国語科指導法演習Ⅰ	3後			2					○	1				
	国語科指導法演習Ⅱ	3後			2					○	1				
	道徳教育の理論と方法	2後			2			○							兼1 ※演習
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2後			2			○							兼2
	教育方法論	3前			2			○							兼1
	生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	3後			2			○			1				※演習
	生徒指導論	3前			2			○							兼1
	教育相談	3後			2			○							兼1
	中等教育実習事前事後指導	4前			1			○		1	1				※演習
	中等教育実習Ⅰ	4前			4					1	1				集中
	中等教育実習Ⅱ	4前			2					1	1				集中
	教職実践演習(中・高)	4後			2				○		1	1			集中
	介護等体験の理論	2後			1			○							兼1
	介護等体験の実践	3通			1										兼1 ※講義
	教職特講Ⅰ	3後			2			○							兼1 ※演習
	教職特講Ⅱ	4前			2			○							兼1 ※演習
	教職特講Ⅲ	4後			2			○							兼1 ※演習
小計(24科目)	—		0	0	47				0	1	1	0	0	兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関司学 す書校 る教図 科論書 目に館	学校経営と学校図書館	2・3・4前			2	○									兼1	※演習
	学校図書館メディアの構成	2・3・4前			2	○			1						兼1	
	学習指導と学校図書館	2・3・4後			2	○									兼1	
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後			2	○			1						兼1	
	小計 (5科目)	—	0	0	10	—			0	1	0	0	0	兼1	—	
図書館 に関する 科目	図書館概論	1前			2	○									兼1	※演習
	図書館制度・経営論	3後			2	○									兼1	
	図書館情報技術論	2後			2	○			1						兼1	
	図書館サービス概論	2前			2	○									兼1	
	情報サービス論	3前			2	○			1						兼1	
	児童サービス論	1前			2	○									兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○		1						兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○		1						兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	2前			2	○			1						兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○		1						兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○		1						兼1	
	図書館サービス特論	3後			2	○									兼1	
	図書・図書館史	1後			2	○									兼1	
	図書館施設論	3後			2	○									兼1	
	小計 (15科目)	—	0	0	26	—			0	1	0	0	0	兼5	—	
社会 教育に 関する 科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2	○									兼1	※演習
	生涯学習概論Ⅱ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅰ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅱ	2前			2	○									兼1	※演習
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2	○									兼1	集中
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2	○									兼1	集中
	社会教育実践演習	3・4通			4		○								兼4	※講義・ 実習
	地域創生論	1・2・3・4後			2	○									兼1	※演習
	小計 (8科目)	—	0	0	18	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
博物 館に 関する 科目	博物館概論	1前			2	○									兼1	※演習 ※実習・ 演習 集中
	博物館経営論	2後			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	
	博物館展示論	2前			2	○									兼1	
	博物館教育論	2前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	2前			2	○									兼1	
	博物館実習	3通			3		○								兼2	
	小計 (8科目)	—	0	0	17	—			0	0	0	0	0	兼6	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関養日 す成 る課 科語 程教 目員	日本語教授法Ⅰ	2通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅱ	3通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅲ	4通			2		○									
	日本語教育実習	4通			1			○	1							集中
小計(4科目)		—	0	0	11	—			1	0	0	0	0	0	兼1	—
合計(343科目)		—	21	474	129	—			3	4	4	0	0	0	兼126	—
学位又は称号		学士(日本語 日本文学)		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通科目30単位以上修得すること(必修7単位, 選択必修18単位を含む)。 学科科目66単位以上修得すること(基礎科目8単位必修及び4単位選択必修並びに専攻科目40単位選択必修及び卒業論文6単位必修を含む)。 4年間以上在籍し, 合計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限: 49単位(年間)								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

別記様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部現代社会学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全 学 共 通 科 目	人間論	1前	2			○								兼3	オムニバス・ ※実習 ※演習 共同・ ※実習 ※演習 ※演習 ※演習
	キリスト教学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○			1					兼3	
	キリスト教学Ⅳ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅵ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅷ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅸ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼2	
	キリスト教学ⅩⅠ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅡ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅢ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅣ	3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅤ	3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅥ	3・4前		2		○								兼1	
	小計 (17科目)	—	2	32	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	教養科目	哲学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		哲学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	隔年
		倫理学Ⅰ	2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		倫理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		文学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		文学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		文学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		文学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		文学Ⅴ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		文学Ⅵ	1・2・3・4前	2		○									兼2	集中
		文学Ⅶ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		芸術Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		芸術Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		芸術Ⅲ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中
		芸術Ⅳ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中
		歴史学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○				1						隔年
		歴史学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○					1					
		歴史学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○					1					隔年
		歴史学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○					1					
		日本国憲法Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		日本国憲法Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		法律学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		法律学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		社会学	1・2・3・4後	2		○					1					
		言語学	1・2・3・4前	2		○									兼2	オムニバス
		心理学Ⅰ (心理学概論)	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		心理学Ⅱ (臨床心理学概論)	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		心理学Ⅲ (健康・医療心理学)	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		情報学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		情報学Ⅱ	2・3・4前	2		○									兼1	
		数学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		数学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		物理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		物理学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		化学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○									兼1	隔年
		化学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	隔年
		生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		生物学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		科学史Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		科学史Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		医学Ⅰ (人体の構造と 機能及び疾病)	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		医学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	小計 (42科目)	—	0	84	0	—			1	3	1	0	0	兼29	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	外国語科目	特別演習中国語Ⅰ		1			○								兼1	※講義	
		特別演習中国語Ⅱ		1			○								兼1		
		特別演習日本語Ⅰ		1			○								兼1	※講義	
		特別演習日本語Ⅱ		1			○								兼1		
		小計(52科目)	—	2	52	0	—			0	0	0	0	0	0	兼20	—
	健康科目	心と体の健康論	1前	2			○									兼3	オムニバス
		体育実技Ⅰ	1後	1					○							兼2	
		体育実技Ⅱ	2・3・4前		1				○							兼1	
		体育実技Ⅲ	2・3・4後		1				○							兼1	
		小計(4科目)	—	3	2	0	—									兼5	—
	自立力育成科目	A群	わたしたちの社会と経済	1・2・3・4前・後	2			○								兼1	
			わたしたちの社会と政治	1・2・3・4前・後	2			○								兼1	
			わたしたちの社会と法	1・2・3・4後	2			○								兼1	
			わたしたちの社会とボランティア	1・2・3・4通	2				○							兼1	集中・ ※講義
			人材育成論	1・2・3・4前	2			○								兼3	オムニバス・ ※演習
			わたしたちの社会と科学	1・2・3・4前・後	2			○								兼1	※演習
			世界の中のわたしたち	1・2・3・4前・後	2				○							兼1	
			ことばと社会	1・2・3・4前	2			○								兼1	※演習
			キャリアデザイン基礎	1・2後	2			○								兼1	※演習
			キャリアデザイン発展	2・3前	2			○								兼1	※演習
小計(10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—		
自立力育成科目	B群	ボランティア実践Ⅰ	1・2・3・4前	2			○								兼2	共同・ 集中・ ※実習	
		ボランティア実践Ⅱ	2・3・4通	2			○								兼1	集中・ ※実習	
		ボランティア実践Ⅲ	1・2・3・4前	2			○								兼1	集中・ ※実習	
		ボランティア実践Ⅳ	1・2・3・4後	2			○								兼1	集中・ ※実習	
		日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前	2			○								兼1	※演習	
		日本語表現Ⅱ	1・2・3・4前・後	2				○							兼1		
		日本語表現Ⅲ	1・2・3・4前	2			○								兼1	※演習	
		日本語表現Ⅳ	1・2・3・4後	2			○								兼1	※演習	
		日本語表現Ⅴ	1・2・3・4前	2			○								兼2	オムニバス・ ※演習	
		日本語表現Ⅵ	1・2・3・4後	2			○								兼2	オムニバス・ ※演習	
		アジアと平和を考える	2・3・4前	2			○								兼2	共同・ 集中・ ※実習	
		「いのち」と「暮らし」の倫理	1・2・3・4後	2			○								兼1	隔年・ ※演習	
		ディスカッションから社会を考える	1・2・3・4前	2			○					1				※演習	
		女性の自立を考える	1・2・3・4後	2			○					1				隔年・ ※演習	
		共生と文化を考える	1・2・3・4後	2			○								兼1		
自立力育成ゼミⅠ	1・2・3・4前・後	2				○							兼1				
自立力育成ゼミⅡ	2・3・4前	2				○							兼1				
自立力育成ゼミⅢ	2・3・4前	2				○							兼1				
自立力育成ゼミⅣ	1・2・3・4後	2				○							兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻科目	史料講読Ⅰ	2・3・4通		4			○		1							※講義 兼1 集中 【隔年】 【隔年】 兼1 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 ※演習 兼1 兼1 ※演習
	史料講読Ⅱ	2・3・4通		4			○		1		1					
	史料講読Ⅲ	2・3・4通		4			○			1						
	史料講読Ⅳ	2・3・4通		4			○			1						
	社会史演習	3通		4			○		3	2	1					
	地理学概論	1・2・3・4前		2			○		1							
	人文地理学	1・2・3・4後		2			○		1							
	自然地理学	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	地誌学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○		1							
	地誌学Ⅱ	1・2・3・4後		2			○		1							
	文化人類学	2・3・4前		2			○							兼1		
	卒業論文	4通	6				○		5	4	2					
	哲学基礎	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	経済学基礎	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	行政法	2・3・4前		2			○							兼1		
	社会法	2・3・4前		2			○							兼1		
	社会倫理学	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	社会教育学	2・3・4前		2			○							兼1 ※演習		
	社会・地歴科教育法Ⅰ	2前		2			○		1							
	社会・地歴科教育法Ⅱ	2後		2			○		1							
社会・公民科教育法Ⅰ	2前		2			○							兼1			
社会・公民科教育法Ⅱ	3前		2			○							兼1			
小計 (65科目)			16	132	0				5	4	2	0	0	兼15	—	
研究 所 開 講 科 目	キリスト教思想特講Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
	キリスト教思想特講Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
	キリスト教文化特講Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
	キリスト教文化特講Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
	キリスト教文学演習Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1	
	キリスト教文学演習Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1	
	小計 (8科目)		—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教職基礎	1後			2	○									兼1	
	教育原理	2後			2	○									兼1	
	教育心理学	2前			2	○									兼1	
	発達心理学	2前			2	○									兼1	
	学校経営論	3前			2	○									兼1	
	特別支援教育基礎論	1後			2	○									兼1	
	教育課程論	2前			2	○									兼1	
	社会科指導法演習Ⅰ	3後			2		○		1							
	社会科指導法演習Ⅱ	3後			2		○		1							
	道德教育の理論と方法	2後			2	○									兼1	※演習
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2後			2	○			1						兼1	
	教育方法論	3前			2	○									兼1	
	生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	3後			2	○									兼1	※演習
	生徒指導論	3前			2	○									兼1	
	教育相談	3後			2	○									兼1	
	中等教育実習事前事後指導	4前			1	○			1							※演習
	中等教育実習Ⅰ	4前			4			○	1							集中
	中等教育実習Ⅱ	4前			2			○	1							集中
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○		1							集中
	介護等体験の理論	2後			1	○									兼1	
	介護等体験の実践	3通			1			○							兼1	※講義 集中
	教職特講Ⅰ	3後			2	○									兼1	※演習
	教職特講Ⅱ	4前			2	○									兼1	※演習
	教職特講Ⅲ	4後			2	○									兼1	※演習
小計(24科目)	—		0	0	47	—			1	0	0	0	0	兼14	—	
学校図書に書関する科目	学校経営と学校図書館	2・3・4前			2	○									兼1	
	学校図書館メディアの構成	2・3・4前			2	○									兼1	※演習
	学習指導と学校図書館	2・3・4後			2	○									兼1	
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後			2	○									兼1	※演習
小計(5科目)	—		0	0	10	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
図書館に関する科目	図書館概論	1前			2	○									兼1	
	図書館制度・経営論	3後			2	○									兼1	
	図書館情報技術論	2後			2	○									兼1	※演習
	図書館サービス概論	2前			2	○									兼1	
	情報サービス論	3前			2	○									兼1	
	児童サービス論	1前			2	○									兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○								兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○								兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	2前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○								兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○								兼1	
	図書館サービス特論	3後			2	○									兼1	
	図書・図書館史	1後			2	○									兼1	
図書館施設論	3後			2	○									兼1		
小計(15科目)	—		0	0	26	—			0	0	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2	○									兼1	※演習
	生涯学習概論Ⅱ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅰ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅱ	2前			2	○									兼1	※演習
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2	○									兼1	集中
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2	○									兼1	集中
	社会教育実践演習	3・4通			4		○								兼4	※講義・実習
	地域創生論	1・2・3・4後			2	○									兼1	※演習
小計(8科目)	—	0	0	18	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—	
博物館に関する科目	博物館概論	1前			2	○			1							
	博物館経営論	2後			2	○			1							
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	※演習・演習集中
	博物館展示論	2前			2	○									兼1	
	博物館教育論	2前			2	○			1							
	博物館情報・メディア論	2前			2	○									兼1	※演習 集中
	博物館実習	3通			3			○	1						兼1	※講義
小計(8科目)	—	0	0	17	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼5	—	
育成日本語に教員を養成する科目	日本語教授法Ⅰ	2通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅱ	3通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅲ	4通			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			1			○							兼1	集中
	小計(4科目)	—	0	0	11	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—
合計(286科目)			—	23	386	129	—	—	5	4	2	0	0	0	兼11	—
学位又は称号		学士(現代社会学)		学位又は学科の分野				文学関係, 社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学共通科目30単位以上修得すること(必修7単位, 選択必修18単位を含む)。 学科科目72単位以上修得すること(基礎科目6単位必修及び2単位選択必修, 専攻科目64単位修得(卒業論文6単位及び4単位必修を含む))。4年間以上在学し, 合計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限: 49単位(年間)						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要															
(人間生活学部人間生活学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 科目	人間論	1前	2			○				1				兼2	オムニバス・ ※実習 ※演習 共同・ ※実習 ※演習 ※演習 ※演習
	キリスト教学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○				1				兼3	
	キリスト教学Ⅳ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅵ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅷ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅸ	1・2・3・4後		2		○				1				兼1	
	キリスト教学Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼2	
	キリスト教学ⅩⅠ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅡ	2・3・4前		2		○				1				兼1	
	キリスト教学ⅩⅢ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅣ	3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅤ	3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅥ	3・4前		2		○								兼1	
	小計 (17科目)	—	2	32	0	—			1	1	0	0	0	兼9	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	教養科目	哲学Ⅰ		2		○									兼1	隔年
	哲学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○			1							隔年	
	倫理学Ⅰ	2・3・4前	2		○			1							兼1	
	倫理学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	文学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	集中
	文学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	文学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	文学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	文学Ⅴ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	文学Ⅵ	1・2・3・4前	2		○										兼2	
	文学Ⅶ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	芸術Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	集中
	芸術Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	芸術Ⅲ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	芸術Ⅳ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	歴史学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	隔年
	歴史学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	歴史学Ⅲ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	歴史学Ⅳ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	日本国憲法Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	オムニバス
	日本国憲法Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	法律学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	法律学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	社会学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	言語学	1・2・3・4前	2		○										兼2	
	心理学Ⅰ（心理学概論）	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	心理学Ⅱ（臨床心理学概論）	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	心理学Ⅲ（健康・医療心理学）	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	情報学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○										兼1	隔年
	情報学Ⅱ	2・3・4前	2		○										兼1	
	数学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	数学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	物理学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	物理学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	化学Ⅰ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	化学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	生物学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	科学史Ⅰ	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	科学史Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
	医学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	医学Ⅱ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
小計（42科目）	—	—	0	84	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	B群 自立力育成科目	ボランティア実践Ⅰ		2		○									兼2	共同・集中・※実習
		ボランティア実践Ⅱ	2・3・4通	2		○									兼1	集中・※実習
		ボランティア実践Ⅲ	1・2・3・4前	2		○									兼1	集中・※実習
		ボランティア実践Ⅳ	1・2・3・4後	2		○									兼1	集中・※実習
		日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	※演習
		日本語表現Ⅱ	1・2・3・4前・後	2				○							兼1	
		日本語表現Ⅲ	1・2・3・4前	2				○							兼1	※演習
		日本語表現Ⅳ	1・2・3・4後	2				○							兼1	※演習
		日本語表現Ⅴ	1・2・3・4前	2				○							兼2	オムニバス・※演習
		日本語表現Ⅵ	1・2・3・4後	2				○							兼2	オムニバス・※演習
		アジアと平和を考える	2・3・4前	2				○							兼2	共同・集中・※実習
		「いのち」と「暮らし」の倫理	1・2・3・4後	2				○			1					隔年・※演習
		ディスカッションから社会を考える	1・2・3・4前	2				○							兼1	※演習
		女性の自立を考える	1・2・3・4後	2				○							兼1	隔年・※演習
		共生と文化を考える	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		自立力育成ゼミⅠ	1・2・3・4前・後	2					○						兼1	
		自立力育成ゼミⅡ	2・3・4前	2					○						兼1	
		自立力育成ゼミⅢ	2・3・4前	2					○						兼1	
		自立力育成ゼミⅣ	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		自立力育成ゼミⅤ	1・2・3・4前・後	2					○						兼2	集中・※講義
		自立力育成ゼミⅥ	1・2・3・4後	2					○						兼2	共同・集中
		自立力育成ゼミⅦ	1・2・3・4後	2					○						兼1	集中・※実習
		自立力育成ゼミⅧ	1・2・3・4後	2					○						兼1	
小計(23科目)	—	0	46	0	—	—	—	—	0	1	0	0	0	兼20	—	
科目情報	情報メディア演習	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	※演習	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5	—	
基礎科目	人間福祉学概論	1前	2			○			1	3					オムニバス	
	経営経済学概論	1後	2			○			4	1					オムニバス	
	生活環境学概論	1前	2			○				3					オムニバス	
	人間生活学基礎研究Ⅰ	1前	2			○			5	6	1				※演習	
	人間生活学基礎研究Ⅱ	1後	2			○			5	6	1				※演習	
小計(5科目)	—	10	0	0	—	—	—	5	7		0	0	0	0	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	人間生活学演習ⅠA	2前	2				○		5	7					
	人間生活学演習ⅠB	2後	2				○		5	7					
	人間生活学演習ⅡA	3前	2				○		5	7					
	人間生活学演習ⅡB	3後	2				○		5	7					
	社会福祉学Ⅰ	1前	2			○			1						
	高齢者福祉論Ⅰ	1後	2			○				1					
	障害者福祉論	2後	2			○				1					
	生活経営学	1後	2			○			1						
	被服学Ⅰ	1後	2			○				1					
	調理学	1前	2			○				1					
人間福祉学	人間関係学Ⅰ	1前		2		○				1					兼1
	人間関係学Ⅱ	3前		2		○				1					兼1
	家族関係学	2後		2		○				1					兼1
	女性学	2前		2		○									兼1
	社会倫理学	1後		2		○				1					兼1
	家族社会学	2後		2		○									兼1
	地域社会学	2前		2		○									兼1
	社会福祉学Ⅱ	1後		2		○			1	1					共同
	高齢者福祉論Ⅱ	2前		2		○				1					兼1
	児童福祉論	1後		2		○									兼1
	児童の生活と福祉	2前		2		○									兼1
	社会保障論Ⅰ	3前		2		○			1						兼1
	社会保障論Ⅱ	3後		2		○			1	1					兼1
	公的扶助論	2後		2		○			1						兼1
	地域福祉論Ⅰ	3前		2		○									兼1
	地域福祉論Ⅱ	3後		2		○									兼1
	社会調査の基礎	3後		2		○				1					兼1
	福祉行財政と福祉計画	3後		2		○				1					兼1
	社会福祉経営	4前		2		○									兼1
	保健医療サービス	3前		2		○			1						兼1
	就労支援サービス	3後		1		○									兼1
	更生保護制度	3前		1		○									兼1
	社会福祉援助技術論Ⅰ	1後		2		○				1					共同
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2前		2		○				1	1				共同
	社会福祉援助技術論Ⅲ	2後		2		○					1				共同
	社会福祉援助技術論Ⅳ	3前		2		○					1				共同
	社会福祉援助技術論Ⅴ	3後		2		○					1				共同
	社会福祉援助技術論Ⅵ	4前		2		○					1				共同
	社会福祉演習Ⅰ	2前		2			○		1	1					共同
	社会福祉演習Ⅱ	2後		2			○		1	1					共同
	社会福祉演習Ⅲ	3前		2			○			1					共同
	社会福祉演習Ⅳ	3前		2			○			1					共同
	社会福祉演習Ⅴ	3後		2			○			1					共同
相談援助実習	3通		4				○	1	2					集中, 共同	
相談援助実習指導	2後・3後		3				○	1	2					共同	
介護理論及び介護技術	2前		2		○				1					集中	
社会福祉総合実習	3前		2				○		1					共同	
こころとからだの理解Ⅰ	1後		2		○									兼2	
こころとからだの理解Ⅱ	2前		2		○									兼1	
福祉科教育法Ⅰ	2後		2		○									兼1	
福祉科教育法Ⅱ	3前		2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻 科目	経営 経済学	現代経営学	1前	2		○			1						※演習
		生活経済学	2後	2		○			1						
		現代経済学	4前	2		○			1						
		ミクロ経済学	1後	2		○			1						
		マクロ経済学	2前	2		○			1						
		環境資源経済学	3前	2		○			1						
		国際経済学	3後	2		○			1						
		食経営論	2前	2		○			1						
		食政策論	3前	2		○			1						
		メディア戦略論	2後	2		○				1					
		メディア産業論	3前	2		○				1	1				
		消費生活論	1後	2		○				1	1				
		広告論	2前	2		○				1	1				
		広告デザイン演習	4前	2		○				1	1				
		マーケティングコミュニ ケーション論	3前	2		○				1					
		マーケティング論Ⅰ	1後	2		○				1					
		マーケティング論Ⅱ	2前	2		○				1					
		マーケティングリサーチ論	3後	2		○				1					
		応用マーケティング論	4前	2		○				1					
		ブランド論	2後	2		○				1					
		情報技術論	4前	2		○				1					
		生活情報処理	1前	2		○				1					
		ビジネス情報処理Ⅰ	2前	2		○				1					
ビジネス情報処理Ⅱ	3後	2		○				1							
ビジネスマナー	1後	2		○								兼1			
インターンシップ実践Ⅰ	2前	2		○								兼1			
インターンシップ実践Ⅱ	3前	2		○								兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専攻科目	生活環境学	被服学Ⅱ	3前	2		○				1								
	衣料学	2前	2			○				1								
	被服実習基礎Ⅰ	2前	1					○		1								
	被服実習基礎Ⅱ	2後	1					○		1								
	被服実習発展Ⅰ	3前	1					○		1								
	被服実習発展Ⅱ	3後	1					○		1								
	被服実習発展Ⅲ	3前	1					○									兼1	
	調理実習基礎Ⅰ	2前	1					○		1								
	調理実習基礎Ⅱ	2後	1					○		1								
	調理実習発展Ⅰ	3前	1					○		1								
	調理実習発展Ⅱ	3後	1					○		1								
	栄養学	2前	2				○											兼1
	食品学	3後	2				○											兼1
	生活環境学Ⅰ	1後	2				○											兼1
	生活環境学Ⅱ	2前	2				○											兼1
	環境デザイン論	3前	2				○			1								兼1
	住居学	2前	2				○			1								兼1
	住居計画学Ⅰ	3前	1						○	1								兼1
	住居計画学Ⅱ	3後	1						○	1								兼1
	住環境学	2後	2				○			1								兼1
	食生活論	1後	2				○											兼1
	比較食文化論	2後	2				○											兼1
	家庭看護学	2前	2				○											兼1
保育学	2前	2				○											兼1	
家庭機械及び家庭電気	3前	2				○											兼1	
家庭科教育法Ⅰ	2後	2				○			1								集中	
家庭科教育法Ⅱ	3前	2				○			1								集中	
卒業論文	4通	6					○		5	7	0	0	0				集中	
小計 (111科目)		—	36	180	0	—			5	7	0	0	0	兼19			—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
研究 所 開 講 科 目 文 化	キリスト教思想特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1		
	キリスト教思想特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1		
	キリスト教文化特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1		
	キリスト教文化特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1		
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1		
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1		
	キリスト教文学演習Ⅰ	3・4前		2				○							兼1		
	キリスト教文学演習Ⅱ	3・4前		2				○							兼1		
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—	
教 職 に 関 す る 科 目	教職基礎	1後			2	○										兼1	
	教育原理	2後			2	○										兼1	
	教育心理学	2前			2	○										兼1	
	発達心理学	2前			2	○										兼1	
	学校経営論	3前			2	○										兼1	
	特別支援教育基礎論	1後			2	○										兼1	
	教育課程論	2前			2	○										兼1	
	家庭科指導法演習Ⅰ	3後			2		○			1							
	家庭科指導法演習Ⅱ	3後			2		○			1							
	道德教育の理論と方法	2後			2	○									兼1	※演習	
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2後			2	○									兼2		
	教育方法論	3前			2	○									兼1		
	生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	3後			2	○									兼1	※演習	
	生徒指導論	3前			2	○									兼1		
	教育相談	3後			2	○									兼1		
	中等教育実習事前事後指導	4前			1	○				1						※演習	
	中等教育実習Ⅰ	4前			4			○		1						集中	
	中等教育実習Ⅱ	4前			2			○		1						集中	
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○			1						集中	
	介護等体験の理論	2後			1	○				1							
介護等体験の実践	3通			1			○		1						※講義 集中		
教職特講Ⅰ	3後			2	○									兼1	※演習		
教職特講Ⅱ	4前			2	○									兼1	※演習		
教職特講Ⅲ	4後			2	○									兼1	※演習		
	小計（24科目）	—	0	0	47	—			0	1	0	0	0	0	兼14	—	
学 校 図 書 館 に 関 す る 科 目	学校経営と学校図書館	2・3・4前			2	○										兼1	
	学校図書館メディアの構成	2・3・4前			2	○										兼1	※演習
	学習指導と学校図書館	2・3・4後			2	○										兼1	
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2	○										兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後			2	○										兼1	※演習
	小計（5科目）	—	0	0	10	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
図書館に関する科目	図書館概論	1前			2	○									兼1	※演習
	図書館制度・経営論	3後			2	○									兼1	
	図書館情報技術論	2後			2	○									兼1	
	図書館サービス概論	2前			2	○									兼1	
	情報サービス論	3前			2	○									兼1	
	児童サービス論	1前			2	○									兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○								兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○								兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	2前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○								兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○								兼1	
	図書館サービス特論	3後			2	○									兼1	
	図書・図書館史	1後			2	○									兼1	
	図書館施設論	3後			2	○									兼1	
小計(15科目)	—	0	0	26	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—	
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2	○									兼1	※演習
	生涯学習概論Ⅱ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅰ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅱ	2前			2	○									兼1	※演習
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2	○									兼1	集中
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2	○									兼1	集中
	社会教育実践演習	3・4通			4		○								兼4	※講義・ 実習
	地域創生論	1・2・3・4後			2	○									兼1	※演習
小計(8科目)	—	0	0	18	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—	
博物館に関する科目	博物館概論	1前			2	○									兼1	※演習 ※実習・ 演習 集中
	博物館経営論	2後			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	
	博物館展示論	2前			2	○									兼1	
	博物館教育論	2前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	2前			2	○									兼1	
	博物館実習	3通			3		○								兼2	
小計(8科目)	—	0	0	17	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
る成日 科課本 目程語 に教 関員 す養	日本語教授法Ⅰ	2通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅱ	3通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅲ	4通			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			1			○							兼1	集中
	小計(4科目)	—	0	0	11	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—
合計(308科目)		—	49	404	129	—			5	7	0	0	0	0	兼131	—
学位又は称号		学士 (人間生活学)		学位又は学科の分野			家政関係、社会学・社会福祉学関係、経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学共通科目30単位以上修得すること（必修13単位及び選択必修12単位を含む）。 学科科目64単位以上修得すること（基礎科目10単位必修及び専攻科目26単位必修（卒業論文6単位を含む。）並びに選択必修20単位以上を含む）。 4年間以上在学し、合計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限：49単位（年間）						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要															
(人間生活学部児童学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 科目	人間論	1前	2			○								兼3	オムニバス・ ※実習 ※演習 共同・ ※実習 ※演習 ※演習 ※演習
	キリスト教学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼4	
	キリスト教学Ⅳ	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
	キリスト教学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅵ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅷ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅸ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼2	
	キリスト教学ⅩⅠ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅡ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅢ	2・3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅣ	3・4前		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅤ	3・4後		2		○								兼1	
	キリスト教学ⅩⅥ	3・4前		2		○								兼1	
	小計 (17科目)	—	2	32	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 科目	教養科目	哲学Ⅰ		2		○									兼1	隔年
	哲学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年	
	倫理学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	倫理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	文学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	文学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	文学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	文学Ⅳ	1・2・3・4前		2		○			1					兼1		
	文学Ⅴ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	文学Ⅵ	1・2・3・4前		2		○								兼2	集中	
	文学Ⅶ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	芸術Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	芸術Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	芸術Ⅲ	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中	
	芸術Ⅳ	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中	
	歴史学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	歴史学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	歴史学Ⅲ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	歴史学Ⅳ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	日本国憲法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	日本国憲法Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	法律学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	法律学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	社会学	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	言語学	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス	
	心理学Ⅰ (心理学概論)	1・2・3・4前		2		○				1						
	心理学Ⅱ (臨床心理学概)	1・2・3・4前		2		○				1						
	心理学Ⅲ (健康・医療心理 学)	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報学Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報学Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1		
	数学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	数学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	物理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	物理学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	化学Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年	
	化学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年	
	生物学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	生物学Ⅱ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	科学史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	科学史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	医学Ⅰ (人体の構造と機能及 び疾病)	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	医学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	小計 (42科目)	—	0	84	0	—			3	0	0	0	0	兼31	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	外国語科目	英語ⅠA	1前	1				○								兼3	
	英語ⅠB	1前	1					○								兼4	
	英語ⅡA	1後	1					○								兼3	
	英語ⅡB	1後	1					○								兼4	
	英語ⅢA	2前	1					○								兼3	
	英語ⅢB	2前	1					○								兼4	
	英語ⅣA	2後	1					○								兼3	
	英語ⅣB	2後	1					○								兼4	
	特別演習英語A	1・2・3・4前・後		1					○							兼1	
	特別演習英語B	1・2・3・4前・後		1					○							兼1	
	特別演習英語C	1・2・3・4前・後		1					○							兼1	
	特別演習英語D	1・2・3・4前・後		1					○							兼1	
	特別演習英語E	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習英語F	1・2・3・4後		1					○							兼1	
	特別演習英語G	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習英語H	1・2・3・4後		1					○							兼1	
	特別演習英語I	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習英語J	1・2・3・4後		1					○							兼1	
	海外英語演習A	1・2・3・4前		2					○							兼1	集中 隔年・ 集中・ ※実習
	海外英語演習B	1・2・3・4前		2					○							兼1	集中・ 隔年・ 集中・ ※実習
	特別演習ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習フランス語Ⅰ	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習フランス語Ⅱ	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	特別演習中国語Ⅰ	1・2・3・4前		1					○							兼1	※講義
	特別演習中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1					○							兼1	
	特別演習日本語Ⅰ	1・2・3・4前		1					○							兼1	※講義
	特別演習日本語Ⅱ	1・2・3・4後		1					○							兼1	
小計(28科目)		—	8	22	0			—		0	0	0	0	0	0	兼16	—
健康科目	心と体の健康論	1後	2					○					2			兼1	オムニバス
	体育実技Ⅰ	1前・後	1										1			兼1	
	体育実技Ⅱ	2・3・4前		1												兼1	
	体育実技Ⅲ	2・3・4後		1												兼1	
小計(4科目)		—	3	2	0			—		0	2	0	0	0	0	兼3	—
自立力育成科目	A群	わたしたちの社会と経済	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	わたしたちの社会と政治	1・2・3・4前・後		2				○								兼1	
	わたしたちの社会と法	1・2・3・4後		2				○								兼1	
	わたしたちの社会とボランティア	1・2・3・4通		2					○							兼1	集中・ ※講義
	人材育成論	1・2・3・4前		2				○			1					兼2	オムニバス・ ※演習
	わたしたちの社会と科学	1・2・3・4前・後		2				○								兼1	※演習
	世界の中のわたしたち	1・2・3・4前・後		2					○							兼1	
	ことばと社会	1・2・3・4前		2					○							兼1	※演習
	キャリアデザイン基礎	1・2後		2					○							兼1	※演習
	キャリアデザイン発展	2・3前		2					○							兼1	※演習
小計(10科目)		—	0	20	0			—		1	0	0	0	0	兼9	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
自立力 育成 科目	B 群 ボランティア実践Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼2	共同・ 集中・ ※実習
	ボランティア実践Ⅱ	2・3・4通		2		○									兼1	※集中・ ※実習
	ボランティア実践Ⅲ	1・2・3・4前		2		○									兼1	※集中・ ※実習
	ボランティア実践Ⅳ	1・2・3・4後		2		○									兼1	※集中・ ※実習
	日本語表現Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	※演習
	日本語表現Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	※演習
	日本語表現Ⅲ	1・2・3・4前		2		○									兼1	※演習
	日本語表現Ⅳ	1・2・3・4後		2		○									兼1	※演習
	日本語表現Ⅴ	1・2・3・4前		2		○									兼2	※演習 ムニバス・
	日本語表現Ⅵ	1・2・3・4後		2		○									兼2	※演習 ムニバス・
	アジアと平和を考える	2・3・4前		2		○									兼2	共同・ 集中・ ※実習
	「いのち」と「くらし」の倫理	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年・ ※演習
	ディスカッションから社会 を考える	1・2・3・4前		2		○									兼1	※演習
	女性の自立を考える	1・2・3・4後		2		○									兼1	隔年・ ※演習
	共生と文化を考える	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自立力育成ゼミⅠ	1・2・3・4前・後		2			○								兼1	
	自立力育成ゼミⅡ	2・3・4前		2			○								兼1	
	自立力育成ゼミⅢ	2・3・4前		2			○		1						兼1	
	自立力育成ゼミⅣ	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	自立力育成ゼミⅤ	1・2・3・4前・後		2			○								兼2	集中・ ※講義
	自立力育成ゼミⅥ	1・2・3・4後		2			○		1						兼1	共同・ 集中・
	自立力育成ゼミⅦ	1・2・3・4後		2			○								兼1	集中・ ※実習
	自立力育成ゼミⅧ	1・2・3・4後		2			○								兼1	※実習
	小計（23科目）	—	0	46	0	—			2	0	0	0	0	兼20	—	
科情 目報	情報メディア演習	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	※演習	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	総合演習Ⅰ	1前	2				○		4	3	1			共同 (一部) 共同 (一部) オムニバス ※演習, オムニバス ※実習
	総合演習Ⅱ	1通	2				○		3	5				
	心理学概論	1後	2			○			1					
	特別支援教育基礎論	1前	2			○				1				
	教育原理	1後	2			○			1					
	児童文化論Ⅰ	1前	2			○			1	1	1			
	音楽基礎	1後	2			○				1	1			
美術基礎	1前	2				○			1				兼1	
専攻科目	児童学演習Ⅰ	3前	2				○		8	12	2			オムニバス 共同 ※講義, オムニバス ※講義, オムニバス 兼1 ※演習 兼1 兼1 ※演習, 共同 ※演習 兼1 兼1 兼1 ※演習, 共同 ※演習, 共同 ※演習 兼5 兼5 兼1 兼1 ※実習 オムニバス オムニバス オムニバス ※演習 ※演習, オムニバス
	児童学演習Ⅱ	3通	2				○		8	12	2			
	心理学実験演習Ⅰ	2前		2			○		1	1				
	心理学実験演習Ⅱ	2後		2			○		1	1				
	心理教育統計	2前		2		○			1					
	言語心理学	2・3・4後		2		○								
	基礎心理学特講	3前		2		○			1					
	児童臨床心理学(心理学的支援法)	2後		2		○				1				
	福祉心理学	3・4前		2		○				1				
	社会心理学	3・4前		2		○								
	心理学特講Ⅰ	2前		2		○								
	心理学特講Ⅱ	2・3後		2		○			1	1				
	子どもの観察研究法	3前		2		○				1				
	小児の健全育成	1後		2		○			1					
	小児医学	2前		2		○								
	児童福祉学	1後		2		○								
	社会福祉学	2・3・4前		2		○								
	児童教育学特講Ⅰ	1・2・3・4前		2		○			1					
	児童教育学特講Ⅱ	4前		2		○			1	4				
	児童教育学特講Ⅲ	3・4前		2		○			1	1	1			
	児童文化論Ⅱ	1後		2		○			1					
	児童文化論Ⅲ	1後		2		○					1			
	児童文学	2・3・4前		2		○			1					
	ピアノ演習Ⅰ	2後		2			○							
	ピアノ演習Ⅱ	3前		2			○				1			
	声楽演習Ⅰ	2後		2			○			1				
	声楽演習Ⅱ	3前		2			○			1				
絵画Ⅰ	2前		1				○	1						
絵画Ⅱ	3前		1				○	1						
絵画Ⅲ	2・3後		1				○	1						
表現と鑑賞の美術	4前		1			○			1					
彫塑	2前		1		○									
子どもと健康	3後		1		○				1					
子どもと人間関係	3後		1		○				1					
子どもと環境	3後		1		○				2					
子どもと言葉	3後		1		○			2		1				
子どもと表現	3後		2		○				2					
国語Ⅰ	2前		2		○			1						
国語Ⅱ	4後		2		○			1		1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	書道	3・4前		2		○									兼1 ※演習・実習
	社会	2後		2		○				1					※演習
	算数	2前		2		○				1					※演習
	理科	2後		2		○									兼1 ※実験
	生活	1後		2		○				1					※演習
	音楽Ⅰ	2前		2			○			1	1				兼5
	音楽Ⅱ	2後		2			○			1	1	1			兼5
	音楽Ⅲ	4前		2			○				1				兼3
	音楽Ⅳ	4後		2		○									兼1 ※演習
	造形Ⅰ	1後		2			○			1					※実習
	造形Ⅱ	2後		2		○				1					※演習
	家庭	2後		2		○									兼2 ※実習・実験
	体育	2前		2		○					1				※実習
	小学校英語	3後		2		○					1				
	教職基礎論	1前		2		○				1	1				※演習, オムニバス
	教育思想史	4前		2		○									兼1
	教育・学校心理学	2・3・4前		2		○					1				
	発達心理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○					1				
	発達心理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○					1				
	青少年問題	1・2・3・4後		2		○					1				
	学校経営論	3・4前		2		○				1		1			※演習, オムニバス
	教育法規	3・4前		2		○									兼1
	家庭教育	4後		2		○					1				
	特別支援教育の視点と教科指導	4後		2		○				1	5				※演習, オムニバス
	教育課程論	2後		2		○									兼1
	国語科指導法	2後		2		○				1					※演習
	社会科指導法	3前		2		○					1				
	算数科指導法	2後		2		○					1				※演習
	理科指導法	3前		2		○									兼1 ※演習・実験
	生活科指導法	2前		2		○					1				※演習
	音楽科指導法	3前		2		○						1			※演習
	図画工作科指導法	3前		2		○				1					※演習
	家庭科指導法	3前		2		○									兼1 ※演習・実習・実験
	体育科指導法	3前		2		○					1				※実習
	小学校英語科指導法	3後		2		○					1				兼1 オムニバス
	道德教育の理論と方法	2前		2		○									兼2 ※演習
	総合的な学習の時間の指導法	3後		2		○									兼1 ※演習
	特別活動の指導法	3前		2		○									兼1 ※演習
	教育方法論	3前		2		○					1				
	教科指導とICT	4後		1		○									兼1
教育課程の理論と方法	2前		2		○					1	1			兼1 オムニバス	
健康の指導法	2前		2		○									兼2 ※演習	
人間関係の指導法	3前		2		○					1				※演習	
環境の指導法	2通		2		○									兼2 ※演習	
言葉の指導法	2後		2			○					1				
音楽表現の指導法	2後		2			○					1				
造形表現の指導法	3前		2			○				1					
身体表現の指導法	2後		2				○			1				※講義	
指導法の理論と方法	2前		2		○					1					
生徒指導の理論と方法	3前		2		○				1						
教育相談及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	4後		2		○					1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻 科目	幼児理解及び教育相談の理論と方法	2後		2		○				1							
	初等教育実習事前事後指導	3通		1		○			1	6		1			兼2	※演習	
	初等教育実習	3通		4				○	1	6		1			兼1	集中	
	教職実践演習(幼・小)	4後		2		○			1	6		1			兼1	※演習	
	特別支援教育総論	1後		2		○				2							
	知的障害児の心理・生理・病理	2前		2		○				1					兼1	オムニバス	
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2後		2		○									兼1		
	病弱児の心理・生理・病理	2後		2		○				1							
	知的障害児教育	3後		2		○				1							
	肢体不自由児教育	3前		2		○									兼1	※演習	
	病弱児教育	3通		2		○				1							
	知的障害児教育総論	3前		2		○				1							
	肢体不自由児教育総論	3前		2		○				1					兼1	集中	
	重複障害児教育総論	4後		1		○			1						兼1	※実習	
	視覚障害児教育総論	3後		1		○									兼1		
	聴覚障害児教育総論	3後		1		○									兼1		
	LD児等教育総論	2後		2		○				1							
	特別支援教育実習事前事後指導	4通		1			○			3						集中	
	特別支援教育実習	4通		2				○		3						集中	
	保育原理	1前		2		○				1							
	子ども家庭支援論	3・4後		2		○			1								
	社会的養護Ⅰ	2後		2		○			1								
	社会的養護Ⅱ	3後		1		○				1							
	保育者論	1後		2		○				1							
	子どもの理解と援助	3後		1		○				1							
	子どもの保健演習	4前		1			○		1								
	子どもの食と栄養	2後		2			○								兼2		
	保育内容総論	2前		1			○			1		1					
	乳児保育Ⅰ	1後		2		○				1							
	乳児保育Ⅱ	2前		1		○				1							
	障害児保育	4前		2			○			1							
	子育て支援	3・4後		1			○			1							
保育実習指導Ⅰ	2後～3前		2				○		1	3	2			兼1			
保育実習指導Ⅱ	4前		1				○		2	2	2						
保育実習指導Ⅲ	4前		1				○		1	3				兼1			
保育実習Ⅰ	2後～3前		4					○	1	5	2			兼1			
保育実習Ⅱ	4前		2					○	1	3	2						
保育実習Ⅲ	4前		2					○	2	2	1			兼1			
モンテッソーリ教育理論	3前		2			○			1								
モンテッソーリ教育実習Ⅰ	3後		2					○	1					兼1			
モンテッソーリ教育実習Ⅱ	4前		2					○	1					兼1			
保育・教育基礎実習	1・2通		1					○	2	12	2			集中			
保育・教育インターンシップ	3・4通		1					○	2	12	2			集中			
インクルーシブインターンシップ	1・2・3・4通		1					○		4				集中			
卒業論文	3・4通		6					○	7	12	2						
小計(141科目)		—	26	242				—						兼38	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究 所 開 講 教 科 目 文 化	キリスト教思想特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教思想特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教文化特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教文化特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教文学演習Ⅰ	3・4前		2				○							兼1	
	キリスト教文学演習Ⅱ	3・4前		2				○							兼1	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—
学 校 図 書 館 に 関 す る 科 目	学校経営と学校図書館	2・3・4前			2	○									兼1	
	学校図書館メディアの構成	2・3・4前			2	○									兼1	※演習
	学習指導と学校図書館	2・3・4後			2	○									兼1	
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後			2	○									兼1	※演習
	小計(5科目)	—	0	0	10	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—
図 書 館 に 関 す る 科 目	図書館概論	1前			2	○									兼1	
	図書館制度・経営論	3後			2	○									兼1	
	図書館情報技術論	2後			2	○									兼1	※演習
	図書館サービス概論	2前			2	○									兼1	
	情報サービス論	3前			2	○									兼1	
	児童サービス論	1前			2	○									兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○								兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○								兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	2前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○								兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○								兼1	
	図書館サービス特論	3後			2	○									兼1	
	図書・図書館史	1後			2	○									兼1	
図書館施設論	3後			2	○									兼1		
	小計(15科目)	—	0	0	26	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—
社 会 教 育 に 関 す る 科 目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2	○			1							※演習
	生涯学習概論Ⅱ	1後			2	○			1							※演習
	生涯学習支援論Ⅰ	1後			2	○									兼1	※演習
	生涯学習支援論Ⅱ	2前			2	○									兼1	※演習
	社会教育経営論Ⅰ	3前			2	○									兼1	集中
	社会教育経営論Ⅱ	3後			2	○									兼1	集中
	社会教育実践演習	3・4通			4		○		1						兼3	※講義・ 実習
	地域創生論	1・2・3・4後			2	○									兼1	※演習
	小計(8科目)	—	0	0	18	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼7	—
博 物 館 に 関 す る 科 目	博物館概論	1前			2	○									兼1	
	博物館経営論	2後			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	※演習
	博物館展示論	2前			2	○									兼1	※実習・ 演習 集中
	博物館教育論	2前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	2前			2	○									兼1	※演習 集中
	博物館実習	3通			3			○							兼2	※講義
	小計(8科目)	—	0	0	17	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
関養日 す成本 る課語 科程教 目に員	日本語教授法Ⅰ	2通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅱ	3通			4	○									兼1	※演習
	日本語教授法Ⅲ	4通			2		○								兼1	集中
	日本語教育実習	4通			1			○							兼1	
	小計(4科目)	—	0	0	11	—		0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
合計(316科目)		—	39	466	82	—		8	12	2	0	0	0	0	兼135	—
学位又は称号		学士(児童学)	学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学共通科目30単位以上修得すること(必修13単位, 選択必修12単位を含む)。学科科目70単位以上修得すること(基礎科目16単位必修, 及び専攻科目10単位(卒業論文6単位を含む))。 4年間以上在学し, 合計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限: 49単位(年間)						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面

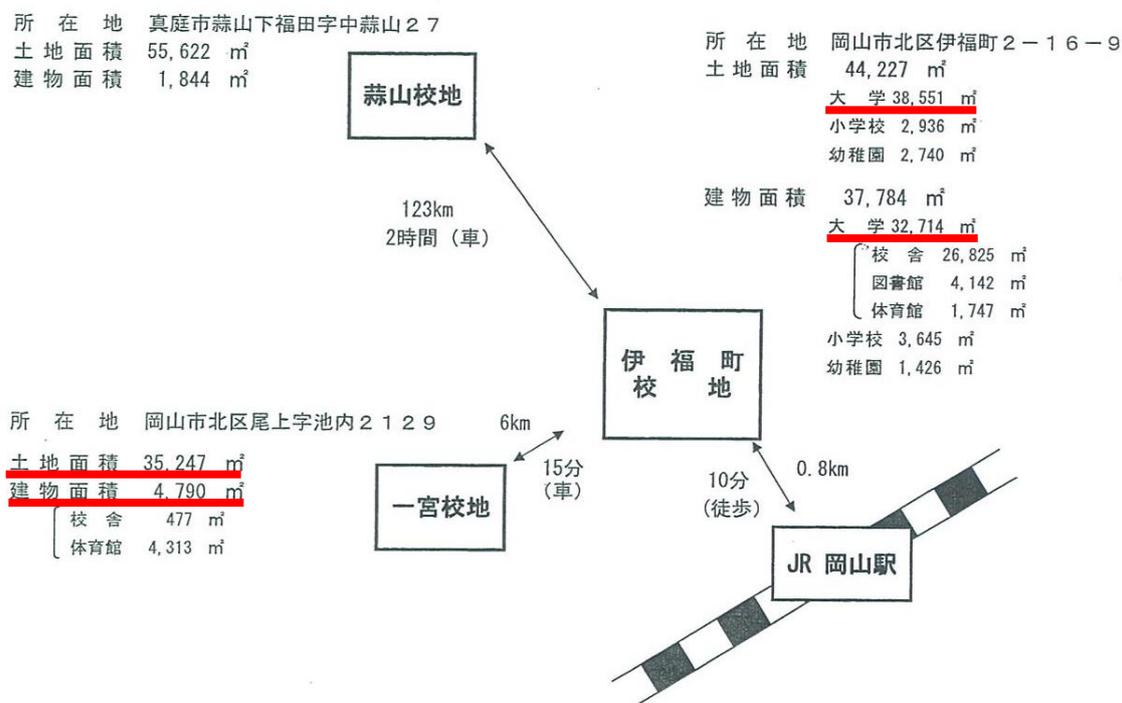


(2) 最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

土地・建物面積の概要

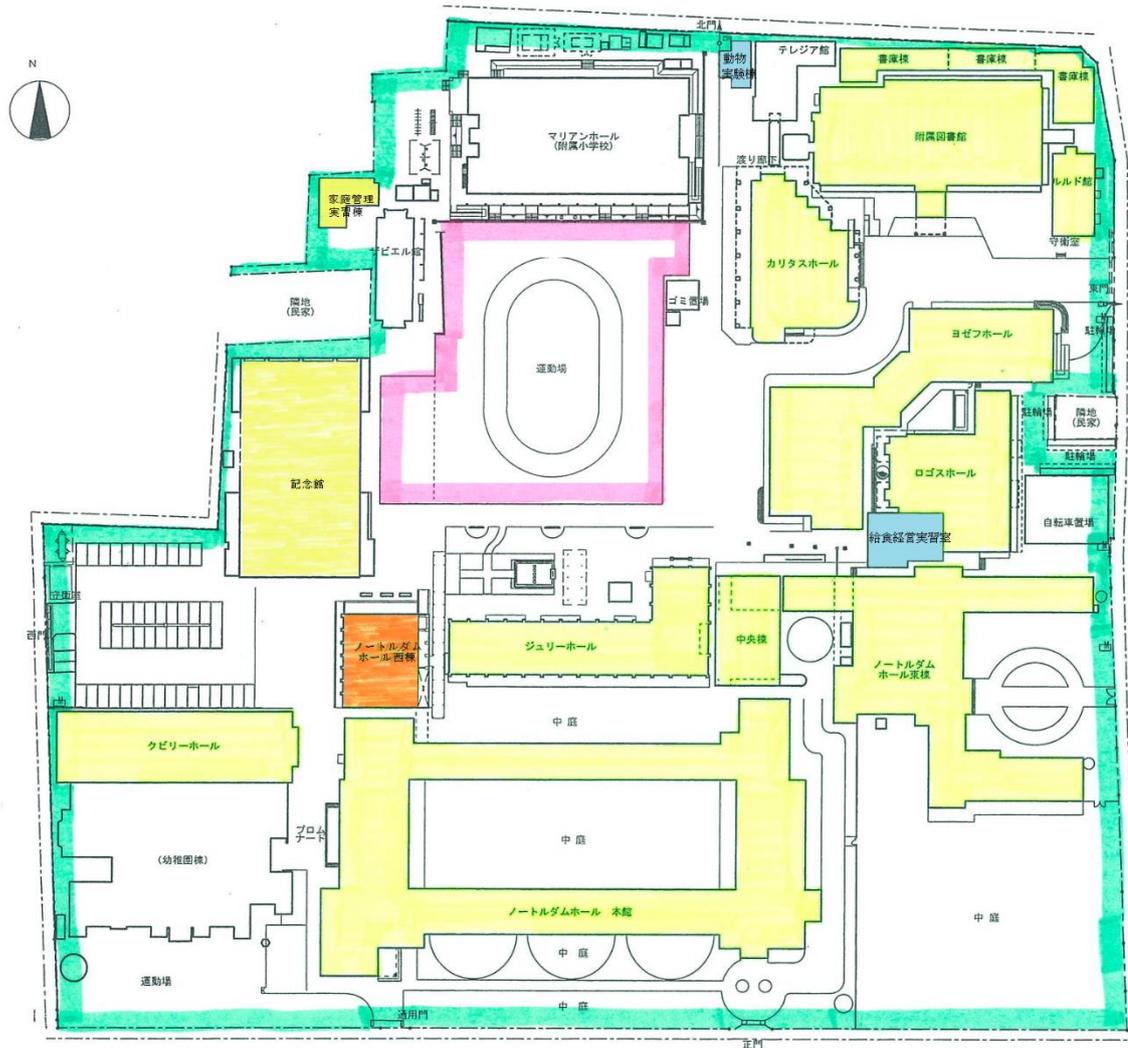
令和元年 5月 1日現在

ノートルダム清心女子大学



(3) 校舎，運動場等の配置および平面図

- 共用
- 主として1階は食品栄養学科が使用する校舎
(地下1階および2階は共用)
- 主として食品栄養学科が使用する校舎



伊福町校地

伊福町校地

土地面積 m^2

区分	面積
大学	38,551
小学校	2,936
幼稚園	2,740
合計	44,227

建物面積 m^2

区分	面積
校舎	26,825
図書館	4,142
体育館	1,747
合計	37,784



一宮校地

土地面積 35,247 m²

建物面積 m²

区分	面積
校舎	477
体育館	4,313
合計	4,790

ノートルダム清心女子大学学則（案）

第1章 目的

第1条 本学は、キリスト教精神に基づいて、女子学生に広い教養を施し、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、誠実で有能な人材を育成することを目的とする。

第2章 自己点検及び評価等

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の実施に関する規則は、別に定める。

3 第1項の点検及び評価の結果については、本学の教職員以外の者による検証を受けるよう努めなければならない。

第2条の2 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載等により積極的に情報を提供するものとする。

第3章 大学の組織

第3条 本学に文学部及び人間生活学部を置く。

2 文学部に英語英文学科、日本語日文学科及び現代社会学科を、人間生活学部人間生活学科、児童学科及び食品栄養学科を置く。

3 人間生活学部児童臨床研究所及び保幼小児修支援センターを置く。これらの研究所等に関する規程は、別に定める。

第3条の2 各学部・学科における人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表1及び別表2のとおりとする。

第3条の3 本学に大学院を置く。

2 大学院に文学研究科及び人間生活学研究科を置く。大学院学則は、別に定める。

第4条 本学に附属図書館を置く。附属図書館に関する規則は、別に定める。

第5条 本学にキリスト教文化研究所を置く。キリスト教文化研究所に関する規則は、別に定める。

第5条の2 本学に英語教育センターを置く。英語教育センターに関する規則は、別に定める。

第5条の3 本学に生涯学習センターを置く。生涯学習センターに関する規則は、別に定める。

第5条の4 本学に地域連携・SDGs推進センターを置く。地域連携・SDGs推進センターに関する規則は、別に定める。

第5条の5 本学に産学連携センターを置く。産学連携センターに関する規則は、別に定める。

第5条の6 本学に国際交流センターを置く。国際交流センターに関する規則は、別に定める。

第5条の7 本学にインクルーシブ教育研究センターを置く。インクルーシブ教育研究センターに関する規則は、別に定める。

第4章 学長及び教職員組織

第6条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。

- 2 本学には、前項のほか、副学長、学部長及び附属研究所等の長並びに技術職員その他必要な職員を置くことができる。
- 3 学長は、全学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- 4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどり、学長に事故あるときはその職務を代行する。
- 5 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。
- 6 教職員の職制に関する規則は、別に定める。

第5章 教授会及び評議会

第7条 本学に教授会を置く。教授会は、学長、副学長及び教授をもって構成する。ただし、必要のある場合は、その他の教職員を加えることができる。

2 教授会の運営その他に関する規程は、別に定める。

第8条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、審議し、意見を述べる。

- (1) 学則及び規程に関する事項
- (2) 研究及び教授に関する事項
- (3) 教育課程に関する事項
- (4) 休業日に関する事項
- (5) 学生の入学、休学、復学、退学、再入学、学士入学、除籍、編入学、転入学、転学、転学部、転学科、留学及び卒業に関する事項
- (6) 学生の学業成績、進級及び試験に関する事項
- (7) 学位の授与に関する事項
- (8) 学生の賞罰に関する事項
- (9) 学生の厚生補導に関する事項
- (10) 聴講生、科目等履修生、特別聴講学生、研究生及び外国人留学生に関する事項
- (11) その他学長が諮問する事項

第9条 本学に評議会を置く。評議会は、学長、副学長、学部長、研究科長、学科長、その他学長が必要と認めた教職員をもって構成する。

2 評議会の運営その他に関する規則は、別に定める。

第10条 評議会は、学長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

- (1) 教授、准教授、講師、助教及び助手の資格審査に関する事項
- (2) 学部、学科及び専攻の新設又は改廃に関する事項
- (3) 諸施設の新設又は改廃に関する事項
- (4) その他必要事項

第6章 学生の収容定員及び修業年限

第11条 本学の入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文 学 部	英語英文学科	90 人	360 人
	日本語日本文学科	70 人	280 人
	現代社会学科	70 人	280 人
人間生活学部	人間生活学科	80 人	320 人
	児童学科	130 人	520 人

	食品栄養学科	80人	320人
--	--------	-----	------

第12条 本学の修業年限は、4年とする。

2 学生は、8年を超えて在学することはできない。

第7章 学年、学期及び休業日

第13条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第14条 学年を次の2期に分ける。

第1期 4月1日から9月30日まで

第2期 10月1日から翌年3月31日まで

第15条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
 - (3) 創立記念日（12月8日）
 - (4) 夏季休業日（8月1日から9月30日までの日）
 - (5) 冬季休業日（12月20日から翌年1月6日までの日）
 - (6) 学年末休業日（3月15日から3月31日までの日）
- 2 休業日は、教授会の議を経て、変更することができる。
- 3 学長は、前2項に定めるほか、臨時の休業日を定めることができる。

第8章 入学、休学、復学、退学、再入学、学士入学、除籍、編入学、 転入学、転学、転学部、転学科及び留学

第16条 入学の時期は、学年の始めとする。

第17条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第18条 入学を希望する者は、所定の検定料を添えて、入学志願書及び出身学校長から提出する調査書を所定の期日までに提出しなければならない。

第19条 入学者の選考は、選抜試験の結果に基づいて、教授会の議を経て行う。

第20条 選抜試験に合格し、所定の期日までに本学則に規定する納入金を納め、保証人連署の誓約書を提出したものに対して、入学を許可する。

第21条 保証人は、独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得る者でな

なければならない。

- 2 本学が保証人として不適当と認めるときは、その変更を命ずることがある。
 - 3 学生が、保証人を変更しようとするときは、直ちに届け出なければならない。また、保証人が、住所又は氏名を変更したときは、直ちに届け出なければならない。
- 第 22 条 病気その他の理由により、2か月以上修学できない者は、保証人連署の上、事由を具して休学を願い出ることができる。
- 2 理由が病気である場合は、医師の診断書を添付しなければならない。
- 第 23 条 休学の期間は、第 1 2 条に規定する在学期間に算入せず、通算して 2 年を超えることができない。
- 第 24 条 休学期間中であっても、休学の理由が消滅した場合には、学長の許可を得て、復学することができる。
- 第 25 条 病気その他の理由により、退学しようとする者は、保証人連署の上、願い出て許可を得なければならない。
- 第 26 条 前条により退学した者が、2 年以内に再び入学を希望した場合は、教授会の議を経て、退学時の相当年次に再入学を許可することがある。
- 第 27 条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- (1) 死亡した者
- (2) 学費を滞納した者
- (3) 第 1 2 条第 2 項に定める在学年限を超えた者
- (4) 休学の期間が 2 年を超えた者

- 2 前項第 2 号によって除籍された者については、学費未納の当該期間の履修科目は抹消される。
- 3 第 1 項第 2 号によって除籍された者が、2 年以内に、未納分の学費を納入した場合は、除籍決定日に遡って、扱いを退学と変更できる。なお、この場合においても、抹消された履修科目は復活しない。

(編入学)

- 第 28 条 学士の学位を有する者が、本学への編入学を希望するときは、選考の上、教授会の議を経て、編入学を許可することがある。
- 2 短期大学を卒業した者が、本学への編入学を希望するときは、選考の上、教授会の議を経て、編入学を許可することがある。
 - 3 編入学の取扱いに関する規程は別に定める。

(転入学)

- 第 29 条 他の大学に在学している者、国外の大学に在学している者及び外国の大学の課程を有するものとして当該国・地域の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学している者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る）が、本学に転入学を願い出たときは、選考の上、教授会の議を経て、転入学を許可することがある。
- 2 他の栄養士養成施設の在学者で、卒業に必要とする履修科目を本学食品栄養学科において履修することが可能であると認められた者は、転入学を許可することがある。

(転学)

- 第 30 条 本学から他の大学へ転学を希望する者は、本学の学長の許可を得なければならない。

(転学部・転学科)

- 第 31 条 削除

- 2 転学部に関する規程は、別に定める。

第 32 条 本学の学生で、他の学科に転学科（転学部を伴う場合を含む。）を志願する者がある場合は、選考の上、教授会の議を経て、許可することがある。

2 転学科に関する規程は、別に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第 33 条 本学が教育上有益と認めるときは、国内の大学（短期大学を含む。）との協議に基づき、本学在学生在が当該大学で履修することを認めることができる。

2 前項によって学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。また前項によって履修した期間は、第 12 条に規定する修業年限に算入するものとする。

3 前 2 項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

4 単位の認定に関する細則は、別に定める。

5 留学に関する規程は、別に定める。

（大学以外の教育施設等における学修）

第 33 条の 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により授与することができる単位数は、前条の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

3 単位の認定に関する細則は、別に定める。

（入学前の既修得単位の認定）

第 33 条の 3 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学若しくは外国の大学（外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修した場合及び外国の大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修した場合を含む。）又は短期大学若しくは外国の短期大学（外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修した場合及び外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修した場合を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 31 条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

3 前 2 項の規定により修得したものとみなし、又は授与することができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、第 33 条の第 1 項並びに第 33 条の 2 第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 単位の認定に関する細則は、別に定める。

第 9 章 授業科目、単位数及び履修方法

第 34 条 本学の授業科目は、全学共通科目、学科科目、キリスト教文化研究所開講科目及び教職等に関する科目に分ける。

第 34 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 25 条第 2 項の規定に基づき文部科学大臣が別に定めるところにより前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、第 1 項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 本学は、大学設置基準第 25 条第 4 項の規定に基づき文部科学大臣が別に定めるところにより、第 1 項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第 35 条 本学における授業科目及びその単位数は、別表 I から別表 IX までに掲げるとおりである。

第 36 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については、15 時間又は 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験、実習、実技等については、30 時間又は 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

(4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前 3 号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(5) 卒業論文については、学修の成果を評価して所定の単位数を与える。

第 37 条 学生は、所属する学科によって全学共通科目、学科科目（他学科科目を含む）、キリスト教文化研究所開講科目及び教職に関する科目を履修し、124 単位以上を修得しなければならない。ただし、食品栄養学科の学生は 139 単位以上を修得しなければならない。

2 履修に関する規程は、別に定める。

第 38 条 削除

第 38 条の 2 本学は、教員の教育内容及び教育方法の改善を図るため、組織的な研究及び研修を実施するものとする。

第 39 条 削除

第 40 条 人間生活学部食品栄養学科において、栄養士の免許及び管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、栄養士法等関連法令に基づく別表 III の 3 に掲げる授業科目及び単位数を修得しなければならない。

2 栄養士養成及び管理栄養士養成に関する規程は、別に定める。

3 人間生活学部食品栄養学科において、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得ようとする者は、別表 III の 3 に掲げる食品衛生法等関連法令に基づく授業科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

4 食品衛生管理者養成及び食品衛生監視員養成に関する規程は、別に定める。

第 40 条の 2 人間生活学部児童学科において、保育士資格を得ようとする者は、別に定める保育士資格取得履修要項による児童福祉法等関連法令に基づく授業科目及び単位数を修得しなければならない。

第 41 条 教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法及び同法施行

規則に定める基礎資格を取得し、かつ、所要の単位数を修得しなければならない。

2 本学の学部/学科において、当該所要資格を取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、次の表に掲げるとおりである。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
文 学 部	英語英文学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	日本語日本文学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	国語・書道 国語
	現代社会学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	地理歴史・公民 社会
人間生活学部	人間生活学科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状	家庭・福祉 家庭
	児童学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者に関する教育の領域) (肢体不自由者に関する教育の領域) (病弱者に関する教育の領域)	
	食品栄養学科	栄養教諭一種免許状	

3 本学において開設する教科、特別支援教育、栄養に係る教育及び教職に関する科目並びにその単位数は、別表Ⅱの 1、Ⅱの 2、Ⅱの 3、Ⅲの 1、Ⅲの 2、Ⅲの 3 及びⅤに掲げるとおりである。

第 41 条の 2 文学部現代社会学科において、社会調査士の資格認定を受けようとする者は、別に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 社会調査士の資格を得るための科目及び単位数等については、別に定める。

第 42 条 本学において学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、学校図書館司書教諭講習規程に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 学校図書館司書教諭に関する科目及び単位数は、別表Ⅵに掲げるとおりである。

第 42 条の 2 本学において司書の資格を取得しようとする者は、図書館法及び同法施行規則に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 司書の資格を得るための科目及び単位数等については、別表Ⅵの 2 に掲げるもののほか、別に定めるところによる。

第 42 条の 3 本学において社会教育主事の資格を得ようとする者は、社会教育法及び社会教育主事講習等規程に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 社会教育主事の資格を得るための科目及び単位数等については、別表Ⅶに掲げるもののほか、別に定めるところによる。

第 43 条 本学において学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同法施行規則に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 学芸員の資格を得るための科目及び単位数等については、別表Ⅷに掲げるもののほか、別に定めるところによる。

第 43 条の 2 本学において日本語教員養成課程修了証書の授与を受けようとする者は、日本語教員養成のための標準的な教育内容に定める科目を履修し、その単位数を修得しなければならない。

2 本学において開設する日本語教員養成課程に関する科目は、別表Ⅸに掲げるもののほか

か、別に定めるところによる。

第 43 条の 3 人間生活学部人間生活学科において、社会福祉士試験受験資格を得ようとする者は、別に定める履修に関する規程における社会福祉士及び介護福祉士法等関連法令に基づく授業科目及び単位数を修得しなければならない。

第 10 章 単位の認定

第 44 条 履修した授業科目の単位の認定は、試験等の成績による。

第 45 条 本学の試験は、授業科目試験及び卒業論文審査とに分ける。

2 削除

3 削除

4 試験に関する規則は、別に定める。

5 履修した授業科目の成績評価の評語は、秀、優、良、可、不可で表す。秀、優、良、可を合格とし、授業科目所定の単位数を与える。

6 授業への出席が当該授業科目の総授業時間の 3 分の 2 に満たない者は、単位を認定しない。その場合の成績評価の評語は放棄とする。

7 第 33 条、第 33 条の 2 及び第 33 条の 3 により単位を認定する科目の成績評価の評語は、認定とし合格の評価とする。

8 成績評価に対する疑義のある学生は、別に定める期日までに当該教員に申し出ることができる。

9 前 3 項に定めるもののほか、成績等の評価等に関し、必要な事項は別に定める。

第 46 条 削除

第 11 章 卒業及び学位

第 47 条 本学に 4 年以上在学し、第 37 条に規定する単位数を修得した者は、卒業とする。

第 48 条 卒業者には、学士の学位を授与する。

2 前項の規定により授与する学士の学位は、次のとおりとする。

文学部英語英文学科 学士（英語英文学）

文学部日本語日本文学科 学士（日本語日本文学）

文学部現代社会学科 学士（現代社会学）

人間生活学部人間生活学科 学士（人間生活学）

人間生活学部児童学科 学士（児童学）

人間生活学部食品栄養学科 学士（食品栄養学）

3 学士の学位授与に関する規程は、別に定める。

第 12 章 学費

第 49 条 授業料等学費の額は、別表 X に掲げるとおりである。ただし、在学生、聴講生、科目等履修生、特別聴講学生、研究生及び委託生にかかる学費の免除は、別に定める。

第 50 条 授業料は、年 2 期に分け、所定の期日までに納めるものとする。ただし、願い出により分納することを認める。

第 51 条 学年又は学期を通して休学する場合は、当該期間に支払うべき授業料の半額を徴収する。

第 52 条 すでに納入した学費及びその他の納入金は、返還しない。

第 13 章 賞罰

第 53 条 学業が特に優秀な者又は学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て、

これを表彰することがある。

第 54 条 本学教育の趣旨に背き又は学生の本分に反する行為をした者に対して、教授会の議を経て、懲戒を行う。

2 懲戒は、戒告、謹慎又は退学とする。

3 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、退学させることができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力不振で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 1 4 章 聴講生、科目等履修生、特別聴講学生、研究生及び外国人留学生

第 55 条 本学の授業科目について、聴講を希望する者があるときは、教育研究に支障のない限り、教授会の議を経て、聴講生として許可することがある。

2 聴講生に関する規程は、別に定める。

第 56 条 本学の特定の授業科目について、単位の修得を目的として履修を希望する者があるときは、教育研究に支障のない限り、教授会の議を経て、科目等履修生として許可することがある。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第 56 条の 2 他の大学（外国の大学を含む。）、短期大学（外国の短期大学を含む。）又は高等専門学校で、本学の授業科目の履修を志願する者があるときは、当該大学、当該短期大学又は当該高等専門学校との協議に基づき、特別聴講学生として履修を認めることができる。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

第 57 条 本学において特定の事項について研究を希望する者があるときは、教育研究に支障のない限り、教授会の議を経て、研究生として許可することがある。

2 研究生に関する規程は、別に定める。

第 58 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を希望する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規程は、別に定める。

第 59 条 科目等履修生及び特別聴講学生には、別に定めるもののほか、本学の学則を準用する。ただし、学則第 1 1 条、第 1 2 条、第 4 7 条及び第 4 8 条の規定は除く。

2 聴講生及び研究生には、別に定めるもののほか、本学の学則を準用する。ただし、学則第 1 1 条、第 1 2 条、第 4 5 条、第 4 7 条及び第 4 8 条の規定は除く。

第 1 5 章 公開講座

第 60 条 社会人の教養を高め、地域文化の向上に資するため、公開講座を開設することができる。

2 公開講座の運営その他に関する規程は、別に定める。

第 1 6 章 大学寮

第 61 条 削除

第 1 7 章 改廃

第 62 条 この学則の改廃は、教授会及び評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

本学則は昭和24年4月1日から適用する。

附 則

本学則は昭和26年4月1日から適用する。

附 則

本学則は昭和30年4月1日から適用する。

附 則

本学則は昭和39年4月1日から適用する。

附 則

本学則は昭和42年4月1日から適用する。

附 則

本学則は昭和42年10月1日から適用する。ただし、第2条、第4条の2、第7条、第9条、第14条の規定は、昭和41年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和44年4月1日から施行する。

附 則

本学則は昭和45年4月1日から施行する。

附 則

本学則は昭和46年4月1日から施行する。

附 則

本学則は昭和47年4月1日から施行する。

附 則

本学則は昭和49年4月1日から施行する。

附 則

本学則は昭和50年4月1日から施行する。ただし、第47条、第48条、第49条は、昭和50年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和51年4月1日から施行する。ただし、第48条、第49条、第50条は、昭和51年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和52年4月1日から施行する。ただし、第48条は、昭和52年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和53年4月1日から施行する。ただし、第48条、第49条、第50条は、昭和53年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和54年4月1日から施行する。ただし、別表Vの額は、昭和53年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和55年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和55年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和56年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和56年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和57年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和57年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和58年4月1日から施行し、昭和58年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和60年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和60年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和61年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和61年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和62年4月1日から施行し、昭和62年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は昭和63年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、昭和63年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は平成2年4月1日から施行する。ただし、別表1からIV・VIの改正規定は、平成2年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則は平成3年9月20日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、平成4年度入学者からこれを適用する。

附 則

本学則の改正は、平成4年4月1日から施行する。ただし、別表VIの改正規定は、平成4年度入学者からこれを適用する。また、本学則第11条の規定にかかわらず、平成4年から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	専 攻	入学定員
文学部	英語英文学科		120名
	国語国文学科		90名
家政学部	家政学科		80名
	児童学科	児童学専攻	50名
		児童教育専攻	70名
食品・栄養学科	食品・栄養学専攻	20名	
	管理栄養士専攻	30名	

附 則

- 1 本学則の改正は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、第48条の規定は、平成3年度入学生からこれを適用する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、第43条の2の規定は、平成8年度入学者からこれを適用する。また、改正後の別表Ⅵの規定は、平成8年文部省令第28号の附則に該当する者を除く平成9年度在学者からこれを適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。
- 3 平成9年度以前の間人生活学部食品栄養学科食品栄養学専攻及び管理栄養士専攻の入学生については、それぞれ改正前の第39条及び第40条を適用し、各専攻はその専攻学生の卒業時をもって廃止する。
- 4 平成4年4月1日施行に伴う附則の一部を次のとおり改正する。

学 部	学 科	専 攻	入学定員
文学部	英語英文学科		120名
	国語国文学科		90名
人間生活学部	人間生活学科		80名
	児童学科	児童学専攻	50名
		児童教育専攻	70名
食品栄養学科		50名	

附 則

- 1 本学則の改正は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。
- 3 平成4年4月1日施行に伴う附則の表中「国語国文学科」及び平成10年4月1日施行に伴う附則第4項表中「国語国文学科」をそれぞれ「日本語日本文学科」に改正する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、第41条第2項の改正規定は、平成12年度以前の入学者にこれを適用する。また、改正後の第43条の3の規定は、平成12年度入学生からこれを適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の第42条の2の規定は、平成14年度以前の入学者にこれを適用する。
- 3 改正後の第11条の規定にかかわらず、平成15年度以降の文学部英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科、人間生活学部人間生活学科、児童学科児童学専攻及び児童教育専攻の収容定員は、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	専 攻	収 容 定 員		
			平成15年度	平成16年度	平成17年度
文 学 部	英語英文学科		410人	380人	350人
	日本語日本文学科		300人	280人	260人
	現代社会学科		60人	120人	180人
人間生活学部	人間生活学科		310人	300人	290人
	児 童 学 科	児童学専攻	210人	220人	230人
児童教育専攻		270人	260人	250人	

附 則

本学則の改正は、平成16年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表Ⅲの1及びⅥの2の規定にかかわらず、本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、栄養教諭一種免許状取得に係る授業科目は、平成16年度以前の入学生についても履修することができる。
- 3 改正後の第11条の規定にかかわらず、平成17年度以降の人間生活学部食品栄養学科の収容定員は、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	専 攻	収 容 定 員		
			平成17年度	平成18年度	平成19年度
人間生活学部	食品栄養学科		230人	260人	290人

附 則

- 1 本学則の改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。
- 3 改正後の第11条の規定にかかわらず、平成18年度以降の人間生活学部児童学科の収容定員は、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	専 攻	収 容 定 員		
			平成18年度	平成19年度	平成20年度
人間生活学部	児 童 学 科		120人	240人	360人
		児童学専攻	180人	120人	60人
		児童教育専攻	180人	120人	60人

附 則

- 1 本学則の改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、別表Ⅲの2の「教育課程・特別活動の研究」を「教育課程論」「特別活動の指導法」とする授業科目の改正については、平成18年度入学生から適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、別表Ⅱの

2の文学部日本語日本文学科学科科目で新たに開講する授業科目は、平成20年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅲの2に規定する授業科目の「総合的学習教育法」及び「外国語活動教育法」については、平成20年度入学生から、並びに改正後の別表Ⅴに規定する授業科目の「教職特講Ⅰ」、「教職特講Ⅱ」及び「教職特講Ⅲ」については、平成21年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の第27条第1項第2号、第2項及び第3項の規定、別表Ⅰの授業科目「人材育成論」、別表Ⅱの3の授業科目「社会研究総合」並びに別表Ⅲの2の授業科目「保育・教育基礎実習」及び「保育・教育インターンシップ」については、平成23年度在学学生からこれを適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅵの2及び別表Ⅷに規定する授業科目については、平成23年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅵの2に規定する授業科目「情報資源組織演習Ⅰ」及び「情報資源組織演習Ⅱ」については、平成24年度入学生からこれを適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅰに規定する授業科目「選択英語G」、「選択英語H」、「選択英語Ⅰ」及び「選択英語Ⅱ」については、平成26年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅱの3の授業科目「現代社会学特講Ⅳ」、「社会史特講Ⅴ」及び「社会史特講Ⅵ」については、平成28年度以前の入学生についても履修することができる。なお、これによる場合は、各入学年度の学則別表Ⅱの3の学科関連科目として適用する。

また、改正後の別表Ⅲの1の授業科目「食生活論」、「食経営論」、「食政策論」、「比較食文化論」については、平成28年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅰに規定する授業科目「ことばと社会」並びに別表Ⅲの1の授業科目「メディア戦略論」、「広告論」及び「マーケティングコミュニケーション論」については、平成29年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の第45条及び改正後の別表Ⅰに規定する授業科目「共生と文化を考える」については、平成30年度以前の入学生についてもこれを適用する。

附 則

- 1 本学則の改正は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の第45条及び第46条については、令和元年度以前入学生についてもこれを適用する。また、改正後の別表Ⅰに規定する授業科目「言語学」並びに別表Ⅶに規定する授業科目「生涯学習支援論Ⅰ」、「生涯学習支援論Ⅱ」、「社会教育経営論Ⅰ」、「社会教育経営論Ⅱ」、「社会教育実践演習」及び「地域創生論」については、令和元年度以前の入学生についても履修することができる。

附 則

- 1 本学則の改正は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅰに規定する授業科目「キリスト教学ⅩⅣ」、「キリスト教学ⅩⅤ」、「キリスト教学ⅩⅥ」、「法律学Ⅰ」、「法律学Ⅱ」、「キャリアデザイン基礎」及び「キャリアデザイン発展」については、令和2年度以前の入学生についてもこれを適用する。
- 3 改正後の第11条の規定に係わらず、令和3年度以降の文学部 英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科、人間生活学部 人間生活学科、児童学科の収容定員は次の表のとおりとする。

学部	学 科	収容定員		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
文学部	英語英文学科	330人	340人	350人
	日本語日本文学科	250人	260人	270人
	現代社会学科	250人	260人	270人
人間生活学部	人間生活学科	290人	300人	310人
	児童学科	490人	500人	510人

別表 1

文学部における人材育成等の目的

本学部は、本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、言語文化をはじめとする人間の文化的営為の研究を通して、人間について広くかつ深く洞察することを目指す。当該学部は、次代を担う学生に対して、人間の文化的営為の考察結果を伝達することによって、人間を考察する豊かな知性と感性を備え、社会を背負って立つ卒業生を送り出すことに努める。

文学部各学科における人材育成等の目的

英語英文学科	<p>本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、英語運用能力の向上とともに、英米文学、英語学・言語学及び国際コミュニケーションまた関連分野の学問を学修・研究し、さらに一般教養も身につける。それによって、自他双方の人生を豊かにする学生個々人の全人的人格形成をはかり、それを通して国内外において社会に貢献できる有為な人材を育成する。</p>
日本語日文学科	<p>「ことば」の様々な側面を、日本語を核とする日本文化全体の視野から見つめ直すことを目標とする。具体的には、日本語・日本文学や、書道・国語教育などの言語文化の研究を行なう。それらの研究を通して、問題意識を高め、資料を用いた論理的な方法によって課題探求をし、柔軟な思考力と判断力を養う。それによって、自らの内面と「ことば」を磨き、発信のできる人材の育成を目指す。</p>
現代社会学科	<p>現代社会の諸現象が生起する仕組みを分析する社会学と、人間社会がここに至った過程を研究する歴史学を方法的支柱として、多方面から社会を考察する力を養う。社会学的方法と歴史学的方法をあわせ学ぶことで人間社会の過去と現在とにわたる幅広い視野を獲得すると同時に、履修コース制によっていずれかの学問領域について深く研鑽することを求め、社会に関する広汎な学識と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指す。</p>

別表 2

人間生活学部における人材育成等の目的

本学部は、本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、「人間生活」に関する科学的考察と「人間らしい生活」の実現を目指す価値的考察との学際的統合を研究・教授する。高度の専門的知識を持ちつつも、なお広い視野と思考の柔軟性を失うことなく、知識の背後にある人格価値を知り、かつ他者の人格価値に共感できる感受性豊かな人材を育成する。

人間生活学部各学科における人材育成等の目的

人間生活学科	<p>本学の教育理念であるキリスト教精神に基づいたリベラル・アーツ・カレッジとしての位置づけを踏まえ、「人間中心の生活学」を総合的な視点から研究・教授し、社会の要請に応える人材を育成することを目的とする。そのため、本学科では、人間・福祉・生活・経営・環境といった広い分野の有機的連携のもとに、人間性に満ちた、幅広い教養を持つジェネラリストの養成を目指す。</p>
児童学科	<p>学科の英文名称、Department of Child Welfare の示すように、子どもたちの幸福 (welfare) に資するよう、心理、医学、福祉、教育、文化、芸術等の領域から多角的な視野で子どもを理解し、子どもの成長・発達を援助できる人材の育成を目的とする。あわせて、みずから考え、主体的・自発的に行動し、高いコミュニケーション能力を備えた人材の養成も目的である。このような専門性と豊かな人間性を備えたうえで、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員免許及び保育士資格等の取得を通して、社会の要請に応え、地域に貢献する。</p>
食品栄養学科	<p>生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資する管理栄養士及び栄養教諭の養成を教育上の目的とする。食に関する高度な専門知識や技術はもとより、みずからの専門分野をさまざまな角度から見つめ、「人間の栄養学」を真に理解することのできる高い知性と教養、さらに豊かな人間性を備えた総合力のある管理栄養士や栄養教諭の育成を目指す。</p>

別表 I

全学共通科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
キリスト教科目	人間論	2	
	キリスト教学Ⅰ	2	
	キリスト教学Ⅱ	2	
	キリスト教学Ⅲ	2	
	キリスト教学Ⅳ	2	
	キリスト教学Ⅴ	2	
	キリスト教学Ⅵ	2	
	キリスト教学Ⅶ	2	
	キリスト教学Ⅷ	2	
	キリスト教学Ⅸ	2	
	キリスト教学Ⅹ	2	
	キリスト教学ⅩⅠ	2	
	キリスト教学ⅩⅡ	2	
	キリスト教学ⅩⅢ	2	
	キリスト教学ⅩⅣ	2	
	キリスト教学ⅩⅤ	2	
	キリスト教学ⅩⅥ	2	
教養科目	哲学Ⅰ	2	
	哲学Ⅱ	2	
	倫理学Ⅰ	2	
	倫理学Ⅱ	2	
	文学Ⅰ	2	
	文学Ⅱ	2	
	文学Ⅲ	2	
	文学Ⅳ	2	
	文学Ⅴ	2	
	文学Ⅵ	2	
	文学Ⅶ	2	
	芸術Ⅰ	2	
	芸術Ⅱ	2	
	芸術Ⅲ	2	
	芸術Ⅳ	2	
	歴史学Ⅰ	2	
	歴史学Ⅱ	2	
	歴史学Ⅲ	2	
	歴史学Ⅳ	2	
	日本国憲法Ⅰ	2	
	日本国憲法Ⅱ	2	
	法律学Ⅰ	2	
	法律学Ⅱ	2	
	社会学	2	
	言語学	2	
	心理学Ⅰ (心理学概論)	2	
	心理学Ⅱ (臨床心理学概論)	2	
	心理学Ⅲ (健康・医療心理学)	2	
	情報学Ⅰ	2	
	情報学Ⅱ	2	
	数学Ⅰ	2	
	数学Ⅱ	2	
	物理学Ⅰ	2	
	物理学Ⅱ	2	
	化学Ⅰ	2	
	化学Ⅱ	2	
	生物学Ⅰ	2	
	生物学Ⅱ	2	

科目区分	授業科目	履修単位	備考
	科学史Ⅰ	2	
	科学史Ⅱ	2	
	医学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）	2	
	医学Ⅱ	2	
外国語科目	英語ⅠA	1	
	英語ⅠB	1	
	英語ⅡA	1	
	英語ⅡB	1	
	英語ⅢA	1	
	英語ⅢB	1	
	英語ⅣA	1	
	英語ⅣB	1	
	英語ⅤB	1	
	英語ⅥB	1	
	英語ⅦB	1	
	特別演習英語A	1	
	特別演習英語B	1	
	特別演習英語C	1	
	特別演習英語D	1	
	特別演習英語E	1	
	特別演習英語F	1	
	特別演習英語G	1	
	特別演習英語H	1	
	特別演習英語I	1	
	特別演習英語J	1	
	海外英語演習A	2	
	海外英語演習B	2	
	ドイツ語ⅠA	1	
	ドイツ語ⅠB	1	
	ドイツ語ⅡA	1	
	ドイツ語ⅡB	1	
	ドイツ語ⅢA	1	
	ドイツ語ⅢB	1	
	ドイツ語ⅣA	1	
	ドイツ語ⅣB	1	
	特別演習ドイツ語Ⅰ	1	
	特別演習ドイツ語Ⅱ	1	
	フランス語ⅠA	1	
	フランス語ⅠB	1	
	フランス語ⅡA	1	
	フランス語ⅡB	1	
	フランス語ⅢA	1	
	フランス語ⅢB	1	
	フランス語ⅣA	1	
	フランス語ⅣB	1	
	特別演習フランス語Ⅰ	1	
	特別演習フランス語Ⅱ	1	
	中国語ⅠA	1	
	中国語ⅠB	1	
	中国語ⅡA	1	
	中国語ⅡB	1	
	中国語ⅢA	1	

科目区分		授業科目	履修単位	備考
		中国語ⅢB	1	
		中国語ⅣA	1	
		中国語ⅣB	1	
		特別演習中国語Ⅰ	1	
		特別演習中国語Ⅱ	1	
		特別演習日本語Ⅰ	1	
		特別演習日本語Ⅱ	1	
		健康科目		心と体の健康論
体育実技Ⅰ	1			
体育実技Ⅱ	1			
体育実技Ⅲ	1			
自立力育成科目	A 群	わたしたちの社会と経済	2	
		わたしたちの社会と政治	2	
		わたしたちの社会と法	2	
		わたしたちの社会とボランティア	2	
		人材育成論	2	
		わたしたちの社会と科学	2	
		世界の中のわたしたち	2	
		ことばと社会	2	
		キャリアデザイン基礎	2	
		キャリアデザイン発展	2	
		B 群	ボランティア実践Ⅰ	2
	ボランティア実践Ⅱ		2	
	ボランティア実践Ⅲ		2	
	ボランティア実践Ⅳ		2	
	日本語表現Ⅰ		2	
	日本語表現Ⅱ		2	
	日本語表現Ⅲ		2	
	日本語表現Ⅳ		2	
	日本語表現Ⅴ		2	
	日本語表現Ⅵ		2	
	アジアと平和を考える		2	
	「いのち」と「くらし」の倫理		2	
	ディスカッションから社会を考える		2	
	女性の自立を考える		2	
	共生と文化を考える		2	
	自立力育成ゼミⅠ		2	
	自立力育成ゼミⅡ		2	
	自立力育成ゼミⅢ	2		
自立力育成ゼミⅣ	2			
自立力育成ゼミⅤ	2			
自立力育成ゼミⅥ	2			
自立力育成ゼミⅦ	2			
自立力育成ゼミⅧ	2			
情報科目		情報メディア演習	2	

別表 II の 1

文学部 英語英文学科 学科科目

科目区分		授業科目	履修単位	備考
基礎科目		Active English I	2	
		Active English II	2	
		Communicative English I	1	
		Communicative English II	1	
		英文法 I	2	
		英文法 II	2	
		英語講読 I	2	
		英語講読 II	2	
専攻科目	英米文学	英文学概論 I	2	
		英文学概論 II	2	
		英国文学史 I	2	
		英国文学史 II	2	
		米国文学史 I	2	
		米国文学史 II	2	
		西洋現代文学概論 I	2	
		西洋現代文学概論 II	2	
		英米文学研究 I A	2	
		英米文学研究 I B	2	
		英米文学研究 II A	2	
		英米文学研究 II B	2	
		英米文学研究 III A	2	
		英米文学研究 III B	2	
		英米文学研究 IV A	2	
		英米文学研究 IV B	2	
		英米文学研究 V A	2	
		英米文学研究 V B	2	
		英米文学研究 VI A	2	
		英米文学研究 VI B	2	
		聖書文学 I	2	
		聖書文学 II	2	
		英米文学講読 I	2	
		英米文学講読 II	2	
	英米文学演習 I	2		
	英米文学演習 II	2		
	英語学	英語学概論 I	2	
		英語学概論 II	2	
		英語史 I	2	
		英語史 II	2	
		現代言語学概論 I	2	
		現代言語学概論 II	2	
英語音声学		2		
英語学・言語学研究 I A		2		
英語学・言語学研究 I B		2		
英語学・言語学研究 II A		2		
英語学・言語学研究 II B		2		
英語学・言語学研究 III A		2		
英語学・言語学研究 III B		2		
英語学・言語学研究 IV A		2		
英語学・言語学研究 IV B		2		
英語学・言語学研究 V A		2		
英語学・言語学研究 V B		2		
英語学・言語学研究 VI A		2		
英語学・言語学研究 VI B	2			
英語学講読 I	2			

別表 Ⅱの2

文学部 日本語日本文学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	古典文学基礎演習	2	
	近代文学基礎演習	2	
	日本語学基礎演習	2	
	古典文学入門	2	
	日本語学概論Ⅰ	2	
	日本語学概論Ⅱ	2	
	日本文学概論Ⅰ	2	
	日本文学概論Ⅱ	2	
	日本語史Ⅰ	2	
	日本語史Ⅱ	2	
	日本文学史Ⅰ	2	
	日本文学史Ⅱ	2	
	日本語音声学Ⅰ	2	
	日本語音声学Ⅱ	2	
	日本語文法論Ⅰ	2	
	日本語文法論Ⅱ	2	
日本文学	古代文学特講Ⅰ	2	
	古代文学特講Ⅱ	2	
	古代文学特講Ⅲ	2	
	古代文学特講Ⅳ	2	
	中世文学特講Ⅰ	2	
	中世文学特講Ⅱ	2	
	中世文学特講Ⅲ	2	
	中世文学特講Ⅳ	2	
	近世文学特講Ⅰ	2	
	近世文学特講Ⅱ	2	
	近世文学特講Ⅲ	2	
	近世文学特講Ⅳ	2	
	近代文学特講Ⅰ	2	
	近代文学特講Ⅱ	2	
	近代文学特講Ⅲ	2	
	近代文学特講Ⅳ	2	
	近代文学特講Ⅴ	2	
	近代文学特講Ⅵ	2	
	古代文学講読Ⅰ	2	
	古代文学講読Ⅱ	2	
	古代文学講読Ⅲ	2	
	古代文学講読Ⅳ	2	
	中世文学講読Ⅰ	2	
	中世文学講読Ⅱ	2	
	中世文学講読Ⅲ	2	
	中世文学講読Ⅳ	2	
	近世文学講読Ⅰ	2	
	近世文学講読Ⅱ	2	
	近世文学講読Ⅲ	2	
	近世文学講読Ⅳ	2	
	近代文学講読Ⅰ	2	
	近代文学講読Ⅱ	2	
近代文学講読Ⅲ	2		
近代文学講読Ⅳ	2		
近代文学講読Ⅴ	2		
近代文学講読Ⅵ	2		
古代文学演習Ⅰ	2		
古代文学演習Ⅱ	2		

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
専攻科目	古代文学演習Ⅲ	2		
	古代文学演習Ⅳ	2		
	中世文学演習Ⅰ	2		
	中世文学演習Ⅱ	2		
	中世文学演習Ⅲ	2		
	中世文学演習Ⅳ	2		
	近世文学演習Ⅰ	2		
	近世文学演習Ⅱ	2		
	近世文学演習Ⅲ	2		
	近世文学演習Ⅳ	2		
	近代文学演習Ⅰ	2		
	近代文学演習Ⅱ	2		
	近代文学演習Ⅲ	2		
	近代文学演習Ⅳ	2		
	近代文学演習Ⅴ	2		
	近代文学演習Ⅵ	2		
	日本語学	日本語学特講Ⅰ	2	
		日本語学特講Ⅱ	2	
		日本語学特講Ⅲ	2	
		日本語学特講Ⅳ	2	
		日本語学講読Ⅰ	2	
		日本語学講読Ⅱ	2	
		日本語学講読Ⅲ	2	
		日本語学講読Ⅳ	2	
		日本語学演習Ⅰ	2	
		日本語学演習Ⅱ	2	
		日本語学演習Ⅲ	2	
		日本語学演習Ⅳ	2	
	言語文化	対照言語学Ⅰ	2	
		対照言語学Ⅱ	2	
		漢文学Ⅰ	2	
		漢文学Ⅱ	2	
		日本漢文学史	2	
	日本語表現法Ⅰ	2	音声言語を含む	
	日本語表現法Ⅱ	2	音声言語を含む	
	国語科教育法Ⅰ	2		
	国語科教育法Ⅱ	2		
	書道科教育法Ⅰ	2		
	書道科教育法Ⅱ	2		
	書論・鑑賞法Ⅰ	2		
	書論・鑑賞法Ⅱ	2		
	日本書法史	2		
	中国書法史	2		
	書写法Ⅰ	1	} 書写を中心とする	
	書写法Ⅱ	1		
	硬筆書法	1		
	書式研究	1		
	書法基礎	1	書写を含む	
	漢字仮名交じり書法Ⅰ	1	書写を含む	
	漢字仮名交じり書法Ⅱ	1		
	楷・行書法Ⅰ	1	書写を含む	
	楷・行書法Ⅱ	1		
	草書法	1		
	篆・隸書法	1		
	篆刻法	1		
	仮名書法Ⅰ	1	書写を含む	
	仮名書法Ⅱ	1		

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
専攻科目	書道卒業制作	4		
	文学創作論Ⅰ	2		
	文学創作論Ⅱ	2		
	文学創作論Ⅲ	2		
	文学創作論Ⅳ	2		
	総合探究Ⅰ	2		
	総合探究Ⅱ	2		
	卒業論文	6		
	学科関連科目	日本文化史Ⅰ	2	
		日本文化史Ⅱ	2	
日本美術史Ⅰ		2		
日本美術史Ⅱ		2		

別表 IIの3

文学部 現代社会学科 学科科目

科目区分		授業科目	履修単位	備考
基礎科目		現代社会学基礎	2	
		社会史基礎	2	
		基礎演習	2	
		現代社会学基礎演習	2	
		社会史基礎演習	2	
専攻科目	現代社会学	社会学原論	2	
		理論社会学	2	
		社会心理学	2	
		社会集団・組織論	2	
		地域社会学	2	
		宗教社会学	2	
		家族社会学	2	
		ジェンダー論	2	
		社会調査論Ⅰ	2	
		社会調査論Ⅱ	2	
		社会調査論Ⅲ	2	
		社会統計学Ⅰ	2	
		社会統計学Ⅱ	2	
		現代社会学特講Ⅰ	2	
		現代社会学特講Ⅱ	2	
		現代社会学特講Ⅲ	2	
		現代社会学特講Ⅳ	2	
		社会調査実習	4	
		現代社会学演習	4	
		社会史	社会史原論	2
		日本社会史Ⅰ	2	
		日本社会史Ⅱ	2	
		アジア社会史Ⅰ	2	
		アジア社会史Ⅱ	2	
		ヨーロッパ社会史Ⅰ	2	
		ヨーロッパ社会史Ⅱ	2	
		地域社会史	2	
		宗教社会史	2	
		ジェンダー史	2	
		考古学Ⅰ	2	
		考古学Ⅱ	2	
		民俗学Ⅰ	2	
		民俗学Ⅱ	2	
		社会史特講Ⅰ	2	
		社会史特講Ⅱ	2	
		社会史特講Ⅲ	2	
		社会史特講Ⅳ	2	
		社会史特講Ⅴ	2	
		史料講読Ⅰ	4	
		史料講読Ⅱ	4	
		史料講読Ⅲ	4	
		史料講読Ⅳ	4	
		社会史演習	4	
	共通	地理学概論	2	
		人文地理学	2	
		自然地理学	2	
		地誌学Ⅰ	2	
		地誌学Ⅱ	2	
		文化人類学	2	
		卒業論文	6	

科目区分		授業科目	履修単位	備考
専攻科目	学科関連科目	哲学基礎	2	
		行政法	2	
		社会法	2	
		経済学基礎	2	
		社会倫理学	2	
		社会教育学	2	
		社会・地歴科教育法Ⅰ	2	
		社会・地歴科教育法Ⅱ	2	
		社会・公民科教育法Ⅰ	2	
		社会・公民科教育法Ⅱ	2	

別表 Ⅲの1

人間生活学部 人間生活学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	人間福祉学概論	2		
	経営経済学概論	2		
	生活環境学概論	2		
	人間生活学基礎研究Ⅰ	2		
	人間生活学基礎研究Ⅱ	2		
専攻科目	人間生活学演習ⅠA	2		
	人間生活学演習ⅠB	2		
	人間生活学演習ⅡA	2		
	人間生活学演習ⅡB	2		
	社会福祉学Ⅰ	2		
	高齢者福祉論Ⅰ	2		
	障害者福祉論	2		
	生活経営学	2		
	被服学Ⅰ	2		
	調理学	2		
	人間福祉学	人間関係学Ⅰ	2	職業指導を含む
		人間関係学Ⅱ	2	
		家族関係学	2	
		女性学	2	
		社会倫理学	2	
	家族社会学	2		
	地域社会学	2		
	社会福祉学Ⅱ	2		
	高齢者福祉論Ⅱ	2		
	児童福祉論	2		
	児童の生活と福祉	2		
	社会保障論Ⅰ	2		
	社会保障論Ⅱ	2		
	公的扶助論	2		
	地域福祉論Ⅰ	2		
	地域福祉論Ⅱ	2		
	社会調査の基礎	2		
	福祉行財政と福祉計画	2		
	社会福祉経営	2		
	保健医療サービス	2		
	就労支援サービス	1		
	更生保護制度	1		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅲ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅳ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅴ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅵ	2		
	社会福祉演習Ⅰ	2		
	社会福祉演習Ⅱ	2		
	社会福祉演習Ⅲ	2		
	社会福祉演習Ⅳ	2		
	社会福祉演習Ⅴ	2		
	相談援助実習	4		
	相談援助実習指導	3		
	介護理論及び介護技術	2		
	社会福祉総合実習	2	社会福祉施設における介護実習を含む	

科目区分	授業科目	履修単位	備考		
専攻科目	こころとからだの理解Ⅰ	2			
	こころとからだの理解Ⅱ	2			
	福祉科教育法Ⅰ	2			
	福祉科教育法Ⅱ	2			
	経営経済学	現代経営学	2		
		生活経済学	2		
		現代経済学	2		
		ミクロ経済学	2		
		マクロ経済学	2		
		環境資源経済学	2		
		国際経済学	2		
		食経営論	2		
		食政策論	2		
		メディア戦略論	2		
		メディア産業論	2		
		消費生活論	2		
		広告論	2		
		広告デザイン演習	2		
		マーケティングコミュニケーション論	2		
		マーケティング論Ⅰ	2		
		マーケティング論Ⅱ	2		
		マーケティングリサーチ論	2		
		応用マーケティング論	2		
		ブランド論	2		
		情報技術論	2		
		生活情報処理	2		
		ビジネス情報処理Ⅰ	2		
		ビジネス情報処理Ⅱ	2		
		ビジネスマナー	2		
		インターンシップ実践Ⅰ	2		
		インターンシップ実践Ⅱ	2		
		生活環境学	被服学Ⅱ	2	
			衣料学	2	
		被服実習基礎Ⅰ	1		
		被服実習基礎Ⅱ	1		
		被服実習発展Ⅰ	1		
		被服実習発展Ⅱ	1		
		被服実習発展Ⅲ	1		
		調理実習基礎Ⅰ	1		
		調理実習基礎Ⅱ	1		
		調理実習発展Ⅰ	1		
		調理実習発展Ⅱ	1		
		栄養学	2		
		食品学	2		
		生活環境学Ⅰ	2		
		生活環境学Ⅱ	2		
		環境デザイン論	2		
		住居学	2		
		住居計画学Ⅰ	1	製図を含む	
		住居計画学Ⅱ	1	製図を含む	
		住環境学	2		
		食生活論	2		
		比較食文化論	2		
		家庭看護学	2		
		保育学	2	実習を含む	

	科目区分	授業科目	履修単位	備考
専攻科目		家庭機械及び家庭電気	2	
		家庭科教育法Ⅰ	2	
		家庭科教育法Ⅱ	2	
		卒業論文	6	

別表 Ⅲの2

人間生活学部 児童学科 学科科目

科目区分	授 業 科 目	履修単位	備 考
基礎科目	総合演習Ⅰ	2	
	総合演習Ⅱ	2	
	心理学概論	2	
	特別支援教育基礎論	2	
	教育原理	2	
	児童文化論Ⅰ	2	
	音楽基礎	2	
	美術基礎	2	
専攻科目	児童学演習Ⅰ	2	
	児童学演習Ⅱ	2	
	心理学実験演習Ⅰ	2	
	心理学実験演習Ⅱ	2	
	心理教育統計	2	
	言語心理学	2	
	基礎心理学特講	2	
	児童臨床心理学（心理学的支援法）	2	
	福祉心理学	2	
	社会心理学	2	
	心理学特講Ⅰ	2	
	心理学特講Ⅱ	2	
	子どもの観察研究法	2	
	小児の健全育成	2	
	小児医学	2	
	児童福祉学	2	
	社会福祉学	2	
	児童教育学特講Ⅰ	2	
	児童教育学特講Ⅱ	2	
	児童教育学特講Ⅲ	2	
	児童文化論Ⅱ	2	
	児童文化論Ⅲ	2	
	児童文学	2	
	ピアノ演習Ⅰ	2	
	ピアノ演習Ⅱ	2	
	声楽演習Ⅰ	2	
	声楽演習Ⅱ	2	
	絵画Ⅰ	1	
	絵画Ⅱ	1	
	絵画Ⅲ	1	
	表現と鑑賞の美術	1	
	彫塑	1	
	子どもと健康	1	
	子どもと人間関係	1	
	子どもと環境	1	
	子どもと言葉	1	
子どもと表現	2		
国語Ⅰ	2	書写を含む	
国語Ⅱ	2		
書道	2		
社会	2		
算数	2		
理科	2		
生活	2		
音楽Ⅰ	2		
音楽Ⅱ	2		

科目区分	授業科目	履修単位	備考
	音楽Ⅲ	2	
	音楽Ⅳ	2	
	造形Ⅰ	2	
	造形Ⅱ	2	
	家庭	2	
	体育	2	
	小学校英語	2	
	教職基礎論	2	
	教育思想史	2	
	教育・学校心理学	2	
	発達心理学Ⅰ	2	
	発達心理学Ⅱ	2	
	青少年問題	2	
	学校経営論	2	
	教育法規	2	
	家庭教育	2	
	特別支援教育の視点と教科指導	2	
	教育課程論	2	
	国語科指導法	2	
	社会科指導法	2	
	算数科指導法	2	
	理科指導法	2	
	生活科指導法	2	
	音楽科指導法	2	
	図画工作科指導法	2	
	家庭科指導法	2	
	体育科指導法	2	
	小学校英語科指導法	2	
	道徳教育の理論と方法	2	
	総合的な学習の時間の指導法	2	
	特別活動の指導法	2	
	教育方法論	2	
	教科指導とICT	1	
	教育課程の理論と方法	2	
	健康の指導法	2	
	人間関係の指導法	2	
	環境の指導法	2	
	言葉の指導法	2	
	音楽表現の指導法	2	
	造形表現の指導法	2	
	身体表現の指導法	2	
	指導法の理論と方法	2	
	生徒指導の理論と方法	2	
	教育相談及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	2	
	幼児理解及び教育相談の理論と方法	2	カウンセリングを含む
	初等教育実習事前事後指導	1	
	初等教育実習	4	
	教職実践演習(幼・小)	2	
	特別支援教育総論	2	
	知的障害児の心理・生理・病理	2	
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	
	病弱児の心理・生理・病理	2	
	知的障害児教育	2	
	肢体不自由児教育	2	
	病弱児教育	2	
	知的障害児教育総論	2	

科目 区分	授 業 科 目	履修単位	備 考
	肢体不自由児教育総論	2	
	重複障害児教育総論	1	
	視覚障害児教育総論	1	
	聴覚障害児教育総論	1	
	LD児等教育総論	2	
	特別支援教育実習事前事後指導	1	
	特別支援教育実習	2	
	保育原理	2	
	子ども家庭支援論	2	
	社会的養護Ⅰ	2	
	社会的養護Ⅱ	1	
	保育者論	2	
	子どもの理解と援助	1	
	子どもの保健演習	1	
	子どもの食と栄養	2	
	保育内容総論	1	
	乳児保育Ⅰ	2	
	乳児保育Ⅱ	1	
	障害児保育	2	
	子育て支援	1	
	保育実習指導Ⅰ	2	
	保育実習指導Ⅱ	1	
	保育実習指導Ⅲ	1	
	保育実習Ⅰ	4	
	保育実習Ⅱ	2	
	保育実習Ⅲ	2	
	モンテッソーリ教育理論	2	
	モンテッソーリ教育実習Ⅰ	2	
	モンテッソーリ教育実習Ⅱ	2	
	保育・教育基礎実習	1	
	保育・教育インターンシップ	1	
	インクルーシブインターンシップ	1	
	卒業論文	6	

別表 Ⅲの3

人間生活学部 食品栄養学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	基礎化学	2	
	栄養学基礎演習	2	
	栄養学応用演習Ⅰ	2	
	栄養学応用演習Ⅱ	2	
専攻科目	公衆衛生学	2	
	社会福祉概論	2	
	健康情報管理論	2	
	健康情報管理論実習	1	
	解剖生理学Ⅰ	2	
	解剖生理学Ⅱ	2	
	解剖生理学Ⅲ	2	
	解剖生理学実験Ⅰ	1	
	解剖生理学実験Ⅱ	1	
	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	生化学実験	1	
	病理学	2	
	臨床医学Ⅰ	2	
	臨床医学Ⅱ	2	
	臨床情報管理実習	1	
	微生物学	2	
	生体防御論	2	
	生体防御論実験	1	
	食品学Ⅰ	2	
	食品学Ⅱ	2	
	食品学実験	1	
	食品衛生学Ⅰ	2	
	食品衛生学Ⅱ	2	
	食品衛生学実験	1	
	調理学	2	
	調理学実習Ⅰ	1	
	調理学実習Ⅱ	1	
	管理栄養士論	2	
	基礎栄養学	2	
	基礎栄養学実習	1	
	応用栄養学Ⅰ	2	
	応用栄養学Ⅱ	2	
	応用栄養学Ⅲ	2	
	応用栄養学実習	1	
	栄養教育論Ⅰ	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	
	栄養教育論Ⅲ	2	
	栄養教育論実習	1	
	臨床栄養学Ⅰ	2	
臨床栄養学Ⅱ	2		
臨床栄養学Ⅲ	2		
臨床栄養学Ⅳ	2		
臨床栄養学実習Ⅰ	1		
臨床栄養学実習Ⅱ	1		
臨床栄養学実習Ⅲ	1		
公衆栄養学Ⅰ	2		
公衆栄養学Ⅱ	2		
公衆栄養学実習	1		
給食経営管理論Ⅰ	2		

科目 区分	授 業 科 目	履修単位	備 考
	給食経営管理論Ⅱ	2	
	給食経営管理論実習Ⅰ	1	
	給食経営管理論実習Ⅱ	1	
	臨地実習事前事後指導Ⅰ	1	
	臨地実習事前事後指導Ⅱ	1	
	臨地実習事前事後指導Ⅲ	1	
	臨地実習事前事後指導Ⅳ	1	
	栄養学総合演習	1	
	臨地実習Ⅰ	2	校外実習
	臨地実習Ⅱ	1	校外実習
	臨地実習Ⅲ	1	校外実習
	臨地実習Ⅳ	1	校外実習
	臨地実習Ⅴ	1	校外実習
	臨地実習Ⅵ	1	校外実習
	臨地実習Ⅶ	1	校外実習
	健康の保持・増進Ⅰ	2	
	健康の保持・増進Ⅱ	2	
	健康の保持・増進Ⅲ	2	
	健康の保持・増進Ⅳ	2	
	健康の保持・増進Ⅴ	2	
	健康の保持・増進Ⅵ	2	
	学校栄養教育論Ⅰ	2	
	学校栄養教育論Ⅱ	2	
	卒業論文	6	

別表 IV

キリスト教文化研究所開講科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
キリスト教文化研究所 開講科目	キリスト教思想特講Ⅰ	2	
	キリスト教思想特講Ⅱ	2	
	キリスト教文化特講Ⅰ	2	
	キリスト教文化特講Ⅱ	2	
	キリスト教文学特講Ⅰ	2	
	キリスト教文学特講Ⅱ	2	
	キリスト教文学演習Ⅰ	2	
	キリスト教文学演習Ⅱ	2	

別表 V

教職に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
教職に関する科目	教職基礎	2	
	教育原理	2	
	教育心理学	2	
	発達心理学	2	
	学校経営論	2	
	特別支援教育基礎論	2	
	教育課程論	2	
	英語科指導法演習Ⅰ	2	
	英語科指導法演習Ⅱ	2	
	国語科指導法演習Ⅰ	2	
	国語科指導法演習Ⅱ	2	
	社会科指導法演習Ⅰ	2	
	社会科指導法演習Ⅱ	2	
	家庭科指導法演習Ⅰ	2	
	家庭科指導法演習Ⅱ	2	
	道德教育の理論と方法	2	
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	
	教育方法論	2	
	生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	2	
	生徒指導論	2	
	教育相談	2	
	中等教育実習事前事後指導	1	
	中等教育実習Ⅰ	4	
	中等教育実習Ⅱ	2	
	栄養教育実習事前事後指導	1	
	栄養教育実習	1	
	教職実践演習(中・高)	2	
	教職実践演習(栄養教諭)	2	
	介護等体験の理論	1	
	介護等体験の実践	1	
	教職特講Ⅰ	2	
	教職特講Ⅱ	2	
	教職特講Ⅲ	2	

別表 VI

学校図書館司書教諭に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
学校図書館司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2	
	学校図書館メディアの構成	2	
	学習指導と学校図書館	2	
	読書と豊かな人間性	2	
	情報メディアの活用	2	

別表 VIの2

図書館に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
図書館に関する科目	図書館概論	2	
	図書館制度・経営論	2	
	図書館情報技術論	2	
	図書館サービス概論	2	
	情報サービス論	2	
	児童サービス論	2	
	情報サービス演習Ⅰ	1	
	情報サービス演習Ⅱ	1	
	図書館情報資源概論	2	
	情報資源組織論	2	
	情報資源組織演習Ⅰ	1	
	情報資源組織演習Ⅱ	1	
	図書館サービス特論	2	
	図書・図書館史	2	
	図書館施設論	2	

別表 VII

社会教育に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	2	
	生涯学習概論Ⅱ	2	
	生涯学習支援論Ⅰ	2	
	生涯学習支援論Ⅱ	2	
	社会教育経営論Ⅰ	2	
	社会教育経営論Ⅱ	2	
	社会教育実践演習	4	実習1単位を含む
	地域創生論	2	

別表 VIII
博物館に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
博物館に関する科目	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	
	博物館情報・メディア論	2	
	博物館教育論	2	
	博物館実習	3	

別表 IX
日本語教員養成課程に関する科目

科目名	授業科目	履修単位	備考
日本語教員養成課程に関する科目	日本語教授法Ⅰ	4	
	日本語教授法Ⅱ	4	
	日本語教授法Ⅲ	2	
	日本語教育実習	1	

別表 X

学費の額

学費の種類	学部学生	聴講生	科目等履修生	研究生
入学金	200,000			
登録料			50,000	50,000
授業料	710,000			
施設・設備費	200,000			
聴講料		10,000		
受講料			17,000	
研究費				250,000

- 1 入学検定料は、30,000円とし、聴講生、科目等履修生及び研究生の検定料は、20,000円とする。
- 2 聴講料及び受講料は、1単位についての額を示す。
- 3 教育充実費その他の納入金については、別に定める。

(2) 学則の変更事項

全学共通科目

キリスト教科目及び教養科目の充実

文学部英語英文学科

学科科目の整備

文学部日本語日本文学科

専門分野の枠を越えた新科目「総合探究」の新設及び学科科目の整備

文学部現代社会学科

学科科目の整備

人間生活学部人間生活学科

新たに経営経済学履修コースを設け3コース制

経営経済学履修コースの新設に伴い、新たに授業科目を新設

科目の整備

人間生活学部児童学科

教職に係る科目の比率を上げるうえでの整理

免許法の移行措置期間であり、2022年度までに整備を求められている科目の前倒し

近年の動向に合わせた先進的科目を開設

I 改正内容

新				旧				
第1章 目的 第1条 } 略 附則 } 附則 } 1 本学則の改正は、令和3年4月1日から施行する。 2 本学則の施行前に在学する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Iに規定する授業科目「キリスト教学XIV」、「キリスト教学XV」、「キリスト教学XVI」、「法律学I」、「法律学II」、「キャリアデザイン基礎」及び「キャリアデザイン発展」については、令和2年度以前の入学生についてもこれを適用する。 別表1 } 略 別表2 } 別表 I 全学共通科目				第1章 目的 第1条 } 同左 附則 } 附則 } 別表1 } 同左 別表2 } 別表 I 全学共通科目				
科目区分	授業科目	履修単位	備考	科目区分	授業科目	履修単位	備考	
キリスト教科目	人間論 } 略	2		キリスト教科目	人間論 } 同左	2		
	キリスト教学XIII	2			キリスト教学XIII	2		
	キリスト教学XIV	2						
	キリスト教学XV	2						
	キリスト教学XVI	2						
教養科目	哲学I } 略	2		教養科目	哲学I } 同左	2		
	歴史学IV	2			歴史学IV	2		
					歴史学V	2		
					歴史学VI	2		
	日本国憲法I	2			日本国憲法I	2		
	日本国憲法II	2			日本国憲法II	2		
	法律学I	2						
	法律学II	2						
	社会学	2			社会学	2		
	心理学III (健康・医療心理学)	2			心理学III (健康・医療心理学)	2		
	情報学I	2						
	情報学II	2						
数学I } 略	2		数学I } 同左	2				
医学II	2		医学II	2				
外国語科目	略	略		外国語科目	同左	同左		
健康科目	略	略		健康科目	同左	同左		
自立力育成科目	わたしたちの社会と経済 } 略	2		自立力育成科目	わたしたちの社会と経済 } 同左	2		
	ことばと社会	2			ことばと社会	2		
	キャリアデザイン基礎	2						
	キャリアデザイン発展	2						
	ボランティア実践I } 略	2			ボランティア実践I } 同左	2		
	日本語表現VI	2			日本語表現VI	2		
					人間存在を考えるI	2		
					人間存在を考えるII	2		
	アジアと平和を考える } 略	2			アジアと平和を考える } 同左	2		
	女性の自立を考える	2			女性の自立を考える	2		
			眠りを考える	2				
共生と文化を考える } 略	2		共生と文化を考える } 同左	2				
自立力育成ゼミVIII	2		自立力育成ゼミVIII	2				
情報科目				情報科目	情報科学I	4		
					情報科学II	2		
					情報科学III	2		
	情報メディア演習	2			情報メディア演習	2		

別表 IIの1

文学部 英語英文学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	略	略	
専攻科目	英米文学	略	略
		英米文学講読 I	2
		英米文学講読 II	2
		略	略
	英語学	略	略
		英語学講読 I	2
		英語学講読 II	2
	国際コミュニケーション	略	略
		略	略
	発展英語	略	略
English Writing I		2	
English Writing II		2	
English Writing III		2	
English Writing IV		2	
異文化理解	略	略	
	卒業論文	略	
学 科 関連科目	略	略	
	略	略	
	比較文学概論 I	2	
	比較文学概論 II	2	
	略	略	
	略	略	
	略	略	
	略	略	
	実験音声学 I	2	
	実験音声学 II	2	
英語科教育法 I	2		
英語科教育法 II	2		

別表 IIの1

文学部 英語英文学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	同左	同左	
専攻科目	英米文学	同左	同左
		英米文学講読 I	2
		英米文学講読 II	2
		英米文学講読 III	2
	英米文学講読 IV	2	
	英語学	同左	同左
		英語学講読 I	2
		英語学講読 II	2
		英語学講読 III	2
		英語学講読 IV	2
国際コミュニケーション	同左	同左	
発展英語	同左	同左	
	English Writing I	2	
	English Writing II	2	
	English Writing III	2	
	English Writing IV	2	
	English Writing V	2	
English Writing VI	2		
異文化理解	同左	同左	
	同左	同左	
学 科 関連科目	言語学概論 I	2	
	言語学概論 II	2	
	比較文学概論 I	2	
	比較文学概論 II	2	
	聖書文学概論 I	2	
	聖書文学概論 II	2	
	ドイツ文学史 I	2	
	ドイツ文学史 II	2	
	フランス文学史 I	2	
	フランス文学史 II	2	
実験音声学 I	2		
実験音声学 II	2		
英語科教育法 I	2		
英語科教育法 II	2		

別表 IIの2

文学部 日本語日本文学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	略	略		
専攻科目	日本文学	略		
	日本語学	略		
	言語文化	略		
		総合探究Ⅰ	2	
		総合探究Ⅱ	2	
		卒業論文	略	
学 科 関連科目	略	略		

別表 IIの3

文学部 現代社会学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	略	略		
専攻科目	現代社会学	略		
	社会史	略		
	共通	略		
		略	略	
		略	略	
	学 科 関連科目	経済学基礎 社会倫理学	略 2	
		社会教育学	略	
	略	略		

別表 IIの2

文学部 日本語日本文学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	同左	同左		
専攻科目	日本文学	同左		
	日本語学	同左		
	言語文化	同左		
			—	
			—	
		卒業論文	同左	
学 科 関連科目	同左	同左		

別表 IIの3

文学部 現代社会学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	同左	同左		
専攻科目	現代社会学	同左		
	社会史	同左		
	共通	同左		
		同左	同左	
		同左	同左	
	学 科 関連科目	社会倫理学Ⅰ 社会倫理学Ⅱ	同左 2	
			同左	同左
	同左	同左		

別表 Ⅲの1

人間生活学部 人間生活学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考	
基礎科目	人間福祉学概論	2		
	経営経済学概論	2		
	生活環境学概論	2		
	人間生活学基礎研究Ⅰ	2		
	人間生活学基礎研究Ⅱ	2		
	人間生活学演習ⅠA	2		
人間生活学演習ⅠB	人間生活学演習ⅠB	2		
	人間生活学演習ⅡA	2		
	人間生活学演習ⅡB	2		
	社会福祉学Ⅰ	2		
	高齢者福祉論Ⅰ	2		
	障害者福祉論	2		
	生活経営学	2		
	被服学Ⅰ	2		
	調理学	2		
	人間関係学Ⅰ	人間関係学Ⅰ	2	
		人間関係学Ⅱ	2	
家族関係学		2		
女性学		2		
社会倫理学		2		
家族社会学		2		
地域社会学		2		
社会福祉学Ⅱ		2	職業指導を含む	
高齢者福祉論Ⅱ		2		
児童福祉論		2		
児童の生活と福祉		2		
人間福祉学	社会保障論Ⅰ	2		
	社会保障論Ⅱ	2		
	公的扶助論	2		
	地域福祉論Ⅰ	2		
	地域福祉論Ⅱ	2		
	社会調査の基礎	2		
	福祉行財政と福祉計画	2		
	社会福祉経営	2		
	保健医療サービス	2		
	就労支援サービス	1		
	更生保護制度	1		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅲ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅳ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅴ	2		
	社会福祉援助技術論Ⅵ	2		
	社会福祉演習Ⅰ	2		
	社会福祉演習Ⅱ	2		
	社会福祉演習Ⅲ	2		
	社会福祉演習Ⅳ	2		
	社会福祉演習Ⅴ	2		
	相談援助実習	4		
相談援助実習指導	3			
介護理論及び介護技術	2			
社会福祉総合実習	2	社会福祉施設における介護実習を含む		
こころとからだの理解Ⅰ	2			
こころとからだの理解Ⅱ	2			
福祉科教育法Ⅰ	2			
福祉科教育法Ⅱ	2			

別表 Ⅲの1

人間生活学部 人間生活学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	人間生活学概論Ⅰ	2	
	人間生活学概論Ⅱ	2	
	人間生活学基礎研究	4	
	人間生活学演習ⅠA	2	
	人間生活学演習ⅠB	2	
	人間生活学演習Ⅱ	4	
人間関係学Ⅰ	人間関係学Ⅰ	2	
	人間関係学Ⅱ	2	
	女性学Ⅰ	2	
	女性学Ⅱ	2	
	社会倫理学Ⅰ	2	
	社会倫理学Ⅱ	2	
	行政法	2	
	民法Ⅰ	2	
	民法Ⅱ	2	
	社会法	2	
	家族社会学	2	
地域社会学	地域社会学	2	
	社会福祉学Ⅰ	2	
	社会福祉学Ⅱ	2	職業指導を含む
	高齢者福祉論Ⅰ	2	
	高齢者福祉論Ⅱ	2	
	児童福祉論	2	
	児童の生活と福祉	2	
	障害者福祉論	2	
	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
	公的扶助論	2	
社会福祉学	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
	社会調査の基礎	2	
	福祉行財政と福祉計画	2	
	社会福祉経営	2	
	保健医療サービス	2	
	就労支援サービス	1	
	更生保護制度	1	
	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	
	社会福祉援助技術論Ⅲ	2	
社会福祉援助技術論Ⅳ	2		
社会福祉援助技術論Ⅴ	2		
社会福祉援助技術論Ⅵ	2		
社会福祉演習Ⅰ	2		
社会福祉演習Ⅱ	2		
社会福祉演習Ⅲ	2		
社会福祉演習Ⅳ	2		
社会福祉演習Ⅴ	2		
相談援助実習	4		
相談援助実習指導	3		
介護理論及び介護技術	2		
社会福祉総合実習	2	社会福祉施設における介護実習を含む	
こころとからだの理解Ⅰ	2		
こころとからだの理解Ⅱ	2		
福祉科教育法Ⅰ	2		
福祉科教育法Ⅱ	2		

攻 科 目	経 営 経 済 学	現代経営学	2	
		生活経済学	2	
攻 科 目	生 活 環 境 学	現代経営学	2	
		現代経済学	2	
		ミクロ経済学	2	
		マクロ経済学	2	
		環境資源経済学	2	
		国際経済学	2	
		食経営論	2	
		食政策論	2	
		メディア戦略論	2	
		メディア産業論	2	
		消費生活論	2	
		広告論	2	
		広告デザイン演習	2	
		マーケティングコミュニケーション論	2	
		マーケティング論Ⅰ	2	
		マーケティング論Ⅱ	2	
		マーケティングリサーチ論	2	
		応用マーケティング論	2	
		ブランド論	2	
		情報技術論	2	
		生活情報処理	2	
		ビジネス情報処理Ⅰ	2	
		ビジネス情報処理Ⅱ	2	
		ビジネスマナー	2	
		インターンシップ実践Ⅰ	2	
		インターンシップ実践Ⅱ	2	
		被服学Ⅱ	2	
		衣料学	2	
		被服実習基礎Ⅰ	1	
		被服実習基礎Ⅱ	1	
		被服実習発展Ⅰ	1	
		被服実習発展Ⅱ	1	
		被服実習発展Ⅲ	1	
		調理実習基礎Ⅰ	1	
		調理実習基礎Ⅱ	1	
		調理実習発展Ⅰ	1	
		調理実習発展Ⅱ	1	
		栄養学	2	
		食品学	2	
		生活環境学Ⅰ	2	
		生活環境学Ⅱ	2	
		環境デザイン論	2	
		住居学	2	
		住居計画学Ⅰ	1	製図を含む
		住居計画学Ⅱ	1	製図を含む
		住環境学	2	
		食生活論	2	
		比較食文化論	2	
		家庭看護学	2	
		保育学	2	実習を含む
		家庭機械及び家庭電気	2	
		家庭科教育法Ⅰ	2	
		家庭科教育法Ⅱ	2	
		卒業論文	6	

攻 科 目	生活経営学	生活経営学	2	
		現代経営学	2	
攻 科 目	生活経営学特講	生活経営学特講	2	
		家族関係学	2	
		生活経済学	2	
		現代経済学	2	
		メディア戦略論	2	
		消費者商品学	2	
		広告論	2	
		マーケティングコミュニケーション論	2	
		被服学Ⅰ	2	
		被服学Ⅱ	2	
		衣料学	2	
		被服構成及び実習Ⅰ	2	
		被服構成及び実習Ⅱ	2	
		被服構成及び実習Ⅲ	2	
		調理学	2	
		調理実習Ⅰ	2	
		調理実習Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		食品学	2	
		生活環境学Ⅰ	2	
		生活環境学Ⅱ	2	
		生活環境学特講	2	
		環境デザイン論	2	
		住居学	2	
		住居計画学	2	製図を含む
		住環境学	2	
		食生活論	2	
		食経営論	2	
		食政策論	2	
		比較食文化論	2	
		家庭看護学	2	
		保育学	2	実習を含む
		家庭機械及び家庭電気	2	
		生活情報処理	2	
		家庭科教育法Ⅰ	2	
		家庭科教育法Ⅱ	2	
		卒業論文	6	

別表 IIIの2

人間生活学部 児童学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	略	略	
	心理学概論	2	
	特別支援教育基礎論	2	
	教育原理	2	
	略	略	
専攻科目	略	略	
	子どもの観察研究法	2	
	小児の健全育成	2	
	小児医学	2	
	児童福祉学	2	
	略	略	
	声楽演習Ⅱ	2	
	絵画Ⅰ	1	
	絵画Ⅱ	1	
	絵画Ⅲ	1	
	表現と鑑賞の美術	1	
	彫塑	1	
	子どもと健康	1	
	子どもと人間関係	1	
	子どもと環境	1	
	子どもと言葉	1	
	子どもと表現	2	
	国語Ⅰ	2	書写を含む
	略	略	
	音楽Ⅲ	2	
	音楽Ⅳ	2	
	造形Ⅰ	2	
	略	略	
	家庭教育	2	
	特別支援教育の視点と教科指導	2	
	教育課程論	2	
	略	略	
	教育方法論	2	
	教科指導とICT	1	
	教育課程の理論と方法	2	
略	略		
モンテッソーリ教育実習Ⅱ	2		
保育・教育基礎実習	1		
保育・教育インターンシップ	1		
インクルーシブインターンシップ	1		
卒業論文	6		

別表 IIIの2

人間生活学部 児童学科 学科科目

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	同左	同左	
	心理学概論	2	
	小児の健全育成	2	
	教育原理	2	
	同左	同左	
専攻科目	同左	同左	
	子どもの観察研究法	2	
	小児医学	2	
	小児精神医学概論	2	
	小児精神医学各論	2	
	児童福祉学	2	
	同左	同左	
	声楽演習Ⅱ	2	
	作曲演習Ⅰ	2	
	作曲演習Ⅱ	2	
	音楽特別演習Ⅰ	2	
	音楽特別演習Ⅱ	2	
	絵画Ⅰ	1	
	絵画Ⅱ	1	
	絵画Ⅲ	1	
	絵画Ⅳ	1	
	絵画Ⅴ	1	
	彫塑Ⅰ	1	
	彫塑Ⅱ	1	
	国語Ⅰ	2	書写を含む
	同左	同左	
	音楽Ⅲ	2	
	造形Ⅰ	2	
	同左	同左	
	家庭教育	2	
	特別支援教育基礎論	2	
	教育課程論	2	
	同左	同左	
	教育方法論	2	
	教育課程の理論と方法	2	
同左	同左		
モンテッソーリ教育実習Ⅱ	2		
保育・教育基礎実習Ⅰ	1		
保育・教育基礎実習Ⅱ	1		
保育・教育インターンシップⅠ	1		
保育・教育インターンシップⅡ	1		
同左	同左		

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

ノートルダム清心女子大学は、令和 3 年度から入学定員及び収容定員を下表のとおり変更する。

学部	学科	変更前(令和 2 年度)		変更後(令和 3 年度)	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部	英語英文学科	80	320	90	360
	日本語日本文学科	60	240	70	280
	現代社会学科	60	240	70	280
人間生活学部	人間生活学科	70	280	80	320
	児童学科	120	480	130	520
	食品栄養学科	80	320	80	320
大学計		470	1,880	520	2,080

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 本学の概要

ア. 本学の歴史

ノートルダム清心女子大学（以下「本学」という。）は、1886 年に開設された岡山市の私立女学校を始まりとし、1949 年に中四国初の 4 年制女子大学の一つとして創立され、60 年代以降の学部・学科の増設等量的・質的な拡大、80 年代の海外ボランティア活動、留学プログラムの充実などの国際化対応、さらには、現在の地域社会との連携、SDG s 推進の取り組みなど、建学の精神に基づいた教育研究を推し進め、広い教養と高い倫理性と国際性、社会貢献の精神をもち、男女共同参画社会の道を切り拓く女性を多く輩出し、社会からの期待に応えてきた。現在は、2 学部 6 学科、大学院 2 研究科を有する女子高等教育機関として、地域社会の発展に尽力している。

イ. 本学の教育理念

本学の教育理念の中心は「キリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育」であり、本学の経営母体であるノートルダム清心学園の設立母体で、1804 年にフランスで創設されたナミュール・ノートルダム修道女会の設立理念に直截に依拠している。

修道女会の創立者である聖ジュリー・ビリアートは、聖母マリアを守護者と仰ぎ、フランス革命直後の混乱期にあつて教育の機会に恵まれなかった子女への教育を通じて、宗

教心の建て直しと生活に必要な知識・技能を伝える活動を行った。その教育理念の根幹は、教育を全ての人に施される人権と理解し、他者及び社会との交わりによって得られる全人的な発達の過程と捉える全人教育にあった。その理念を受け継いだノートルダム修道女会（SNDdeN）は世界各地での教育の普及をはじめ、国連公認 NGO として女性のエンパワーメントや貧困に生きる人々の支持・支援、平和構築といった世界規模での社会課題の解決に取り組み、国連における「誰ひとりとして取り残さない」という精神の下での SDGs の制定、推進にも貢献してきている。

そうした精神と通底する本学の教育理念は、修道女会の設立趣旨に基づき、次の 3 点を志向する。(Ⅰ) 社会と、世界に開かれた大学。(Ⅱ) 時のしるしをよみとりながらも、時代の流れにおしながされることなく、人びとが真に求めるものにまなざしを向け、人びとに奉仕する大学。(Ⅲ) 各自が謙虚におのれを恃し、愛の心をもって人格の独自性を認め合い、その可能性を信頼することで培われる、宗教的情操を重んじる大学。

こうした理念の下に、本学のキリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育は、「真・善・美」の追求といういつの時代にも変わらない普遍的な学問追究と教育実践によって、一人ひとりの人格価値を何より尊重し、自ら思考し、判断し、行動し、その責任を取ることのできる真の自由人の育成をめざし、専門性に加えて、高い外国語能力と多文化理解力による国際性及び幅広い教養と高い倫理性を保持し、置かれた場でリーダーシップを発揮し、グローバルな視野で思考しつつ必要に応じて身近な視点で行動できる「グローバル」な力をもつことで、社会、地域の課題の解決に貢献できる女性の育成を使命としている。

この教育は、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」の中で示された「21 世紀型市民」即ち「予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野についての専門性を有するだけではなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材」の育成に直結する教育である。「Society5.0」の到来において「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」（内閣府）が期待される折、本学のリベラル・アーツ教育による真の自由人の育成の使命は、今後ますますその重要性を増すものであり、本学はその社会の要請に応えてゆかなければならない。

(2) 本学のさまざまな実績

ア. 安定した志願倍率と定員充足率

本学は 1949 年の開学以来地域から選ばれる大学として 27,400 人以上の卒業生を輩出し、社会から高い評価を得ており、その結果、今回定員増を申請する 5 学科いずれも安定した志願倍率と定員充足率を保っている。

▶過去5年の志願倍率と定員充足率

			平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
文学部	英語英文学科	志願倍率	4.5	5.4	5.0	4.4	5.2
		定員充足率	1.06	1.12	1.27	1.35	1.10
	日本語日本文学科	志願倍率	4.4	5.9	5.2	5.4	4.0
		定員充足率	1.16	0.93	1.15	1.35	1.35
	現代社会学科	志願倍率	5.7	7.3	7.0	5.8	5.4
		定員充足率	1.28	1.02	1.58	1.15	1.26
人間生活学部	人間生活学科	志願倍率	4.0	5.7	6.2	4.2	4.6
		定員充足率	1.15	1.08	1.27	1.25	1.28
	児童学科	志願倍率	3.9	5.4	5.7	4.6	5.0
		定員充足率	1.06	1.14	1.32	1.22	1.25

また、高校2年生を対象としたアンケート調査も、定員増後も引き続き本学が安定的な志願者を確保できることを実証している。アンケート調査の分析の一つである、ノートルダム清心女子大学「文学部」または「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、ノートルダム清心女子大学を受験して合格したら、第一希望で入学したい学部・学科の結果は、以下の通りであり、第一希望で入学したいと答えた高校2年生はどの学科も新定員を上回っている。

文学部 英語英文学科	: 216人	…	新定員90人
文学部 日本語日本文学科	: 149人	…	新定員70人
文学部 現代社会学科	: 125人	…	新定員70人
人間生活学部 人間生活学科	: 145人	…	新定員80人
人間生活学部 児童学科	: 236人	…	新定員130人

イ. オープンキャンパスの参加状況

上記志願者数を傍証するものであるが、本学で開催されるオープンキャンパス来場者数も安定的に確保できており受験生からの期待の高さを表している。

▶オープンキャンパスの来場者数（人）

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
生徒	1,443	1,652	1,643	1,596	1,265
保護者	560	745	685	539	555
計	2,003	2,397	2,328	2,135	1,820

ウ. 社会からの高い評価 -全国トップクラスの就職率-

社会からの本学への評価ともいえる就職率であるが、5学科とも全国トップクラスの就職率を維持しており、卒業生の社会からの評価はゆるぎないものとなっている。

【資料1「2018年度学科別就職データ」】

▶本学過去5年の就職率(%)

		平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
文学部	英語英文学科	100.0	99.0	99.0	98.7	98.5
	日本語日本文学科	95.6	100.0	100.0	100.0	98.5
	現代社会学科	98.6	100.0	97.3	100.0	100.0
人間生活学部	人間生活学科	100.0	100.0	98.7	98.8	100.0
	児童学科	99.3	100.0	100.0	100.0	98.6

エ. 建学の精神に基づいた学生支援 -低い退学率と高い満足度-

① 低い退学率

本学は、キリスト教精神に基づき教育・研究をとおして真の自由人を育成するという建学の精神に基づいた学生支援体制を構築し、なかでも、退学率の低さは本学の特徴の一つである「一人ひとりを大切にする大学」の名を体現したものとなっている。

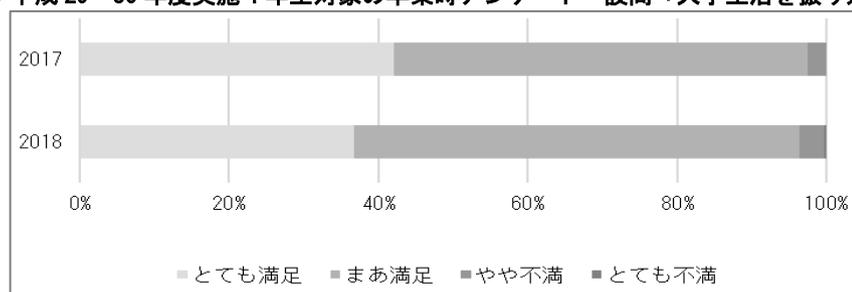
▶本学過去5年入学から卒業までの退学率(%)

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
文学部	3.3	2.0	3.7	1.4	3.2
人間生活学部	1.2	2.6	2.1	1.2	1.2
計	2.1	2.3	2.8	1.3	2.1

② 卒業生からの高い満足度

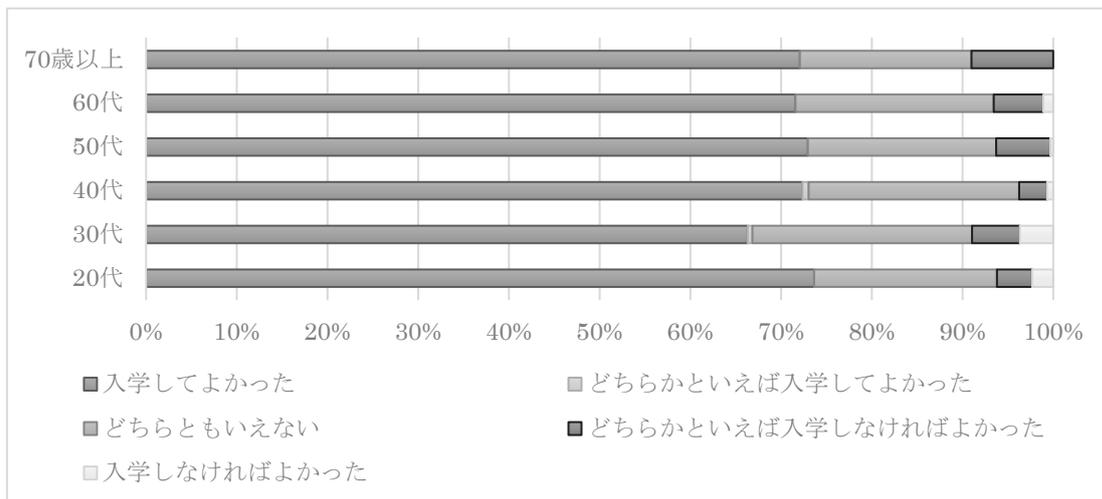
平成29年度、平成30年度卒業生から卒業時に本学についての満足度を問うアンケート調査を実施した。それによれば「とても満足」「まあ満足」が9割以上を占めており、本学に対しての高い満足度となっている。

▶平成29・30年度実施4年生対象の卒業時アンケート 設問「大学生生活を振り返っての満足度」



また、平成 30 年度に本学全卒業生を対象として実施したアンケート調査の「本学に入学しよかったか」という設問に対してもどの年代からも高い「よかった」という回答となっている。

▶平成 30 年度実施全卒業生へのアンケート 設問「本学に入学してよかったか」



③ 地域から信頼される大学

株式会社日経BPコンサルティングが2019年8月に実施した「大学ブランド・イメージ調査2019-2020(中国・四国編)」でも本学は中四国の国公私立59大学中、総合ブランド力第3位となっている。このように本学は岡山県のみならず中国四国地方からも高い評価を得ている。

(3) 定員増の必要性

ア. 安定した志願倍率と定員充足率

前述のとおり本学は安定的な志願者を確保しつつ教育理念に沿った人格教育を行い、その結果、社会的にも高い評価を得て、どの学科も定員充足率を上回っており、この状況は今後も続くとは推測できる。

イ. 女子の大学進学率の向上への寄与

OECDが2014年に公表したデータによれば、33カ国の大学進学率の平均は女子が65%、男子52%であり、男子が女子より高いのは日本を含む3カ国のみで、男女差は日本が最大となっている。また、令和元年度の学校基本調査によれば令和元年（平成31年）3月に卒業した高校生の大学進学率は、女子が49.0%、男子が50.6%でその差は大きくないように見えるが、男子に浪人が多いことなどを勘案すれば大学への進学率には依然として開きがある。

本学に目をやれば、在学生出身の出身上位10県で女子の大学率が男子を上回っているのは山口・鳥取・長崎のみであり、それらの県は進学率自体が全国平均より低い。

▶本学における出身地上位10県の在学者数及び男女別大学進学率【令和元年度学校基本調査を基に作成】

出身地	岡山	香川	広島	愛媛	兵庫	山口	熊本	鳥取	島根	長崎
在学者数	1,755	224	54	43	24	19	10	10	10	10
女子進学率	46.0%	44.8%	56.0%	45.7%	56.9%	37.8%	41.4%	37.3%	39.0%	40.9%
男子進学率	48.6%	46.4%	58.4%	47.2%	55.9%	35.8%	41.8%	34.9%	41.1%	39.0%

大学進学率の男女差は、女性の生涯賃金や経済的自立のマイナス要素となり社会全体の損失が危惧される。

本学の存在意義は、設立母体である修道女会の理念である「教育は万人のもの、教育を受ける機会のない者にこそ教育を」を実現することにある。上記のような女子の進学格差の解消を実現するためにも岡山県唯一の女子大学である本学が門戸を広げ、より多くの女子生徒の進学を促す必要がある。

・岡山県と香川県の進学状況

本学の入学者の約8割を岡山県、約1割を香川県が占めている。この数字は5年以上変わっておらず、今後も続くと考えられる。

▶本学過去7年新入生の岡山県出身比率

入学年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
県内比率	80.4%	78.2%	81.0%	77.9%	82.3%	81.6%	78.1%

▶岡山県過去7年の女子高校生の志願者数・進学者数

	女子の高校 卒業生数	女子の 大学進学率	女子の大学 志願者数	女子の大学 進学者数	岡山県女子の 大学進学者に占める 本学の割合	
平成24年度	8,617	43.6%	4,093	3,758	12.5%	平均 11.7%
平成25年度	8,495	44.3%	4,020	3,763	12.1%	
平成26年度	8,788	43.8%	4,141	3,847	12.3%	
平成27年度	8,762	43.7%	4,119	3,826	11.9%	
平成28年度	8,671	45.4%	4,185	3,934	12.2%	
平成29年度	8,505	46.0%	4,166	3,913	10.3%	
平成30年度	8,556	46.0%	4,141	3,935	10.7%	

▶岡山県の今後6年間の女子の進学推計（文部科学省公開資料データ等を基に作成）

	女子の高校 卒業予定者数	女子の 大学進学率	女子の大学 志願者数	女子の大学 進学者数	岡山県女子の 大学進学者に占める 本学への 進学希望者数
令和元年度	8,540	46.3%	4,078	3,877	426
令和2年度	8,574	46.6%	4,110	3,907	429
令和3年度	8,421	46.9%	4,045	3,848	423
令和4年度	8,290	47.2%	4,112	3,913	430
令和5年度	7,923	47.5%	3,954	3,763	413
令和6年度	8,169	47.8%	4,183	3,905	429

現入学定員 470 人×0.8=376 人

新入学定員 520 人×0.8=416 人

岡山県内の高校出身女子の大学進学者において本学新生の占める割合は、過去7年平均で11.7%である。また、新生の約8割が岡山県内の高校出身である。これらのことを勘案して、令和元年度の学校基本調査をもとに今後6年間の岡山県の女子の高校卒業生の予想進学率（文科省推定）に基づき本学への進学希望者数を推計したところ、現定員のままだと多くの進学希望者が本学に入学できない状況が続くと推測される。このことは、本学新生の約1割を占める香川県出身の女子についても同様と思われ、本学の定員増の必要性を強く表している。

▶香川県過去7年の女子高校生の志願者数・進学者数

	女子の高校 卒業者数	女子の 大学進学率	女子の大学 志願者数	女子の大学 進学者数
平成24年度	4,308	40.3%	2,054	1,738
平成25年度	4,141	43.5%	2,073	1,803
平成26年度	4,127	43.0%	2,016	1,775
平成27年度	4,201	43.7%	2,110	1,836
平成28年度	4,317	44.3%	2,232	1,914
平成29年度	4,300	44.7%	2,222	1,923
平成30年度	4,287	44.8%	2,200	1,921

▶香川県の今後5年間の女子の進学推計（文部科学省公開データ等を基に作成）

	女子の高校 卒業予定者数	女子の 大学進学率	女子の大学 志願者数	女子の大学 進学者数
令和元年度	4,235	45.1%	2,185	1,910
令和2年度	4,233	45.4%	2,197	1,922
令和3年度	4,184	45.7%	2,184	1,912
令和4年度	4,395	46.0%	2,307	2,022
令和5年度	4,273	46.3%	2,256	1,978
令和6年度	4,233	46.6%	2,248	1,973

ウ. 持続可能な地域社会創生への貢献

① 本学の教育理念と通底するSDGs推進による社会貢献

本学の教育理念と通底する国連における「誰ひとり取り残さない」という理念の下で制定されたSDGsの推進に、本学も貢献することを目的として平成31年度に「地域連携・SDGs推進センター」を新設した。令和2年度には、キリスト教精神における包摂性とSDGsの考え方を基盤とし、インクルーシブ教育に関する教育・研究及び社会に対する啓発、学生の教育及び現場教員等に対する指導・助言等の諸活動を持続的に行い、共生社会の実現に寄与することを目的とする「インクルーシブ教育研究センター」を開設すると同時に本学の建学の精神の中核を担う「キリスト教文化研究所」において「キリスト教精神とESD・SDGs」をテーマにして開催する研究会を発足させた。

そして、新設予定である「リベラル・アーツ教育センター」が開講主体となり、全学共通科目の中の「自立力育成科目」において、SDGsの課題を、自分の問題として捉え、身近な場から取り組んで課題解決につなげる力を育成する教育プログラムを構築し、令和3年度開講のための準備を進めている。

岡山市は、岡山ESD推進協議会が実施する「岡山ESDプロジェクト」が2016年ユネスコ/日本ESD賞を日本国内で初の受賞をし、2017年にはユネスコ生涯学習研究所が実施

するユネスコ学習都市賞 2017 に選ばれ、さらに 2018 年に内閣府より地方創生の実現につながる自治体での SDGs 達成に向けた優れた取組を提案した自治体として「SDGs 未来都市」に選定されている。こうした ESD・SDGs を推進する岡山市と平成 30 年に包括協定を結んでいる大学として、本学は ESD の学習や活動によってそうした関心を深めている高校生の受け皿となり、SDGs と関連したさらに高度な教育プログラムにより、グローバルな視野で考えつつ身近な視点で行動できる力を身に付け課題解決のできる人材を育成し、地域社会に輩出することにより、現代社会の要請に応え、地域創生に貢献することをめざしている。

令和元年度には、一年生全員を対象にした初年次教育の一環として国連で活動する修道女会（SNDatUN）NGO 代表 Jean Stone による特別講義を行うとともに、SDGs のテーマを中心に扱う模擬国連ドイツ大会に学生 9 名が参加し、優秀賞を受けている。また、SDGs と関連した授業で女子学生の勧誘被害の声から調査が行われ、女性の視点からの発信が県迷惑条例改正につながるといった地域社会への貢献がなされ、新聞で取り上げられるなど注目された。

② 女性参画共同社会への貢献

「持続可能な開発目標（SDGs）」のゴール 5 にはジェンダーの平等と女性のエンパワーメントが掲げられているが、2019 年 12 月発表の世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2020」では、日本の男女格差指数の総合スコアは 0.652 で、152 カ国中 121 位と参加国の中でも非常に低く、G7 のなかでは最下位のスコアとなっている。女性の能力発揮のための基盤の整備と、政治、経済、公共分野への女性の参画とリーダーシップ向上は、持続可能な社会、地域の創出のための最重要課題の 1 つであることは確かであると考えられる。

ジェンダーフリーの環境である女子大学は、女性が十全にリーダーシップを発揮する力を開花できる教育環境としてその機能を果たしており、大学を含めジェンダー格差の著しい日本社会において、女子大学の存在意義は今後もますます強まっていくものである。

また、地元岡山県においても女性参画社会の実現について、「第 4 次おかやまウィズプラン」に掲げる管理職における民間、公務員、教員の数値目標が達成されておらず、各分野における女性リーダーの育成は喫緊の課題となっており、本学の有為な人材の育成が期待されている。

▶岡山県「第 4 次おかやまウィズプラン」達成状況

	現況値 (平成 30 年度)	目標値 (令和 2 年度)
県の審議会等委員の女性比率	35.8%	40.0%
管理職における女性比率（教育職/教頭以上）	24.6%	25.0%
管理職における女性比率（公務員）	14.5%	25.0%
商工会議所・商工会事務局における管理職員の女性比率	12.1%	18.0%

③ 有能な教員を輩出し続けることでの地域社会への貢献

教員の過重労働をめぐる報道や民間就活の好調さの中で、2019年度教員採用試験の状況は、小、中、高、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭を合計した全体の採用倍率は4.2倍で、前年度の4.9倍からさらに低くなった。特に小学校の採用倍率は2.8倍で、1991年度教員採用試験と並んで過去最低となり、岡山県の小学校の採用倍率も2.4倍で極めて低く落ち込んでいる。そうした状況が継続すると見込まれる中で、地域社会において教員の質を保持するためには、使命感をもって教員を志望する有能な人材の育成が今後一層強く求められると予想される。

本学は、1954年の教職課程認定以来、キリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育を土台とした教員養成に力を注ぎ、現在、約2,000人の卒業生が教員・保育士として勤務している。中でも、女性として初の岡山市教育委員会事務局・総合教育センター所長（2009年当時）をはじめ、教育委員会、校長、園長、教頭等の職においてリーダーシップを発揮して活躍するなど、地域の教育の重要な役割を担う人材を輩出してきている。

【資料2「教職・保育職教員採用試験合格状況」】

そうした地域社会の信頼と期待に応じて、高い倫理性と使命感をもつ有能な教員を社会に送り出す使命は、今後ますます強まると考えられる。

さらに本学は、令和2年度にインクルーシブ教育研究センターを新設することで、教育界における時代の要請に応じることのできる、共生社会の実現に寄与する教員養成の体制の構築を企図している。

また本学は、センター長の下で英語教育専門の専属専任教員6人を有する英語教育センターを設置し、全学生が、高等学校で身に付けた英語力を、社会で自立して活動していくために必要な力という観点から捉え直し、さらに発展・向上させるためのロードマップを可視化し、高等学校までの学びを大学に円滑に接続するため、CEFR-Jに準拠した本学独自のNDSU Can-doリストの設定を構築して、高等学校に提示するなど、高大接続英語教育の実践に力を注いでいる。外部指標として受験を促している英検においては、1級の合格者を出し、特に準1級においては受験者合格者とも飛躍的に伸びるなど大きな成果を出している。加えて、履修している全学科の学生にインターネットを利用した学習教材(e-learning)を取り入れ自律的な学習を促す一方で、児童学科が英語による読み聞かせをしたり、食品栄養学科の学生が英語で食事管理のアドバイスをしたりといった各学科のニーズや目的に基づく専攻科目との補完的な言語活動を授業に取り入れている。こうした英語を実践的な道具として使いこなし専門分野で活躍できる人材の育成は、今後教育界でも強く必要とされるものである。

④ 外国人労働者・外国人児童の増加する地域社会への貢献

全国の人口減少が続く中で、総務省等の推計によれば岡山県でも2020年から2045年までの25年間で約30.2万人の人口減少が見込まれ、生産年齢人口(15～64歳)も、2015年から2045年までの30年間で約27.2万人減少の見込みである。そうした人口減少と少

子高齢化による労働力不足が深刻化する中で、岡山県における外国人労働者数は2019年10月末で19,592人で、前年同期比3,295人増加(20.2%)となり、外国人労働者を雇用する事業所数は2,653か所で、前年同期比357か所の増加(15.5%)となっている。この数は今後ますます増加し、それに伴い、外国人児童の増加も見込まれている。

そうした地域社会に対して、本学のリベラル・アーツ教育は、高度な外国語能力の修得に加えて、人格を尊重し合い、異なる他者を理解し受け入れ、多様な文化の人と深く関わる力をもつ女性の育成に力を注いでいる。そうした高い国際性と倫理性をもつ人材の必要性は、教職をはじめ、公務員、民間企業においても今後ますます高まると考えられる。さらに本学には、留学協定を結んでいる台湾の天主教輔仁大学での実習を必修とする「日本語教員養成課程」があり、今後そうしたリベラル・アーツ教育を土台として日本語教員養成課程を修得した人材の需要の増加も見込まれる。

エ. 地域に貢献できる人材育成の期待に応える

本学の教育理念であるキリスト教精神に基づいたリベラル・アーツ教育は、まさにグランドデザイン答申で謳われているSociety5.0に対応した能力を「一般教育・共通教育と専門教育の双方を通じて、また学生の自主的活動等も含む教育活動を通して育成」するものである。

本学の学生の就職先としてはここ10年、産業分類で見ると、教育・学習支援、卸売業・小売業、金融業・保険業、医療・福祉が上位4位までを占めている。また、就職先も岡山県、香川県を中心とした大都市圏以外が8割以上を占めている。今後、人口減少の加速が予想される地方においては産業における生産性の向上、高付加価値化、地域全体の維持・発展のために本学卒業生に期待される役割はますます重要となってくる。

職種について言えば、本学が設立以来大きな役割を担ってきた保育職・教職(初等・中等・特別支援)、グローバル化に対応したキャビンアテンダントやホテルスタッフ、旅行添乗員、また、金融機関における提案型営業職、JAや郵便局など地域に密着した総合職など今後のSociety5.0において一層必要とされるAIにとって代われない職業が多くを占めている。これらのことから、今後地域から本学への有為な人材の育成についての期待はより一層高まり、本学はその社会的責務に応え続ける必要があると考える。

【資料1「2018年度学科別就職データ」】

以上をふまえ、本学への志願者実績・定員充足率、地域における女性の進学率、人材ニーズへの対応を勘案し、5学科の定員増が必要であると判断した。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更内容

昨今の急激な社会変化の時代を支え、生き抜くために求められる力は、専門的な知識や技能のみならず、それらを正しい目的のために用いることを可能とするような「知恵」、すなわち豊かな人間性に基づく洞察力と判断力である。リベラル・アーツを標榜する本学においては、こうした力を養うために、幅広い教養を身に付けることのできる多様な科目を常に整備し提供していくと同時に、専任教員を中心として、学生の人間的成長に配慮し、本学の教育理念を体現した教育方法を共有・実践していくことが求められる。

このことから、定員増を申請する 5 学科とともに本学全学教育科目における教育課程の変更内容等についても説明する。

(1) 全学共通科目

ア. 教育課程の変更内容

本学は令和 3 年度より、これまでの共通教育の枠組みとしての〈全学共通科目〉を維持しつつ、リベラル・アーツ教育のさらなる充実を計画している。本学における「リベラル・アーツ教育」は、専門的な学びのための基礎的な教養教育にとどまらず、学問研究を「生きることの意義」へと結びつけ、人格的な統合を促す「全人教育」として構想され、継承されてきた。この考え方は、現在の本学における〈全学共通科目〉の編成にも反映されている。建学の精神と教育理念を伝える「キリスト教科目」をはじめ「教養科目」「外国語科目」「健康科目」「情報科目」、さらには平成 26 年度から「自立力育成科目」を加え、現代社会の急速な変化にも対応しながら、その役割が模索され続けてきた。これら 6 つの科目によって構成される〈全学共通科目〉は、各学科における専門課程での学びを支えながら、その知的探究を「生きる意義の追求」へと統合し、卒業後のキャリアへの円滑な接続を促すものとなっている。

本学では、令和 2 年度より「リベラル・アーツ教育センター」（仮）を設置し、〈全学共通科目〉の企画運営、及び点検評価の主体としての活動を行う。また、〈全学共通科目〉と各学科の教育課程、免許資格課程等におけるそれぞれの学びをリベラル・アーツの理念のもとに接続・統合するために、共同研究や FD 活動を推進する。この基盤の上で、本学のリベラル・アーツ教育の意義と役割をさらに具体化していく予定である。令和 3 年度においては、従来の科目の枠組みを維持しつつ、従来から行ってきたキャリア教育や情報教育をさらに強化する。また、学びの発展性や関連性を重視しつつ、それぞれの学生の能力や到達度に応じた的確で幅広い履修を可能とする教育プログラムを編成する。これらを通じて、様々な分野の学びを高い人格性へと統合しうるような、本学らしい教育の在り方を実現することが可能になると考える。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

それぞれの科目群において、基礎的な学びと発展的学びの段階、隣接する科目との繋がりがや広がりを感じられるような教育プログラムとしての充実を図る。また、現在「自立力育成科目」の一部で選択必修化されているアクティブ・ラーニングをより充実させ、「自

立力育成科目」を双方向の対話的実践による学びの科目群として展開する予定である。

ウ. 教員組織の変更内容について

令和2年度から、全学共通科目の開講主体として「リベラル・アーツ教育センター」(仮)は、従来キリスト教文化研究所に所属していた教員を配置するとともに、共通教育を中心に担当する教員の所属先として、令和3年度からは合わせて6名以上の専任教員を配置する予定である。(例：神学1名、宗教学1名、文学1名、教育学1名、哲学思想1名、科学教養1名、など)

これらの教員は各学科の教員組織からは独立しているが、必要に応じて学科の科目を担当し、また卒業論文の指導も担当できるような体制を整備する。

(2) 文学部英語英文学科

ア. 教育課程の変更内容

文学部英語英文学科(以下「本学科」)は、国際的共通語である英語を自在に使える技能を習得するとともに、英語圏諸国の文化に対する理解を深め、広い視野を持つ国際教養人の育成を目指し、実践的な英語力育成と英語圏の文学や英語・言語学、国際コミュニケーションといった多彩な専門科目を通して全人的な教育を行うために、英米文学、英語学・言語学、国際コミュニケーションという3つの履修コースを設定している。

本学科の上記3コースのうち、平成28年度に新設された国際コミュニケーション履修コースが、令和元年度に完成年次を迎えた。次に述べる理由から、現時点で本コースの授業内容が英語英文学科の要となっている。

国際コミュニケーション履修コースでは、実践的な英語力を身に付けることに焦点を当てつつ、文学、翻訳学、言語学、文化人類学、外国語教育、国際教育といった様々な視点から、異文化間コミュニケーションに関わる問題を掘り下げるという学際的な領域での教育を行っている。これは、開設以来、本学科全体が目指してきた国際理解と国際的教養の育成を、より具体的かつ明示的に遂行するものであり、本学科の中心的な目的を達成するためのコースに他ならない。また、アンケートや個別の面談、リアクションペーパーなどを通して学生のニーズ調査を行い、定められた教育課程の範囲内で授業内容や教授方法の改善を行うとともに、本コースの要員となる専任教員の補充も行なってきた。その結果、令和元年度に3年次である英語英文学科の学生の中では、国際コミュニケーション履修コースに所属する学生の割合は全体の55%と半数を超えている。なお、国際コミュニケーション履修コースが開講する科目は、演習を除きすべて他コース(英米文学履修コース及び英語学・言語学履修コース)に所属する学生も履修可能であり、実際には本学科のほとんどの学生が1年次必修の概論科目(General Introduction to International Communication)以降、様々な国際コミュニケーションに関する科目を履修しているのが現状である。以上のような理由から、学生のニーズを満たし、教育内容に対する学生の満足度も高いことが窺われるため、骨組みとなる全体の教育課程については現在の形を維持する。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

すでに述べたように、1年次には各履修コースの基本的知識を幅広く学び、2年次に各コースの選択科目を履修することで3年次からの学問領域を決定するということ、そしてどのコースにおいても1年次より英語母語の教員による段階的な英語運用能力の育成を行い、英語に関する資格試験や留学準備、英語を使った仕事に役立つビジネス英語などの実践力と各履修コースの専門性を身に付けるための科目を提供するといったことは継続して行っていく。これらに加え、学内での学びを応用し成果を発表・発信する場として模擬国連(Model UN)をはじめとする国際会議への参加を積極的に促すほか、持続可能な開発目標(SDGs)等の時代の流れと社会の要請を柔軟に反映させた内容も取り入れる。また、毎年国際的に活躍する人材を講師として招聘し、事前事後授業も含む一連のアクティブ・ラーニングの流れで講義・演習を実施している。フィールドワークやフィールドトリップなど、座学だけではない様々な授業形態を活用して、学生が培った力を実践的に試す機会を設けている。カトリック系大学が主催する海外ボランティアなどの機会も授業科目とも連動させてこれまで以上に活用するよう促すことで、学生が主体的に行動し学びを実践の場で応用し、大きな達成感を味わう経験を増やしていく。このように、収容定員の増加に対する量的な対処だけに留まらず、質的にもより一層充実させることで、これまでと同等以上の教育環境を担保する。

ウ. 教員組織の変更内容

令和元年現在の英語英文学科の専任教員は13名(教授7名、准教授6名)となっており、このうち5名(教授2名、准教授3名)が英語母語話者教員で構成されている。なお、国際コミュニケーション履修コースで演習を担当する教員は、現在のところ教授2名、准教授4名である。また、令和2年度から専任教員を1名採用する予定であるが、英米文学ないしは英語学・言語学の専門科目だけでなく、国際コミュニケーション履修コースの授業科目も一部担当し、同コースの必修ならびに選択科目の質の充実と内容の多様性を図り、さらに多彩で充実した選択肢を学生に提供できるようにする。また、現在の所属教員が今後退職する場合は、必要に応じて新たな教員の採用を検討し、上記の教育内容と教育方法への影響を最小限にするよう努め、収容定員変更後も同等以上の教育内容を担保することができると考えている。

(3) 文学部日本語日本文学科

ア. 教育課程の変更内容

文学部日本語日本文学科(以下「本学科」)は、古代から現代に至る各時代の日本文学及び日本語学の専門家と、教員や司書としての実務経験に基づいた学びを提供できるスタッフとが揃い、研究と実務両面の教育・研究の体制が充実していることは他の多くの大学にはない本学科の特徴といえる。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

(7) 古典文学分野：体制の整備を含む、教育・研究環境の充実

日本語学・日本文学を学ぶことで後世に伝えられる我が国の歴史とは、人の心の動きや生活習慣のみならず、現代社会が抱える問題と直結するものも多い。これらに造詣のある人材が減少することは我が国にとっては危機的状況とも言える。本学科としては、実用性へのニーズに応えつつも、従来本学科が特色としてきた日本語学・日本文学の教育・研究環境を維持し、充実させていくことが、長期的な視点において本学科の価値を高めることに繋がると考える。

また、本学の特殊文庫は、本学で教鞭をとった故・正宗敦夫氏の収集したものや、国学者として様々な著述を遺した黒川家の代々が収集した資料からなる、全国的にも貴重な資料を集めた一大コレクションを所蔵している。このような資料に直に触れ、学ぶことのできる大学は極めて少なく、全国的にまたとない学びの機会を提供することが可能である。学内の特殊文庫での学びを応用しながら、県内の美術館等との連携をはかることで、地域に所蔵される古典籍の価値を理解した上で後世に伝え、あるいは地域全体の魅力の向上に貢献する人材の育成を持続していく使命を本学科は担っている。

(4) 近代文学分野：教育・研究環境の充実

これまで本学科の近代文学研究室においては、明治維新から現代に至るまでの文学作品を研究対象とし、作品を形成した社会情勢や作品の独自性などについて客観的に考察する方法及び自ら実践できる力を鍛錬する機会を提供し、学生たちは、先行研究を超える自分ならではの考察について根拠を示して論理的に構築でき、文学の深い機微に触れた説得力のある表現によって発信できる力を伸ばしてきた。今後はさらに、文字媒体の範疇に収まらないもの、従来の文学作品の延長線上にあるものを研究対象とし、多岐にわたる文学作品や文字媒体の外にある作品群を考察する力も身に付けた人材の育成を図っていく。従来の文学研究と同様の方法、あるいはそれを発展させた方法を用い、高い学術性による新たな視座から研究及び発信のできる力を養う。

また、近代文学研究の基礎の上に、サブカルチャーを含む新たな日本文化を研究対象とすることを可能とし、国際化社会において新たな視点から日本文学・日本文化を発信する人材育成をはかりたい。

(7) 日本語学分野：高水準で多様な領域の教育を提供

本学科の日本語学分野に所属する専任教員の最も専門とする研究分野が、補完する形で異なることから、非常に高い水準の教育が提供できる。日本語を広く深く学んだ力は、外国人とのコミュニケーションを支援するために生かすこともできる。本学には「日本語教員養成課程」があり、日本語学校等の教員になる道が開ける。しかしそれとともに、一般企業や学校の教員として就職しても、職場や教室、あるいは近隣の外国人に対し「日本語」という側面から支援することもできる。このように、日本語学を学んだ力を用いて社会に貢献できるという点も特徴としており、高水準で多様な領域の教育を引き続き提供していきたい。

(E) 言語文化分野：教育・研究環境の充実

日本語学・日本文学に関する専門的な学びを土台として、国語科教育・書道教育において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習者主体の学習指導を構想し、実践していくことができる人材の育成を目指している。学習者一人ひとりの興味・関心に応じた学習教材の開発と豊かな単元構想を支える大きな力となっており、中学校・高等学校の国語科及び書道担当教師として、学校現場で活躍する多くの人材を継続して輩出していく。

(オ) 専門分野の枠を越えた新科目「総合探究」の実施

本学科は1～4に示した各分野の専門家が揃う体制を利用し、専門分野の枠を越えた新たな科目「総合探究」を新設する。

具体的な内容の候補の一例として、現在、本学科において「ツボジョーワールド探検隊」という、岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進事業」の一環で実施している活動が挙げられる。この活動は、従来本学科が特色としてきたスタッフの専門性を利用しつつ、専門の枠内に留まらず大学の外に学びを求める新たな特色を打ち立てることが可能となる。

上記をはじめ、それぞれの研究室の枠を越えた新たな教育の場を提供したい。具体的には地域の博物館・文学館との連携、伝統芸能を含む舞台の見学や、分野の異なる2名以上の教員によるオムニバス形式の講義など、必要に応じ講義・演習・実習など、形式を自由に選択し、従来の学科専門科目には無い学際的な学びの機会とする。これらの試みを、本学科の特色である専門性を利用しつつ、「日本文学」「日本語学」「言語文化」の枠を越えた「総合探究」という科目内で実施することで、学生が本学科で得た学びを地域の人々や文化財、ひいては社会全体へと向ける足がかりとしたい。

ウ. 教員組織の変更内容

本学科は日本語日本文学の分野において、各時代を専門とする教員を揃えることを特色の一つとしてきた。そのため、地方を基盤とする大学にもかかわらず各学会での評価は高く、安定した文学研究・教育の場を提供できる全国的に数少ない大学として地位を確立している。このことは日本語学・日本文学を志向する学生の獲得にも功を奏してきたと考えられ、現状として定員を上回る入学者数を安定的に獲得している。

また、本学のある中国地方には『平家物語』などの中世文学の舞台となった土地が数多くあることなどから、現在教員の欠員が生じている中世文学を学びたいと考える学生も多い。本学科の独自性を打ち出し、教育の質のさらなる向上を目指すためにも、これまでの各分野の専門家をそろえる体制を今一度整備し、定員増後に備える予定である。

(4) 文学部現代社会学科

ア. 教育課程の変更内容

文学部現代社会学科は、現代社会の諸現象が生起する仕組みを分析する社会学と、人間社会がここに至った過程を研究する歴史学(社会史)のふたつの学問的方法を通じて、

過去と現在とにわたる幅広い視野，社会現象に関する深い学識と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指している。

通常は，社会学科及び歴史学科という枠組みで別々に学ばれる二つの分野を，本学科では統一的に学ぶという斬新な試みを行ってきた。現在，生起している社会現象の認識だけで事足りるとするのではなく，過去の人間社会に見られる多様なふるまいや慣行を独自の構造をもつものとして捉えることは，われわれ自身のありかたを相対化することにつながる。他方，過去を探究する意義は，単なる事実の確定や好奇心の充足だけに尽きるものではなく，現在に生きるわれわれの立ち位置を見定めたり，われわれが直面している課題のよってきたところを知ることにもある。こうした学問分野の融合は，ステレオタイプの発想から身を引き剥がしつつ，同時に現代に対する批判的な洞察力を養うことにつながるものと自負している。

その一方で，社会学及び歴史学の専門的な方法論も疎かにしてはいない。ふたつの学問には，素材となるデータの扱いに関わって，それぞれ社会調査，史料読解という基礎的な学問的方法がある。これらに関わる科目は全学科生にとっての必修科目となっていないものの，現状，多くの学生が両分野の該当科目を受講している。

以上に示した本学科の方向性は，社会的事象をできるだけトータルに捉えるべく努めることであると言い換えることもできる。経済，政治，宗教といった特定の領域だけを自明のものとして切り取るのではなく，そうした分野を横断するかたちで見出される社会的人間の営みを，過去・現在にわたって追究することを目指している。

以上のような目的とコンセプトのもと，現代社会学科の教育課程では，複数の学問領域を通じて過去及び現代の社会のありかたや諸問題を多角的に追究するべく，学科の専攻学問分野として配している。

以上が現行の現代社会学科の教育課程の概要であるが，収容定員増員後は，社会学系のゼミナールを選択する学生が相対的に多いという点，さらに予定されている教員の異動という事情にも鑑み，民俗学のゼミナールに代えて，環境社会学あるいは宗教社会学のゼミナールを新設することとしている。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

現代社会学科の教育方法及び履修指導方法であるが，基幹的な役割を果たす科目についての概要は以下のとおりである。

(7)「基礎演習」(Ⅰ期担当)は，研究テーマの設定，研究文献や史資料の収集，レポートと論文の作成，及び研究成果のプレゼンテーションなどの方法を学ぶ科目である。また，「現代社会学基礎演習」「社会史基礎演習」(ともにⅡ期担当)は，「基礎演習」と同様の趣旨に立ちつつも，それぞれの学問分野の基礎的な手ほどきを行う科目である。これらは，少人数でクラス編成をしている。

(4)「史料講読Ⅰ～Ⅳ」は，歴史学の学問的方法の基礎をなす史料読解を訓練する科目で，社会史系のゼミナールに属する学生にとっての必修科目に指定しており，また，同一科目を重ねて履修することが可能で，かつ，そのように指導している。

一方、社会学の基礎的方法を学ぶ科目として、「社会調査論Ⅰ～Ⅲ」（「Ⅰ」のみ1年次Ⅱ期より履修可能。「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次より履修可能）を設けている。これらは必修科目ではないものの、学生には強く履修を推奨しており、実際、多くの学生が履修している。さらに、調査技法を身に付ける科目として、「社会調査実習」（3年次より履修可能）がある。この科目では、フィールドワークを含む多様な社会学的調査方法を実践的に学ぶことを目的としている。なお、現状では、多数の履修者に対応するべく、実習にとって適正な受講者数となるよう、クラス分けをしている。

ウ. 教員組織の変更内容

令和元年4月時点の現代社会学科の専任教員数は10名である。専門分野の内訳は、社会学4名、歴史学3名、考古学1名、民俗学1名、地理学1名となっており、全員がゼミナールを担当している。定員増員後は、専任教員の総数は11名となる予定であり、設置基準を十分に満たしている。

こうした変更後も、ゼミナールあたりの平均学生数は約6.4人(増員前は約7.7人)と10人を大きく下回ったままである。演習形式授業の少人数教育体制が定員増員後も揺るがないことは、「イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容」の(ア)にも記したとおりであり、定員増員後も十分に増員前の質を担保できると考える。

(5) 人間生活学部人間生活学科

ア. 教育課程の変更内容

人間生活学科は、人間・福祉、経営・経済、生活・環境といった多様な分野の学びを通じ、人間性に満ちた、幅広い教養を持ちつつ、専門性を併せ持った人材として、総合的な知識と社会の要請にこたえる実践力を有する女性の育成を目的としている。

収容定員増員を計画している令和3年度入学者から、上記の教育目標は堅持しつつ、本学科の学問領域を時代のニーズに合わせ見直した結果、従来の人間福祉学コース、生活文化学コースの2コース制から以下に挙げる3つの履修コースを設定することとした。第1に、人間の尊厳や福祉に関する理念を学び、生きることについての深い倫理的洞察力と実社会での応用力を身に付けることを目的とした「人間福祉学履修コース」、第2に、女性が今後活躍の場を広げていくことが予測されているキャリアの世界で求められる知識及び分析力、判断力、協働する力を身に付けることを目的とした「経営経済学履修コース」、第3に、本学科の基幹ともいえる家政学の科目を学び、人間生活の基本的な知識と実践力を身に付けることを目的とした「生活環境学履修コース」である。全学生が1年次、2年次に上記3つの学問領域にまたがる必修科目を履修するとともに、人間生活学についての基本を学ぶことで、幅広い視野と学際的発想力を鍛える。同時にキャリアデザインやインターンシップなどの卒業後のライフデザインを描くための科目も備え、バランスのとれた社会人の育成に取り組む。2年次後半からは履修コースを定め、ゼミに所属し専門性を高める学びに取り組むことで自らの強みを伸ばしていく。4年次に全学生が

執筆する「卒業論文」は、大学での学問研究の集大成として位置づけられる。これも専門分野によって理論研究、調査研究、フィールドワークなど様々な方法論がありえ、自分の関心に応じて取り組むことを通じて、専門的に思考する力、論理的に考察する力、自分なりの考えを導き出す力、それを言葉や行動で表し発信する力を育む。

このような変更により、収容定員増後の教育水準を高めていくことができると考えている。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

前項で述べたように、令和3年度入学者から、本学科の教育課程を3つの履修コースに分けて編成する。これにより、本学科が重視する「人間性に満ちた幅広い教養」に高度な専門性を加味することが期待できる。特に経営経済学分野に関しては後述のように3名の教員が関連科目を担当していたが、より体系的に学ぶことができるよう新たな科目を新設することとした。例えば「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ論」などマーケティング関連科目に一層の充実を図っていることが特徴である。また「インターシップ実践」といった、実社会の中での実践を促す科目を新設することにより、企業、行政、NPOなどとの協働を通じた学びを経験として蓄積できるようにしている。

また、従来から制度として運用している「アドバイザー制度」は、1年次から1教員7～8名の学生を担当し、演習などを通じてきめ細かいケアを行っている。卒業論文などの学習面だけでなく、生活や進路などについての相談の窓口にもなっており、必要に応じて学生の保護者とも連絡を取り合う。長年に亘る本学科の退学率の低さは、この制度に負うところが大きいと考えている。教員数と学生数の比率を考慮しても、定員増員後に質を担保することは十分可能である。

このような新しい取り組みと従来の制度を組み合わせることにより、学生に提供する教育の質はより高くなることが期待できる。

ウ. 教員組織の変更内容

現在の人間生活学科の専任教員の専門分野はそれぞれ哲学、福祉学、経済学、経営学、政策学、生物学、住居学、調理学、被服学である。収容定員増員を計画している令和3年度には前項で述べたように3つの分野を設定する。主に「人間福祉学履修コース」の学科科目を担当するのは、哲学、福祉学を専門分野とする4名の専任教員である。「経営経済学履修コース」の学科科目を担当するのは、経営学、経済学、政策学に加え新規にマーケティング、データサイエンスを専門分野とする専任教員を採用し計5名となる。「生活環境学履修コース」の学科科目を担当するのは被服学、調理学、住居学を専門分野とする3名の専任教員である。令和3年度には12人の専任教員がそろそろ予定であり、定員を増加しても従来からのきめ細かい少人数教育には支障はない。むしろ定員が増えることにより上記の実践学習などの参加者が増えることが予想され、より活発な取り組みが期待できると考えている。

(6) 人間生活学部児童学科

ア. 教育課程の変更内容

聖ジュリー・ピリアートの建学の精神を踏まえ、キリスト教精神に基づいた「知の全人的統合」を図るリベラル・アーツ教育を基盤とする本学科は、「人間論」を中心とする「キリスト教科目」や「自立力育成科目」「教養科目」等に支えられるかたちで学科科目を編成している。その学科科目には「音楽」「美術」科目が充実しており、リベラル・アーツ教育を基盤とする本学科の特徴と言える。また、「小学校・特別支援」と「幼稚園・保育士」の教職・保育職における2コースと、学科内に心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、音楽、美術の6つ研究室を設けることにより教育・保育プロフェッショナルの育成を行ってきた。収容定員増実施後にはこれまでの教育課程を「一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育プロフェッショナルの育成 ～学び続けるプロフェッショナル～」という視点で明確化するとともに、新規科目の開設とインクルーシブ教育研究センター(仮称)との連携により以下のとおり教育課程の充実を図る。

従来、入学後1年次には共通の教育課程を持ちながら、2年次より「小学校・特別支援コース」と「幼稚園・保育士コース」の2コースを設けてきた。前者では小学校教員一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の取得を基本とし、後者は幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得を基本としている。また、学生の希望に応じてコースを乗り越えての免許状取得を可能とする柔軟な教育課程の編成を行ってきた。今回、その教育課程の設定に大きな変更はない。しかし、これらの教育課程の本質的な意味を問い直すことで、収容定員増員後も学生指導の質を更に充実させ、昨今の社会状況に対して寄与できると考えている。

今回改めて以下のような教育課程の整理と充実を図る。

まず1年次には、児童学の6領域の中から「一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育」の基盤について扱う基礎科目として「心理学概論」「教育原理」等6領域の内容を代表する授業を受講する。また、「総合演習」の少人数教育においてプレゼンテーションやディスカッションに主体的に取り組むことで学問的なコミュニケーションの基本やリサーチ、リフレクションの基本を身に付ける。また、6領域の中で特に、「一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育」に直結する科目群を明示して、多面的に学んでいることが自覚され、その学びについて常にリフレクションできるようにする。これらの科目は既設のものであり、これまでに開講されていたものばかりである。

また1年次には「特別支援教育基礎論」「特別支援教育総論」の科目により、障害種別の基礎知識や幼稚園、小学校等における特別支援教育の基本、インクルーシブな教育・保育の基本を修得することで、一人ひとり(の子ども)を大切にする学び、すなわち個に応じた教育・保育について体系的に学ぶ。

2年次以降では、各教科指導法と特別支援教育の融合を図り、各教科指導法のシラバスに特別支援教育の視点を位置づけるとともに、「特別支援教育の視点と教科指導」を新たに開講する。また個に応じた支援と保育の関係性については、従来からの「人間関係の指

導法」の科目の中にその内容を組み込むことで、一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育が学生に浸透していくようにする。

また平成 28 年度に開設した特別支援教育研究センターを発展解消して設立した「インクルーシブ教育研究センター」と連携した「インクルーシブ教育・保育インターンシップ」を新たに開講するとともに、現職教員・保育士等のリカレント教育を目的とした「インクルーシブセミナー」等を実施し、現職の教員等と一緒に学べる機会を積極的に設けることとする。

上記とは別に、今日的な教育課題から「教科指導とICT」の科目を開講する。また、「小学校英語科指導法」では、本学附属小学校国際コースでの実習や観察を取り入れて、実践的な指導力の育成を図る。

イ. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

幼小連携が大きな課題となっていること、就学前教育で特別支援教育を中心とする個に応じた指導・支援が求められている現状を鑑み、可能な範囲で、コースを乗り越えた資格取得の促進を図る。具体的には、「幼稚園・保育士コース」の学生も特別支援学校一種免許状や小学校一種免許状の取得ができる様に丁寧に指導を行い、先述した「一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育プロフェッショナルの育成」の学びを更に深められるようにする。

ウ. 教員組織の変更内容

「一人ひとり(の子ども)を大切にする教育・保育プロフェッショナルの育成」を充実させる計画に伴い令和 2 年度から 1 名の専任教員の採用を行う予定である。従って収容定員増員後も、学生指導の質は更に充実したものにすることができる。

エ. 大学全体の施設・設備の変更内容

現在、校地面積は、大学全体で 58,890 m²であり、収容定員増加後の 2,080 人の場合に、大学設置基準上必要な面積である 20,800 m²を大きく上回っている。同様に校舎面積も大学全体で 29,352 m²であり、今回の収容定員増加後の大学設置基準上必要な面積である 13,189.6 m²を大きく上回っている。

また、学生からの要望の多い学生食堂の改善に対応するため、本学中長期計画に基づき 3 つあるラウンジの 1 つを改修中である。令和 2 年 5 月の完成とともに食堂もリニューアルオープンし、大学の環境の充実を図る。同じく令和 2 年度には学生の学習や教員の教育研究活動の環境・条件を整備するための方針「教育研究等環境に関する方針」を策定し明示する予定である。

以上のように、現状においても十分な施設・設備を有しており、今後はより整備が進められるため定員増後も現在と同等以上の環境を担保できる。

2018年度 学科別就職データ

Pick up!

2018年度実績
(全学科)

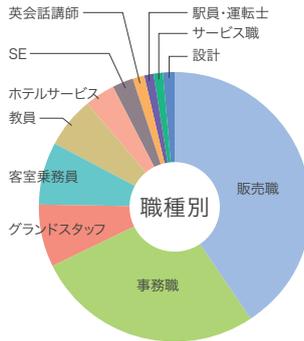
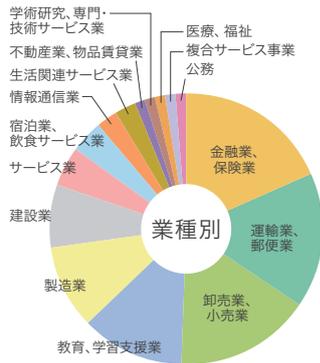
※業種別データは日本標準産業分類に従い、職種別データは日本標準職業分類を基に一部改編しています。

文学部

2018年度 実績

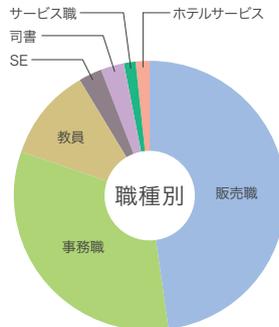
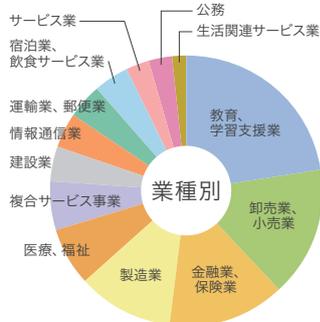
主な就職先(過去3年分)

英語英文学科



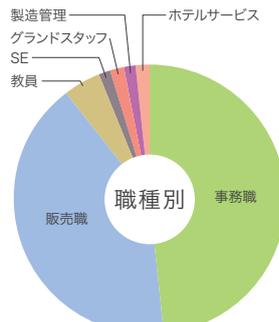
- 建設業 積水ハウス、旭化成ホームズ、セキスイハイム中四国、大本組、日本植生
- 製造業 伊那食品工業、林原、イーグル工業、コアシステム機器、岡山村田製作所、一光化学、明石スクールユニフォームカンパニー、倉敷化工、小橋工業、三陽機器、片山工業、水菱プラスチック、ヒルタ工業、石井表記、合同セラミックス、シーバー化成、セツカートン
- 電気、ガス・水道業 岡山ガス
- 情報通信業 マイナビ、ベネッセインフォシニル、麻布プラザ、極東テレビ、東京コンピュータサービス、ネット・インフォメーション、両備システムズ
- 運輸業 キャセイパシフィック航空、全日本空輸、日本航空、スカイマーク、ANA大阪空港、ANA福岡空港、JALスカイ、JALスカイ九州、Kスカイ、西日本旅客鉄道、四国旅客鉄道、日本通運、FMG、両備ホールディングス
- 卸売業、小売業 富士ゼロックス岡山、ダイキンHVACソリューション東京、セブーンイレブン・ジャパン、伊丹産業、医療情報システム、ライト電業、カワニシホールディングス、天満屋、ユニクロ
- 金融業、保険業 日本銀行、三井住友信託銀行、中国銀行、山口フィナンシャルグループ、百十四銀行、野村證券、クレディセゾン、三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損害保険、第一生命保険、明治安田生命保険、トマト銀行、香川銀行、島根銀行、岡山県民共済生活協同組合、おかやま信用金庫、玉島信用金庫、高松信用金庫、津山信用金庫
- 不動産業 穴吹興産
- 学術研究、専門・技術サービス業 総合メディカル、東洋ハイテック
- 宿泊業、飲食サービス業 ユニバーサルホテルマネジメント、ANAクラウンプラザホテル岡山、ホテルクレメント高松
- 生活関連サービス業 JTB、東武トップツアーズ
- 教育、学習支援業 国立学校教員、川崎学園、川崎医科大学付属高等学校、イーオン、アミティ
- 複合サービス事業 日本郵便、岡山市農業協同組合、岡山西農業協同組合
- サービス業 ベネッセ・ベースコム
- 公務 警視庁、岡山県警察職員、岡山市消防職員、高梁市職員

日本語日文学科



- 建設業 セキスイハイム中四国、荒木組
- 製造業 みのる化成、朝日スチール工業、ヤンマー農機製造、桂スチール、三陽機器、モリマシナリー、片山工業、ヒルタ工業、リプロ、自重堂、インパム、田中産業、DHC、オーエム産業、オカネット工業、大普、北原産業、イタミアート
- 情報通信業 KG情報、両備システムズ、ソフィア、西日本システムサービス
- 運輸業 日本通運、福山通運、両備ホールディングス、ナカウ、岡山交通
- 卸売業、小売業 岡山宮地弘商事、シマダオール、カワニシホールディングス、シンコール、コムバス、マルナカ、山陽マルナカ、岡山トヨペット、ファーマシー、ザグザグ、プッシュまわり、P・O・Pホールディングス
- 金融業、保険業 あおぞら銀行、中国銀行、農林中央金庫、三井住友海上火災保険、日本生命保険、第一生命保険、明治安田生命保険、岡山県民共済生活協同組合、トマト銀行、おかやま信用金庫、玉島信用金庫、備前信用金庫
- 学術研究、専門・技術サービス業 日本司法支援センター、DOWAテクノエンジニアリング、P・O・Pカンパニー、合同経営グループ
- 宿泊業、飲食サービス業 ジェイアール西日本フードサービスネット、岡山プラザホテル、下宿ホテル
- 医療、福祉 岡山医学検査センター、岡山西大寺病院、新倉敷メディカルスクエア
- 教育、学習支援業 国立学校教員、岡山県立大学、川崎学園、加計学園、鳥取県立生涯学習センター、新見市司書、総社市司書、瀬戸内市司書、アイドゥー、ピーシー・インクス
- 複合サービス事業 日本郵便、岡山県商工会連合会、岡山西農業協同組合、倉敷かさや農業協同組合、勝英農業協同組合
- サービス業 ベネッセ・ベースコム、グロックス、キャリアプランニング、エン・ジャパン
- 公務 岡山県職員、香川県職員、岡山県警察官、倉敷市職員、和気町職員

現代社会学科



- 建設業 東海電機、玉組
- 製造業 アサヒ飲料、伊藤園、カバヤ食品、四国化成工業、技研製作所、東京計装、ヤンマー農機製造、ワイ・デー・ケー、岡山村田製作所、高雄工業、今治造船、サマキ畜産フーズ、明石スクールユニフォームカンパニー
- 情報通信業 NHK岡山放送局、山陽新聞社、マイナビ、ビザビ、ベネッセインフォシニル、両備システムズ、KG情報、日本文教出版、OECグループ、システムスクエア
- 運輸業 全日本空輸、JALスカイ大阪、ANAエアポートサービス、西日本旅客鉄道、日本通運、両備ホールディングス、中谷エネテック
- 卸売業、小売業 ダイワボウ情報システム、中国クボタ、セブーンイレブン・ジャパン、マツモト産業、トーホーフードサービス
- 金融業、保険業 広島銀行、中国銀行、沖縄銀行、農林中央金庫、四国労働金庫、野村證券、SMBC日興証券、東京海上日動火災保険、あいおいニッセイ同和損害保険、ソニー損害保険、日本生命保険、明治安田生命保険、トマト銀行、日新火災海上保険、岡山県信用保証協会、おかやま信用金庫
- 不動産業 三井不動産リアルティ中国
- 学術研究、専門・技術サービス業 岡山中央法律事務所、アルファ、税理士法人ユニオン
- 宿泊業、飲食サービス業 タリーズコーヒー・ジャパン、有馬グランドホテル
- 医療、福祉 日本赤十字社岡山県支部、林精神医学研究所附属病院、大原記念倉敷中央医療機構、倉敷医療生活協同組合、岡山医学検査センター、岡山旭東病院、おおもと病院、SOMPOケア
- 教育、学習支援業 国立学校教員、岡山大学、川崎学園、就実大学、岡山市立図書館
- 複合サービス事業 香川県厚生農業協同組合連合会、日本郵便
- サービス業 岡山県商工会連合会、平林金属、キングラン中四国、グロップ
- 公務 岡山県職員、岡山県警察官、岡山市職員、倉敷市職員、津山市職員、笠岡市職員

エアライン業界就職者数

15名

キャセイパシフィック航空、全日本空輸、日本航空、スカイマーク、ANAエアポートサービス、JALスカイ、Kスカイ、ANA大阪空港、ANA福岡空港、ANAテレマート等

金融業・保険業就職者数

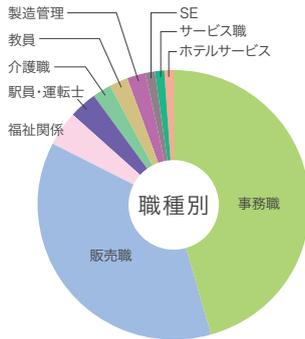
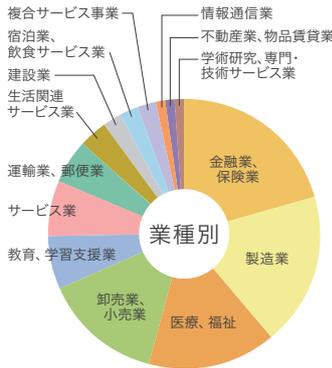
69名

三井住友信託銀行、中国銀行、百十四銀行、トマト銀行、農林中央金庫、おかやま信用金庫、玉島信用金庫、吉備信用金庫、備前信用金庫、日生信用金庫、野村證券、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、あいおいニッセイ同和損害保険、ソニー損害保険、日本生命保険、第一生命保険、明治安田生命保険、クレディセゾン等

2018年度 実績

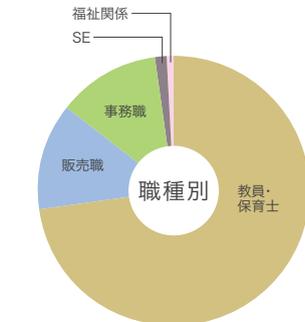
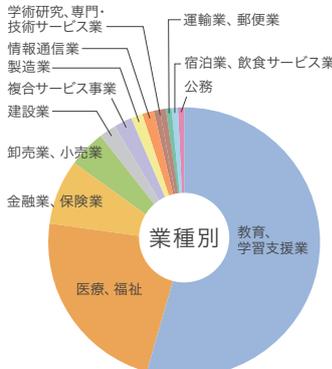
主な就職先(過去3年分)

人間生活学科



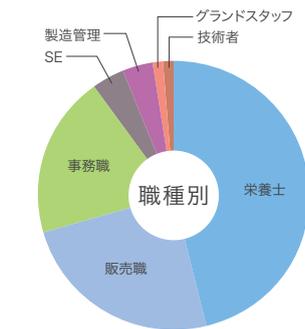
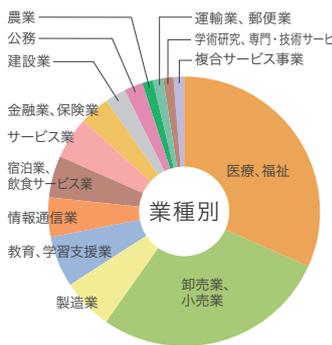
- 建設業 積水ハウス、ミサワホーム中国、セキスイハイム中四国、ライフデザイン・カバヤ
- 製造業 シノプフーズ、伊那食品工業、萩原工業、丸五ゴム工業、ノリツ、小橋工業、三陽機器、モリマシナリー、ヤンマー農機製造、岡山村田製作所、片山工業、アステア、内山工業、明石スクールユニフォームカンパニー、自重堂、キャン
- 情報通信業 マイナビ、富士通四国インフォテック、ベネッセインフォシエル、イオンアイビス
- 運輸業 西日本旅客鉄道、両備ホールディングス
- 卸売業、小売業 カワニシホールディングス、富永物産、高松三越、サンワサプライ、本多、マツモト産業
- 金融業、保険業 三井住友信託銀行、中国銀行、伊予銀行、百十四銀行、ゆうちょ銀行、農林中央金庫、野村證券、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、あいおいニッセイ同和損害保険、全国労働者共済生活協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、日本生命保険、明治安田生命保険、クレディセゾン、トマト銀行、香川銀行
- 不動産業 住友不動産販売
- 学術研究、専門・技術サービス業 P-O-Pカノン
- 宿泊業、飲食サービス業 ANAクラウンプラザホテル岡山
- 医療、福祉 国立病院機構中国四国グループ、岡山済生会総合病院、大原記念倉敷中央医療機構、岡山医療生活協同組合、香川医療生活協同組合、津山市社会福祉協議会、コムレ、創心会、四ツ葉会、ひまわりの会、おおもと病院、愛生苑、慶光会
- 教育、学習支援業 国立学校教員、中国・四国地区国立大学法人、川崎学園、広島国際学院高等学校、倉敷翠松高等学校
- 生活関連サービス業 近畿日本ツーリスト中国四国
- サービス業 クリエアナブキ、六穴コミュニティ、岡山市ふれあい公社、キングラン中四国、グロップ、ダスキュニオン
- 公務 岡山県警察官、岡山市職員、丸亀市職員

児童学科



- 建設業 セキスイハイム中四国、セキスイハイム東四国
- 製造業 オンワード樫山、ヤンマー農機製造、岡山村田製作所、エクセルバック・カバヤ、明石スクールユニフォームカンパニー、トンボ、F.O.インターナショナル
- 情報通信業 ベネッセインフォシエル、両備システムズ
- 運輸業 ANAテレマート、日本通運
- 卸売業、小売業 赤ちゃん本舗、ライト電業、ウッディワールドのざき、シティービル
- 金融業、保険業 中国銀行、農林中央金庫、三井住友海上火災保険、全国共済農業協同組合連合会、日本生命保険、第一生命保険、明治安田生命保険、トマト銀行、香川銀行、岡山県民共済生活協同組合
- 不動産業 アサヒ ファシリティーズ
- 学術研究、専門・技術サービス業 太陽総合法律事務所、アルファ
- 宿泊業、飲食サービス業 ANAクラウンプラザホテル岡山
- 生活関連サービス業 エイチ・アイ・エス
- 医療、福祉 大原記念倉敷中央医療機構、岡山西大寺病院、倉敷スイートホスピタル、岡山子ども協会、岡山市手をつなぐ育成会、守里会、岡山愛育会、弘徳学園、杉の子保育園、すずらん保育園、若葉保育園、御南保育園、岡山協立保育園、ちゃや保育園、ももやま保育園、天竜保育園
- 教育、学習支援業 国立学校教員、岡山大学、川崎学園、就実小学校、ノートルダム清心女子大学附属幼稚園、内山下幼稚園、中仙道幼稚園、岡山聖園幼稚園、慈愛幼稚園、あおほ幼稚園、栗林幼稚園、金光学園こども園、渦が森幼稚園、富士ふたば幼稚園、バコダ幼稚園、つしま幼稚園
- 複合サービス事業 日本郵便
- サービス業 春日大社、グロップ、キャリアプランニング
- 公務 中国地方整備局、岡山県職員、笠岡市職員

食品栄養学科



- 農業 井上誠耕園、日本クレア
- 建設業 セキスイハイム中四国
- 製造業 明治、アサヒビール、ロイヤルデリカ、ブンセン、シノプフーズ、ロックフィールド、サラヤ、イーグル工業、岡山村田製作所、備後漬物、エフアールフーズ、フジミツ、カナエテクノス、ダイヤ工業
- 情報通信業 ソフィア、ピコシステム
- 運輸業 ANA福岡空港、四国旅客鉄道、日本通運、ヤクルトロジスティクス
- 卸売業、小売業 ファーマシー、おかやま薬局、サンヨー薬局、ドラッグ&ファーマシー西日本、四国物産、倉敷青果荷受組合、外林、本多、天満屋、コスモス薬品、ザグザグ
- 金融業、保険業 中国銀行、伊予銀行、百十四銀行、三井住友海上火災保険、明治安田生命保険、香川銀行
- 宿泊業、飲食サービス業 飯倉クリティサポート、日清医療食品、アスモフードサービス、栄食メディックス、魚国総本社、ジェイアール西日本フードサービスネット、西洋フード・コンパスグループ
- 医療、福祉 国立病院機構中国四国グループ、岡山大学病院、川崎医科大学総合医療センター、岡山赤十字病院、岡山済生会総合病院、心臓病センター榊原病院、岡山中央病院、岡山西大寺病院、岡山純心会、岡山博愛会病院、万成病院、ペリネイト母子の病院、岡山医療生活協同組合、淳風会健康管理センター、重井医学研究所附属病院、倉敷医療生活協同組合、金光病院、大原記念病院、国家公務員共済組合連合会高松病院、大西精神衛生研究所附属大西病院、小豆島中央病院、姫路中央病院、三豊総合病院、旭川荘、創心会、うずき会、慶光会、福山乳児院、同仁病院、おおもと病院、ももたらう整形外科、新倉敷メディカルスクエア、まび記念病院
- 教育、学習支援業 ノートルダム清心女子大学、愛媛調理製菓専門学校
- 複合サービス事業 日本郵便
- サービス業 日本年金機構、岡山県健康づくり財団、アース環境サービス
- 公務 千葉県職員、長崎県学校栄養職員、総社市職員、都城市職員

2002年度採用～2019年度採用 教職・保育職教員採用試験合格状況一覧

資料2

2019年5月1日時点

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
総合計	31(17)	40(11)	58(12)	70(14)	67(6)	93(26)	73(14)	70(8)	69(19)	114(10)	107(10)	115(19)	121(22)	132(23)	143(19)	154(26)	130(17)	123(31)	1710(304)

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
幼稚園教諭・保育士	19(17)	14(8)	23(11)	27(13)	14(5)	45(25)	19(11)	28(8)	37(17)	41(10)	33(10)	53(18)	55(19)	43(18)	43(19)※3	62(25)	50(16)	49(29)	655(279)
小学校・特別支援学校	4	13(1)	16	28(1)	40(1)	31	36(2)※2	29	21	52※2	48	39	49(1)	57(2)	76	63(1)	52	52	706(9)
小計	23(17)	27(9)	39(11)	55(14)	54(6)	76(25)	55(13)	57(8)	58(17)	93(10)	81(10)	92(18)	104(20)	100(20)	119(19)	125(26)	102(16)	101(29)	1,361(288)

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
中学校	英語	4	7	9	7	9	7	5	4	9	15	10	7	11(3)	7	6	9(1)	5	137(4)
	国語	1	2(1)※1	5(1)※1	4	3	4(1)	5	1	6	4	1(1)	5	12	4	6	7	9	84(4)
	社会									2		1		3	3	6	2	1	18
	家庭						1	1			2	2		1	4	4	1	1	18
小計	5	9(1)	14(1)	11	9	14(1)	13	11	5	17	21	14(1)	12	27(3)	18	22	19(1)	16	257(8)

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
高等学校	英語	1	1(1)	1	1	1			1		3	1	2(1)	2	3		2	1	20(2)
	国語・書道		1	2			3	1	3(2)	1		3	1(1)	2	1	4	4	2	28(3)
	地理歴史															1			1
	家庭・福祉	2	1	2	1	3	2(1)	1	2	3	2	3	1	1	2		2	3(2)	32(3)
	小計	3	3(1)	5	2	3	2	5(1)	2	6(2)	4	5	7	4(2)	5	6	8	6(2)	81(8)

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
小中連携																1			1

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
栄養教諭												2	1			1	1		5

採用年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
養護学校		1		2	1	1													5

卒業生を含む

()内は私立で内数

※1 私立の中学校・高等学校はどちらかに配属か不明につき、中学校へカウント

※2 特別支援学校(中学部)を含む

※3 公立「小学校・幼稚園共通」含む

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

(7) ノートルダム清心女子大学の概要

1949年、中四国初の4年制女子大学の一つとして創立された本学は、現在、文学部（英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科）、人間生活学部（人間生活学科、児童学科、食品栄養学科）、の2学部6学科、大学院は、文学研究科、人間生活学研究科の2研究科で構成されている。本学の学部の在学者数は、2,203人（令和元年5月1日現在）となっている。

本学の平成31年度の入学試験結果では、全学部の入学定員470人に対し志願者数2,011人、入学者数526人、志願倍率は4.3倍（志願者数÷入学定員、小数点以下第1位（第2位を四捨五入））、入学定員充足率は、1.11倍となり、入学定員を十分満たしている。

なお、平成31年度の志願者数減少に関しては、平成30年度入試の反動が大きなき要因と分析している。平成28年度からの私立大学の入学定員の厳格化に伴い各大学の難易度が上昇し、平成30年度入試の志願者は、安全志向、地元志向をさらに強めたと考えている。各大学の難易度上昇は、平成30年度入試において、本学の想定を超える志願者増の動きとなり、これによって従来の合否ラインが上昇し、地元の高校を中心に進路指導の場面で大きな混乱をもたらした。このことは、平成31年度入試での志願者減少という形で表面化した。このことは、平成27年度～平成31年度の過去5年間は大学全体として安定した入学者を確保できていると考える。

▶過去5年間の入学定員・志願者・合格者・入学者数等の推移 (単位：人)

	平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
入学定員 (a)	470	470	470	470	470
志願者数	2,011	2,602	2,588	2,225	2,304
受験者数	1,989	2,570	2,557	2,202	2,285
合格者数	942	1,022	1,161	1,206	1,126
入学者数 (b)	526	514	591	584	576
入学定員充足率 (b/a)	1.11	1.09	1.25	1.24	1.22

※入学定員充足率の単位は倍、小数点以下第2位（第3位を切捨て）

(4) 入学状況及び入学定員設定の考え方

① 文学部英語英文学科

収容定員変更を計画している文学部英語英文学科の入学定員設定の考え方は、過去5年の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、岡山県及び香川県、広島県等の近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者数や大学への進学状況、競合すると想定される大学の学部等の状況、さらには、岡山県を中心に近年入学実績のある高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果に加えて、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した。

さらに、教育の質の維持の観点から、学科の専任教員が指導する学生数が過度に増加することなく、卒業論文の指導等も従来どおりに行える環境を意識し、各教員が指導する人数を学年でそれぞれ1人増の範囲内となるような考え方で設定した。

前述の理由から、入学定員を現行の80人から90人に変更した場合でも、十分な定員充足を見込むことができ、文学部英語英文学科への入学を熱望する受験生の期待に応え、かつ社会が求める専門性を生かした有能な人材をこれまで以上に輩出していくことができると確信している。

② 文学部日本語日本文学科

収容定員変更を計画している文学部日本語日本文学科の入学定員設定の考え方は、過去5年の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、岡山県及び香川県、広島県等の近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者数や大学への進学状況、競合すると想定される大学の学部等の状況、さらには、岡山県を中心に近年入学実績のある高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果に加えて、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した。

さらに、教育の質の維持の観点から、学科の専任教員が指導する学生数が過度に増加することなく、卒業論文の指導等も従来どおりに行える環境を意識し、各教員が指導する人数を学年でそれぞれ1人増の範囲内となるような考え方で設定した。

前述の理由から、入学定員を現行の60人から70人に変更した場合でも、十分な定員充足を見込むことができ、文学部日本語日本文学科への入学を熱望する受験生の期待に応え、かつ社会が求める専門性を生かした有能な人材をこれまで以上に輩出していくことができると確信している。

③ 文学部現代社会学科

収容定員変更を計画している文学部現代社会学科の入学定員設定の考え方は、過去5年の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、岡山県及び香川県、広島県等の近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者数や大学への進学状況、競合すると想定される大学の学部等の状況、さらには、岡山県を中心に近年入学実績のある高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果に加えて、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した。

さらに、教育の質の維持の観点から、学科の専任教員が指導する学生数が過度に増加

することなく、卒業論文の指導等も従来どおりに行える環境を意識し、各教員が指導する人数を学年でそれぞれ1人増の範囲内となるような考え方で設定した。

前述の理由から、入学定員を現行の60人から70人に変更した場合でも、十分な定員充足を見込むことができ、文学部現代社会学科への入学を熱望する受験生の期待に応え、かつ社会が求める専門性を生かした有能な人材をこれまで以上に輩出していくことができると確信している。

④ 人間生活学部人間生活学科

収容定員変更を計画している人間生活学部人間生活学科の入学定員設定の考え方は、過去5年の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、岡山県及び香川県、広島県等の近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者数や大学への進学状況、競合すると想定される大学の学部等の状況、さらには、岡山県を中心に近年入学実績のある高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果に加えて、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した。

さらに、教育の質の維持の観点から、学科の専任教員が指導する学生数が過度に増加することなく、卒業論文の指導等も従来どおりに行える環境を意識し、各教員が指導する人数を学年でそれぞれ1人増の範囲内となるような考え方で設定した。

前述の理由から、入学定員を現行の70人から80人に変更した場合でも、十分な定員充足を見込むことができ、人間生活学部人間生活学科への入学を熱望する受験生の期待に応え、かつ社会が求める専門性を生かした有能な人材をこれまで以上に輩出していくことができると確信している。

⑤ 人間生活学部児童学科

収容定員変更を計画している人間生活学部児童学科の入学定員設定の考え方は、過去5年の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、岡山県及び香川県、広島県等の近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者数や大学への進学状況、競合すると想定される大学の学部等の状況、さらには、岡山県を中心に近年入学実績のある高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果に加えて、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した。

さらに、教育の質の維持の観点から、学科の専任教員が指導する学生数が過度に増加することなく、卒業論文の指導等も従来どおりに行える環境を意識し、各教員が指導する人数を学年でそれぞれ1人増の範囲内となるような考え方で設定した。加えて、人間生活学部児童学科に関しては、毎年卒業生の90%以上が教員免許を取得しているという実績から、教育実習の事前事後指導や教育実習の受け入れ学校園への負担も勘案した。

前述の理由から、入学定員を現行の120人から130人に変更した場合でも、十分な定員充足を見込むことができ、人間生活学部児童学科への入学を熱望する受験生の期待に応え、かつ社会が求める専門性を生かした有能な人材をこれまで以上に輩出していくことができると確信している。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(7) 過去 5 年間の志願者数等の状況（資料 1）

① 文学部英語英文学科

文学部英語英文学科の平成 31 年度における志願・入学状況は、入学定員 80 人に対し、志願者数 362 人、受験者数 357 人、合格者数 166 人、入学者数 85 人。平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の志願者数は、入学定員 80 人に対して、平成 27 年度 418 人、平成 28 年度 353 人、平成 29 年度 402 人、平成 30 年度 430 人、平成 31 年度 362 人と安定した志願者数を確保しており、過去 5 年間の平均志願者数は 393 人、入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.9 倍、平均入学定員充足率は 1.18 倍となっている。

この過去 5 年間の数値を基に、入学定員を収容定員変更後の入学定員に置き換えての試算を行った結果、文学部英語英文学科では、入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.4 倍、平均入学定員充足率は 1.04 倍となり、収容定員変更をした場合でも、入学者選抜の機能が低下しない志願者数や志願倍率を維持することができるものと考えられる。

今般、収容定員を変更することで、定員超過率のさらなる適正化を図るとともに、今後とも適切な定員管理に努めることとする。

② 文学部日本語日本文学科

文学部日本語日本文学科の平成 31 年度における志願・入学状況は、入学定員 60 人に対し、志願者数 262 人、受験者数 261 人、合格者数 135 人、入学者数 70 人。平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の志願者数は、入学定員 60 人に対して、平成 27 年度 242 人、平成 28 年度 325 人、平成 29 年度 310 人、平成 30 年度 356 人、平成 31 年度 262 人と安定した志願者数を確保しており、過去 5 年間の平均志願者数は 299 人、入学定員に対する志願者数の平均倍率は 5.0 倍、平均入学定員充足率は 1.18 倍となっている。

この過去 5 年間の数値を基に、入学定員を収容定員変更後の入学定員に置き換えての試算を行った結果、文学部日本語日本文学科では、入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.3 倍、平均入学定員充足率は 1.01 倍となり、収容定員変更をした場合でも、入学者選抜の機能が低下しない志願者数や志願倍率を維持することができるものと考えられる。

今般、収容定員を変更することで、定員超過率のさらなる適正化を図るとともに、今後とも適切な定員管理に努めることとする。

③ 文学部現代社会学科

文学部現代社会学科の平成 31 年度における志願・入学状況は、入学定員 60 人に対し、志願者数 341 人、受験者数 339 人、合格者数 138 人、入学者数 77 人。平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の志願者数は、入学定員 60 人に対して、平成 27 年度 326 人、

平成 28 年度 349 人，平成 29 年度 419 人，平成 30 年度 438 人，平成 31 年度 341 人と安定した志願者数を確保しており，過去 5 年間の平均志願者数は 375 人，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 6.2 倍，平均入学定員充足率は 1.29 倍となっている。

この過去 5 年間の数値を基に，入学定員を収容定員変更後の入学定員に置き換えての試算を行った結果，文学部現代社会学科では，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 5.4 倍，平均入学定員充足率は 1.10 倍となり，収容定員変更をした場合でも，入学者選抜の機能が低下しない志願者数や志願倍率を維持することができるものと考えられる。

今般，収容定員を変更することで，定員超過率のさらなる適正化を図るとともに，今後とも適切な定員管理に努めることとする。

④ 人間生活学部人間生活学科

人間生活学部人間生活学科の平成 31 年度における志願・入学状況は，入学定員 70 人に対し，志願者数 280 人，受験者数 279 人，合格者数 122 人，入学者数 81 人。平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の志願者数は，入学定員 70 人に対して，平成 27 年度 324 人，平成 28 年度 296 人，平成 29 年度 431 人，平成 30 年度 402 人，平成 31 年度 280 人と安定した志願者数を確保しており，過去 5 年間の平均志願者数は 347 人，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 5.0 倍，平均入学定員充足率は 1.20 倍となっている。

この過去 5 年間の数値を基に，入学定員を収容定員変更後の入学定員に置き換えての試算を行った結果，人間生活学部人間生活学科では，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.3 倍，平均入学定員充足率は 1.05 倍となり，収容定員変更をした場合でも，入学者選抜の機能が低下しない志願者数や志願倍率を維持することができるものと考えられる。

今般，収容定員を変更することで，定員超過率のさらなる適正化を図るとともに，今後とも適切な定員管理に努めることとする。

⑤ 人間生活学部児童学科

人間生活学部児童学科の平成 31 年度における志願・入学状況は，入学定員 120 人に対し，志願者数 468 人，受験者数 459 人，合格者数 243 人，入学者数 128 人。平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の志願者数は，入学定員 120 人に対して，平成 27 年度 605 人，平成 28 年度 554 人，平成 29 年度 684 人，平成 30 年度 650 人，平成 31 年度 468 人と安定した志願者数を確保しており，過去 5 年間の平均志願者数は 592 人，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.9 倍，平均入学定員充足率は 1.19 倍となっている。

この過去 5 年間の数値を基に，入学定員を収容定員変更後の入学定員に置き換えての試算を行った結果，人間生活学部児童学科では，入学定員に対する志願者数の平均倍率は 4.6 倍，平均入学定員充足率は 1.10 倍となり，収容定員変更をした場合でも，入学者選抜の機能が低下しない志願者数や志願倍率を維持することができるものと考え

られる。

今般、収容定員を変更することで、定員超過率のさらなる適正化を図るとともに、今後とも適切な定員管理に努めることとする。

(イ) 岡山県と近隣県の高等学校及び中学校の女子の在籍者等の状況（資料 2, 3）

本申請が認められた場合、入学定員の変更が適用されるのは、令和元年 5 月現在の高校 2 年生となる。この高校 2 年生以降の女子生徒の状況を、岡山県及び近隣県（香川県、広島県、愛媛県、兵庫県、山口県）について概観する。

なお、岡山県と近隣県出身の本学在籍生は、平成 31 年度入学者では、岡山県 423 人、香川県 51 人、広島県 12 人、愛媛県 9 人、兵庫県 5 人、山口県 3 人となり、この 6 県で 95%以上となる。この傾向は志願者数でも同様の数値を示している。

① 岡山県の状況

令和元年度の岡山県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 8,574 人、1 年生の女子の生徒数は 8,421 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 8,290 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 7,923 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 98.9%となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、岡山県での女子の大学受験対象者が大きく減少することではなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

② 香川県の状況

令和元年度の香川県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 4,233 人、1 年生の女子の生徒数は 4,184 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 4,395 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 4,273 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 98.9%となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、香川県での女子の大学受験対象者が大きく減少することではなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

③ 広島県の状況

令和元年度の広島県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍

している 2 年生の女子の生徒数は 11,452 人、1 年生の女子の生徒数は 11,817 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 12,220 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 11,790 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 98.7% となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、広島県での女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

④ 愛媛県の状況

令和元年度の愛媛県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 5,226 人、1 年生の女子の生徒数は 5,384 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 5,537 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 5,259 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 99.3% となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、愛媛県での女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

⑤ 兵庫県の状況

令和元年度の兵庫県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 22,459 人、1 年生の女子の生徒数は 22,431 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 23,864 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 22,750 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 98.9% となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、兵庫県での女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

⑥ 山口県の状況

令和元年度の山口県の学校基本調査によると、令和元年 5 月現在で高等学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 5,443 人、1 年生の女子の生徒数は 5,336 人となっている。

また、入学定員の変更が適用される 3 年目の受験対象者となる中学校に在籍している 3 年生の女子の生徒数は 5,618 人、中学校に在籍している 2 年生の女子の生徒数は 5,423 人となっている。

なお、平成 31 年 3 月に中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率は 98.6%となっており、中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、山口県での女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

(ウ) 岡山県と近隣県の高等学校を卒業した女子の大学進学状況（資料 4）

① 岡山県の状況

令和元年度の岡山県の学校基本調査によると、岡山県内の高等学校を卒業した女子の過去 3 年間の大学への進学状況は、平成 31 年 3 月は卒業生数 8,556 人のうち大学への進学者は 3,935 人で大学への進学率は 46.0%、平成 30 年 3 月は卒業生数 8,505 人のうち大学への進学者は 3,913 人で大学への進学率は 46.0%、平成 29 年 3 月は卒業生数 8,671 人のうち大学への進学者は 3,934 人で大学への進学率は 45.4%となっている。過去 3 年間の大学進学率は、3 年間で 0.6 ポイント上昇していることから、岡山県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

② 香川県の状況

令和元年度の香川県の学校基本調査によると、香川県内の高等学校を卒業した女子の過去 3 年間の大学への進学状況は、平成 31 年 3 月は卒業生数 4,287 人のうち大学への進学者は 1,921 人で大学への進学率は 44.8%、平成 30 年 3 月は卒業生数 4,300 人のうち大学への進学者は 1,923 人で大学への進学率は 44.7%、平成 29 年 3 月は卒業生数 4,317 人のうち大学への進学者は 1,914 人で大学への進学率は 44.3%となっている。過去 3 年間の大学進学率は、3 年間で 0.5 ポイント上昇していることから、香川県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

③ 広島県の状況

令和元年度の広島県の学校基本調査によると、広島県内の高等学校を卒業した女子の過去 3 年間の大学への進学状況は、平成 31 年 3 月は卒業生数 11,513 人のうち大学への進学者は 6,443 人で大学への進学率は 56.0%、平成 30 年 3 月は卒業生数 11,528 人のうち大学への進学者は 6,500 人で大学への進学率は 56.4%、平成 29 年 3 月は卒業生数 11,808 人のうち大学への進学者は 6,537 人で大学への進学率は 55.4%となっている。過去 3 年間の大学進学率は、3 年間で 0.6 ポイント上昇していることから、広島県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

④ 愛媛県の状況

令和元年度の愛媛県の学校基本調査によると、愛媛県内の高等学校を卒業した女子の過去3年間の大学への進学状況は、平成31年3月は卒業生数5,297人のうち大学への進学者は2,419人で大学への進学率は45.7%、平成30年3月は卒業生数5,530人のうち大学への進学者は2,462人で大学への進学率は44.5%、平成29年3月は卒業生数5,699人のうち大学への進学者は2,480人で大学への進学率は43.5%となっている。過去3年間の大学進学率は、3年間で2.2ポイント上昇していることから、愛媛県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

⑤ 兵庫県の状況

令和元年度の兵庫県の学校基本調査によると、兵庫県内の高等学校を卒業した女子の過去3年間の大学への進学状況は、平成31年3月は卒業生数23,047人のうち大学への進学者は13,113人で大学への進学率は56.9%、平成30年3月は卒業生数23,418人のうち大学への進学者は13,243人で大学への進学率は56.6%、平成29年3月は卒業生数23,866人のうち大学への進学者は13,151人で大学への進学率は55.1%となっている。過去3年間の大学進学率は、3年間で1.8ポイント上昇していることから、兵庫県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

⑥ 山口県の状況

令和元年度の山口県の学校基本調査によると、山口県内の高等学校を卒業した女子の過去3年間の大学への進学状況は、平成31年3月は卒業生数5,578人のうち大学への進学者は2,106人で大学への進学率は37.8%、平成30年3月は卒業生数5,638人のうち大学への進学者は2,121人で大学への進学率は37.6%、平成29年3月は卒業生数5,693人のうち大学への進学者は2,118人で大学への進学率は37.2%となっている。過去3年間の大学進学率は、3年間で0.6ポイント上昇していることから、山口県内の高等学校を卒業した女子の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

(I) 私立大学の関係学科の状況（資料4）

収容定員変更を計画している本学各学科の関係学科の状況を、私立大学の関係学科別学生数（1年次）を基に、平成27年度から令和元年度までの5年間の学校基本調査の数値で概観する。

① 人文科学（文学部英語英文学科，文学部日本語日本文学科，文学部現代社会学科）

令和元年度の学校基本調査によると，人文科学関係学科の私立大学の1年次の女子の人数は50,674人，5年間の平均でも50,594人と大きな変動はなく，中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

② 社会科学（文学部現代社会学科）

令和元年度の学校基本調査によると，社会科学関係学科の私立大学の1年次の女子の人数は63,504人，5年間の平均でも63,451人と大きな変動はなく，中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

③ 家政（人間生活学部人間生活学科，人間生活学部児童学科）

令和元年度の学校基本調査によると，家政関係学科の私立大学の1年次の女子の人数は15,481人，5年間の平均でも15,342人と大きな変動はなく，中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

④ 教育（人間生活学部児童学科）

令和元年度の学校基本調査によると，教育関係学科の私立大学の1年次の女子の人数は19,634人，5年間の平均でも19,316人と大きな変動はなく，中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

(ホ) 想定される競合大学の志願者動向

① 文学部英語英文学科（資料5-1）

収容定員変更を計画している文学部英語英文学科との競合が想定される国公立大学は，岡山大学文学部人文学科（入学定員175人），神戸市外国語大学外国語学部英米学科（入学定員140人），広島市立大学国際学部国際学科（入学定員100人），山口県立大学国際文化学部国際文化学科（入学定員62人）で，過去3年間の志願倍率は，3.2倍～6.2倍という数値となっている。

一方，競合が想定される私立大学は，関西外国語大学外国語学部英米語学科（入学定員1,170人），就実大学人文科学部実践英語学科（入学定員75人），安田女子大学文学部英語英米文学科（入学定員110人）で，過去3年間の志願倍率は，3.7倍～6.5倍となっており，国公立大学・私立大学ともに，18歳人口の減少期においても安定した状況で志願者数を維持している。

② 文学部日本語日本文学科（資料5-2）

収容定員変更を計画している文学部日本語日本文学科との競合が想定される国公立大学は，岡山大学文学部人文学科（入学定員175人），愛媛大学法文学部人文社会学科（入学定員275人），山口大学人文学部人文学科（入学定員185人），尾道市立大学芸術文化学部日本文学科（入学定員50人）で，過去3年間の志願倍率は，3.2倍～6.4倍と

いう数値となっている。

一方、競合が想定される私立大学は、就実大学人文科学部表現文化学科（入学定員 75 人）、安田女子大学文学部日本文学科（入学定員 90 人）、安田女子大学文学部書道学科（入学定員 30 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、2.0 倍～6.0 倍となっており、国公立大学・私立大学ともに、18 歳人口の減少期においても安定した状況で志願者数を維持している。

③ 文学部現代社会学科（資料 5-3）

収容定員変更を計画している文学部現代社会学科との競合が想定される国公立大学は、岡山大学文学部人文学科（入学定員 175 人）、岡山大学経済学部経済学科（入学定員 205 人）、香川大学経済学部経済学科（入学定員 240 人）、福山市立大学都市経営学部都市経営学科（入学定員 150 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、3.2 倍～7.2 倍という数値となっている。

一方、競合が想定される私立大学は、就実大学人文科学部総合歴史学科（入学定員 75 人）、就実大学経営学部経営学科（入学定員 80 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、3.8 倍～9.8 倍となっており、国公立大学・私立大学ともに、18 歳人口の減少期においても安定した状況で志願者数を維持している。

④ 人間生活学部人間生活学科（資料 5-4）

収容定員変更を計画している人間生活学部人間生活学科との競合が想定される国公立大学は、岡山大学文学部人文学科（入学定員 175 人）、岡山大学経済学部経済学科（入学定員 205 人）、香川大学経済学部経済学科（入学定員 240 人）、岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科＜社会福祉学専攻＞（入学定員 40 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、3.0 倍～4.6 倍という数値となっている。

一方、競合が想定される私立大学は、就実大学経営学部経営学科（入学定員 80 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、8.0 倍～9.8 倍となっており、国公立大学・私立大学ともに、18 歳人口の減少期においても安定した状況で志願者数を維持している。

⑤ 人間生活学部児童学科（資料 5-5）

収容定員変更を計画している人間生活学部児童学科との競合が想定される国公立大学は、岡山大学教育学部学校教育教員養成課程＜小学校教育コース，特別支援教育コース，幼児教育コース＞（入学定員 170 人）、香川大学教育学部学校教育教員養成課程＜幼児教育コース，小学校教育コース＞（入学定員 160 人）、岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科＜子ども学専攻＞（入学定員 20 人）、福山市立大学教育学部児童教育学科（入学定員 100 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、2.2 倍～8.9 倍という数値となっている。

一方、競合が想定される私立大学は、就実大学教育学部初等教育学科（入学定員 75 人）で、過去 3 年間の志願倍率は、8.8 倍～9.8 倍となっており、国公立大学・私立大

学ともに、18歳人口の減少期においても安定した状況で志願者数を維持している。

(カ) 専門の調査機関による進学意向調査結果（資料6）

収容定員変更に関しては、これまでの志願状況や岡山県や近隣県の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、収容定員変更の計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、岡山県や近隣県を中心に所在する高等学校の2年生の女子に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた人数は、1,015人であった。収容定員変更を計画している各学科の調査結果は後述するが、岡山県や近隣県を中心に所在する一部の高等学校の2年生の女子に限定した調査結果においても、高い進学意向を確認できたことから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

① 文学部英語英文学科

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、受験して合格したら、「文学部英語英文学科へ入学したい」と回答した者は21.3%にあたる216人となっている。また、本学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えていると答えた2,096人のうち、受験して合格したら、「文学部英語英文学科へ入学したい」と回答した者は145人（6.9%）となり、両数値とも予定している入学定員（90人）を上回る入学意向が得られた。

② 文学部日本語日本文学科

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、受験して合格したら、「文学部日本語日本文学科へ入学したい」と回答した者は14.7%にあたる149人となっている。また、本学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えていると答えた2,096人のうち、受験して合格したら、「文学部日本語日本文学科へ入学したい」と回答した者は82人（3.9%）となり、両数値とも予定している入学定員（70人）数を上回る入学意向が得られた。

③ 文学部現代社会学科

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、受験して合格したら、「文学部現代社会学科へ入学したい」と回答した者は12.3%にあたる125人となっている。また、本学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えていると答えた2,096人のうち、受験して合格したら、「文学部現代社会学科へ入学したい」と回答した者は71人（3.4%）となり、両数値とも予定している入学定員（70人）を上回る入学意向が得られた。

④ 人間生活学部人間生活学科

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、受験して合格したら、「人間生活学部人間生活学科へ入学したい」と回答した者は14.3%にあたる145人となっている。また、本学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えていると答えた2,096人のうち、受験して合格したら、「人間生活学部人間生活学科へ入学したい」と回答した者は102人(4.9%)となり、両数値とも予定している入学定員(80人)を上回る入学意向が得られた。

⑤ 人間生活学部児童学科

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、受験して合格したら、「人間生活学部児童学科へ入学したい」と回答した者は23.3%にあたる236人となっている。また、本学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えていると答えた2,096人のうち、受験して合格したら、「人間生活学部児童学科へ入学したい」と回答した者は137人(6.5%)となり、両数値とも予定している入学定員(130人)を上回る入学意向が得られた。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学は、収容定員増にあたりPR活動において定められた注意事項を順守し、志願者に誤解を与えることなく、積極的な広報活動を展開していく。

現在のスケジュールでは、本年3月に収容定員変更に係る申請を行い、その後順調に手続きが進めば、本年6月下旬に収容定員の変更が認められることとなる。収容定員変更が認可された6月下旬以降は、公式ホームページ、高校訪問、Web広告等において積極的な広報・学生募集活動を展開する。

特に、高校生向けには、4月以降に行う予定のオープンキャンパス等で、高等学校向けには、前述の高校訪問に加え、6月下旬実施予定の入試説明会等の機会を有効に活用していきたい。

また、前述の広報・学生募集活動に先行する形で、2020年度入学生から適用すべく奨学金制度を充実させた。この度の奨学金制度の充実にあたっては、自宅外学生の支援を目的にしたもの、経済支援を目的にしたもの、学業奨励を目的としたものなど多様な種類を用意した。このうち、学業奨励の「清心ブルー&ゴールド奨学金」は、本学実施の一般入学試験【前期日程】の成績優秀者に4年間の授業料を減免する制度(学部2年次以降は継続審査)とし、この入学試験合格者に多い、国公立大学との併願者を意識した奨学金とした。この奨学金の対象者は、各学科入学定員の5%程度ではあるが、これら対象者の歩留まり率向上と経済的事情から遠方の国公立大学に進学している層を獲得できるのではないかと考えている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

① 文学部英語英文学科

英語運用能力の向上とともに、英米文学、英語学・言語学及び国際コミュニケーションまた関連分野の学問を学修・研究し、さらに一般教養も身に付ける。それによって、自他双方の人生を豊かにする学生個々人の全人的人格形成をはかり、それを通して国内外において社会に貢献できる有為な人材を育成する。

② 文学部日本語日本文学科

「ことば」の様々な側面を、日本語を核とする日本文化全体の視野から見つめ直すことを目標とする。具体的には、日本語・日本文学や、書道・国語教育などの言語文化の研究を行なう。それらの研究を通して、問題意識を高め、資料を用いた論理的な方法によって課題探求をし、柔軟な思考力と判断力を養う。それによって、自らの内面と「ことば」を磨き、発信のできる人材の育成を目指す。

③ 文学部現代社会学科

現代社会の諸現象が生起する仕組みを分析する社会学と、人間社会がここに至った過程を研究する歴史学を方法的支柱として、多方面から社会について考察する。また社会学的方法と歴史学的方法をあわせ学ぶことで人間社会の過去と現在とにわたる幅広い視野を獲得すると同時に、履修コース制によっていずれかの学問領域について深く研鑽することを求め、社会に関する広範な学識と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指す。

④ 人間生活学部人間生活学科

本学の教育理念であるキリスト教精神に基づいたリベラル・アーツ・カレッジとしての位置づけを踏まえ、「人間中心の生活学」を総合的な視点から教授・研究することを学科の目的とする。人間・福祉，経営・経済，生活・環境といった広い分野の有機的連携のもとに、人間性に満ちた、幅広い教養を持ちつつ、専門性を併せ持った人材の育成を目指す。

⑤ 人間生活学部児童学科

学科の英文名称，Department of Child Welfare の示すように，子どもたちの幸福(welfare)に資するよう，心理，医学，福祉，教育，文化，芸術等の領域から多角的な視野で子どもを理解し，子どもの成長・発達を援助できる人材の育成を目的とする。あわせて，みずから考え，主体的・自発的に行動し，高いコミュニケーション能力を備えた人材の養成も目的である。このような専門性と豊かな人間性を備えたうえで，幼稚園，小学校，特別支援学校の教員免許及び保育士資格等の取得を通して，社会の要請に応え，地域に貢献する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

岡山県労働局雇用環境・均等室が公表する「岡山県の働く女性の実情」(平成31年4月)にまとめられた、総務省にて5年毎に行われる国勢調査を基にしたデータによると、岡山県における直近調査の平成27年度実施の女性労働力人口(就業者+完全失業者)は416,692人で、前回調査の平成22年度より939人増加(0.2%)した。過去5回の調査のうち、男性労働者人口は減少傾向にある中、全体で占める女性の割合は1.6ポイントの上昇に転じ、44.4%となった。その状況下において、本学では、地元岡山での就職率が平均8割を維持しており、また、国の政策として推進されている女性活躍加速の追い風を受け、今後さらに女性人材の需要の高まりが予想される。

また、本学卒業生の産業別就職者の割合として、「教育・学習支援」、「卸売・小売業」、「金融・保険」、「医療・福祉」の分野に、毎年多くの人材を輩出している。このことから、本学における教育研究並びに人材の養成の取組みは、岡山県を主とした中四国から、企業の成長や社会の発展に幅広く寄与していると考えられる。

ア. 各学部学科の求人・就職状況等

(7) 過去5年間の求人件数

本学における過去5年間の5学科に共通する求人件数の実績は、平成26年度は1,363件、平成27年度は1,127件、平成28年度は991件、平成29年度は1,169件、平成30年度は1,030件で、5年間の平均は1,136件と高い件数を保っている。

▶[過去5年間の求人件数、就職希望者数] 本学に対する求人件数と就職希望者数の推移

年 度	平成 30年度	平成 29年度	平成 28年度	平成 27年度	平成 26年度	5ヶ年 平均
求人件数(件)	1,030	1,169	991	1,127	1,363	1,136
就職希望者数(人)	458	452	458	432	459	451

また昨今、企業等における求人情報の提供方法として、就職活動支援会社(就活ナビサイト等)への委託、WebやSNSの活用への移行が加速度的に進んでいる中、本学に対して各年度における求人件数が、就職希望者数の2倍超提供されている。

これらのことから、本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえ、自立性を保ち、社会と平和のために貢献する力を身に付ける教育による人材養成及び教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものであり、収容定員を増加した場合でも、就職先の確保は十分に見込めるものである。

(4) 過去5年間の就職者数・就職率

本学では、平成26年度の実就職率が96.4%となり、就職者数500人以上の大学における実就職率ランキングで、大学全体評価での全国1位となった。さらに、同年度の学部別ランキングにおいても、本学文学部が95.0%で全国1位となった。また、平成30年度の実就職率は97.1%となり、卒業生数300人以上1,000人未満の大学において全国6

位となっている。就職率についても、これまで9年連続で98%を超える割合を継続している。

① 文学部英語英文学科

文学部英語英文学科の過去5年間の就職希望者数に対する就職者の実績は、平成26年度は就職希望者98人に対して就職者は97人で就職率は99.0%、平成27年度は就職希望者76人に対して就職者は75人で就職率は98.7%、平成28年度は就職希望者96人に対して就職者は95人で就職率は99.0%、平成29年度は就職希望者99人に対して就職者は98人で就職率は99.0%、平成30年度は就職希望者81人に対して就職者は81人で就職率は100.0%と高い就職率を示している。

▶文学部英語英文学科の過去5年間の就職状況

年 度	卒業生	就職希望者	就職決定者	就職率 (対就職希望者)	就職率 (対進学者を除く卒業生)	就職希望率
平成30年度	81	81	81	100.0	100.0	100.0
平成29年度	103	99	98	99.0	95.1	96.1
平成28年度	101	96	95	99.0	95.0	95.1
平成27年度	81	76	75	98.7	92.6	93.8
平成26年度	104	98	97	99.0	93.3	94.2
平均	94	90	89	99.1	95.2	95.8

過去5年間の代表的な就職先としては、積水ハウス、旭化成ホームズ、マイナビ、キャセイパシフィック航空、全日本空輸、日本航空、ANA大阪空港、西日本旅客鉄道、イトキンHVACソリューション東京、日本銀行、三井住友信託銀行、中国銀行、野村證券、明治安田生命保険、ANAクラウンプラザホテル、JTB、国公立学校教員、日本郵便、警視庁、岡山市消防職員などとなっており、外資系企業を含め、学科の専門分野である語学力、コミュニケーションスキルを求められる企業を中心に、業種・職種問わず優秀な資質を持った人材を輩出できていると考えられる。

② 文学部日本語日本文学科

文学部日本語日本文学科の過去5年間の就職希望者数に対する就職者の実績は、平成26年度は就職希望者67人に対して就職者は66人で就職率は98.5%、平成27年度は就職希望者69人に対して就職者は69人で就職率は100.0%、平成28年度は就職希望者73人に対して就職者は73人で就職率は100.0%、平成29年度は就職希望者79人に対して就職者は79人で就職率は100.0%、平成30年度は就職希望者74人に対して就職者は71人で就職率は95.9%と高い就職率を示している。

▶文学部日本語日本文学科の過去5年間の就職状況

年 度	卒業生	就職 希望者	就職 決定者	就職率 (対就職希望者)	就職率 (対進学者を 除く卒業生)	就職希望率
平成30年度	76	74	71	95.9	93.4	97.4
平成29年度	85	79	79	100.0	95.2	92.9
平成28年度	78	73	73	100.0	97.3	93.6
平成27年度	74	69	69	100.0	93.2	93.2
平成26年度	73	67	66	98.5	94.3	91.8
平 均	77	72	72	98.9	94.7	93.8

過去5年間の代表的な就職先としては、セキスイハイム中四国、ヤンマー農機製造、DHC、両備システムズ、日本通運、岡山トヨペット、中国銀行、農林中央金庫、三井住友海上火災、岡山県民共済生活協同組合、日本司法支援センター、岡山医学検査センター、岡山県立大学、総社市司書、国公立学校教員、日本郵便、岡山県職員、香川県職員、倉敷市職員などとなっており、幅広い民間企業だけでなく、学科の専門性を活かした公務での司書の採用もあり、優秀な資質を有する人材の輩出ができていていると考えられる。

③ 文学部現代社会学科

文学部現代社会学科の過去5年間の就職希望者数に対する就職者の実績は、平成26年度は就職希望者65人に対して就職者は65人で就職率は100.0%、平成27年度は就職希望者58人に対して就職者は58人で就職率は100.0%、平成28年度は就職希望者76人に対して就職者は74人で就職率は97.4%、平成29年度は就職希望者63人に対して就職者は63人で就職率は100.0%、平成30年度は就職希望者69人に対して就職者は68人で就職率は98.6%と高い就職率を示している。

▶文学部現代社会学科の過去5年間の就職状況

年 度	卒業生	就職 希望者	就職 決定者	就職率 (対就職希望者)	就職率 (対進学者を 除く卒業生)	就職希望率
平成30年度	74	69	68	98.6	94.4	93.2
平成29年度	66	63	63	100.0	96.9	95.5
平成28年度	81	76	74	97.4	96.1	93.8
平成27年度	62	58	58	100.0	96.7	93.6
平成26年度	68	65	65	100.0	98.5	95.6
平 均	70	66	66	99.2	96.5	94.3

過去5年間の代表的な就職先としては、東海電機、アサヒ飲料、伊藤園、カバヤ食品、今治造船、NHK岡山放送局、山陽新聞社、全日本空輸、ANAエアポートサービス、農林中央金庫、SMBC日興証券株式会社、東京海上日動火災保険、岡山県信用保証協会、三井不動産リアルティ中国、日本赤十字社岡山県支部、岡山大学、岡山市立図書館、岡山県

商工会連合会，岡山県職員，岡山県警察官，倉敷市職員などとなっており，民間企業を中心に多彩な業種・職種への優秀な資質を備えた人材輩出を実現していると考えられる。

④ 人間生活学部人間生活学科

人間生活学部人間生活学科の過去 5 年間の就職希望者数に対する就職者の実績は，平成 26 年度は就職希望者 86 人に対して就職者は 86 人で就職率は 100.0%，平成 27 年度は就職希望者 83 人に対して就職者は 82 人で就職率は 98.8%，平成 28 年度は就職希望者 77 人に対して就職者は 76 人で就職率は 98.7%，平成 29 年度は就職希望者 74 人に対して就職者は 74 人で就職率は 100.0%，平成 30 年度は就職希望者 92 人に対して就職者は 92 人で就職率は 100.0%と高い就職率を示している。

▶人間生活学部人間生活学科の過去 5 年間の就職状況

年 度	卒業者	就職希望者	就職決定者	就職率 (対就職希望者)	就職率 (対進学者を 除く卒業者)	就職希望率
平成 30 年度	92	92	92	100.0	100.0	100.0
平成 29 年度	78	74	74	100.0	94.9	94.9
平成 28 年度	83	77	76	98.7	91.6	92.8
平成 27 年度	87	83	82	98.8	94.3	95.4
平成 26 年度	88	86	86	100.0	97.7	97.7
平均	86	82	82	99.5	95.7	96.2

過去 5 年間の代表的な就職先としては，ミサワホーム中国，ライフデザイン・カバヤ，シノブフーズ，ノーリツ，富士通四国インフォテック，西日本旅客鉄道，高松三越，ゆうちょ銀行，損害保険ジャパン日本興亜，全国共済農業協同組合連合会，ANA クラウンプラザホテル，住友不動産販売，国立病院機構中国四国グループ，岡山医療生活協同組合，中国・四国地区国立大学法人，近畿日本ツーリスト中国四国，岡山ふれあい公社，岡山県警察官，岡山市職員などとなっており，民間企業だけでなく，公共性の高い業種においても，優秀な資質を備えた人材の輩出ができていていると考えられる。

⑤ 人間生活学部児童学科

人間生活学部児童学科の過去 5 年間の就職希望者数に対する就職者の実績は，平成 26 年度は就職希望者 143 人に対して就職者は 141 人で就職率は 98.6%，平成 27 年度は就職希望者 146 人に対して就職者は 146 人で就職率は 100.0%，平成 28 年度は就職希望者 136 人に対して就職者は 136 人で就職率は 100.0%，平成 29 年度は就職希望者 137 人に対して就職者は 137 人で就職率は 100.0%，平成 30 年度は就職希望者 142 人に対して就職者は 141 人で就職率は 99.3%と高い就職率を示している。

▶人間生活学部児童学科の過去5年間の就職状況

年度	卒業者	就職希望者	就職決定者	就職率 (対就職希望者)	就職率 (対進学者を 除く卒業者)	就職希望率
平成30年度	145	142	141	99.3	98.6	97.9
平成29年度	141	137	137	100.0	99.3	97.2
平成28年度	142	136	136	100.0	97.1	95.8
平成27年度	153	146	146	100.0	98.6	95.4
平成26年度	147	143	141	98.6	97.2	97.3
平均	146	141	140	99.6	98.2	96.7

人間生活学部児童学科における就職の重要な柱の1つである教育職・保育職での採用について、過去5年間、卒業者の約7割の学生が公私立の各校種等へ平均的に採用されている。就職先の内訳として、保育所112人、認定こども園27人、幼稚園92人、小学校256人、養護学校20人、合計507人と、年間平均約100人の人材を教育・保育分野に輩出している。

▶人間生活学部児童学科 各年度の種別就職人数内訳

年度	校種 区分	保育所		認定 こども園		幼稚園		小学校		特別支援 学校		合計	
		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
平成30年度	計	11	10	2	3	7	7	50	1	3	0	73	21
	合計	21		5		14		51		3		94	
平成29年度	計	12	10	5	3	18	2	42	0	3	0	80	15
	合計	22		8		20		42		3		95	
平成28年度	計	14	9	4	2	11	10	51	0	5	0	85	21
	合計	23		6		21		51		5		106	
平成27年度	計	10	11	4	1	14	4	64	0	4	0	96	16
	合計	21		5		18		64		4		112	
平成26年度	計	13	12	3	0	14	5	48	0	5	0	83	17
	合計	25		3		19		48		5		100	
5ヶ年 総計	計	60	52	18	9	64	28	255	1	20	0	417	90
	合計	112		27		92		256		20		507	

また、教育職・保育職採用のほか、過去5年間の代表的な就職先としては、セキスイハイム中四国、トンボ、日本通運、中国銀行、農林中央金庫、日本生命保険、アサヒファシリティズ、エイチ・アイ・エス、ANAクラウンプラザホテル、大原記念倉敷中央病院機構、日本郵便、中国地方整備局、岡山県職員などとなっており、民間企業等においても業種・職種問わず、優れた資質を持つ人材を輩出できていると考えられる。

(ウ) 企業等への採用動向に関するアンケート調査に基づく人材需要

本学卒業生における今後の就職の動向、並びに社会の人材需要を客観的に判断するため、令和元年11月から12月にかけて、第三者機関（株式会社進研アド）によるアンケート調査を実施した。調査にあたり、過去5年間における本学卒業生の採用実績のある企業・団体等695社の採用担当者宛に送付して行った。

主な質問項目は、「本年度の採用予定数」「採用したい学問分野」の採用動向、『「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度』、『「文学部」「人間生活学部」の社会的必要性』、『「文学部」「人間生活学部」卒業生に対する採用意向』などとし、選択肢式10問、記述式1問の合計11問とした。695社の企業・団体等に依頼し、294社（42.3%）の有効回答を得た。第三者機関による調査結果の詳細報告は、資料7のとおりである。各学科における回答内容等その要点は、次のとおりである。

① 文学部英語英文学科

文学部英語英文学科については、入学定員90人に対し、回答企業等294社のうち、227社（94.2%）から社会的必要性として「必要だと思う」、また、卒業生に対する採用意向として228社（77.6%）から「採用したいと思う」の回答を得た。採用意向を示した企業等の採用想定人数は合計329人であり、入学定員90人の約3.7倍となっている。

② 文学部日本語日本文学科

文学部日本語日本文学科については、入学定員70人に対し、回答企業等294社のうち、258社（87.8%）から社会的必要性として「必要だと思う」、また、卒業生に対する採用意向として214社（72.8%）から「採用したいと思う」の回答を得た。採用意向を示した企業等の採用想定人数は合計305人であり、入学定員70人の約4.4倍となっている。

③ 文学部現代社会学科

文学部現代社会学科については、入学定員70人に対し、回答企業等294社のうち、263社（89.5%）から社会的必要性として「必要だと思う」、また、卒業生に対する採用意向として224企業（76.2%）から「採用したいと思う」の回答を得た。採用意向を示した企業等の採用想定人数は合計319人であり、入学定員70人の約4.6倍となっている。

④ 人間生活学部人間生活学科

人間生活学部人間生活学科については、入学定員80人に対し、回答企業等294社のうち、271社（92.2%）から社会的必要性として「必要だと思う」、また、卒業生に対する採用意向として242企業（82.3%）から「採用したいと思う」の回答を得た。採用意向を示した企業等の採用想定人数は合計368人であり、入学定員80人の約4.6倍となっている。

⑤ 人間生活学部児童学科

人間生活学部児童学科については、入学定員 130 人に対し、回答企業等 294 社のうち、279 社 (94.9%) から社会的必要性として「必要だと思う」、また、卒業生に対する採用意向として 218 企業 (74.1%) から「採用したいと思う」の回答を得た。採用意向を示した企業等の採用想定人数は合計 310 人であり、入学定員 130 人の約 2.4 倍となっている。

以上のように、収容定員変更を計画している 5 学科について、高等学校の 2 年生の女子に限定した調査結果において本学への高い進学意向を確認できたことから、学生確保については十分な見通しがあると考えられる。

また、過去 5 年間に本学卒業生の採用実績のある企業・団体等に絞って実施した人材需要の調査結果においても 5 学科について高い採用意向が確認できた。

これらのことから、収容定員変更を計画している 5 学科の学生確保及び人材需要についての見通しについては十分な確証を得られた。

(資料1) 過去5年間の志願者数等の状況

◎現状の入学定員

● 文学部 英語英文学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	80	80	80	80	80	80
志願者数 (b)	362	430	402	353	418	393
受験者数	357	421	395	352	415	388
合格者数	166	195	216	226	223	205
入学者数 (c)	85	90	102	108	88	95
志願倍率 (b/a)	4.5	5.4	5.0	4.4	5.2	4.9
入学定員定員充足率 (c/a)	1.06	1.12	1.27	1.35	1.10	1.18

● 文学部 日本語日本文学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	60	60	60	60	60	60
志願者数 (b)	262	356	310	325	242	299
受験者数	261	350	309	321	240	296
合格者数	135	123	152	165	156	146
入学者数 (c)	70	56	69	81	81	71
志願倍率 (b/a)	4.4	5.9	5.2	5.4	4.0	5.0
入学定員定員充足率 (c/a)	1.16	0.93	1.15	1.35	1.35	1.18

● 文学部 現代社会学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	60	60	60	60	60	60
志願者数 (b)	341	438	419	349	326	375
受験者数	339	432	413	344	322	370
合格者数	138	170	202	207	162	176
入学者数 (c)	77	72	95	69	76	78
志願倍率 (b/a)	5.7	7.3	7.0	5.8	5.4	6.2
入学定員定員充足率 (c/a)	1.28	1.20	1.58	1.15	1.26	1.29

● 人間生活学部 人間生活学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	70	70	70	70	70	70
志願者数 (b)	280	402	431	296	324	347
受験者数	279	400	425	293	321	344
合格者数	122	127	146	164	143	140
入学者数 (c)	81	76	89	88	90	85
志願倍率 (b/a)	4.0	5.7	6.2	4.2	4.6	5.0
入学定員定員充足率 (c/a)	1.15	1.08	1.27	1.25	1.28	1.20

● 人間生活学部 児童学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	120	120	120	120	120	120
志願者数 (b)	468	650	684	554	605	592
受験者数	459	643	677	549	599	585
合格者数	243	269	302	302	295	282
入学者数 (c)	128	137	159	147	150	144
志願倍率 (b/a)	3.9	5.4	5.7	4.6	5.0	4.9
入学定員定員充足率 (c/a)	1.06	1.14	1.32	1.22	1.25	1.19

※ 志願倍率の単位は倍，小数点以下第1位（第2位を四捨五入）

※ 入学定員充足率の単位は倍，小数点以下第2位（第3位を切捨て）

◎収容定員変更後の入学定員で試算

● 文学部 英語英文学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	90	90	90	90	90	90
志願者数 (b)	362	430	402	353	418	393
受験者数	357	421	395	352	415	388
合格者数	166	195	216	226	223	205
入学者数 (c)	85	90	102	108	88	95
志願倍率 (b/a)	4.0	4.8	4.5	3.9	4.6	4.4
入学定員定員充足率 (c/a)	0.94	1.00	1.13	1.20	0.97	1.04

● 文学部 日本語日本文学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	70	70	70	70	70	70
志願者数 (b)	262	356	310	325	242	299
受験者数	261	350	309	321	240	296
合格者数	135	123	152	165	156	146
入学者数 (c)	70	56	69	81	81	71
志願倍率 (b/a)	3.7	5.1	4.4	4.6	3.5	4.3
入学定員定員充足率 (c/a)	1.00	0.80	0.98	1.15	1.15	1.01

● 文学部 現代社会学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	70	70	70	70	70	70
志願者数 (b)	341	438	419	349	326	375
受験者数	339	432	413	344	322	370
合格者数	138	170	202	207	162	176
入学者数 (c)	77	72	95	69	76	78
志願倍率 (b/a)	4.9	6.3	6.0	5.0	4.7	5.4
入学定員定員充足率 (c/a)	1.10	1.02	1.35	0.98	1.08	1.10

● 人間生活学部 人間生活学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	80	80	80	80	80	80
志願者数 (b)	280	402	431	296	324	347
受験者数	279	400	425	293	321	344
合格者数	122	127	146	164	143	140
入学者数 (c)	81	76	89	88	90	85
志願倍率 (b/a)	3.5	5.0	5.4	3.7	4.1	4.3
入学定員定員充足率 (c/a)	1.01	0.95	1.11	1.10	1.12	1.05

● 人間生活学部 児童学科 志願・入学状況 (単位：人)

	平成31年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成28年度 (2016年度)	平成27年度 (2015年度)	5年間平均
入学定員 (a)	130	130	130	130	130	130
志願者数 (b)	468	650	684	554	605	592
受験者数	459	643	677	549	599	585
合格者数	243	269	302	302	295	282
入学者数 (c)	128	137	159	147	150	144
志願倍率 (b/a)	3.6	5.0	5.3	4.3	4.7	4.6
入学定員定員充足率 (c/a)	0.98	1.05	1.22	1.13	1.15	1.10

※ 志願倍率の単位は倍，小数点以下第1位（第2位を四捨五入）

※ 入学定員充足率の単位は倍，小数点以下第2位（第3位を切捨て）

(資料2) 過去5年間の志願者・合格者・入学者数 (県別)

岡山県及び近隣県の志願者推移

(単位：人)

入学年度	合計 人数	岡山県		香川県		広島県		愛媛県		兵庫県		山口県		その他	
		人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率
平成 31年度	1,904	1,481	77.8%	219	11.5%	67	3.5%	39	2.0%	19	1.0%	13	0.7%	66	3.5%
平成 30年度	2,437	1,874	76.9%	276	11.3%	96	3.9%	37	1.5%	30	1.2%	22	0.9%	102	4.2%
平成 29年度	2,429	1,868	76.9%	261	10.7%	117	4.8%	39	1.6%	18	0.7%	25	1.0%	101	4.2%
平成 28年度	2,095	1,587	75.8%	245	11.7%	97	4.6%	26	1.2%	40	1.9%	20	1.0%	80	3.8%
平成 27年度	2,192	1,735	79.2%	209	9.5%	82	3.7%	29	1.3%	40	1.8%	19	0.9%	78	3.6%

岡山県及び近隣県の合格者推移

(単位：人)

入学年度	合計 人数	岡山県		香川県		広島県		愛媛県		兵庫県		山口県		その他	
		人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率
平成 31年度	942	759	80.6%	87	9.2%	24	2.5%	20	2.1%	10	1.1%	6	0.6%	36	3.8%
平成 30年度	1,022	827	80.9%	88	8.6%	29	2.8%	17	1.7%	9	0.9%	11	1.1%	41	4.0%
平成 29年度	1,161	958	82.5%	85	7.3%	46	4.0%	13	1.1%	11	0.9%	11	0.9%	37	3.2%
平成 28年度	1,206	993	82.3%	108	9.0%	42	3.5%	12	1.0%	16	1.3%	9	0.7%	26	2.2%
平成 27年度	1,126	962	85.4%	78	6.9%	26	2.3%	9	0.8%	12	1.1%	8	0.7%	31	2.8%

岡山県及び近隣県の入学者推移

(単位：人)

入学年度	合計 人数	岡山県		香川県		広島県		愛媛県		兵庫県		山口県		その他	
		人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率	人数	占有率
平成 31年度	526	423	80.4%	51	9.7%	12	2.3%	9	1.7%	5	1.0%	3	0.6%	23	4.4%
平成 30年度	514	402	78.2%	53	10.3%	10	1.9%	14	2.7%	4	0.8%	6	1.2%	25	4.9%
平成 29年度	591	479	81.0%	52	8.8%	16	2.7%	11	1.9%	6	1.0%	5	0.8%	22	3.7%
平成 28年度	584	455	77.9%	70	12.0%	18	3.1%	9	1.5%	9	1.5%	5	0.9%	18	3.1%
平成 27年度	576	474	82.3%	53	9.2%	11	1.9%	4	0.7%	9	1.6%	7	1.2%	18	3.1%

(資料3) 岡山県と近隣県の女子生徒の状況

高等学校及び中学校の女子の在籍者数 (令和元年5月1日現在)

(単位：人)

	高3女子		高2女子		高1女子		中3女子		中2女子		中1女子	
	(令和2年度入試)	8,540	(令和3年度入試)	8,574	(令和4年度入試)	8,421	(令和5年度入試)	8,290	(令和6年度入試)	7,923	(令和7年度入試)	8,169
岡山県	4,235	4,233	4,184	4,395	4,273	4,233	4,233	4,233	4,233	4,233	4,233	4,233
香川県	11,644	11,452	11,817	12,220	11,790	12,237	12,237	12,237	12,237	12,237	12,237	12,237
広島県	5,417	5,226	5,384	5,537	5,259	5,423	5,423	5,423	5,423	5,423	5,423	5,423
愛媛県	22,712	22,459	22,431	23,864	22,750	23,388	23,388	23,388	23,388	23,388	23,388	23,388
兵庫県	5,533	5,443	5,336	5,618	5,423	5,516	5,516	5,516	5,516	5,516	5,516	5,516
山口県	58,081	57,387	57,573	59,924	57,418	58,966	58,966	58,966	58,966	58,966	58,966	58,966
合計												

出典：「令和元年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

中学校卒業後の女子の状況 (平成31年3月卒業者) (単位：人)

	卒業者総数	高等学校等進学者	高等学校等進学者率
岡山県	8,525	8,433	98.9%
香川県	4,362	4,316	98.9%
広島県	12,586	12,425	98.7%
愛媛県	5,653	5,613	99.3%
兵庫県	24,269	24,014	98.9%
山口県	5,764	5,681	98.6%
合計	61,159	60,482	98.9%

出典：「令和元年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

高等学校卒業者の女子の大学進学率 (最近3か年分)

(単位：人)

	平成31年3月卒業			平成30年3月卒業			平成29年3月卒業		
	卒業者総数	大学への進学者	大学進学率	卒業者総数	大学への進学者	大学進学率	卒業者総数	大学への進学者	大学進学率
岡山県	8,556	3,935	46.0%	8,505	3,913	46.0%	8,671	3,934	45.4%
香川県	4,287	1,921	44.8%	4,300	1,923	44.7%	4,317	1,914	44.3%
広島県	11,513	6,443	56.0%	11,528	6,500	56.4%	11,808	6,537	55.4%
愛媛県	5,297	2,419	45.7%	5,530	2,462	44.5%	5,699	2,480	43.5%
兵庫県	23,047	13,113	56.9%	23,418	13,243	56.6%	23,866	13,151	55.1%
山口県	5,578	2,106	37.8%	5,638	2,121	37.6%	5,693	2,118	37.2%

出典：「令和元年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

出典：「平成30年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

出典：「平成29年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

(資料4) 私立大学の関係学科別学生数（1年次）と収容定員変更予定学科

区	分	収容定員変更予定学科				1年次（令和元年度）		1年次（平成30年度）		1年次（平成29年度）		1年次（平成28年度）		1年次（平成27年度）		5年間平均	
		文学部英語英文学科	文学部日本語日文学科	文学部現代社会学科	人間生活学部人間生活学科	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女
人	文	●	●			77,634	50,674	78,548	51,715	77,550	50,717	76,567	49,937	76,408	49,925	77,341	50,594
社	会		●			180,199	63,504	182,200	63,959	185,194	65,150	181,434	62,868	180,282	61,774	181,862	63,451
家	政				●	17,328	15,481	17,083	15,354	16,999	15,353	16,735	15,100	17,202	15,423	17,069	15,342
教	育				●	32,637	19,634	32,098	19,357	32,047	19,532	30,892	18,794	31,369	19,264	31,809	19,316

(単位：人)

出典：「令和元年度学校基本調査報告書」(文部科学省)
 出典：「平成30年度学校基本調査報告書」(文部科学省)
 出典：「平成29年度学校基本調査報告書」(文部科学省)
 出典：「平成28年度学校基本調査報告書」(文部科学省)
 出典：「平成27年度学校基本調査報告書」(文部科学省)

資料5 想定される競合大学の志願者動向

(資料5-1) 想定される競合大学の志願者動向 (文学部英語英文学科)

岡山大学 (国立)

文学部 2019年新生の男女比率 男31%・女69%

学部/学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/人文学科	2019	175	169	566	412	185	3.3
	2018		169	596	432	188	3.5
	2017		171	545	392	183	3.2

神戸市外国語大学 (公立)

外国語学部 2019年新生の男女比率 男31%・女69%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
外国語学部/英米学科	2019	140	140	630	431	155	4.5
	2018		140	472	339	158	3.4
	2017		140	728	496	160	5.2

広島市立大学 (公立)

国際学部 2019年新生の男女比率 男27%・女73%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
国際学部/国際学科	2019	100	100	347	276	116	3.5
	2018		100	620	447	119	6.2
	2017		100	559	410	116	5.6

山口県立大学 (公立)

国際文化学部 2019年新生の男女比率 男26%・女74%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
国際文化学部/国際文化学科	2019	62	62	218	126	73	3.5
	2018		62	205	140	72	3.3
	2017		62	234	167	69	3.8

関西外国語大学 (私立)

外国語学部 2019年新生の男女比率 男35%・女65%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
外国語学部/英米語学科	2019	1,170	1,170	7,365	7,289	2,057	6.3
	2018		1,170	7,214	7,178	2,103	6.2
	2017		1,170	7,311	7,212	2,140	6.2

就実大学 (私立)

人文科学部 2019年新生の男女比率 男33%・女67%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
人文科学部/実践英語学科	2019	75	75	390	389	177	5.2
	2018		75	335	334	207	4.5
	2017		75	287	284	181	3.8

安田女子大学 (私立)

文学部 2019年新生の男女比率 女100%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/英語英米文学科	2019	110	95	485	474	274	5.1
	2018		95	616	597	319	6.5
	2017		95	354	344	300	3.7

※ 募集人員, 志願者, 受験者, 合格者は, 各大学の入試方式の集計値

出典: 「大学受験パスナビ」サイト (株式会社旺文社)

(資料5-2) 想定される競合大学の志願者動向 (文学部日本語日本文学科)

岡山大学 (国立)

文学部 2019年新生の男女比率 男31%・女69%

学部/学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/人文学科	2019	175	169	566	412	185	3.3
	2018		169	596	432	188	3.5
	2017		171	545	392	183	3.2

愛媛大学 (国立)

法文学部 (昼間主コース) 2019年新生の男女比率 男39%・女61%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
法文学部 (昼間主コース) / 人文社会学科	2019	275	275	1,241	825	321	4.5
	2018		275	1,075	706	322	3.9
	2017		275	1,027	677	318	3.7

山口大学 (国立)

人文学部 2019年新生の男女比率 男38%・女62%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
人文学部/人文学科	2019	185	185	906	571	206	4.9
	2018		185	1,028	716	236	5.6
	2017		185	767	509	220	4.1

尾道市立大学 (公立)

芸術文化学部 2019年新生の男女比率 男22%・女78%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
芸術文化学部/日本文学科	2019	50	50	312	226	64	6.2
	2018		50	321	228	68	6.4
	2017		50	322	231	68	6.4

就実大学 (私立)

人文学部 2019年新生の男女比率 男33%・女67%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
人文学部/表現文化学科	2019	75	75	448	445	149	6.0
	2018		75	387	387	213	5.2
	2017		75	295	294	194	3.9

安田女子大学 (私立)

文学部 2019年新生の男女比率 女100%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/日本文学科	2019	90	80	411	400	262	5.1
	2018		80	394	384	228	4.9
	2017		80	384	375	287	4.8
文学部/書道学科	2019	30	21	57	55	32	2.7
	2018		23	59	56	39	2.6
	2017		21	43	41	35	2.0

※ 募集人員, 志願者, 受験者, 合格者は, 各大学の入試方式の集計値

出典: 「大学受験パスナビ」サイト (株式会社旺文社)

(資料5-3) 想定される競合大学の志願者動向 (文学部現代社会学科)

岡山大学 (国立) 文学部 2019年新生の男女比率 男31%・女69%

学部/学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/人文学科	2019	175	169	566	412	185	3.3
	2018		169	596	432	188	3.5
	2017		171	545	392	183	3.2

岡山大学 (国立) 経済学部 (昼間コース) 2019年新生の男女比率 男48%・女52%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経済学部/経済学科 (昼間コース)	2019	205	198	656	499	219	3.3
	2018		198	657	489	217	3.3
	2017		201	699	545	225	3.5

香川大学 (国立) 経済学部 (昼間コース) 2019年新生の男女比率 男49%・女51%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経済学部 (昼間コース)/経済学科	2019	240	240	893	640	268	3.7
	2018		240	822	605	273	3.4
	2017		280	1,232	820	317	4.4

福山市立大学 (公立) 都市経営学部 2019年新生の男女比率 男58%・女42%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
都市経営学部/都市経営学科	2019	150	150	776	493	201	5.2
	2018		150	1,081	655	186	7.2
	2017		150	800	509	206	5.3

就実大学 (私立) 人文科学部 2019年新生の男女比率 男33%・女67%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
人文科学部/総合歴史学科	2019	75	75	388	387	165	5.2
	2018		75	307	307	208	4.1
	2017		75	283	281	176	3.8

就実大学 (私立) 経営学部 2019年新生の男女比率 男38%・女62%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経営学部/経営学科	2019	80	80	782	777	173	9.8
	2018		80	741	736	195	9.3
	2017		80	641	634	210	8.0

※ 募集人員, 志願者, 受験者, 合格者は, 各大学の入試方式の集計値

出典: 「大学受験パスナビ」サイト (株式会社旺文社)

(資料5-4) 想定される競合大学の志願者動向 (人間生活学部人間生活学科)

岡山大学 (国立) 文学部 2019年新生の男女比率 男31%・女69%

学部/学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
文学部/人文学科	2019	175	169	566	412	185	3.3
	2018		169	596	432	188	3.5
	2017		171	545	392	183	3.2

岡山大学 (国立) 経済学部 (昼間コース) 2019年新生の男女比率 男48%・女52%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経済学部/経済学科 (昼間コース)	2019	205	198	656	499	219	3.3
	2018		198	657	489	217	3.3
	2017		201	699	545	225	3.5

香川大学 (国立) 経済学部 (昼間コース) 2019年新生の男女比率 男49%・女51%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経済学部 (昼間コース)/経済学科	2019	240	240	893	640	268	3.7
	2018		240	822	605	273	3.4
	2017		280	1,232	820	317	4.4

岡山県立大学 (公立) 保健福祉学部 2019年新生の男女比率 男4%・女96%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
保健福祉学部/保健福祉学科 (社会福祉学専攻)	2019	40	40	182	115	48	4.6
	2018		40	152	97	50	3.8
	2017		40	119	82	46	3.0

就実大学 (私立) 経営学部 2019年新生の男女比率 男38%・女62%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
経営学部/経営学科	2019	80	80	782	777	173	9.8
	2018		80	741	736	195	9.3
	2017		80	641	634	210	8.0

※ 募集人員, 志願者, 受験者, 合格者は, 各大学の入試方式の集計値

出典: 「大学受験パスナビ」サイト (株式会社旺文社)

(資料5-5) 想定される競合大学の志願者動向 (人間生活学部児童学科)

岡山大学 (国立)

教育学部 2019年新入生の男女比率 男32%・女68%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
教育学部/学校教育教員養成課程 (小学校教育コース) 教育学部/学校教育教員養成課程 (特別支援教育コース) 教育学部/学校教育教員養成課程 (幼児教育コース)	2019	170	168	437	407	174	2.6
	2018		168	375	338	175	2.2
	2017		165	376	343	178	2.3

香川大学 (国立)

教育学部 2019年新入生の男女比率 男42%・女58%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
教育学部/学校教育教員養成課程 (幼児教育コース) 教育学部/学校教育教員養成課程 (小学校教育コース)	2019	160	115	386	292	119	3.4
	2018		115	377	275	124	3.3
	2017		115	550	395	123	4.8

岡山県立大学 (公立)

保健福祉学部 2019年新入生の男女比率 男4%・女96%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
保健福祉学部/保健福祉学科 (子ども学専攻)	2019	20	20	80	59	22	4.0
	2018		20	103	80	21	5.2
	2017		20	90	65	23	4.5

福山市立大学 (公立)

教育学部 2019年新入生の男女比率 男26%・女74%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
教育学部/児童教育学科	2019	100	100	724	457	114	7.2
	2018		100	736	424	115	7.4
	2017		100	890	546	119	8.9

就実大学 (私立)

教育学部 2019年新入生の男女比率 男11%・女89%

学部学科	入試年度	入学定員 (人)	募集人員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	志願者/募集人員 (倍)
教育学部/初等教育学科	2019	75	75	738	733	219	9.8
	2018		75	721	719	251	9.6
	2017		75	661	656	228	8.8

※ 募集人員, 志願者, 受験者, 合格者は, 各大学の入試方式の集計値

出典: 「大学受験パスナビ」サイト (株式会社旺文社)

ノートルダム清心女子大学
「文学部」「人間生活学部」
入学定員増に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和2年2月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2021年4月開設予定のノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」入学定員増に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生の女子生徒
調査エリア		岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	6,937人(61校)
	有効回収数 (回収校数)	4,606人(56校) 有効回収率:66.4%
調査時期		2019年11月12日(火)～2019年12月26日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別
・高校種別
・高校所在地
・所属クラス
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問分野
・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度
・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向
・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、ノートルダム清心女子大学の入学定員増に対する需要を確認するための調査として設計。ノートルダム清心女子大学の主な学生募集エリアである岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県に所在する高校の高校2年生の女子生徒に調査を実施し、4,606人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が71.3%、「私立」が28.7%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」が49.3%で最も多い。次に「香川県」が26.8%、「広島県」が20.1%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が76.0%を占め、最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が10.7%、「その他」が6.7%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問分野

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が55.4%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が45.5%、「専門学校・専修学校に進学」が17.8%と続く。私立大学への進学志望者も多いことから、ノートルダム清心女子大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「外国語学・日本語学・言語学」が19.0%で最も高い。次いで「心理学」が18.8%、「看護・保健学」が18.6%と続く。そのほか、「経済・経営・商学」(17.8%)や「教員養成・教育学」(17.2%)も高い。

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

- ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度(※)は、全ての項目で6割を超える。
- 文学部で最も魅力度が高いのは、「A.【文学部 英語英文学科】英語のネイティブ教員による英語のみでの授業、少人数の授業を通して、英語のコミュニケーション力を高め、実践の場で主体的に英語を応用し、世界に向けて情報発信をしていく力を身につけます。」(78.2%)である。次に魅力度が高いのは、「B.【文学部 日本語日本文学科】「日本文学」「日本語学」「言語文化」の3つの分野を通して、サブカルチャーを含む日本文化を幅広く学び、国際化時代において日本文化を理解し、発信できる人材を育成します。」(73.9%)、さらに「C.【文学部 現代社会学科】現代社会のしくみや問題を分析する「社会学」と今日にいたるまでの社会の歴史を探究する「歴史学」を組み合わせた全国でもめずらしい学びを提供。分野を横断しながら多面的に社会現象を捉える力を身につけます。」(68.8%)と続く。
- 人間生活学部で最も魅力度が高いのは、「E.【人間生活学部 児童学科】児童学6領域(心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、音楽、美術)を幅広く学び、さらにキャンパス内の幼稚園・小学校での実習・実技を数多く取り入れ、プロフェッショナルにふさわしい資質・能力を身につけます。」(77.7%)である。次に魅力度が高いのは、「D.【人間生活学部 人間生活学科】家族・福祉・環境・経済などの諸問題と向き合いながら、人間生活学や社会福祉、経済・経営について学び、幅広い分野で活躍できる総合的な知識と、社会の要請にこたえる実践力を身につけます。」(75.5%)、さらに「F.【人間生活学部 食品栄養学科】実験や実習は少人数のグループで実施し、授業理解や思考力を高めます。適切な栄養指導を行える専門知識と技術を身につけ「人間の栄養学」を根本から理解した管理栄養士、栄養教諭をめざします。」(74.6%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向

- ・ノートルダム清心女子大学「文学部」または「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた人は22.0% (1,015人)である。

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への入学意向(第一希望)

- ・ノートルダム清心女子大学「文学部」または「人間生活学部」を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、ノートルダム清心女子大学を受験して合格したら、第一希望で入学したい学部・学科の結果は、以下の通り。

文学部 英語英文学科：21.3%(216人)

文学部 日本語日本文学科：14.7%(149人)

文学部 現代社会学科：12.3%(125人)

人間生活学部 人間生活学科：14.3%(145人)

人間生活学部 児童学科：23.3%(236人)

人間生活学部 食品栄養学科：13.8%(140人)

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への入学意向(第二希望)

- ・ノートルダム清心女子大学を「受験したいと思う」と答えた1,015人のうち、ノートルダム清心女子大学を受験して合格したら、第二希望で入学したい学部・学科の結果は、以下の通り。

文学部 英語英文学科：9.6%(97人)

文学部 日本語日本文学科：15.5%(157人)

文学部 現代社会学科：12.8%(130人)

人間生活学部 人間生活学科：25.0%(254人)

人間生活学部 児童学科：13.9%(141人)

人間生活学部 食品栄養学科：10.5%(107人)

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」への 入学意向者数(第一志望)

※ここからは、ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「英語英文学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向(第一志望)は4.7%(216人)で、予定されている入学定員90人を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」の高校在籍者からの入学意向(第一志望)は6.1%(2,271人中、139人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ノートルダム清心女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向(第一志望)は6.9%(2,096人中、145人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 「文学部 英語英文学科」の学びと関連が深い「外国語学・日本語学・言語学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は19.6%(874人中、171人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。同じく、「文学部 英語英文学科」の学びと関連がある「国際関係学(国際経済、国際政治、国際文化など)」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は19.0%(599人中、114人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向(第一志望)は6.0%(3,602人中、**216人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」への 入学意向者数(第一志望)

※ここからは、ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「日本語日本文学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向(第一志望)は3.2%(149人)で、予定されている入学定員70人を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」の高校在籍者からの入学意向(第一志望)は4.0%(2,271人中、91人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ノートルダム清心女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向(第一志望)は3.9%(2,096人中、82人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 「文学部 日本語日本文学科」の学びと関連が深い「日本文学・外国文学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は19.5%(630人中、123人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向(第一志望)は4.3%(3,403人中、148人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」への 入学意向者数(第一志望)

※ここからは、ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「現代社会学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向(第一志望)は2.7%(125人)で、予定されている入学定員70人を上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」の高校在籍者からの入学意向(第一志望)は4.0%(2,271人中、91人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ノートルダム清心女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向(第一志望)は3.4%(2,096人中、71人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 「文学部 現代社会学科」の学びと関連が深い「歴史学・考古学・地理学・民族学・文化学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は13.6%(383人中、52人)、「社会学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は17.8%(338人中、60人)と、高い意向率がみられた。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向(第一志望)は3.9%(3,168人中、123人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」への 入学意向者数(第一志望)

※ここからは、ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「人間生活学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向(第一志望)は3.1%(145人)で、予定されている入学定員80人を上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」の高校在籍者からの入学意向(第一志望)は4.1%(2,271人中、**94人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ノートルダム清心女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向(第一志望)は4.9%(2,096人中、**102人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は5.4%(822人中、**44人**)、「社会福祉学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は11.5%(260人中、**30人**)、「生活科学・住居学・被服学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は17.5%(229人中、**40人**)と、学科の学びと関連の深い学問分野に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は高い意向率がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向(第一志望)は4.0%(3,478人中、**138人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」への 入学意向者数(第一志望)

※ここからは、ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「児童学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向(第一志望)は5.1%(236人)で、予定されている入学定員130人を上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」の高校在籍者からの入学意向(第一志望)は6.5%(2,271人中、147人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ノートルダム清心女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向(第一志望)は6.5%(2,096人中、137人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 「教員養成・教育学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は18.3%(793人中、145人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。また、「児童学」に興味がある回答者の入学意向(第一志望)は25.8%(643人中、166人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別

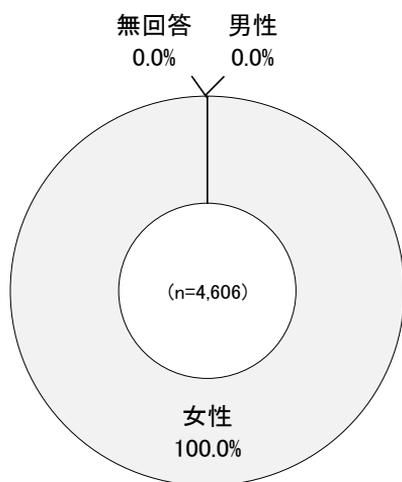
- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向(第一志望)は6.6%(3,579人中、236人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

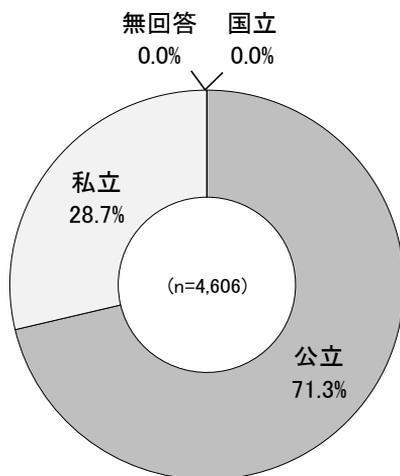


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

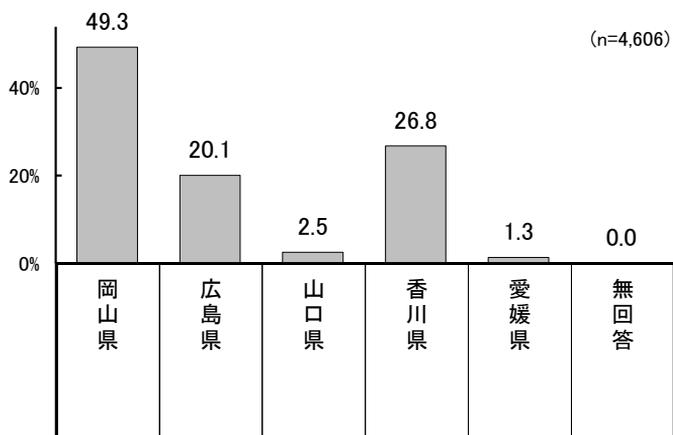
■性別



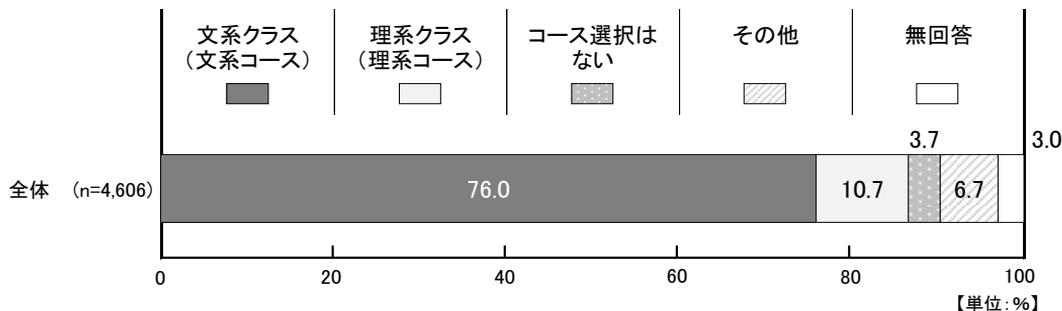
■高校種別



■高校所在地



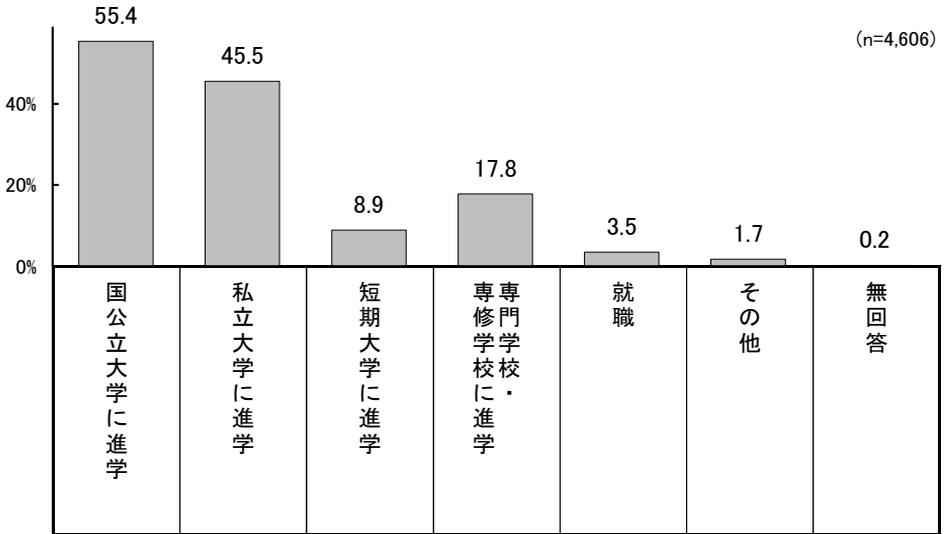
■所属クラス



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

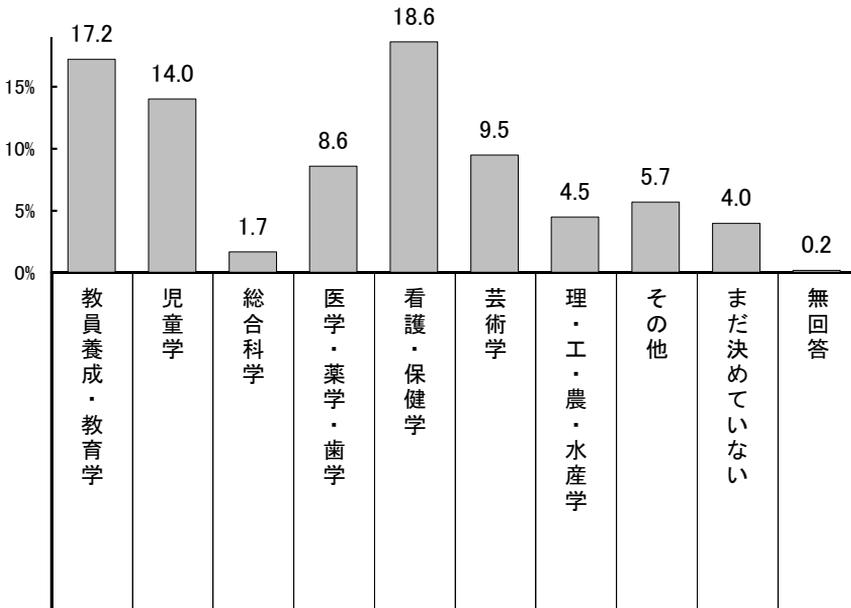
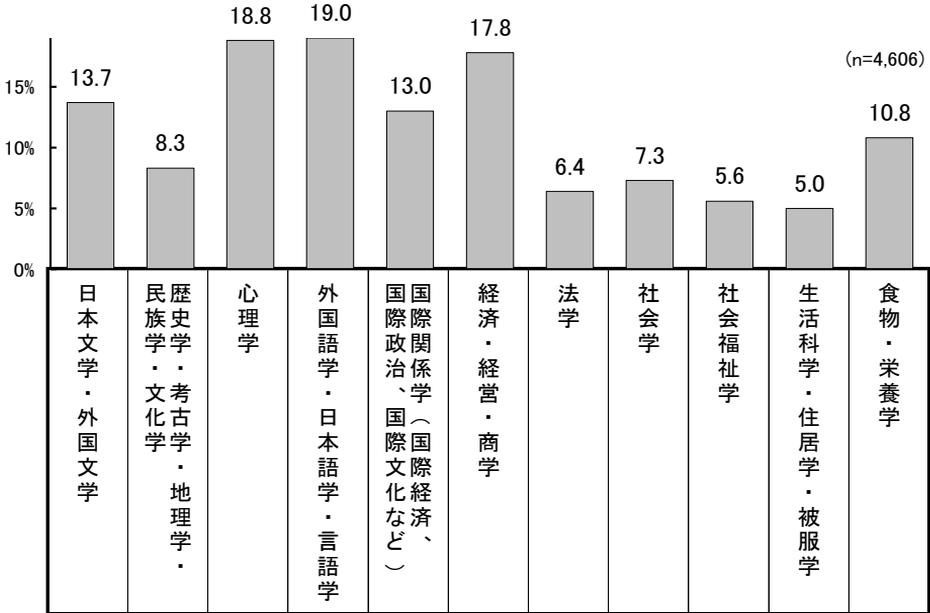


興味のある学問分野

■興味のある学問分野

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。

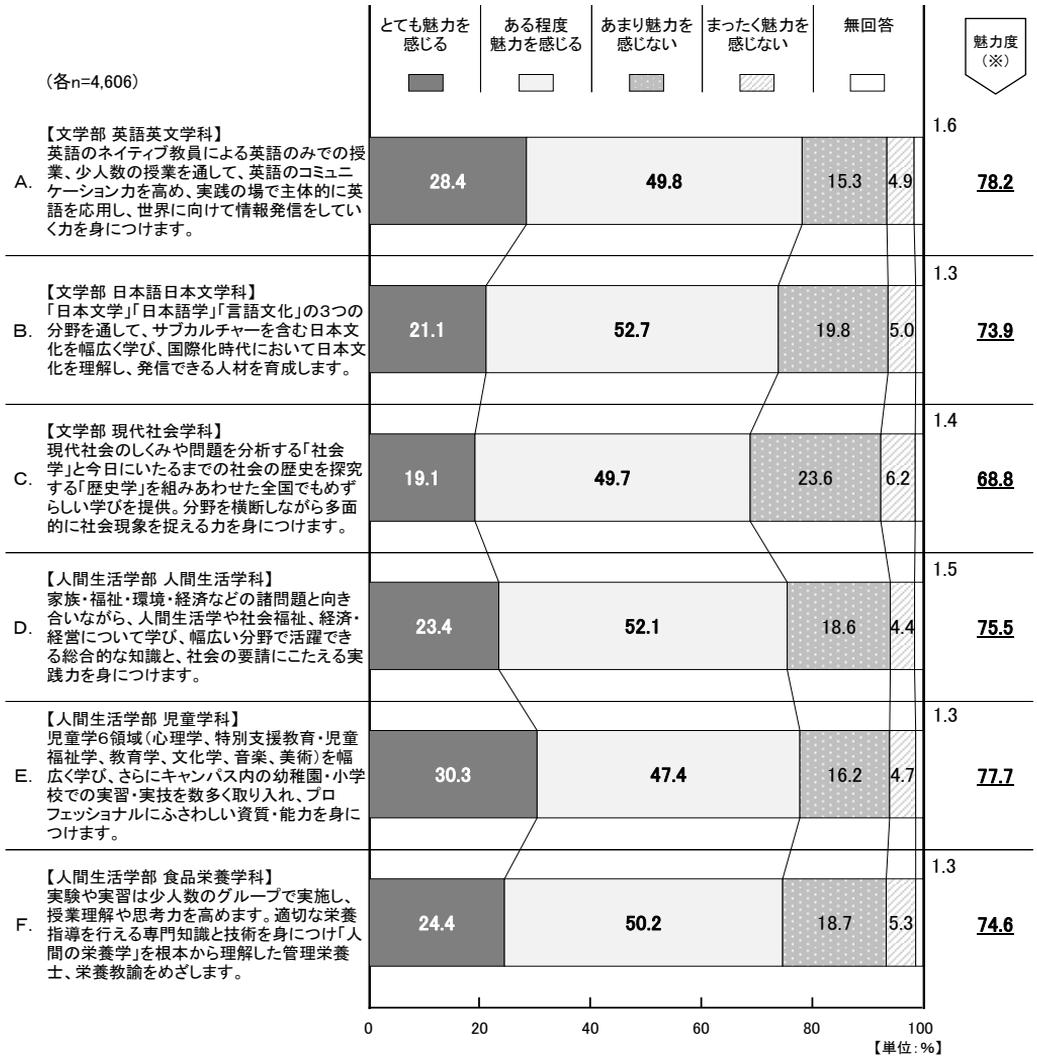
以下の項目から、興味のある学問分野の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

Q3. ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



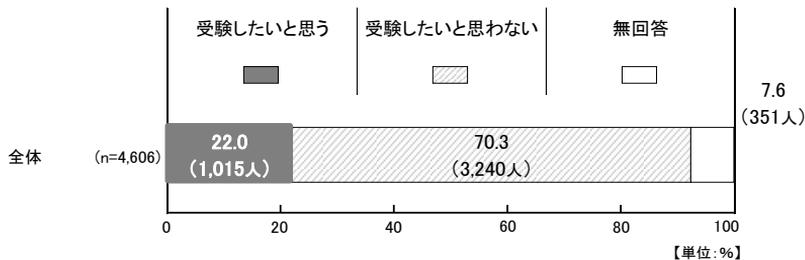
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向／入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向

Q4. あなたは、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

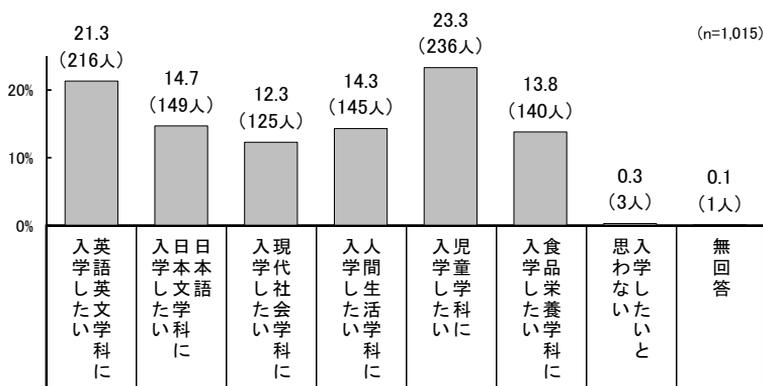


「受験したいと思う」と答えた1,015人のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への入学意向

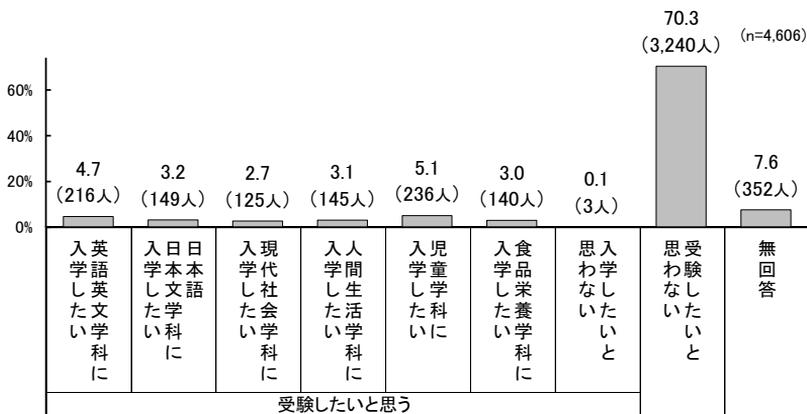
Q5. あなたは、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。第2希望まで教えてください。

(入学したい学科がない場合は、「⑦入学したいと思わない」に○をつけてください)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

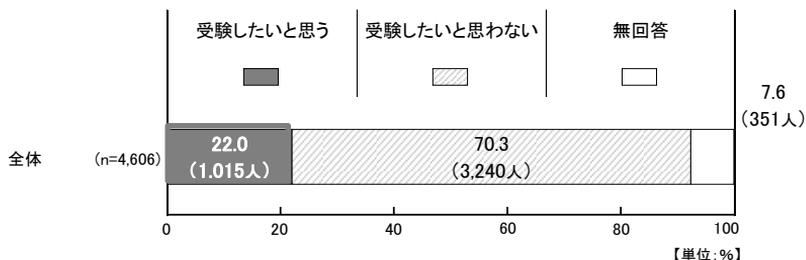
■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向別入学意向



ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向／入学意向【第二希望】

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向

Q4. あなたは、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

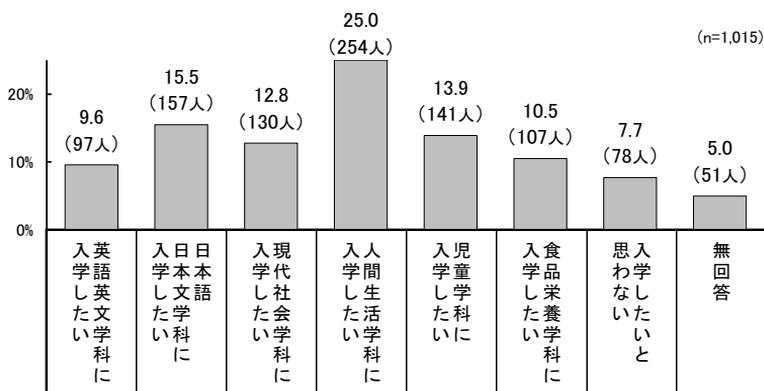


「受験したいと思う」と答えた1,015人のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への入学意向

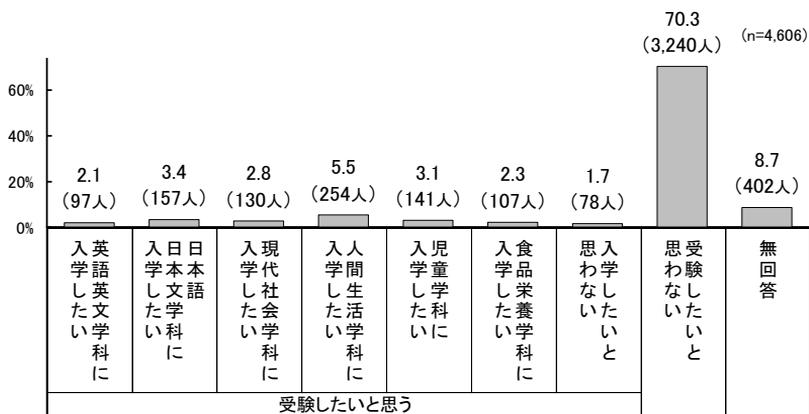
Q5. あなたは、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。第2希望まで教えてください。

(入学したい学科がない場合は、「⑦入学したいと思わない」に○をつけてください)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

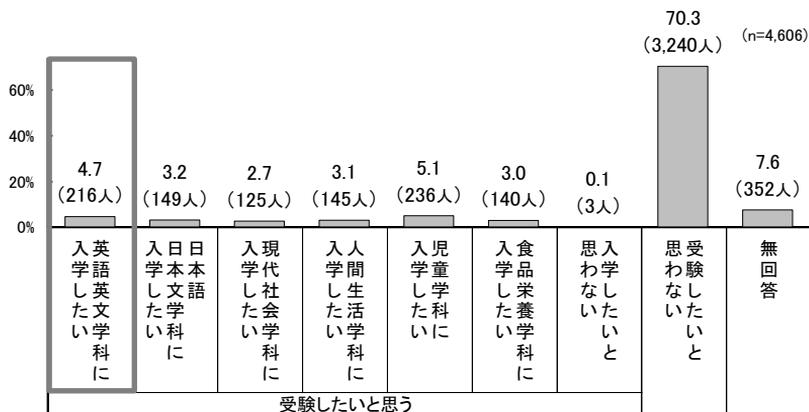
■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」への受験意向別入学意向



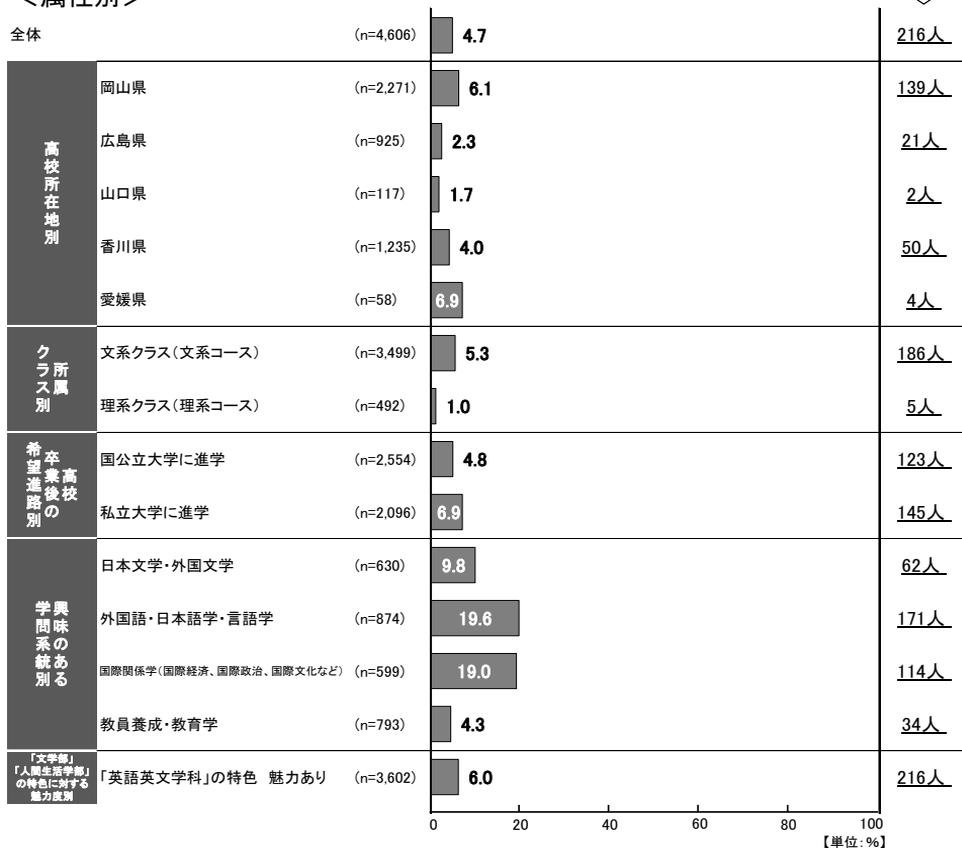
ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」への 受験意向別入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

※ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「英語英文学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の入学意向者と定義する。



<属性別>

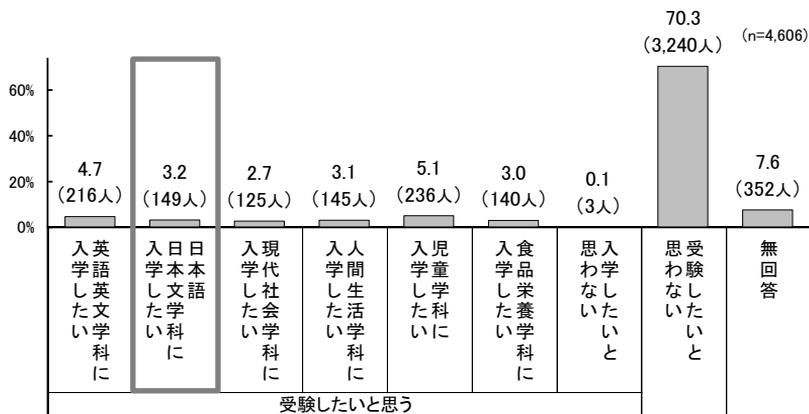


※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「英語英文学科に入学したい」と回答した人の人数

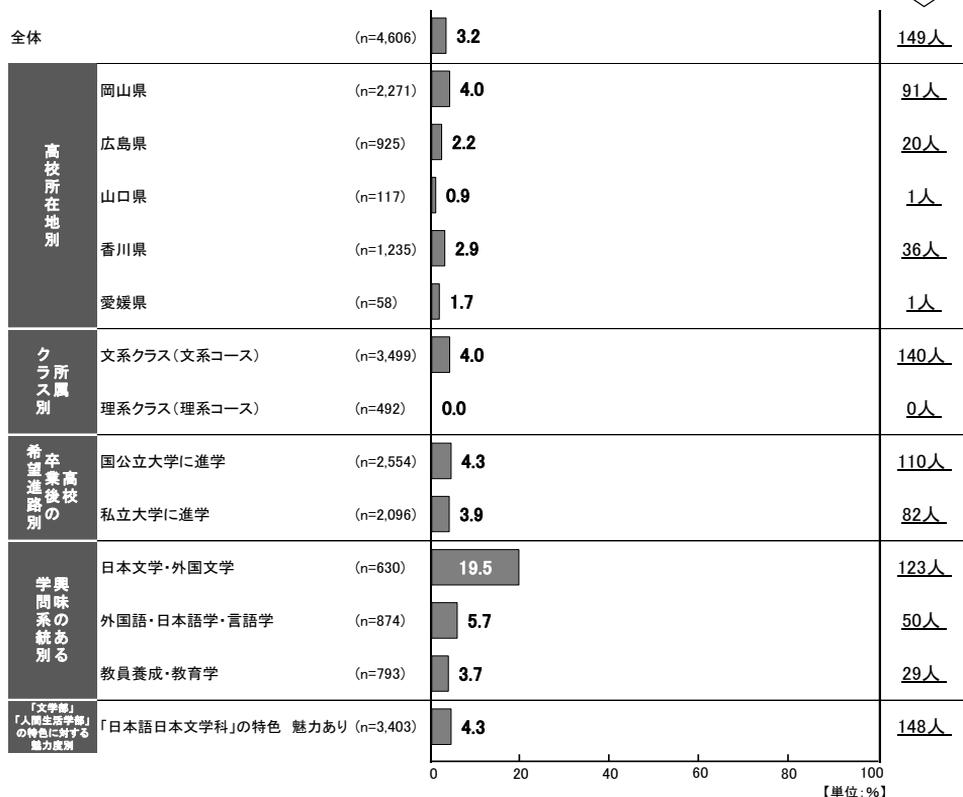
ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

※ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「日本語日本文学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の入学意向者と定義する。



<属性別>

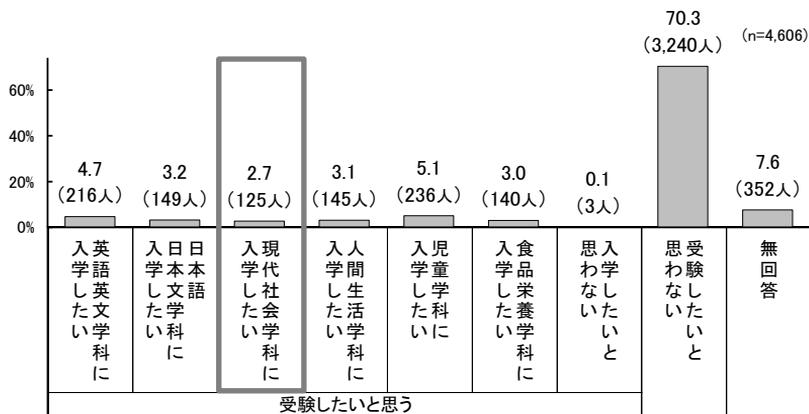


※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「日本語日本文学科に入学したい」と回答した人の人数

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」への 受験意向別入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

※ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「現代社会学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の入学意向者と定義する。



<属性別>

属性	人数 (人)	割合 (%)	入学意向者数 (※)
全体	(n=4,606)	2.7	125人
高校所在地別	岡山県 (n=2,271)	4.0	91人
	広島県 (n=925)	1.0	9人
	山口県 (n=117)	0.9	1人
	香川県 (n=1,235)	1.9	24人
	愛媛県 (n=58)	0.0	0人
クラス別	文系クラス(文系コース) (n=3,499)	3.5	121人
	理系クラス(理系コース) (n=492)	0.0	0人
卒業後の高校進学進路別	国立大学に進学 (n=2,554)	3.6	93人
	私立大学に進学 (n=2,096)	3.4	71人
興味のある学問系統別	歴史学・考古学・地理学・民族学・文化学 (n=383)	13.6	52人
	社会学 (n=338)	17.8	60人
	教員養成・教育学 (n=793)	1.9	15人
「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度別	「現代社会学科」の特色 魅力あり (n=3,168)	3.9	123人

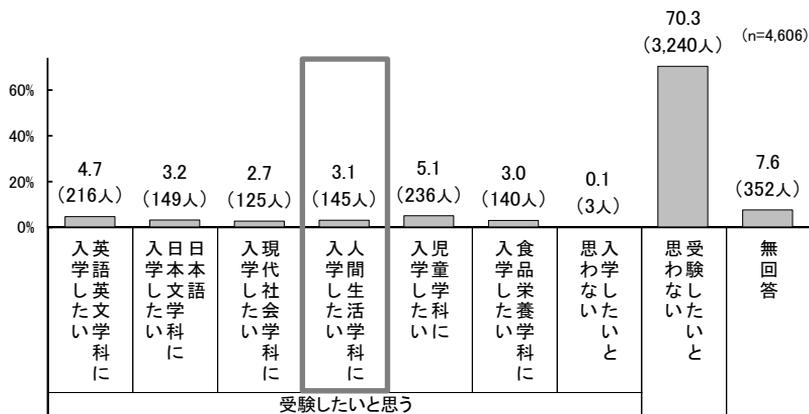
【単位: %】

※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「現代社会学科に入学したい」と回答した人の人数

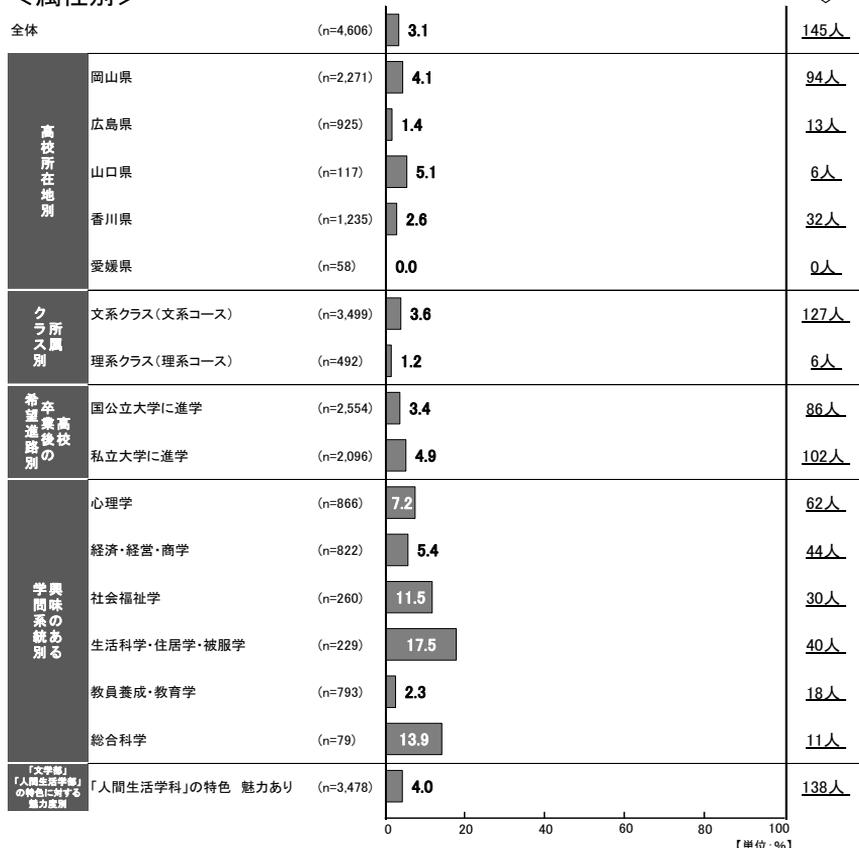
ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

※ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「人間生活学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の入学意向者と定義する。



< 属性別 >

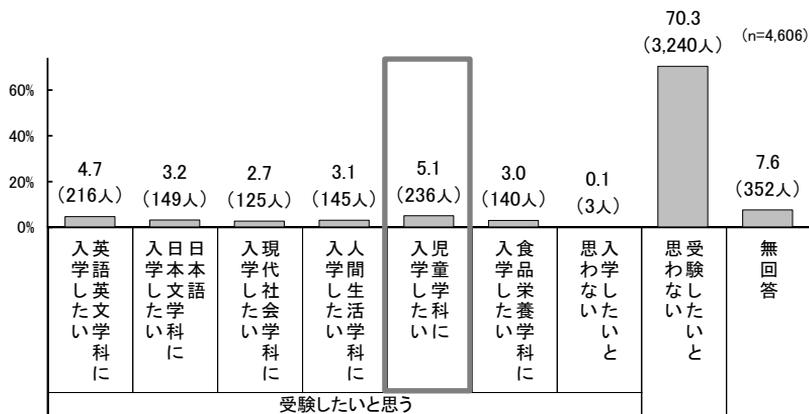


※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「人間生活学科に入学したい」と回答した人の人数

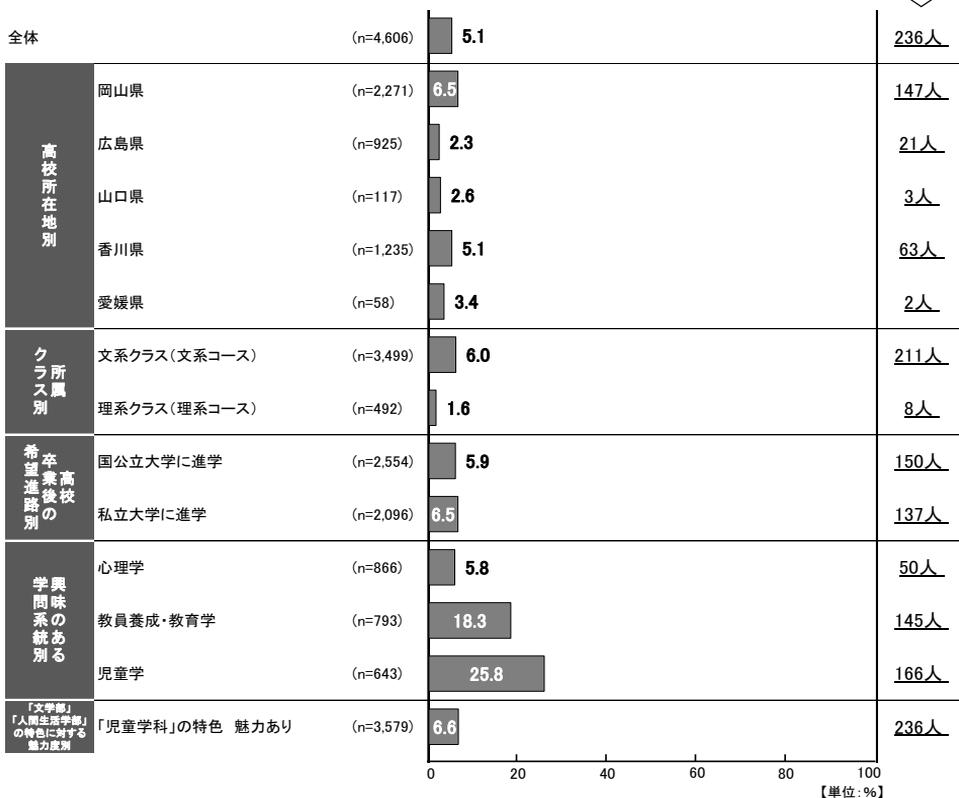
ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」への受験意向別入学意向【第一希望】

※ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「児童学科に入学したい」と回答した人をノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の入学意向者と定義する。



<属性別>



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「児童学科に入学したい」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」
入学定員増に関するニーズ調査 協力高校一覧 (56校)

岡山県立岡山芳泉高等学校	広島県立尾道東高等学校
岡山県立岡山南高等学校	広島県立尾道北高等学校
岡山県立倉敷青陵高等学校	広島県立福山誠之館高等学校
岡山県立倉敷南高等学校	広島県立福山葦陽高等学校
岡山県立倉敷中央高等学校	広島県立府中高等学校
岡山県立津山高等学校	広島県立大門高等学校
岡山県立玉野高等学校	福山市立福山高等学校
岡山県立玉島高等学校	広島県立神辺旭高等学校
岡山県立笠岡高等学校	ノートルダム清心高等学校
岡山県立西大寺高等学校	盈進高等学校
岡山県立井原高等学校北校地	銀河学院高等学校
岡山県立総社高等学校	サビエル高等学校
岡山県立瀬戸高等学校	萩光塩学院高等学校
岡山県立岡山一宮高等学校	香川県立三本松高等学校
岡山県立倉敷古城池高等学校	香川県立高松商業高等学校
岡山県立玉野光南高等学校	香川県立高松南高等学校
岡山県立総社南高等学校	香川県立坂出高等学校
岡山県立岡山城東高等学校	香川県立丸亀城西高等学校
岡山市立岡山後楽館高等学校	香川県立善通寺第一高等学校
山陽女子高等学校	香川県立観音寺第一高等学校
就実高等学校	高松市立高松第一高等学校
明誠学院高等学校	香川県立高松西高等学校
岡山学芸館高等学校	香川県立高松北高等学校
清心女子高等学校	香川県立香川中央高等学校
金光学園高等学校	香川県立高松桜井高等学校
	香川県立三木高等学校
	英明高等学校
	香川県立坂出第一高等学校
	香川県藤井高等学校
	香川誠陵高等学校
	聖カトリクス学園高等学校

ノートルダム清心女子大学
「文学部」「人間生活学部」
入学定員増に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和2年2月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2021年4月開設予定のノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」入学定員増に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、宮崎県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	695社
	回収数(回収率)	294社(42.3%)
調査時期		2019年11月11日(月)～2019年12月12日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
<ul style="list-style-type: none">・人事採用への関与度・本社所在地・勤務先の主な業種・従業員数・正規社員の平均採用人数・本年度の採用予定数・採用したい学問分野・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の社会的必要性・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」卒業生に対する採用意向・ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」に対する人材需要を確認するための調査として設計。ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、294企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.9%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が59.2%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、ノートルダム清心女子大学の所在地である「岡山県」が65.6%を占め、最も多い。次いで、「広島県」が8.2%、「東京都」が7.1%である。
- 回答企業の業種としては「卸売・小売業」が21.8%で最も多い。次いで「製造業」が13.6%、「医療・福祉」が12.2%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が39.5%で最も多い。次いで「50名未満」が19.7%、「50名～100名未満」「1,000名～5,000名未満」が13.3%である。

回答企業の採用状況(過去3か年)／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が32.3%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が19.4%、「5名～10名未満」が17.0%である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が58.5%で最も多い。次いで「増やす」が22.4%である。回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」の割合が52.4%で最も高い。次いで「経済・経営・商学」が19.7%、「児童学」が16.7%である。

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

- ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「D.【人間生活学部 人間生活学科】家族・福祉・環境・経済などの諸問題と向き合いながら、人間生活学や社会福祉、経済・経営について学び、幅広い分野で活躍できる総合的な知識と、社会の要請にこたえる実践力を身につけます。」(89.5%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も40.8%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「A.【文学部 英語英文学科】英語のネイティブ教員による英語のみでの授業、少人数の授業を通して、英語のコミュニケーション力を高め、実践の場で主体的に英語を応用し、世界に向けて情報発信をしていく力を身につけます。」(83.3%)、さらに「C.【文学部 現代社会学科】現代社会のしくみや問題を分析する「社会学」と今日にいたるまでの社会の歴史を探究する「歴史学」を組み合わせた全国でもめずらしい学びを提供。分野を横断しながら多面的に社会現象を捉える力を身につけます。」(78.2%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の社会的必要性

- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の社会的必要性については、94.2% (277企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、77.6% (228企業) である。
- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた228企業へ、ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**329名**で、予定している入学定員数90名を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

< 属性別 >

◇本社所在地別

- 「岡山県」に本社がある企業からの採用意向は、76.2% (193企業中、**147企業**)。採用想定人数の合計は**186人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 採用意向率が高いのは、「飲食店・宿泊業」「情報通信業」「卸売・小売業」である。それ以外にも幅広い業種からの採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「増やす」と回答した企業からの採用意向は、72.7% (66企業中、**48企業**)。採用想定人数の合計は**109人**で、予定している入学定員数を上回っている。「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、79.1% (172企業中、**136企業**)。採用想定人数の合計は**178人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、87.8% (245企業中、**215企業**)。採用想定人数の合計は**311人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた企業からの採用意向は、81.6% (277企業中、**226企業**)。採用想定人数の合計は**326人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の社会的必要性

- ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の社会的必要性については、87.8% (258企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、72.8% (214企業) である。
- ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた214企業へ、ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は305名で、予定している入学定員数70名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

< 属性別 >

◇本社所在地別

- ・「岡山県」に本社がある企業からの採用意向は、71.0% (193企業中、**137企業**)。採用想定人数の合計は**176人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- ・採用意向率が高いのは、「飲食店・宿泊業」「複合サービス事業」「情報通信業」である。それ以外にも幅広い業種からの採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- ・本年度の採用予定数を「増やす」と回答した企業からの採用意向は、69.7% (66企業中、**46企業**)。採用想定人数の合計は**104人**で、予定している入学定員数を上回っている。「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、75.6% (172企業中、**130企業**)。採用想定人数の合計は**165人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の特色に対する魅力度別

- ・ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、88.7% (212企業中、**188企業**)。採用想定人数の合計は**260人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- ・ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた企業からの採用意向は、78.7% (258企業中、**203企業**)。採用想定人数の合計は**284人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の社会的必要性

- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の社会的必要性については、89.5% (**263企業**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、76.2% (**224企業**) である。
- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた224企業へ、ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**319名**で、予定している入学定員数70名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

<属性別>

◇本社所在地別

- 「岡山県」に本社がある企業からの採用意向は、76.7% (193企業中、**148企業**)。採用想定人数の合計は**193人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 採用意向率が高いのは、「複合サービス事業」「卸売・小売業」「運輸業」である。それ以外にも幅広い業種からの採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「増やす」と回答した企業からの採用意向は、71.2% (66企業中、**47企業**)。採用想定人数の合計は**93人**で、予定している入学定員数を上回っている。「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、78.5% (172企業中、**135企業**)。採用想定人数の合計は**185人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、87.8% (230企業中、**202企業**)。採用想定人数の合計は**274人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた企業からの採用意向は、81.7% (263企業中、**215企業**)。採用想定人数の合計は**297人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の社会的必要性

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の社会的必要性については、92.2% (271企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、82.3% (242企業) である。
- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた242企業へ、ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は368名で、予定している入学定員数80名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

< 属性別 >

◇本社所在地別

- 「岡山県」に本社がある企業からの採用意向は、82.4% (193企業中、**159企業**)。採用想定人数の合計は**222人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 採用意向率が高いのは、「複合サービス事業」「卸売・小売業」「金融・保険業」である。それ以外にも幅広い業種からの採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「増やす」と回答した企業からの採用意向は、84.8% (66企業中、**56企業**)。採用想定人数の合計は**113人**で、予定している入学定員数を上回っている。「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、83.1% (172企業中、**143企業**)。採用想定人数の合計は**214人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、88.2% (263企業中、**232企業**)。採用想定人数の合計は**355人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた企業からの採用意向は、86.3% (271企業中、**234企業**)。採用想定人数の合計は**358人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の社会的必要性

- ・ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の社会的必要性については、94.9% (279企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、74.1% (218企業) である。
- ・ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた218企業へ、ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**310名**で、予定している入学定員数130名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

<属性別>

◇本社所在地別

- 「岡山県」に本社がある企業からの採用意向は、76.2% (193企業中、**147企業**)。採用想定人数の合計は**197人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- 採用意向率が高いのは、「小学校・幼稚園・保育所」「卸売・小売業」「複合サービス事業」「公務」である。それ以外にも幅広い業種からの採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「増やす」と回答した企業からの採用意向は、80.3% (66企業中、**53企業**)。採用想定人数の合計は**98人**である。「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、77.3% (172企業中、**133企業**)。採用想定人数の合計は**185人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の特色に対する魅力度別

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、86.0% (200企業中、**172企業**)。採用想定人数の合計は**251人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇社会的必要性別

- ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた企業からの採用意向は、76.7% (279企業中、**214企業**)。採用想定人数の合計は**296人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

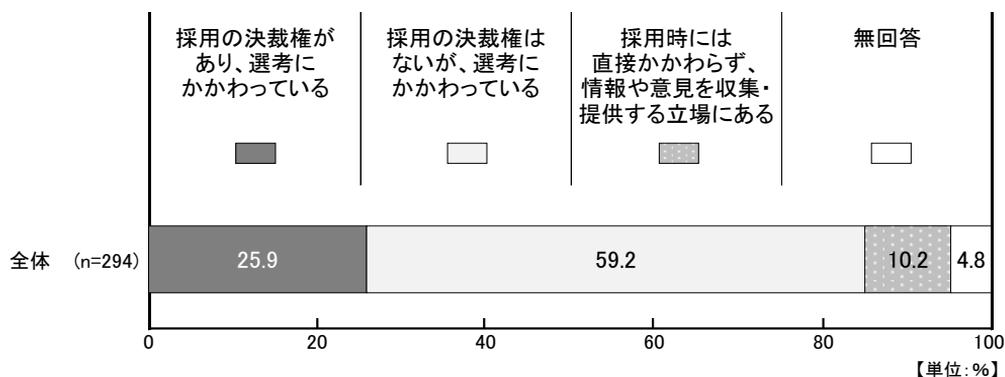
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

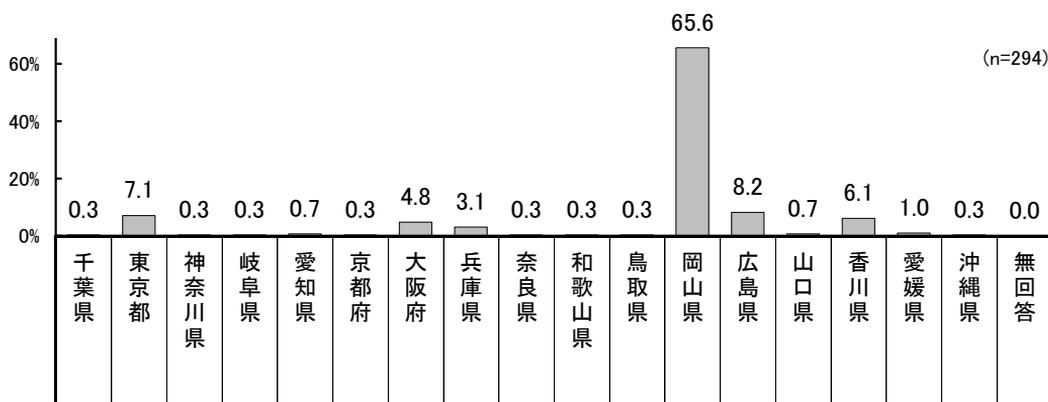
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

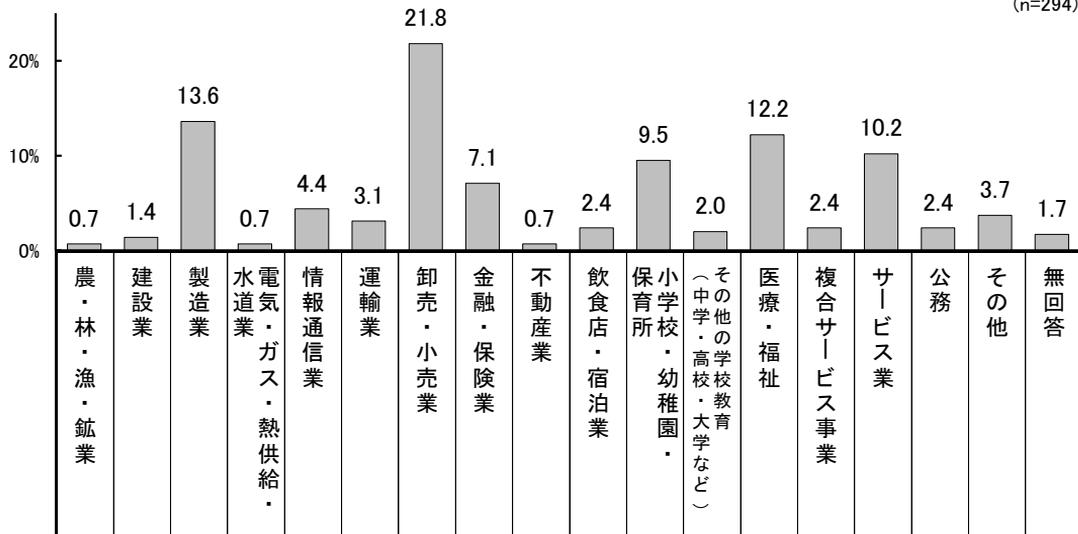


回答企業(回答者)の属性(勤務先の主な業種/従業員数)

■勤務先の主な業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

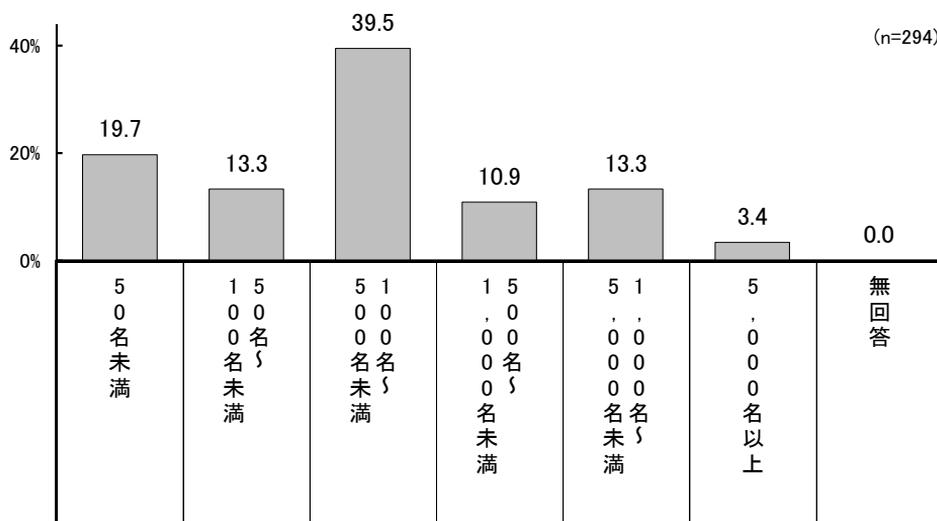
(n=294)



■従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

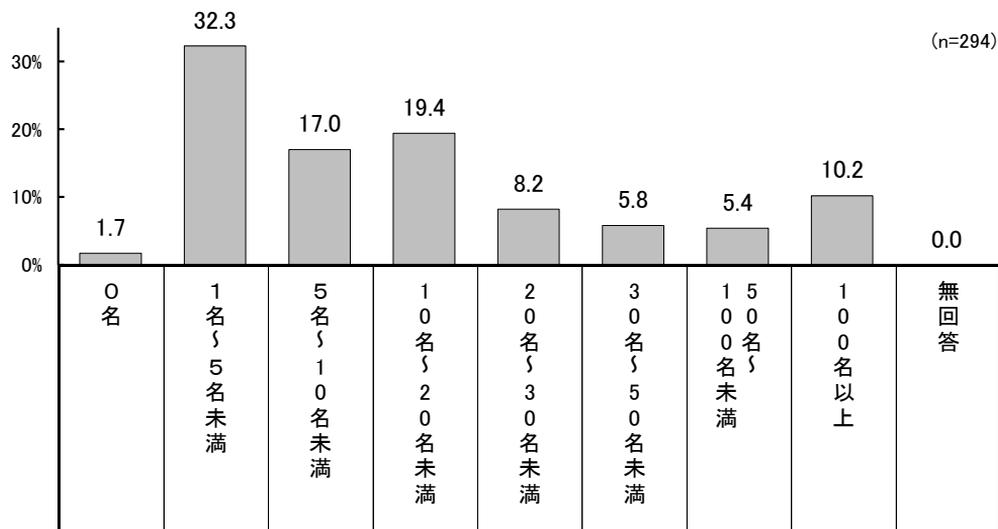
(n=294)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

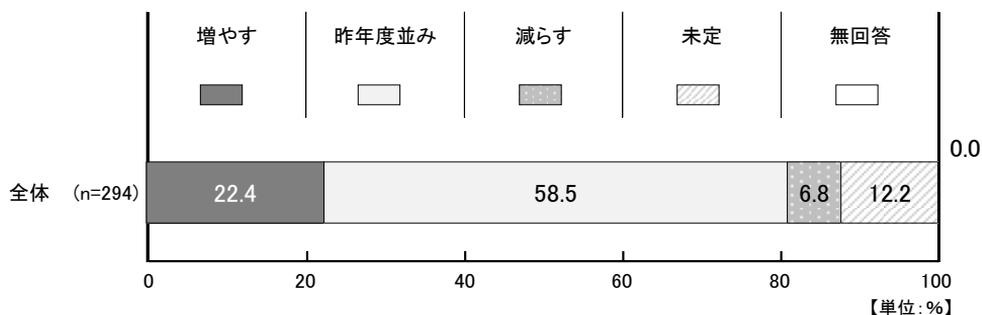
■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本年度の採用予定数

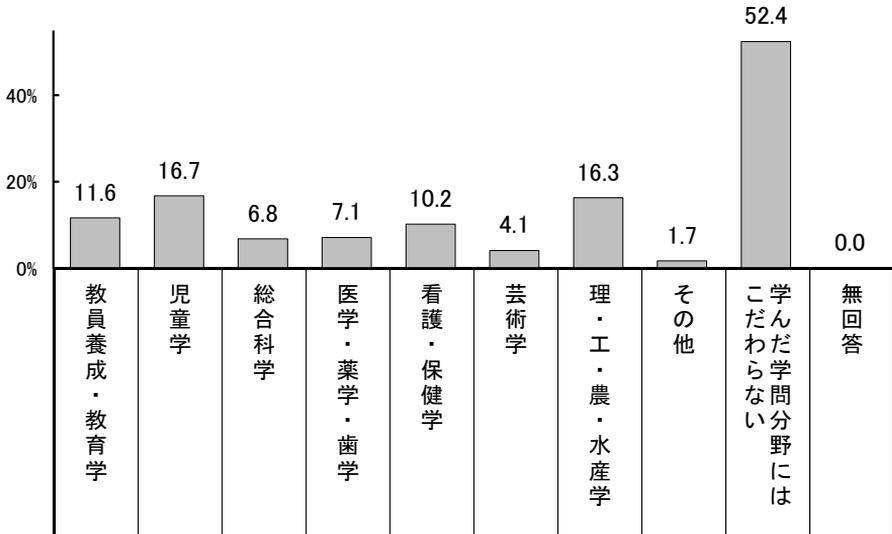
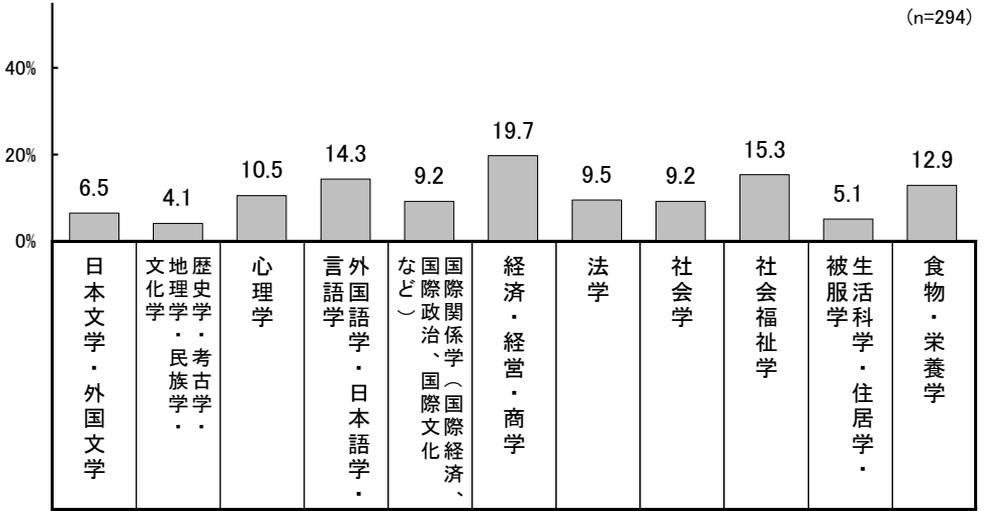
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

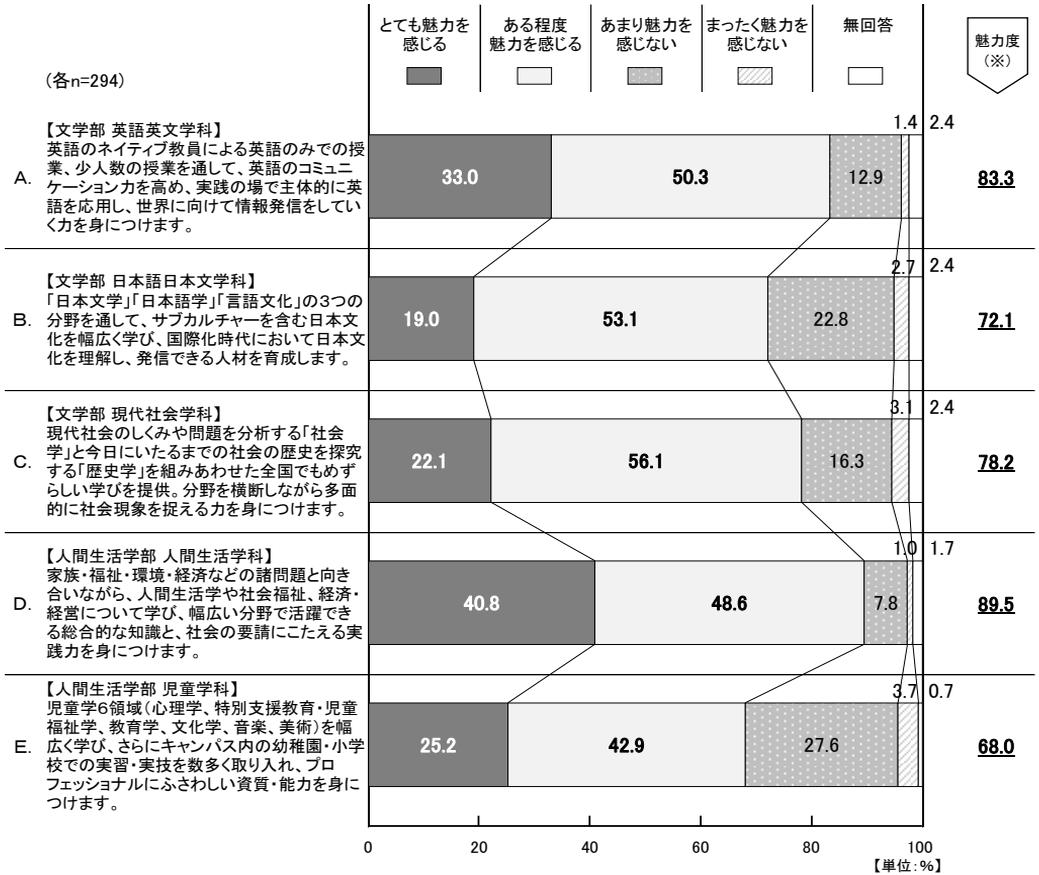
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

■ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の特色に対する魅力度

Q8. ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）



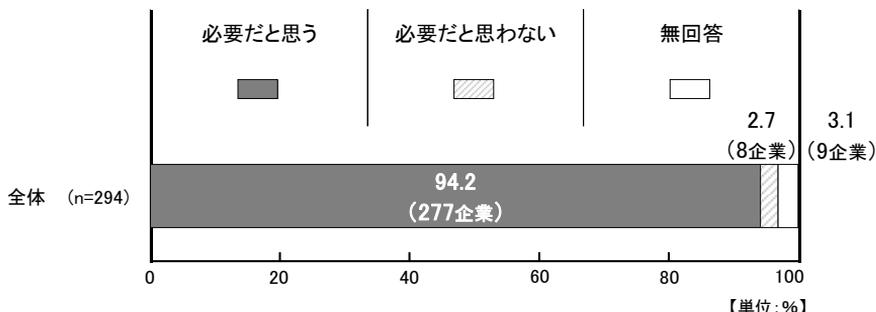
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

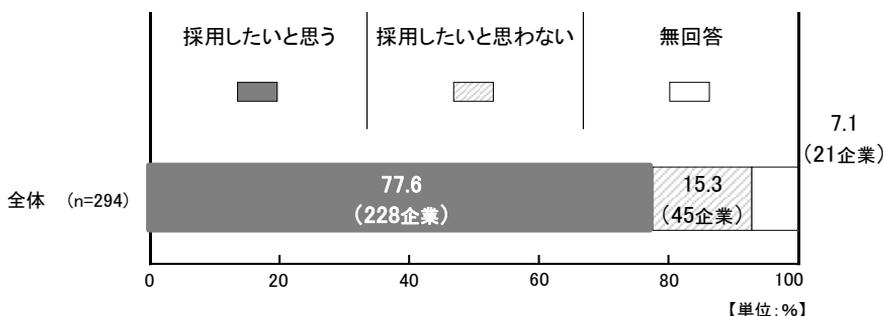
■ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた228企業のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

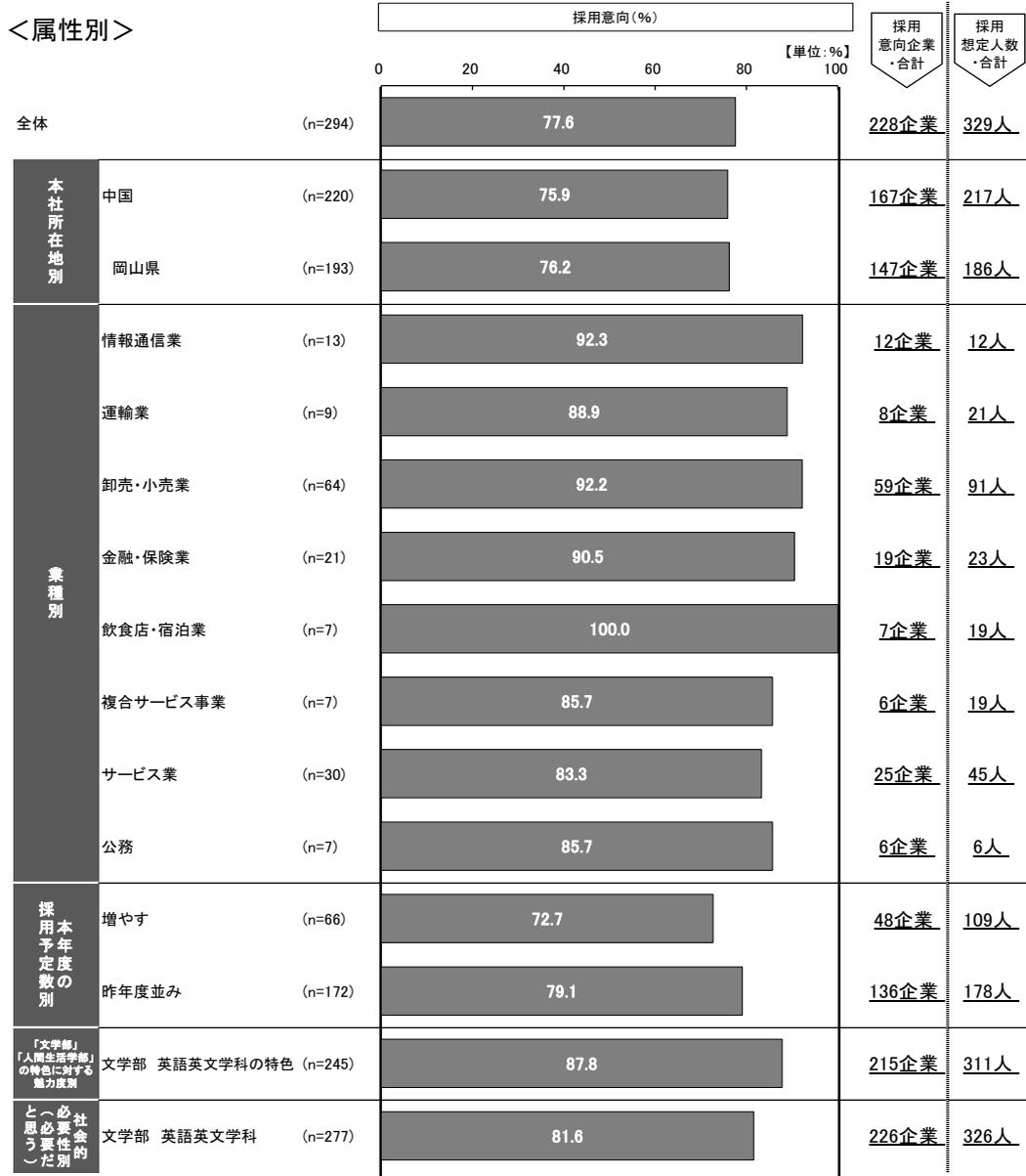
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名 以上	計 (※びたの 採企採用 想定・計 人数・ 人数を)
		全体	228	% 69.7%	12.7%	3.1%	1.8%	
		企業数	159	29	7	4	5	5
		名	159	58	21	16	25	50

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数 ＜属性別＞

※ノートルダム清心女子大学「文学部 英語英文学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

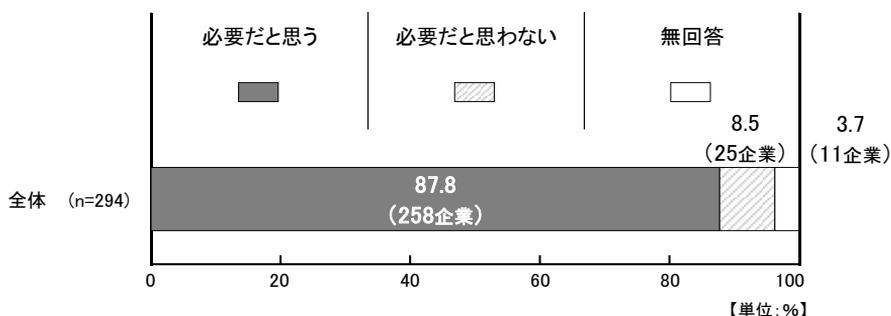


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

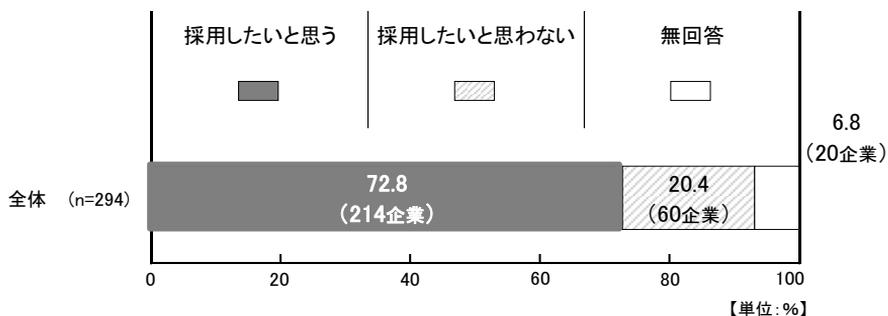
■ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた214企業のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計	
		%	企業数	名	%	企業数	名		%
全体	214	70.6%	10.7%	3.3%	1.4%	3.3%	1.9%	⇒ 195 305	
			151	23	7	3	7		4
			151	46	21	12	35		40

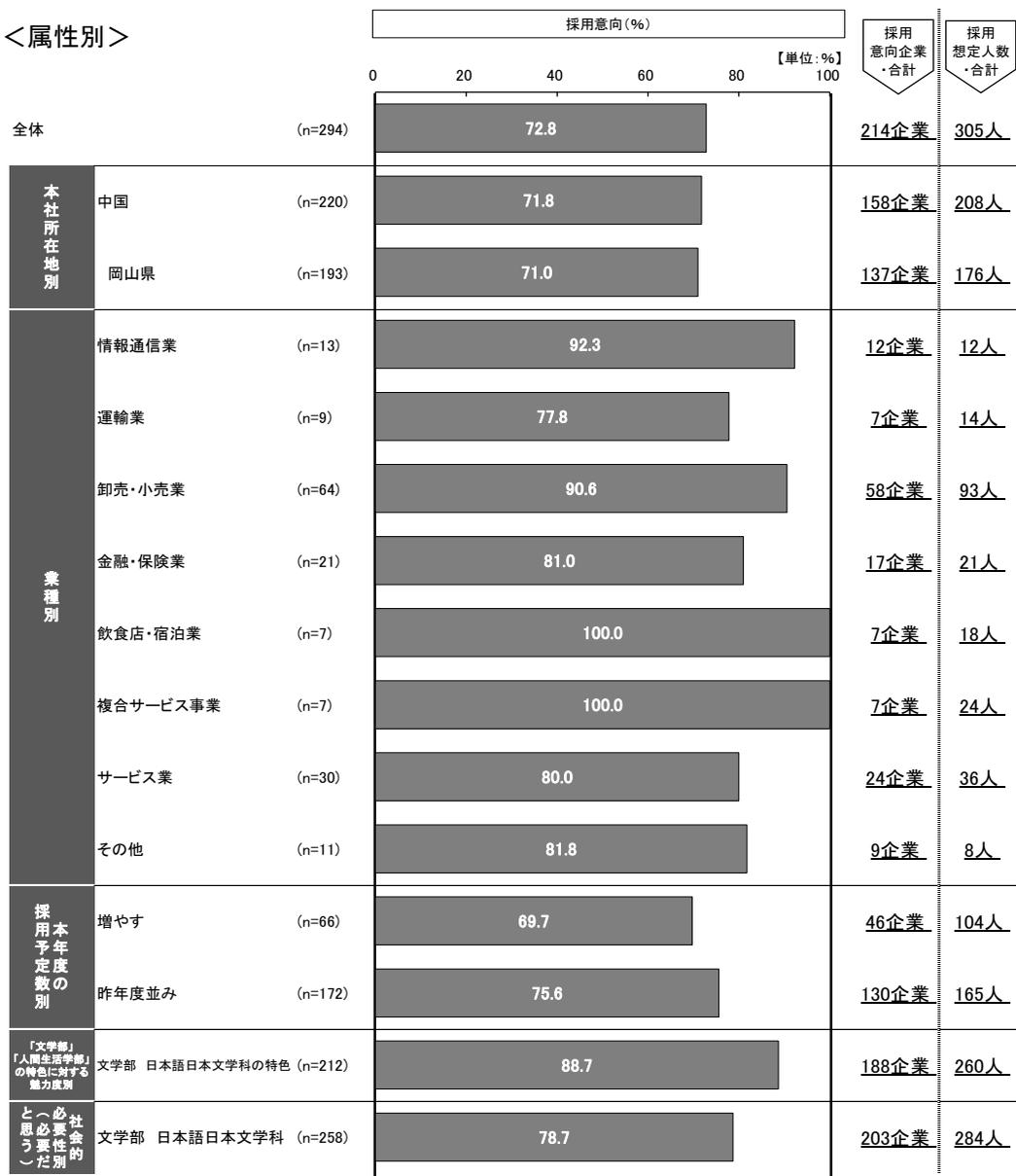
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生 に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数 ＜属性別＞

※ノートルダム清心女子大学「文学部 日本語日本文学科」に対して、
Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、
さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の
合計を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

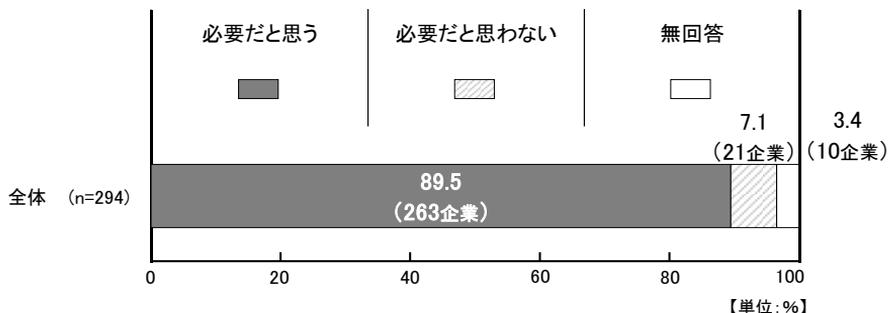


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

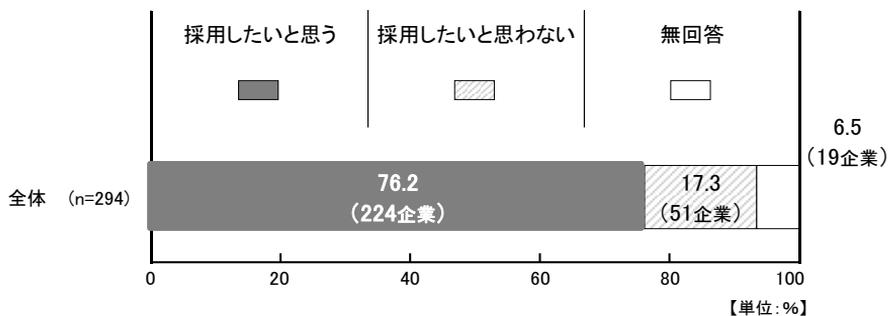
■ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた224企業のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名 以上
全体	%	67.9%	15.2%	4.0%	1.3%	1.8%	1.8%
	企業数	152	34	9	3	4	4
	名	152	68	27	12	20	40

計お示毎
(※よの
びたの
)採企採
用業採
想業想
定業定
人数計
・人数
を

⇒

206
319

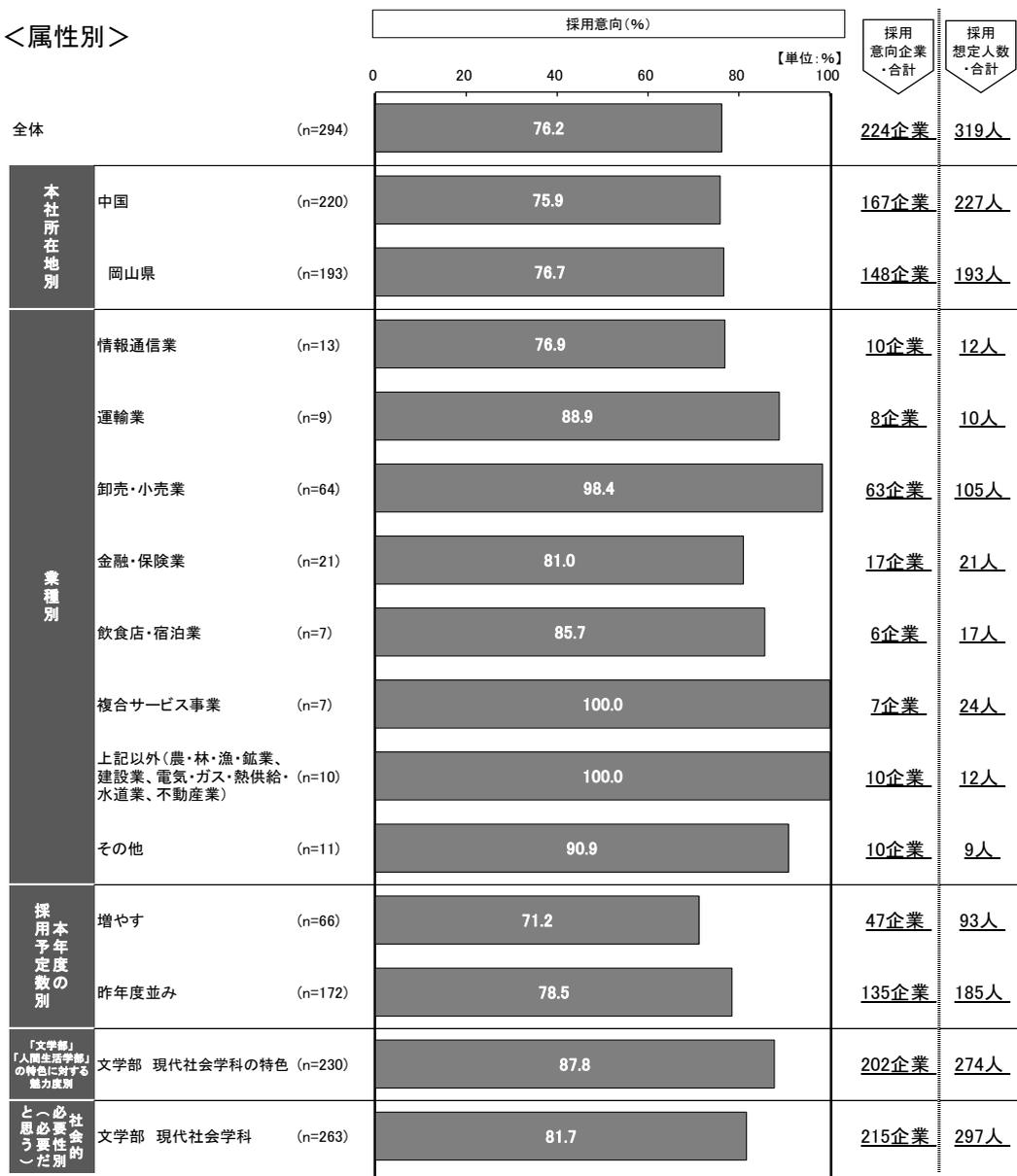
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数 ＜属性別＞

※ノートルダム清心女子大学「文学部 現代社会学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

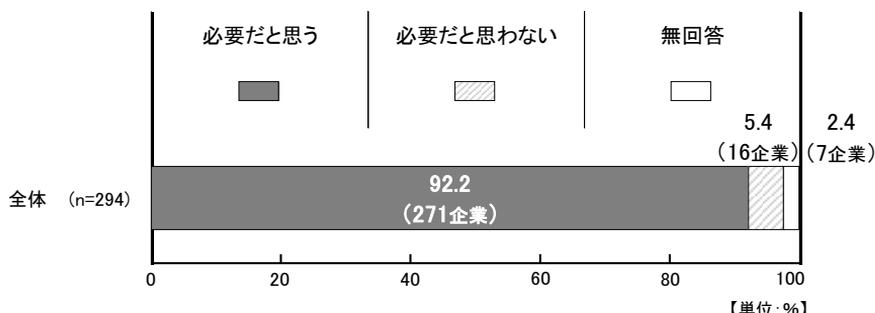


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

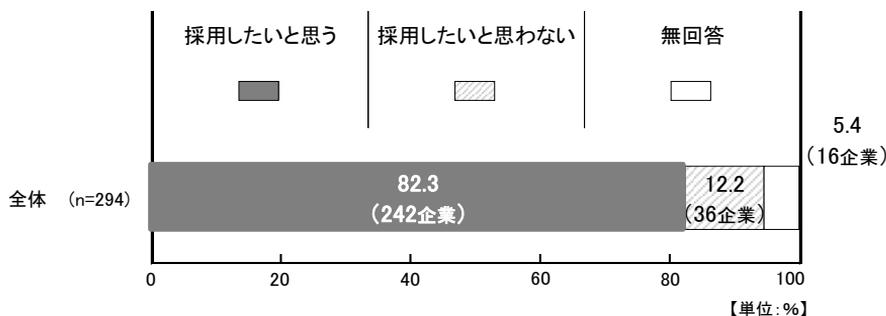
■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた242企業のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計
		%	企業数	名	%	企業数	名	
全体	242	66.5%	14.5%	5.4%	0.8%	3.3%	2.1%	⇒ 224 368
		161	35	13	2	8	5	
		161	70	39	8	40	50	

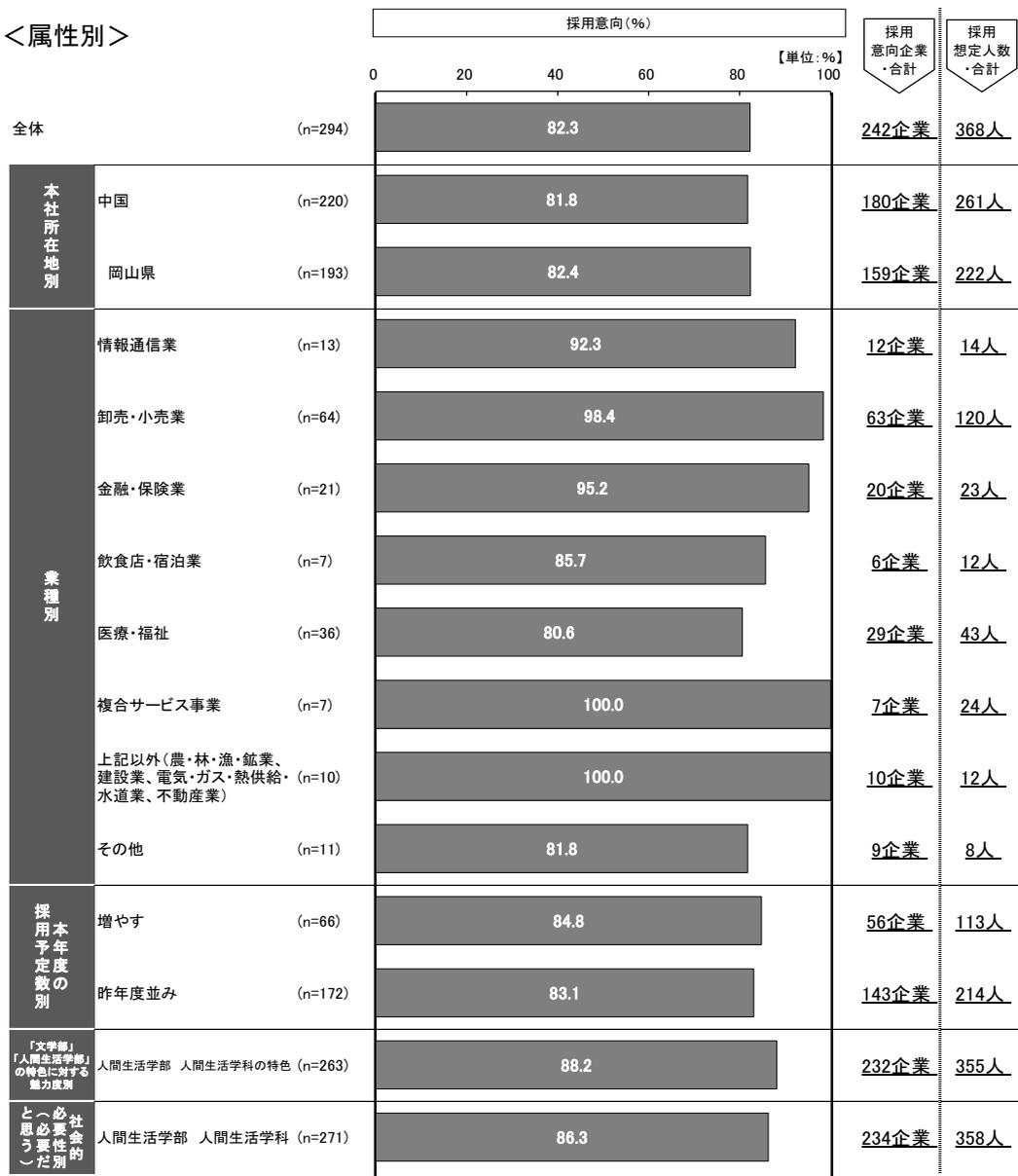
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」 卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数 <属性別>

※ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 人間生活学科」に対して、
Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、
さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の
合計を【採用想定人数】と定義する。

<属性別>

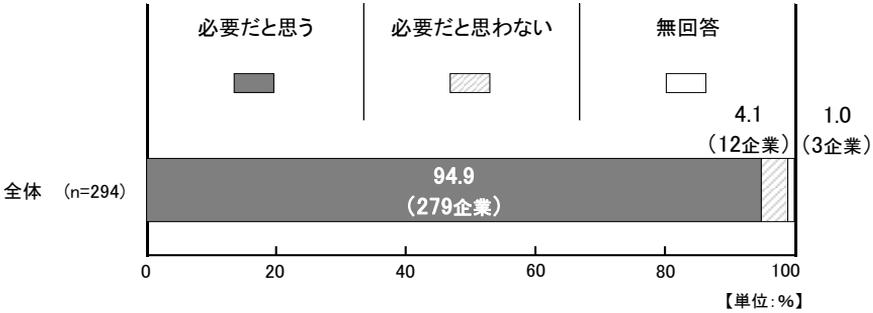


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

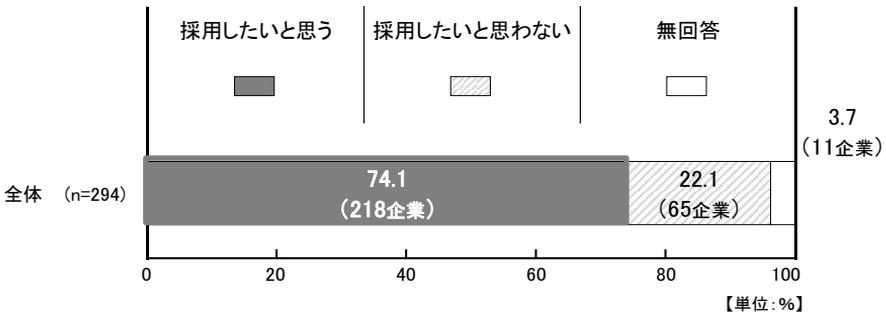
■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた218企業のみ抽出

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計
		%	企業数	名	%	企業数	名	
全体	218	66.1%	15.1%	5.5%	0.5%	2.8%	1.4%	⇒ 199 310
		144	33	12	1	6	3	
		144	66	36	4	30	30	

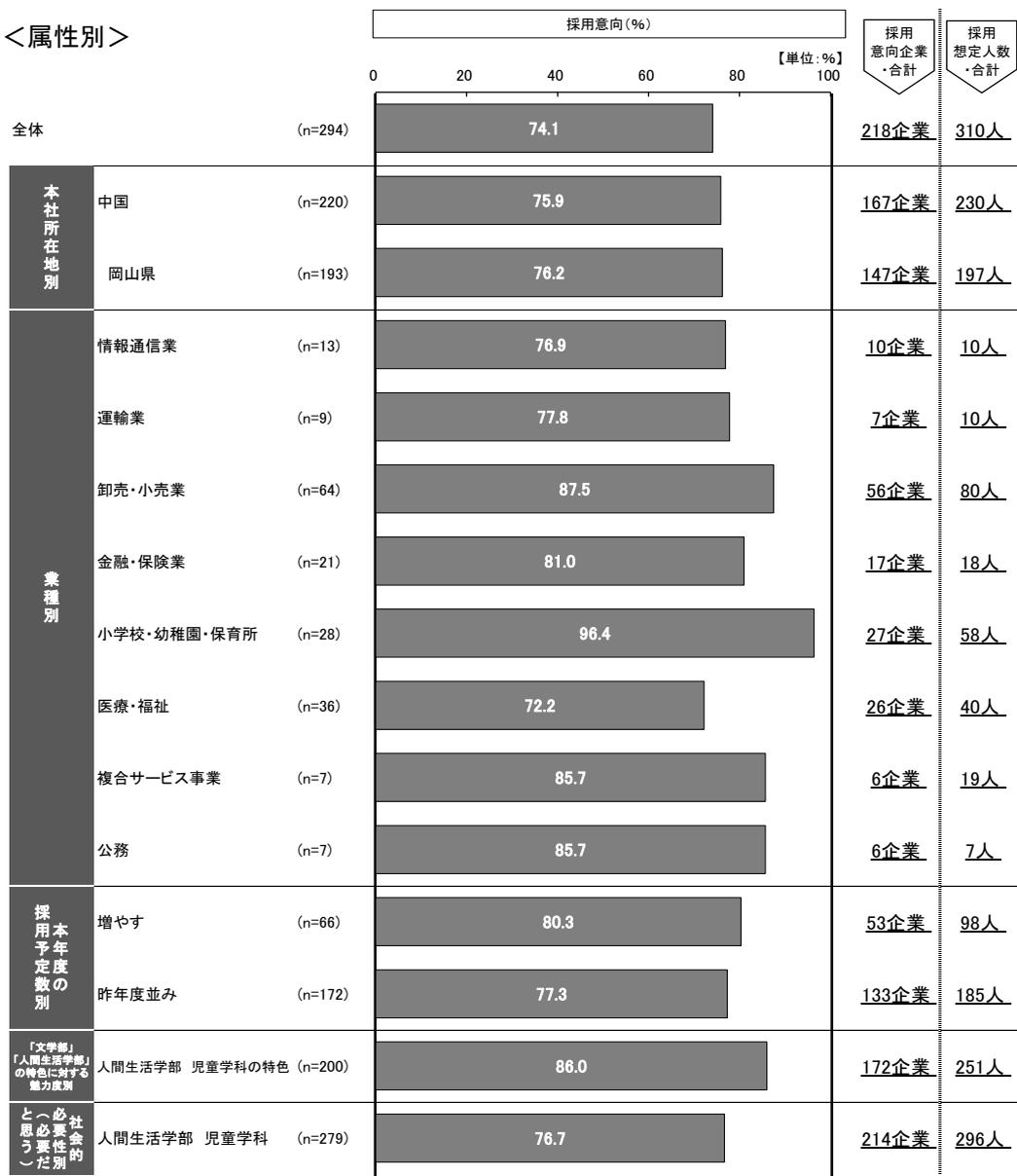
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生 に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数 ＜属性別＞

※ノートルダム清心女子大学「人間生活学部 児童学科」に対して、
Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、
さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の
合計を【採用想定人数】と定義する。

<属性別>



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票



ノートルダム清心女子大学 文学部・人間生活学部 (入学定員増構想中)に関するアンケート

ノートルダム清心女子大学では2021年(令和3年)4月より、「文学部 英語英文学科」「文学部 日本語日本文学科」「文学部 現代社会学科」「人間生活学部 人間生活学科」「人間生活学部 児童学科」の入学定員増を構想しています。

このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「文学部」「人間生活学部」(入学定員増構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 7. 卸売・小売業 | 13. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 8. 金融・保険業 | 14. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 9. 不動産業 | 15. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 16. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 11. 小学校・幼稚園・保育所 | 17. その他 |
| 6. 運輸業 | 12. その他の学校教育(中学・高校・大学など) | |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

調査票

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--|------------------|---------------------|
| 1. 日本文学・外国文学 | 8. 社会学 | 15. 医学・薬学・歯学 |
| 2. 歴史学・考古学・地理学・民族学・文化学 | 9. 社会福祉学 | 16. 看護・保健学 |
| 3. 心理学 | 10. 生活科学・住居学・被服学 | 17. 芸術学 |
| 4. 外国語学・日本語学・言語学 | 11. 食物・栄養学 | 18. 理・工・農・水産学 |
| 5. 国際関係学 <small>(国際経済、国際政治、国際文化など)</small> | 12. 教員養成・教育学 | 19. その他 |
| 6. 経済・経営・商学 | 13. 児童学 | 20. 学んだ学問分野にはこだわらない |
| 7. 法学 | 14. 総合科学 | |

ノートルダム清心女子大学では、2021年(令和3年)4月に、「文学部」「人間生活学部」の入学定員増を構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

Q8. ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	
例. ○○である。		→	1	②	3	4	
文学部	英語科 英文	A. 英語のネイティブ教員による英語のみでの授業、少人数の授業を通して、英語のコミュニケーション力を高め、実践の場で主体的に英語を応用し、世界に向けて情報発信をしていく力を身につけます。	→	1	2	3	4
	本文学科 日本語日	B. 「日本文学」「日本語学」「言語文化」の3つの分野を通して、サブカルチャーを含む日本文化を幅広く学び、国際化時代において日本文化を理解し、発信できる人材を育成します。	→	1	2	3	4
	現代科 社会	C. 現代社会のしくみや問題を分析する「社会学」と今日にいたるまでの社会の歴史を探究する「歴史学」を組み合わせた全国でもめずらしい学びを提供。分野を横断しながら多面的に社会現象を捉える力を身につけます。	→	1	2	3	4
人間生活学部	人間科 生活	D. 家族・福祉・環境・経済などの諸問題と向き合いながら、人間生活学や社会福祉、経済・経営について学び、幅広い分野で活躍できる総合的な知識と、社会の要請にこたえる実践力を身につけます。	→	1	2	3	4
	児童科 学	E. 児童学6領域(心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、音楽、美術)を幅広く学び、さらにキャンパス内の幼稚園・小学校での実習・実技を数多く取り入れ、プロフェッショナルにふさわしい資質・能力を身につけます。	→	1	2	3	4

調査票

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
文学部	英語英文学科	→	1	2
	日本語日文学科	→	1	2
	現代社会学科	→	1	2
人間生活学部	人間生活学科	→	1	2
	児童学科	→	1	2

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、ノートルダム清心女子大学「文学部」「人間生活学部」の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
文学部	英語英文学科	→	1	2
	日本語日文学科	→	1	2
	現代社会学科	→	1	2
人間生活学部	人間生活学科	→	1	2
	児童学科	→	1	2

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
文学部	英語英文学科	→	1	2	3	4	5	6
	日本語日文学科	→	1	2	3	4	5	6
	現代社会学科	→	1	2	3	4	5	6
人間生活学部	人間生活学科	→	1	2	3	4	5	6
	児童学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

ノートルダム清心女子大学「文学部英語英文学科」「文学部日本語日本文学科」「文学部現代社会学科」「人間生活学部人間生活学科」「人間生活学部児童学科」の入学定員増に関する採用ニーズ調査

配付団体一覧〔企業・施設など〕(計695件)

企業・施設等名	住所
有限会社井上誠耕園	香川県小豆郡小豆島町池田2352
九州ジーシー株式会社	岡山県小田郡矢掛町中205
日本クリア株式会社	東京都目黒区東山1-2-7
旭化成ホームズ株式会社	大阪府大阪市中央区城見2-2-53 大阪東京海上日動ビルディング13階
株式会社荒木組	岡山市北区天瀬4-33
ライフデザイン・カバヤ株式会社	岡山市北区中仙道2丁目9-11
株式会社大本組	岡山市北区内山下1-1-13
セキスイハイム中四国株式会社	岡山市北区下石井2-5-5 ニッセイ岡山スクエアビル7階
大和ハウス工業株式会社	岡山市北区野田4-6-10
株式会社中電工	広島県広島市中区小網町6-12
蜂谷工業株式会社	岡山市北区鹿田町1-3-16
ミサワホーム中国株式会社 岡山支店	岡山市北区野田2-13-17
日本植生株式会社	岡山県津山市高尾590-1
積水ハウス株式会社	大阪府大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビルタワーイースト18階
タマホーム株式会社	東京都港区高輪3-22-9
岩水開発株式会社	岡山市南区福吉町18-18
株式会社茂山組	岡山県備前市東片上253
株式会社トータルホーム	岡山市北区西辛川323-16
旭テクノプラント株式会社	岡山県倉敷市新田2403-1
株式会社中本屋工務店	岡山県倉敷市真備町尾崎2-2
株式会社玉組	岡山県玉野市玉1-1-20
ハートフルホーム福山株式会社	広島県福山市本庄町中2-6-22
佐藤建設株式会社	岡山県美作市入田247-1
東海電機株式会社	岡山県倉敷市羽島266-1
株式会社ライフステージ	広島県福山市神辺町川南338-1
株式会社ステーツ	新潟県新潟市江南区東早通1-1-40
セキスイハイム東四国株式会社	高知県高知市葛島4丁目1-16
日本エネルギー総合システム株式会社	香川県高松市林町1964-1
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1-23-1
池田糖化工業株式会社	広島県福山市桜馬場町2番28号
株式会社伊藤園	東京都渋谷区本町3-47-10
カバヤ食品株式会社	岡山市北区御津野々口1100
株式会社廣榮堂	岡山市中区藤原60
シノプフーズ株式会社	大阪府大阪市西淀川区竹島2-3-18
ブンセン株式会社	兵庫県たつの市新宮町新宮387
協同食品株式会社	香川県坂出市昭和町2-1-9
株式会社おかやま工房	岡山市北区田中112-103
株式会社味匠	香川県坂出市常磐町1-7-8
伊那食品工業株式会社	長野県伊那市西春近5074
ロイヤルデリカ株式会社	岡山市東区瀬戸町肩脊1320-3
備後漬物株式会社	広島県福山市駅家町法成寺1613-47
株式会社岡山木村屋	岡山市北区厚生町3-1-20
株式会社林原	岡山市北区下石井1-1-3 日本生命第二ビル新館
コスモ食品株式会社	広島県福山市東手城町2-5-10
勇心酒造株式会社	香川県綾歌郡綾川町小野2088-1
ゴンチャロフ製菓株式会社	兵庫県神戸市灘区船寺通4-2-8
株式会社八天堂	広島県三原市宮浦3-31-7
株式会社明治 西日本支社	福岡県福岡市中央区長浜1-1-1 KBCビル5階

株式会社モリンホールディングス	香川県善通寺市与北町977-3
サヌキ畜産フーズ株式会社	香川県三豊市詫間町詫間2112-140
株式会社ロック・フィールド	兵庫県神戸市東灘区魚崎浜町15-2
株式会社エフアールフーズ	香川県丸亀市港町147-13
フジミツ株式会社	山口県長門市東深川2537-1
株式会社にしき堂	広島県広島市東区光町1丁目13-23
アサヒ飲料株式会社	東京都墨田区吾妻橋一丁目23-1
株式会社明石スクールユニフォームカンパニー	岡山県倉敷市児島田の口1-3-44
イトキン株式会社	大阪府大阪市中央区瓦町3-5-7 NREG御堂筋ビル2階
菅公学生服株式会社	岡山市北区駅元町15-1 岡山リットンシティビル5F
株式会社ジュン	東京都港区青山2-2-3
株式会社トンボ	岡山市北区厚生町2-2-9
萩原工業株式会社	岡山県倉敷市水島中通1-4
株式会社自重堂	広島県福山市新市町戸手16-2
株式会社ジョア	岡山市南区内尾288-14
株式会社パル	大阪府大阪市中央区道修町3-6-1 京阪神御堂筋ビル10階
株式会社オンワード樺山	大阪府大阪市中央区本町3-2-5
株式会社キャン	岡山市北区幸町2-8
香川シームレス株式会社	香川県丸亀市飯山町川原825-1
加茂繊維株式会社	岡山県津山市加茂町青柳40
株式会社アダストリア	東京都渋谷区渋谷2-21-2 渋谷ヒカリエ27階
株式会社F・O・インターナショナル	兵庫県神戸市中央区三宮町2-4-1
株式会社バリュープランニング	兵庫県神戸市中央区坂口通7-2-17
大和被服株式会社	岡山県倉敷市玉島2-13-23
有木株式会社	広島県福山市新市町宮内670
サンコー印刷株式会社	岡山県総社市真壁871-2
シンコー印刷株式会社	岡山市北区島田本町2-7-16
日宝総合製本株式会社	岡山市中区今在家197-1
株式会社インパム	岡山市南区洲崎1-2-13
ノーイン株式会社	岡山市北区富町2-5-27
株式会社岡文館印刷所	岡山市中区長岡4-47
倉敷化工株式会社	岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630
サラヤ株式会社	大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8
四国化成工業株式会社	香川県丸亀市土器町東8-537-1
株式会社ポーラ	東京都品川区西五反田2-2-3
丸五ゴム工業株式会社	岡山県倉敷市上富井58
赤穂化成株式会社	兵庫県赤穂市坂超329
一光化学株式会社	岡山県浅口市郡里庄町浜中93-59
株式会社丸五	岡山県倉敷市茶屋町1680-1
日本ロレアル株式会社	東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー16階
株式会社DHC	東京都港区南麻布2-7-1
みのる化成株式会社	岡山県赤磐市下市388-1
光軽金属工業株式会社	岡山市東区瀬戸町江尻1050
株式会社クレスコ	岡山市東区上道北方165
オーエム産業株式会社	岡山市北区野田3-18-48
株式会社内海機械	広島県府中市鶴飼町743-1
朝日スチール工業株式会社	香川県高松市花園町1-2-29
株式会社置田鉄工所	大阪府堺市美原区多治井32-1
株式会社竹田鉄工所	岡山県備前市穂浪2354-2
リンナイ株式会社	愛知県名古屋市中川区福住町2-26
株式会社ファインテクノ・タケダ	岡山県井原市野上町3000-3
株式会社桂スチール	岡山県備前市吉永町神根本335
株式会社ノーリツ	兵庫県神戸市中央区江戸町93 栄光ビル
山陽熱工業株式会社	岡山県津山市上之町35

株式会社英田エンジニアリング	岡山県美作市三保原678
三陽機器株式会社	岡山県浅口郡里庄町新庄3858
モリマシナリー株式会社	岡山県赤磐市仁堀東1383
小橋工業株式会社	岡山市南区中畦684
オカネツ工業株式会社	岡山市東区九幡1119-1
ユアサシステム機器株式会社	岡山市北区吉備津2292-1
イーグル工業株式会社	岡山県高梁市落合町阿部1212
ヤンマー農機製造株式会社	岡山市中区江並428
多田電機株式会社	岡山県瀬戸内市邑久町下笠加488
株式会社技研製作所	高知県高知市布師田3948-1
東京計装株式会社	東京都港区芝公園1-7-24 芝東宝ビル
オーエス産業株式会社	兵庫県姫路市保城津倉188
コーセーエンジニアリング株式会社	岡山市南区中畦1205-5
タカヤ株式会社	岡山県井原市井原町661-1
株式会社岡山村田製作所	岡山県瀬戸内市邑久町福元77
アオイ電子株式会社	香川県高松市香西南町455-1
株式会社アステア	岡山県総社市真壁1597
片山工業株式会社	岡山県井原市西江原町1005-1
水菱プラスチック株式会社	岡山県倉敷市船穂町水江1424
ヒルタ工業株式会社	岡山県笠岡市茂平1410
今治造船株式会社 丸亀事業本部	香川県丸亀市昭和町30
株式会社三晃	岡山県赤磐市山口2130-1
新興工業株式会社	岡山県総社市富原129-46
高雄工業株式会社 岡山工場	岡山市北区御津伊田1028-19
株式会社興和製作所 岡山工場	岡山市東区瀬戸町万富1098
理研計器株式会社	東京都板橋区小豆沢2-7-6
内山工業株式会社	岡山市中区小橋町2-1-10
大善株式会社	岡山市北区撫川1513
株式会社リプロ	岡山市南区中畦1186
ダイヤ工業株式会社	岡山市南区古新田1117-1
株式会社石井表記	広島県福山市神辺町旭丘5
株式会社アカセ木工	岡山県浅口郡里庄町新庄1550
北原産業グループ	倉敷市新倉敷駅前5-141
カモ井加工紙株式会社	岡山県倉敷市片島町236
旭興株式会社	大阪府大阪市北区大淀中1-1-30 梅田スカイビルタワーウエスト16階
シーピー化成株式会社	岡山県井原市東江原町1516
三甲株式会社	岐阜県瑞穂市本田474-1
株式会社合同セラミックス	岡山県備前市伊部936
大和産業株式会社	岡山県笠岡市山口1447
セツツカートン株式会社	兵庫県伊丹市東有岡5-33
日本興業株式会社	香川県さぬき市志度4614-13
エクセルバック・カバヤ株式会社	岡山市中区雄町394-12
株式会社カナエテクノス	香川県観音寺市柞田町丁93-27
株式会社ヤマシタ	岡山市北区下中野312-102
岡山ガス株式会社	岡山市中区桜橋二丁目1番1号
株式会社山陽新聞社	岡山市北区柳町2-1-1
株式会社KG情報	岡山市北区辰巳20-113
日本文教出版株式会社	岡山市北区伊島町1-4-23
株式会社ビザビ	岡山市北区内山下1-3-1
株式会社マイナビ	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル
ナイスタウン出版株式会社	香川県高松市栗林町1-12-27
株式会社オークシード	岡山市北区学南町2-5-15
株式会社化学同人	京都府京都市下京区仏光寺通柳馬場西入ル東前町408
コムパス株式会社	岡山市北区下中野1222-7

クラウド・エージェンシー株式会社	大阪府大阪市中央区南船場4-2-11
日本放送協会 岡山放送局	岡山市北区丸の内2-1-2
山陽放送株式会社	岡山市北区丸の内2-1-3
株式会社トーキング・アイ	岡山市北区野田5-8-11
日本海ケーブルネットワーク株式会社	鳥取県鳥取市富安2-137
株式会社オーユーシステム	岡山市北区撫川839-1
OECグループ	岡山市北区本町6-36 第一セントラルビル3F
株式会社西日本システムサービス	岡山市中区長岡101-28
株式会社ソフィア	岡山県津山市河原町29-3
株式会社トスコ	岡山市南区西市116-13
ピコシステム株式会社	岡山市南区西市98-4
株式会社両備システムズ	岡山市南区豊成2-7-16
株式会社ユニオンシンク	大阪府大阪市中央区南船場4-11-28 南船場ビル5階
株式会社両備システムソリューションズ	岡山市中区藤崎564-5
東京コンピュータサービス株式会社	東京都中央区日本橋本町4-8-14 東京建物第3室町ビル
株式会社アイレックス	東京都世田谷区池尻3-1-3 MUTOH池尻ビル
株式会社富士通四国インフォテック	香川県高松市番町1-10-2
有限会社アクシス	岡山県倉敷市老松町4-8-20
株式会社ベネッセインフォシエル	岡山市北区高柳東町10-1
ネット・インフォメーション株式会社	東京都千代田区神田岩本町1番地 峯岸ビル8階
イオンアイビス株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1 イオンタワー12F
株式会社ジェイテック	岡山市北区幸町8-29 三井生命岡山ビル2階
ウェブクリエイティブ株式会社	岡山市北区野田屋町2-11-19 柳川Rビル
システムスクエア株式会社	大阪府大阪市淀川区西宮原2-7-61
岡山県貨物運送株式会社	岡山市北区清心町4-31
キャセイパシフィック航空	東京都中央区銀座2-3-6 銀座並木通りビル8階
株式会社JALスカイ	東京都大田区羽田空港3-3-2
四国旅客鉄道株式会社	香川県高松市浜ノ町8-33
株式会社Kスカイ	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地 関西国際空港内 航空会社南ビル5階
全日本空輸株式会社	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
高松商運株式会社	香川県高松市サンポート1-1 高松港旅客ターミナルビル8F
ナカウン株式会社	岡山市中区倉富340-18
西日本旅客鉄道株式会社	大阪府大阪市北区芝田2丁目4-24
日本航空株式会社	東京都品川区東品川2-4-1 JALビル
日本通運株式会社 岡山支店	岡山市北区錦町1-1-801
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4-20-1
株式会社JALスカイ大阪	大阪府豊中市蛸池西町3-555
スカイマーク株式会社	東京都大田区羽田空港3-5-10
ヒカリ産業株式会社	岡山市東区西大寺浜460
株式会社JALスカイ九州	福岡県福岡市博多区大字下臼井778-1
瀬戸埠頭株式会社	岡山県倉敷市児島塩生2767-24
両備ホールディングス株式会社	岡山市北区錦町6-1
丸十運輸倉庫株式会社	岡山市北区大内田1042-6
兵機海運株式会社	兵庫県神戸市中央区港島3-6-1
岡山交通株式会社	岡山市南区豊成1-14-12
シーアール物流株式会社	岡山市北区大内田820-7
ANA関西空港株式会社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 空港会社北ビル
岡山タクシー株式会社	岡山市南区豊浜町11-47
HINODE & SONS株式会社	岡山県倉敷市片島町1018-6
ニッコー観光バス株式会社	東京都品川区八潮3-2-32
有限会社 井上	岡山県備前市吉永町吉永中623
日生運輸株式会社	岡山県備前市伊里中588-1
株式会社ホームロジスティクス	北海道札幌市北区新琴似七条一丁目2-39
中谷エネテック株式会社	岡山県倉敷市水島中通3-3-4

株式会社FMG	千葉県成田市不動ヶ岡2118-5
サンヨー航空サービス株式会社	大阪府泉佐野市泉州空港北1
ヤクルトロジスティクス株式会社	広島県広島市中区大手町3丁目7-2
ANAテレマート株式会社	東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー17階
ANA福岡空港株式会社	福岡県福岡市博多区下臼井778-1(福岡空港内)
ANAエアポートサービス株式会社	東京都大田区羽田空港3-4-2
ANA大阪空港株式会社	大阪府豊中市蛸池西町3-555 大阪空港内
株式会社赤ちゃん本舗	大阪府大阪市中央区南本町3-3-21
株式会社ウッドワールドのぞき	岡山市東区西大寺新地166-1
岡山宮地弘商事株式会社	岡山市南区福成2丁目20番25号
株式会社カイトックホールディングス	岡山市北区昭和町3-12
株式会社カワニシホールディングス	岡山市北区下石井1-1-3 日本生命岡山第二ビル8階
環山堂株式会社	岡山県倉敷市真備町下二万3247-3
倉敷青果荷受組合	岡山県倉敷市西中新田525-5
サンワサプライ株式会社	岡山市北区田町1-10-1
ジャヴァグループ	兵庫県神戸市中央区港島中町6-8-2
株式会社ヒラタ	岡山市中区平井1162-1
株式会社誠屋	岡山県倉敷市阿知1-6-20
横山石油株式会社	岡山市北区京橋町12-8
板野機工株式会社	岡山市北区今保108-6
株式会社外林	広島県福山市卸町2-6
ダイワボウ情報システム株式会社	大阪府大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト10階
富士ゼロックス岡山株式会社	大阪府大阪市中央区今橋2-5-8 トレードピア淀屋橋13F
株式会社シマダオール	岡山県倉敷市中畝7-4-7
株式会社岡山丸果	岡山市南区市場1-1
株式会社クリニコ	東京都目黒区目黒4-4-22
株式会社中四国クボタ	岡山市東区宍甘275
株式会社本多	広島県福山市明神町2-11-18
伊丹産業株式会社	兵庫県伊丹市中央5-5-10
株式会社全備	岡山市北区新屋敷町1-10
つばめガス株式会社	岡山市南区福田174
株式会社西日本ジェネリック	岡山市北区田中153-101
清原株式会社	大阪府大阪市中央区南久宝寺町4-5-2
ネクスト・ワン株式会社	兵庫県加古川市加古川町粟津805-3
共和医理器株式会社	広島県福山市明神町2-12-15
ライト電業株式会社	岡山市南区芳泉2-2-32
株式会社トーホーフードサービス	兵庫県神戸市東灘区向洋町西5-9
株式会社福山中央水産	広島県福山市引野町1-1-1
マツモト産業株式会社	大阪府大阪市西区靱本町1-12-6
トヨタ部品岡山共販株式会社	岡山市南区妹尾2316
株式会社西郡商店	岡山市北区今保132-2 協同組合 岡山鉄工センター内
株式会社エコライフジャパン	岡山県倉敷市宮前472-2
シンコール株式会社	東京都世田谷区上野毛1-7-11
富永物産株式会社	東京都中央区日本橋本町3-6-2
株式会社シンコール	香川県高松市郷東町23-12
株式会社セイエル	広島県広島市西区商工センター5-1-1
八州電気工業株式会社	岡山市北区東古松5-6-24
双葉電機株式会社	岡山市南区福成2丁目23-18
四国物産株式会社	香川県観音寺市昭和町2-4-5
南商事株式会社	愛媛県松山市南高井町1682-2
ダイキンHVACソリューション東京株式会社	東京都渋谷区代々木2丁目2-1 小田急サザンタワー14階
株式会社オカスイ	岡山市南区築港栄町5-36
株式会社泰商事	香川県高松市国分寺町新名45-1
株式会社医療情報システム	大阪府大阪市中央区平野町1-4-8 IJSビル

株式会社木村商会	岡山市北区大内田764-2
株式会社リノ	岡山市北区花尻ききょう町7-110
株式会社山陽マルナカ	岡山市南区平福1-305-2
株式会社ハローズ	岡山県都窪郡早島町早島3270-1
株式会社天満屋	岡山市北区表町2-1-1
株式会社仁科百貨店	倉敷市連島町連島1990
株式会社マルイ	岡山県津山市二宮71
株式会社マルナカ	香川県高松市円座町1001
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	東京都千代田区二番町8-8
株式会社高松三越	香川県高松市内町7-1
株式会社マツサカ	岡山県倉敷市西中新田486-4
株式会社エブリイ	広島県福山市南蔵王町1-6-11
株式会社ドン・キホーテ	東京都目黒区青葉台2-19-10
株式会社エブリイホームイホールディングス	広島県福山市南蔵王町1-6-11
株式会社いなげや	東京都立川市栄町6-1-1
青山商事株式会社	東京都台東区上野5-26-11 十仁ビル4階
サキヤククリエイティブ株式会社	岡山県倉敷市笹沖広瀬川1162-2
株式会社トミヤコーポレーション	岡山市北区表町2-2-83
はるやま商事株式会社	岡山市北区表町1-2-3
株式会社ビームス	東京都新宿区北新宿4-16-12 新光ビル
株式会社アイジュエリー・ウマキ	岡山県倉敷市白楽町556-25
株式会社スリーエム	大阪府大阪市天王寺区城南寺町8-22
プリモ・ジャパン株式会社	東京都中央区銀座3-15-10 菱進銀座イーストミラービル6階
株式会社ユニクロ	東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー33階
株式会社シティーヒル	大阪府大阪市中央区博労町4-5-9 本町太平ビル4階
株式会社やしま	広島県広島市中区国泰寺町1-3-15
株式会社紀久屋	岡山市北区表町1-7-33
エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社	東京都渋谷区宇田川町33-6 渋谷FLAG 6階
株式会社プレス	岡山県倉敷市羽島720-2
株式会社白十字	岡山市南区藤田 651-17
株式会社ジェイアールサービスネット岡山	岡山市北区駅前町2-4-6
株式会社フーズマーケットホック	島根県安来市赤江町1448-1
岡山ダイハツ販売株式会社	岡山市北区野田2-1-38
岡山トヨタ自動車株式会社	岡山市北区大供3-2-12
岡山トヨペット株式会社	岡山市南区古新田1233-2
岡山地産自動車株式会社	岡山市北区西長瀬1203-6
岡山地野自動車株式会社	岡山市北区久米166-1
株式会社サンヨーオートセンター	岡山県倉敷市中庄2223
トヨタカローラ岡山株式会社	岡山市北区鹿田町1-1-26
ネットトヨタ山陽株式会社	岡山市南区古新田1166
株式会社日産サテオ岡山	岡山市北区西長瀬1203-6
株式会社日産サテオ福山	広島県福山市明神町1-9-48
東中国スズキ自動車株式会社	岡山県倉敷市沖8-1
株式会社キャリオン	岡山県倉敷市加須山162-1
株式会社ホンダ四輪販売岡山	岡山市北区中仙道2-33-38
株式会社ハヤシ	岡山県倉敷市加須山334-4
株式会社カートップ	岡山市南区青江6-3-8
株式会社岡山マツダ	岡山市北区野田4-14-20
株式会社香川ダイハツモータース	香川県高松市香西南町410
岡山スバル自動車株式会社	岡山市北区久米333-1
株式会社ホンダカーズ津山	岡山県津山市高野本郷1275-11
三備ホンダ販売株式会社	岡山県倉敷市平田927-1
山陽村上モーター株式会社	岡山市北区野田5-18-7
株式会社阪神サンヨーホールディングス	岡山市東区沼1366-3

尾道ダイハツ販売株式会社	広島県尾道市高須町907-1
石井事務機株式会社	香川県高松市松福町2-4-8
株式会社金辺商会	岡山市北区大供2-3-10
クラブン株式会社	岡山県倉敷市笹沖410-5
ゴダイ株式会社	兵庫県姫路市錦町104番地 スクエアビル2階
株式会社サンヨープレジャー	岡山市北区大内田715-4
株式会社ザグザグ	岡山市中区清水369-2
DCMダイキ株式会社	愛媛県松山市美沢1-9-1
株式会社両備エネシス	岡山市中区国富1-2-13
株式会社ヒマラヤ	岐阜県岐阜市江添1-1-1
株式会社WORK SMILE LABO	岡山市南区福浜町15-10
株式会社プレひまわり	広島県福山市西新涯町2-10-11
株式会社アクセ	広島県尾道市久保1-8-1
株式会社コスモス薬品	福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-1 第一福岡ビルS館5階
株式会社ビッグ・エス	香川県高松市多肥上町1210
コーセー化粧品販売株式会社	岡山市北区中仙道31-104
株式会社ケイ・クリエイト	岡山市南区並木町2-13-11
福神株式会社トシモリ薬局	岡山市北区清輝橋2-2-10
有限会社肥後薬局	岡山市北区鹿田本町2-15
株式会社レディ薬局	愛媛県松山市南江戸4丁目3番37号
資生堂ジャパン株式会社	東京都港区東新橋1-6-2
株式会社ファーマシイ	広島県福山市沖野上町4-13-27
株式会社ノジマ	神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3 クイーンズタワーB26階
株式会社ワールドハーモニー・テラ	岡山市北区内山下1-10-6
スカイライブ株式会社	岡山県倉敷市連島町連島1990
株式会社イノベーションゲートウェイ	岡山市北区西島田町3-2-8
有限会社ワイエスネットワーク	広島県福山市蔵王町2-14-2
有限会社システムコミュニケイト	岡山県倉敷市笹沖515-1
株式会社TDモバイル	東京都港区浜松町1-30-5 浜松町スクエア
株式会社西日本ファーマシー	香川県高松市宮脇町1-5-17 NPビル
株式会社エスマイル	広島県広島市西区商工センター6-1-11
株式会社今井書店	鳥取県米子市錦町3-77-3
ライフアート・グループ	広島県安芸郡海田町窪町2-14
株式会社ティーガイア	東京都渋谷区恵比寿4-1-18 恵比寿ネオナート14~18F
株式会社アイデック	兵庫県姫路市佃町68
株式会社伊予銀行	愛媛県松山市南堀端町1
株式会社愛媛銀行	愛媛県松山市勝山町2-1
株式会社香川銀行	香川県高松市亀井町6-1
三井住友信託銀行株式会社	広島県福山市元町15-1
株式会社島根銀行	島根県松江市東本町2-35
株式会社中国銀行	岡山市北区丸の内1-15-20
株式会社鳥取銀行	鳥取県鳥取市永楽温泉町171
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1
株式会社トマト銀行	岡山市北区番町2-3-4
株式会社あおぞら銀行	東京都千代田区九段南1-3-1
株式会社百十四銀行	香川県高松市亀井町5-1
株式会社広島銀行	広島県広島市中区紙屋町1-3-8
株式会社ゆうちょ銀行	東京都千代田区霞ヶ関1-3-2
日本銀行	東京都中央区日本橋本石町2-1-1
株式会社沖縄銀行	沖縄県那覇市久茂地3-10-1
株式会社山口フィナンシャルグループ	山口県下関市竹崎町4丁目2-36
おかやま信用金庫	岡山市北区柳町1-11-21
四国労働金庫	香川県高松市浜ノ町72-3
笠岡信用組合	岡山県笠岡市笠岡2388-40

吉備信用金庫	岡山県総社市中央2-1-1
株式会社商工組合中央金庫 岡山支店	岡山市北区蕃山町4-1
高松信用金庫	香川県高松市瓦町1-9-2
玉島信用金庫	岡山県倉敷市玉島1438
農林中央金庫 岡山支店	岡山市北区磨屋町9-18-101
日生信用金庫	岡山県備前市日生町日生888-5
備前信用金庫	岡山県備前市伊部1660-7
水島信用金庫	倉敷市水島西常盤町8-23
備北信用金庫	岡山県高梁市正宗町1964-1
津山信用金庫	岡山県津山市山下30-15
備後信用組合	広島県福山市野上町3-2-3
農林中央金庫 高松支店	香川県高松市番町1-1-5
倉吉信用金庫	鳥取県倉吉市昭和町一丁目60番地
岡三証券株式会社	東京都中央区日本橋室町2-2-1
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1-9-1
丸三証券株式会社	東京都千代田区麹町3-3-6 麹町フロントビル
大和証券株式会社	岡山市北区下石井1-1-3 日本生命第二ビル本館
SMBC日興証券株式会社	東京都中央区新川1-28-23 東京ダイヤビル5号館11階
中銀証券株式会社	岡山市北区本町2-5 ちゅうぎん駅前ビル
株式会社ジャックス	東京都渋谷区恵比寿4-1-18 恵比寿ネオナート
岡山県信用保証協会	岡山市北区野田2-12-23
株式会社アプラス	東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル
株式会社クレディセゾン	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60
住友生命保険相互会社 岡山支社	岡山市北区柳町1-1-1 住友生命岡山ビル11階
第一生命保険株式会社	広島県広島市南区的場町1-2-21 広島第一生命OSビル9階
日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区今橋3-5-12
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1
株式会社かんぽ生命保険	東京都千代田区霞ヶ関1-3-2
岩水開発株式会社 Life Salon	岡山市中区浜606-10
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1
三井住友海上火災保険株式会社	岡山市北区幸町8-22 三井住友海上岡山ビル
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	岡山市北区大供1-2-10 損保ジャパン日本興亜岡山ビル4F
日新火災海上保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台2-3
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	広島県広島市中区国泰寺町1-8-13
共栄火災海上保険株式会社	岡山市北区奉還町1-7-7
株式会社三備保険事務所	岡山県倉敷市北畝1-23-5
有限会社トリニティ・コンサルタンツ	岡山市北区蕃山町3-30
ソニー損害保険株式会社	東京都大田区蒲田5-37-1 アロマスクエア11階
全国共済農業協同組合連合会 岡山県本部	岡山市北区磨屋町9-18-301
岡山県民共済生活協同組合	岡山市北区野田屋町1-10-13
岡山県国民健康保険団体連合会	岡山市北区桑田町17-5
全国労働者共済生活協同組合連合会	東京都渋谷区代々木2-12-10
穴吹興産株式会社	香川県高松市鍛冶屋町7-12
三友不動産株式会社	岡山県玉野市玉2-11-1
住友不動産販売株式会社	大阪府大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル4階
大和リビング株式会社	東京都江東区有明3-7-18 有明セントラルタワー7階
株式会社コスモ不動産	香川県丸亀市中府町3-1-1
三井不動産リアルティ中国株式会社	広島県広島市中区中町9-12 中町三井ビル6階
株式会社アサヒ ファシリティズ	東京都江東区南砂2-5-14
株式会社NITTO	大阪府大阪市北区芝田2-9-18 NITTO梅田ビル
きらめき不動産株式会社	神奈川県横浜市中区本町4丁目43 A-PLACE馬車道5F
株式会社ファミリーコーポレーション	東京都中央区銀座6丁目10-1
スターパックスコーヒージャパン株式会社	東京都品川区上大崎2-25-2 新目黒東急ビル
株式会社ジェイアール西日本フードサービスネット	大阪府大阪市淀川区西中島5-4-20

株式会社ドールコーヒー	東京都渋谷区神南1-10-1
株式会社イワイ	東京都品川区北品川5-7-14-208
タリーズコーヒージャパン株式会社	東京都新宿区笹原町22
ロイヤルホールディングス株式会社	東京都世田谷区桜新町一丁目34-6
岡山プラザホテル株式会社	岡山市中区浜2-3-12
株式会社ホテルグランヴィア岡山	岡山市北区駅元町1-5
リゾートトラスト株式会社	愛知県名古屋市中区栄2-6-1 RT白川ビル
株式会社セントラル・パーク	岡山市北区中山下1-11-17
株式会社下電ホテル	岡山県倉敷市大島1666-2
株式会社レイ ANAクラウンプラザホテル岡山	岡山市北区駅元町18-9
みのるホテル事業株式会社 後楽ホテル	岡山市北区平和町5-1
ルートインジャパン株式会社	東京都品川区大井1-35-3
株式会社中の坊	兵庫県神戸市北区有馬町808
株式会社ホテルニューアワジ	兵庫県洲本市小路谷20番地
株式会社JR四国ホテルズ	香川県高松市浜ノ町1-1
Uno Port INN	岡山県玉野市築港1-4-4
株式会社ユニマツプレシヤス	東京都港区南青山2-12-14
合同会社ユニバーサルホテルマネージメント ホテルユニバーサルポート	大阪府大阪市此花区桜島1-1-111
株式会社サムシングフォー	岡山県倉敷市中央1-11-12
株式会社ベルモニー	香川県高松市勅使町540
株式会社ミュゼプラチナム	東京都渋谷区広尾1-1-39 エビスプライムスクエア19F
株式会社わたる	岡山県浅口市金光町占見147-1
株式会社ノバレーゼ	東京都中央区銀座1-8-14 銀座YOMIKOビル4F
医療法人天声会おおもと病院	岡山市北区大元1丁目1-5
岡山医療生活協同組合	岡山市中区赤坂本町2-20
岡山済生会総合病院	岡山市北区国体町2-25
社会医療法人盛全会 岡山西大寺病院	岡山市東区金岡東町1-1-70
医療法人河合会 新倉敷メディカルスクエア	岡山県倉敷市玉島1719
倉敷医療生活協同組合	岡山県倉敷市水島南春日町13-1
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	岡山県倉敷市美和1-1-1
社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院	岡山市北区中井町2-5-1
医療法人創和会 重井医学研究所附属病院	岡山市南区山田2117
医療法人創和会 しげい病院	岡山県倉敷市幸町2-30
医療法人エム・ピー・エヌ 武田病院	岡山県倉敷市連島町西之浦352-1
日本赤十字社岡山県支部	岡山市北区丸の内2-7-20
公益財団法人林精神医学研究所 附属病院	岡山市中区浜472
香川医療生活協同組合	香川県高松市栗林町1-4-1 高松平和病院内
公益財団法人操風会 岡山旭東病院	岡山市中区倉田567-1
医療法人東浩会 石川病院	岡山県津山市川崎554-5
大野眼科	岡山県玉野市東高崎26-21
グリーン歯科クリニック	岡山県倉敷市水江1番地
独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ	広島県広島市西条町寺家513
医療法人しんくら歯科医院	岡山県倉敷市新倉敷駅前1-60-1
岡山二人クリニック	岡山市北区津高285-1
聖眼科クリニック	岡山市東区瀬戸町沖364
医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル	岡山県倉敷市東塚5-4-16
医療法人永山眼科クリニック	笠岡市五番町3-2
医療法人平允会 森本整形外科医院	岡山県井原市上出部町473
はまだ眼科	岡山市東区松新町158-20
医療法人大本眼科医院	岡山市中区浜2-8-19
医療法人和陽会 まび記念病院	岡山県倉敷市真備町川辺2000-1
社会福祉法人永世会 愛生苑	香川県坂出市西庄町79-1
社会福祉法人倉敷市総合福祉事業団	岡山県倉敷市笹沖180番地
社会福祉法人 倉敷福祉事業会	岡山県倉敷市昭和2-2-18

社会福祉法人 クムレ	岡山県倉敷市栗坂8
社会福祉法人P.P.P.	岡山県倉敷市福田町福田2122-1
社会保険診療報酬支払基金	岡山市北区新屋敷町2-1-16
社会福祉法人報恩会 牛窓ルンビニ保育園	岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4959-5
社会福祉法人 守里会	香川県高松市城東町1-1-46
社会福祉法人 なかよし会	岡山市北区南中央町1-20
社会福祉法人岡北福祉会	岡山市北区津島東2-2-20
社会福祉法人 宮川福祉会	岡山市北区平田122-102
社会福祉法人 若竹の園	岡山県倉敷市中央1-6-12
社会福祉法人岡山子ども協会	岡山県赤磐市桜ヶ丘西3-14-19
社会福祉法人慶光会	岡山県真庭市蒜山福田1201-8
社会福祉法人 四ツ葉会	岡山県倉敷市徳芳504
社会福祉法人 淳風福祉会	岡山市南区箕島3566-1
社会福祉法人 笠岡市社会福祉事業会	岡山県笠岡市金浦746
津山市社会福祉協議会	岡山県津山市山北520
社会福祉法人にじのご福祉会 岡山協立保育園	岡山市中区桜橋3-1-51
社会福祉法人 松園福祉会	岡山県倉敷市玉島勇崎1044
社会福祉法人 中野社会福祉協会	岡山県都窪郡早島町若宮4-1
社会福祉法人東光会	岡山市南区大福760-2
社会福祉法人 みその児童福祉会 岡山聖園子供の家	岡山市北区天神町6-34
社会福祉法人 弘徳学園	岡山市中区赤坂南新町6-1
社会福祉法人 尾道さつき会	広島県尾道市久保町1786
株式会社創心會	岡山県倉敷市茶屋町2102-14
社会福祉法人倉敷福祉事業会 昭和保育園	岡山県倉敷市昭和2-2-18
社会福祉法人純晴会 浮洲園	岡山県倉敷市粒江2500-1
株式会社アール・ケア	岡山県玉野市東高崎25-34
社会福祉法人 きらくえん	兵庫県尼崎市長洲西通2-8-3
社会福祉法人 どんご会	東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階
社会福祉法人ちとせ交友会	岡山市東区金田1127-1
社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会	岡山県瀬戸内市邑久町山田庄862-1
社会福祉法人瀬戸内福祉事業会	岡山県倉敷市連島町矢柄6092
社会福祉法人 岡山市手をつなぐ育成会	岡山市北区昭和町6-26
社会福祉法人ことぶき会	岡山市北区御津紙工1410
社会福祉法人 四ツ葉会 特別養護老人ホーム 元気の家	岡山県倉敷市徳芳501-1
社会福祉法人純愛福祉会 さくら保育園	広島県福山市桜馬場町9-12
社会福祉法人橘会 御南保育園	岡山市北区今保247-1
社会福祉法人旭水会	岡山市中区赤田88
社会福祉法人岡山市社会福祉協議会	岡山市北区鹿田町1-1-1岡山市保健福祉会館7階
社会福祉法人 津山福祉会	岡山県津山市下高倉東1943-11
社会福祉法人イエス団	香川県坂出市中央町8
社会福祉法人 四ツ葉会 杉の子保育園	岡山県倉敷市徳芳504
社会福祉法人 岡山厚生会	岡山県倉敷市黒崎602
社会福祉法人 白鳩会 ひなぎくこども園	広島県福山市新市町下安井1-1
社会福祉法人 四恩の里	香川県高松市中山町1501-192
社会福祉法人 千草会 てまり保育園	広島県福山市幕山台2-39-18
社会福祉法人 稔福祉会	岡山県倉敷市山地1297
社会福祉法人和福祉会	岡山県倉敷市西尾11-1
社会福祉法人 吉備福祉会	岡山市北区平野1071-1
社会福祉法人 真光会 天竜保育園	宮崎県都城市早鈴町6-11
社会福祉法人岡山愛育会 みかど貴ツズ保育園	岡山市北区三門西町7-8
社会福祉法人すずらん保育園	岡山県総社市秦380-2
サンキ・ウエルビー株式会社	広島県広島市西区商工センター6-1-11
SOMPOケア株式会社	東京都品川区東品川4-12-8品川シーサイドイーストタワー3階
社会福祉法人愛育会 ももやま保育園	広島県福山市引野町北二丁目15-19

学南保育園	岡山市北区学南町2-5-40
イートンちどり保育園	東京都文京区大塚3-11-2音羽ビル
株式会社日本保育サービス	東京都港区港南1-2-20品川シーズンテラス5階
社会福祉法人 高松南福祉会	香川県高松市寺井町453-1
社会福祉法人聖華会 聖華こども園	岡山県浅口市鴨方町六条院中2347-1
HITOWAキッズライフ株式会社	東京都港区六本木1-4-5アークヒルズサウスタワー
社会福祉法人みどり福祉会 若葉保育園	香川県高松市亀田南町108-2
株式会社安心ライフサポート	岡山市北区春日町5-20-103
社会福祉法人祐正福祉会	香川県さぬき市寒川町石田東甲761-9
社会福祉法人 遍照会	岡山県倉敷市西阿知町465-1
ライクアカデミー株式会社	東京都品川区西五反田1-1-8NMF五反田駅前ビル7階
社会福祉法人至誠学舎玉川 児童養護施設 至誠学園	東京都立川市錦町6-26-15
社会福祉法人江原恵明会	岡山県津山市津山口306
社会福祉法人粒栄会	岡山県倉敷市粒江2298
かなりや幼稚園	広島県福山市寺町4-24
学校法人虫明学園 中仙道幼稚園	岡山市北区中仙道51-110
学校法人内山下保育会 内山下幼稚園	岡山市北区丸の内2-6-5
学校法人大森学園 つしま幼稚園	岡山市北区津島南1-3-9
学校法人慈愛学園 慈愛幼稚園	岡山県倉敷市水島南幸町1-9
学校法人竹中学園 竹中幼稚園	岡山県倉敷市鶴形1-5-15
龍谷総合学園 岡山龍谷高等学校	岡山県笠岡市笠岡874
学校法人 ひかり学園	岡山市南区築港新町2-17-10
学校法人マリア学院 マリア幼稚園	岡山県倉敷市北畝2-17-37
学校法人金光学園	岡山県浅口市金光町占見新田1350
倉敷翠松高等学校	岡山県倉敷市平田155
川崎医科大学付属高等学校	岡山県倉敷市生坂1661
学校法人栗林学園 栗林幼稚園	香川県高松市栗林町2-19-4
学校法人萩光塩学院 認定こども園萩光塩学院幼稚園	山口県萩市東田町15
学校法人みその学園 岡山聖園幼稚園	岡山市北区清輝橋3-8-26
如水館高等学校	広島県三原市深町1183
学校法人今村学園 認定こども園 富士ふたば幼稚園	静岡県富士市水戸島本町2-10
学校法人小寺学園 幼保連携型認定こども園 はまようちえん	兵庫県尼崎市浜2-2-13
学校法人広島加計学園 英数学館小・中・高等学校	広島県福山市引野町980-1
広島国際学院高等学校	広島県安芸郡海田町蟹原2-8-1
パコダ幼稚園	愛媛県新居浜市松神子3-9-20
学校法人茅渟の浦学園 渦が森幼稚園	兵庫県神戸市東灘区渦森台1-8-1
学校法人三木学園 あおば幼稚園	香川県木田郡三木町井戸2394
学校法人こいみどり学園 己斐みどり幼稚園	広島県広島市西区己斐中1-8-44
学校法人香川県百華学園 認定こども園 勅使百華幼稚園	香川県高松市勅使町955
株式会社イーオン	岡山市北区厚生町2-3-23
株式会社アミティー	岡山市北区厚生町2-3-23
株式会社鷗州コーポレーション	広島県広島市中区中町1-1
株式会社公文教育研究会 岡山	岡山市北区下石井2-1-3 岡山第一生命ビル8F
倉敷地所株式会社 倉敷自動車教習所	岡山県倉敷市中島2236-100
東京アカデミー岡山校	岡山市北区駅元町15-1 リットシティビル3階
株式会社トライグループ	東京都千代田区飯田橋1-10-3
株式会社ABC cooking studio	東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビルヂングB2F
株式会社SIGNAL BLUE	岡山県高梁市正宗町1905
坂出自動車学校	香川県坂出市西大浜北1-4-1
株式会社リルシース	岡山市北区表町1丁目7-15
株式会社ヒューマン・ブレーション	大阪府大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル10階
イッティージャパン株式会社	愛知県名古屋市中東区一社4-165
株式会社誠泉エデュケーションalリフォームズ	岡山県倉敷市玉島1598-1
生活協同組合おかやまコープ	岡山市北区奉還町1-7-7

岡山市農業協同組合	岡山市北区大供表町1-1
香川県農業協同組合	香川県高松市寿町1-3-6
岡山西農業協同組合	岡山県倉敷市玉島八島1510-1
福山市農業協同組合	広島県福山市花園町2-7-1
勝英農業協同組合	岡山県美作市明見172-2
香川県厚生農業協同組合連合会	香川県高松市屋島西町1857-1
真庭農業協同組合	岡山県真庭市落合垂水1064-1
津山農業協同組合	岡山県津山市横山108
倉敷かさや農業協同組合	岡山県倉敷市西阿知町1040-5
日本郵便株式会社	広島県広島市東白島町19-8
紀州農業協同組合	和歌山県御坊市湯川町財部668-1
たじま農業協同組合	兵庫県豊岡市九日市上町550-1
日本司法支援センター	東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー8階
株式会社マクロジェン・ジャパン	京都府京都市左京区吉田本町36-1 京都大学国際科学イノベーション棟3階
ファストアクション株式会社	東京都港区芝浦3-14-19 大成企業ビル6階
合同経営グループ	香川県高松市木太町3396-11
東洋ハイテック株式会社	大阪府大阪市北区万歳町3-20 北大阪ビル5階
DOWAテクノエンジニア株式会社	岡山市南区築港栄町31-10
株式会社阪急クオリティサポート	大阪府大阪市北区角田町8-7
宗教法人春日大社	奈良県奈良市春日野町160
株式会社エイチ・アイ・エス	大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテリオ15階
株式会社タビックスジャパン	東京都中央区八丁堀1-2-8 タビックスビル4F
株式会社天満屋トラベル	岡山市北区中山下2-3-20
東武トップツアーズ株式会社	東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリーイーストタワー13階
株式会社JTB	広島県広島市中区紙屋町2-1-22 広島興銀ビル11階
株式会社近畿日本ツーリスト中国四国	広島県広島市中区立町1-24 有信ビル8階
株式会社ヤングリゾート	大阪府大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル23階
株式会社アルファ	岡山市中区桑野709-6
株式会社山陽メディアネット	岡山市北区新屋敷町2-1-1
P・O・Pカンパニー株式会社	岡山市南区浦安南町220-1
株式会社ジェー・ピー・シー	京都府京都市下京区恵美須屋町193
株式会社SRC	兵庫県神戸市中央区三宮町2-7-4 神戸日興ビル7F
興南設計株式会社	岡山県倉敷市粒江20-25
株式会社フォーバル	東京都渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル14階
総合メディカル株式会社	大阪府大阪市中央区城見松下IMPビル21階
公益財団法人岡山市ふれあい公社	岡山市中区桑野715-2
公益財団法人岡山県健康づくり財団	岡山市北区平田408-1
岡山県商工会連合会	岡山市北区弓之町4-19-401
日本年金機構	東京都杉並区高井戸西3-5-24
倉敷商工会議所	岡山県倉敷市白楽町249-5
特定非営利活動法人 杜の家	岡山市中区兼基107-2
特定非営利活動法人 玉野つつじねっと	岡山県玉野市迫間2291-5
飛鳥グループ協同組合	岡山市南区福富中1-1-7
株式会社クリエアナブキ	香川県高松市磨屋町2-8
株式会社のうえ	岡山県倉敷市二日市511-1
株式会社岡山医学検査センター	岡山県倉敷市笹沖468-5
株式会社グロップ	岡山市中区さい東町2-2-5
株式会社RSKプロビジョン	岡山市北区内山下1-1-5
株式会社ジップ	岡山県瀬戸内市長船町長船301-11
株式会社スタッフサービス・ホールディングス	東京都千代田区神田練堀町85 JEBL秋葉原スクエア
株式会社タナベ経営	大阪府淀川区宮原3-3-41
株式会社ユー・エス・ジェイ	大阪府大阪市此花区桜島2丁目1-33
株式会社キャリアプランニング	岡山市北区本町6-36 第一セントラルビル1階
株式会社シーズ	岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル2階

株式会社穴吹コミュニティ	岡山市北区上中野1-19-53
キングラン中四国株式会社	岡山市南区福浜町1-34
エルフィン動物病院	岡山市北区花尻あかね町11-101
株式会社さくら祭典	岡山市北区駅元町5-1
株式会社ダスキンユニオン	兵庫県加古川市野口町坂元329-60
平林金属株式会社	岡山市北区下中野347-104
株式会社ネオキャリア	東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエービル2階
株式会社オーディーエル	岡山市北区表町2-2-33 表町水川ビルⅡ-3F
アース環境サービス株式会社	東京都千代田区神田紺屋町17
株式会社日本セレモニー	山口県下関市王喜本町6-4-50
株式会社ベネッセ・ベースコム	岡山市北区南方3-7-17
天満屋カードサービス株式会社	岡山市北区本町6-36
エン・ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿新宿アイランドタワー-35階
株式会社クリエイティブスタッフ大和	岡山市北区南方5-6-6 小林ビル1F
株式会社エイジエック	東京都新宿区西新宿新宿センタービル46階
株式会社アイگران	広島県広島市中区光南2-1-20
株式会社マイスタイル	岡山市北区富田町2-1-1
株式会社クリエート	岡山市北区青江1-7-33 青江土地倉庫ビル3F
株式会社衛生センター	岡山市南区当新田443-1
KCJ GROUP 株式会社	兵庫県西宮市甲子園八番町1-100 ららぽーと甲子園3026
株式会社ジェイ・エス・エス	東京都新宿区左門町6-4
平成レンタカー株式会社	岡山県倉敷市児島駅前4-1
株式会社ワークポート	東京都品川区大崎1-2-2
パーソルキャリア株式会社	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング27階
株式会社TMJ	東京都新宿区西新宿7-20-1 住友不動産西新宿ビル
株式会社マーキュリー	東京都新宿区西新宿新宿野村ビル1-26-2 新宿野村ビル23階
株式会社テクノプロ・コンストラクション	東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー35F
笠岡市立市民病院	岡山県笠岡市笠岡5628-1
瀬戸内市立瀬戸内市民病院	岡山県瀬戸内市邑久町山田庄845-1
笠岡市職員	岡山県笠岡市笠岡1876-1
真庭市職員	岡山県真庭市勝山53-1
吉備中央町職員	岡山県加賀郡吉備中央町大字豊野1-2
総社市職員	岡山県総社市中央3丁目10-113
玉野市職員	岡山県玉野市宇野1-27-1
津山市職員	岡山県津山市山北520
備前市職員	岡山県備前市東片上126
福山市職員	広島県福山市東桜町3-5
丸亀市職員	香川県丸亀市大手町2-3-1
矢掛町職員	岡山県小田郡矢掛町矢掛3018
高梁市職員	岡山県高梁市松原通2117-1
里庄町職員	岡山県浅口郡里庄町里見1107-2
井原市職員	岡山県井原市井原町311-1
赤磐市職員	岡山県赤磐市下市344
勝央町職員	岡山県勝田郡勝央町勝間田201
和気町職員	岡山県和気郡和気町尺所555
都城市職員	宮崎県都城市姫城町6街区21号
松茂町職員	徳島県板野郡松茂町広島字東裏30
学校法人 中国学園	岡山市北区庭瀬83
学校法人就実学園 就実大学	岡山市中区西川原1-6-1
学校法人 川崎学園	岡山県倉敷市松島577
山陽学園短期大学・山陽学園大学	岡山市中区平井1-14-1
岡山県立大学	岡山県総社市窪木111
国立大学法人 岡山大学	岡山市北区津島中1丁目1-1

2021年4月、ノートルダム清心女子大学は 入学定員変更を計画中です

入学定員 変更の理由

ノートルダム清心女子大学は、1949年の創立以来、地域に根ざし、社会に開かれた大学として発展してきました。その結果、安定的な志願者数の確保、全国トップクラスの高い就職率とともに教育力に支えられた低い退学率を実現しています。今後も教育・研究の質をさらに向上させ、より多くの卒業生を送り出し、本学に寄せられる社会の期待に応え続けるため2021年4月に下記学科の教育内容の充実を図り、定員を拡充いたします。

入学定員の変更計画の概要(構想中)

文学部		
英語英文学科	日本語日文学科	現代社会学科
入学定員	入学定員	入学定員
現行 80名	現行 60名	現行 60名
新 90名	新 70名	新 70名

人間生活学部		
人間生活学科	児童学科	食品栄養学科
入学定員	入学定員	入学定員
現行 70名	現行 120名	80名
新 80名	新 130名	

※食品栄養学科は入学定員の変更を行いません。

※記載の内容は構想中のものであり、変更される可能性があります。

— 在学生・卒業生メッセージ —

先輩たちの声

キリスト教精神を通じて、国際社会の多様性を学べます。
在 学生

歴史と伝統があり、教養科目が充実しています。学校全体の雰囲気が落ち着いて、過ごしやすいです。
在 学生

人間性も磨ける。先生のサポートが手厚い。学生のやる気がすごい。
在 学生

1年生…カナダの協定大学に夏季短期英語研修
⇒2年生…同じ大学に1年間語学留学
⇒3年生…模擬国連やアメリカでのインターンシップに参加
⇒成長を実感!!
在 学生

清心では人としてのありよう・考え方を教えていただき、卒業後、そのことがいろいろな場面で活かされ、生き方にも影響を与えているように思います。
児童学科卒:教育委員会 勤務

清心で学んだカウンセリングマインド。清心は管理栄養士として必要な精神的基盤を養うことができた場所。
食品栄養学科卒:国立研究所 勤務

清心は、人生を豊かにするための種をたくさん植えることのできる場所で、今の私の原点となっています。
人間生活学科卒業:高等学校家庭科教諭

卒業の時、「行ってらっしゃい」と言って、私たちを送り出してくれた。清心は「第二の故郷」です。
日本語日文学科卒業:航空会社客室乗務員

仕事をしていて感じるのは、清心への信頼です。岡山のお客様は清心の教育力をよくご存知で、清心の卒業生である私に、期待をかけて下さいます。
現代社会学科卒:証券会社総合職

“for others”(他者のために)役立ちたいというキリスト教的価値観が私の生き方の拠り所となっています。
英語英文学科卒:アメリカ在住弁護士

※ここに掲載されている卒業生の職業は取材当時のものです。



自らの生きる世界の中で、真に大切なことを見分け、
愛を持って他者に寄り添い、
社会に奉仕していくことのできる人格を育成する。

人と世界をつなぐ、ノートルダム清心女子大学の学び

キリスト教科目

建学の精神を知り、
生きる意義を見つめる

教養科目

世界に知的なまなざしを向け、
自己を深く耕す

全学共通 プログラム

外国語科目

英語を中心に、
ネイティブによる
少人数制でことばを磨く

自立力育成科目

生涯のキャリアを支える力を
多面的に育む

豊かな知性と自分らしく
生き抜く力を育む、リベラルアーツ教育。

本学はキリスト教精神に
基づき、平和でよりよい世界へ
貢献できる女性を育成する、リベラル
アーツ・カレッジです。専門的な学びをそれ
ぞれの人生の課題に結びつけ、豊かな知性と社
会へのまなざしをそなえた「真の自由人」への成長を
促す教育プログラムを整備しています。

社会連携 活動

Think Globally, Act Locally

地域連携・ SDGs推進センター



岡山・中四国地域を中心とした日本・海外の諸団体との連携による総合的な地域貢献活動や、女子大学である本学の特徴をふまえた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」の達成、関連学術研究・人材育成に取り組んでいます。

模擬国連



2018年12月7日～9日に、英語英文学科の10名の学生たちと2名の教員が、筑波大学で開催された筑波英語模擬国連(国連機関で実際に話し合われる議題を取り上げ、参加者がある国の代表になりきって英語で議論を行う集会)に参加し、世界平和構築のための議論を重ねました。

アジア諸国カトリック系 大学間学生交流事業



『アジア諸国カトリック系大学間学生交流事業「フランシスコ・ボランティアキャンプ」』に参加しています。これはボランティア活動を通して国際交流を行うプログラムで、アジア諸国のカトリック系大学の学生が参加しています。2019年度は本学から9名の学生が参加しました。

地域との連携活動 大学ブランド商品の 開発に向けて



耕作放棄地となっていた荒廃茶園の復活プロジェクト「高梁紅茶」オリジナル商品プロデュースに学生が主体となり、地域と連携して大学ブランド商品の開発に取り組んでいます。茶葉の収穫・加工からイベントでのPR活動等を通じて課題を解決する力やコミュニケーション力を育成します。

文学部

人間の作り出した文化や人間の社会について学び、さらに人間について考える。

英語英文学科

入学定員 80名 → 90名



半世紀を越える歴史のなかで培われてきた経験と実績を活かし、あたかも外国に暮らしながら学んでいるかのような学習環境で英語の技能を高め、世界へ情報発信していく知識を身につけていきます。

Pick upカリキュラム English for Study Abroad, International Communication, Business English, Practical Communication など

学びの特徴

外国人教員の少人数クラスで、英語力を磨く

コミュニケーション能力を高めるActive・Communicative English(1年)、Interactive English(2年)、Advanced English(3・4年)は、すべて英語のネイティブ教員が行います。少人数制、日本語禁止の授業を通して、聞く・話す・読む・書くといった技能を磨きます。

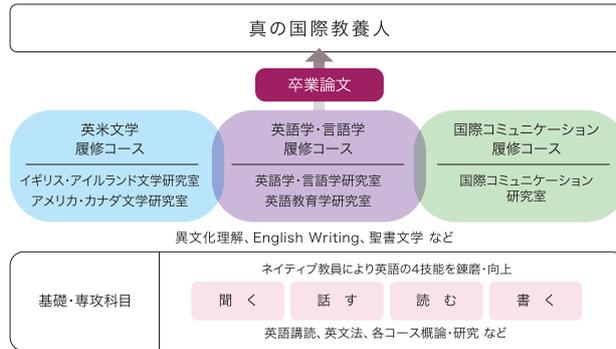
国際コミュニケーション履修コース

国際コミュニケーション履修コースでは、全ての開講科目で英語での授業を行います。実践的な英語力を身につけるとともに、多様な視点から異文化間コミュニケーションに関わる問題を英語で考え、掘り下げていきます。

実践の場で、主体的に英語を応用する

国際的に活躍する人材を講師として招聘して行うアクティブラーニングや、フィールドワーク・フィールドトリップ、国内外で行われる模擬国連(Model UN)などの機会を、授業科目とも連動させて活用します。

学びの道筋



育成する人材像

英語の技能習得とともに、英語圏諸国の文化への理解を深め、広い視野を持つ国際教養人を育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
 - 中学校教諭一種 / 外国語(英語)
 - 高等学校教諭一種 / 外国語(英語)
- [資格]
 - 学校図書館司書教諭
 - 社会教育主事(任用)
 - 司書 ■ 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 中学校・高等学校教員(英語)
- 通訳者・翻訳者
- 航空関連企業
- ホテル・旅行代理店
- 外資系企業・貿易関係企業 など

類似する他大学・学部・学科

- 岡山大学 文学部 人文学科
- 愛媛大学 法文学部 人文社会学科
- 関西外国語大学 外国語学部 英米語学科

人間生活学部

人間生活を学問的に分析し、人間性に満ちた豊かな生活のあり方を探求する。

人間生活学科

入学定員 70名 → 80名



物質的豊かさにとどまらない人間性に満ちた生活を実現するために、人間・福祉・生活・環境・経営・経済などの幅広い領域を学び、総合的な知識と社会の要請にこたえる実践力を身につけます。

Pick upカリキュラム 調理学、生活経営学、社会福祉学、マーケティング論 など

学びの特徴

幅広い知識と教養を持つ、社会に求められる人材に

家族・福祉・環境・経済などの諸問題に向き合いながら、人間生活学や社会福祉、経済・経営について学ぶことにより、幅広い分野で活躍できる総合的な知識と、社会の要請にこたえる実践力を身につけます。

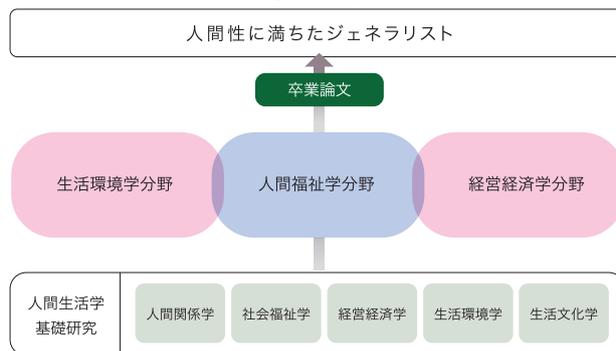
専門性を高め自らの強みを伸ばす、3つの分野

3年次からは、生活の知識と実践を学ぶ「生活環境学分野」、人間の尊厳や福祉を学ぶ「人間福祉学分野」、ビジネスで求められる力を磨く「経営経済学分野」からゼミを選んで所属し、専門性を高めます。

各種免許・資格を取得できる授業を整備

定められた科目を履修することで、中学校・高等学校の家庭科・福祉科の教員免許や、社会福祉士の受験資格、司書、学芸員などのさまざまな免許や資格を取得できるよう、カリキュラムを整備しています。

学びの道筋



育成する人材像

多角的に物事を捉え社会の変化に対応できる思考力を持つ、人間性に満ちたジェネラリストを育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
 - 中学校教諭一種 / 家庭
 - 高等学校教諭一種 / 家庭・福祉
- [資格]
 - 社会福祉士試験受験資格
 - 社会福祉主事(任用)
 - 学校図書館司書教諭
 - 社会教育主事(任用)
 - 司書 ■ 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 中学校・高等学校教員(家庭・福祉)
- 社会福祉士
- 公務員
- 金融業界
- マーケティングディレクター など

類似する他大学・学部・学科

- 岡山県立大学 保健福祉学部 保健福祉学科 / 社会福祉学専攻
- 香川大学 経済学部 経済学科
- 福山市立大学 都市経営学部 都市経営学科

※記載の内容は構想中のものであり、変更される可能性があります。

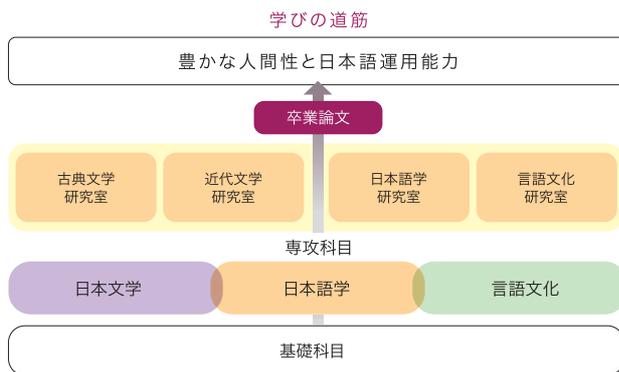
日本語日本文学科

入学定員 60名 → 70名



日本語を核とする文化全体を通して「ことば」を見つめ直すことにより、日本語を活かす力、自ら考えて判断する問題解決能力や豊かな表現力、国際社会の中で日本文化を伝える力を育てます。

Pick upカリキュラム 古典文学基礎演習、近代文学演習、日本語学演習、対照言語学、文学創作論、書道卒業制作 など



学びの特徴

3つの分野を通して、日本文化を広く学ぶ

古典から現代までの文学を研究する「日本文学」、日本語全般を考察する「日本語学」、創作や書道など日本語の豊かな表現を学ぶ「言語文化」の3分野を体系的に学び、サブカルチャーを含む日本文化を理解し表現する力を磨きます。

層の厚い専任教員が支える知的探究

学生の探究心を幅広くカバーする10人の専任教員(2019年4月現在)が在籍。古代から現代に至る各時代の日本文学・日本語学の専門家や、教員や司書の実務経験に基づいた学びを提供できるスタッフが揃っています。

専門分野の枠を越えた「総合探究」

文学作品と地域をつなぐ活動、伝統芸能を含む舞台の見学、地域の博物館との連携など、専門分野の枠を越えて地域の人々や文化財、社会全体の中で学びを活かす新科目、「総合探究」を新設します。

育成する人材像

国際化の時代において、日本の言語および言語からなる文化を理解し、発信できる人材を育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
- 中学校教諭一種 / 国語
 - 高等学校教諭一種 / 国語・書道 [資格]
 - 学校図書館司書教諭
 - 社会教育主事(任用)
 - 司書 ■ 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 中学校・高等学校教員(国語・書道)
- 日本語教員
- 図書館司書
- 学芸員
- 出版業界
- マスコミ業界 など

類似する他大学・学部・学科

- 岡山大学 文学部 人文学科
- 愛媛大学 法文学部 人文社会学科
- 武庫川女子大学 文学部 日本語日本文学科

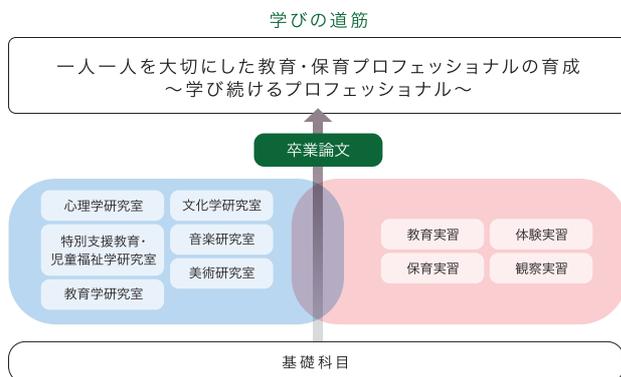
児童学科

入学定員 120名 → 130名



児童学6領域(心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、音楽、美術)の学びと学校園の現場での実践的な学びを両立させ、教育・保育プロフェッショナルにふさわしい資質・能力を育てます。

Pick upカリキュラム 児童学基礎論、インクルーシブ保育・教育インターンシップ、特別支援教育の視点と教科指導など



学びの特徴

一人一人を大切にされた教育・保育を実現する科目群

現行の授業の中で関連が深い科目と、新規開設科目「インクルーシブ保育・教育インターンシップ」ほかを融合させ、一人一人を大切にされた教育・保育について体系的に学びます。

キャンパス内の幼稚園・小学校で実践的に学ぶ

体験を通して、幅広い専門知識や実践的な指導力、豊かな人間性を修得できるよう、キャンパス内にある附属幼稚園・附属小学校を含めた保育・教育現場での実習、実技を数多く取り入れています。

インクルーシブ教育研究センター(仮称)との連携

特別支援教育についての研究施設「インクルーシブ教育研究センター(仮称)」と連携した講義を行うとともに、現職の教員・保育士のためのセミナーにも参加し、一人ひとりの子どもを支える手法を学びます。

育成する人材像

一人一人を大切にされた教育・保育のプロフェッショナルにふさわしい、高い意識をもって学び続けることのできる人材を育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
- 小学校教諭一種
 - 幼稚園教諭一種
 - 特別支援学校教諭一種 [資格]
 - 保育士
 - 学校図書館司書教諭
 - モンテッソーリ教育免許
 - 日本心理学会[認定心理士]
 - 社会教育主事(任用)
 - 司書 ■ 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 小学校教諭
- 幼稚園教諭
- 特別支援学校教諭
- 認定こども園保育教諭
- 保育士
- 公務員 など

類似する他大学・学部・学科

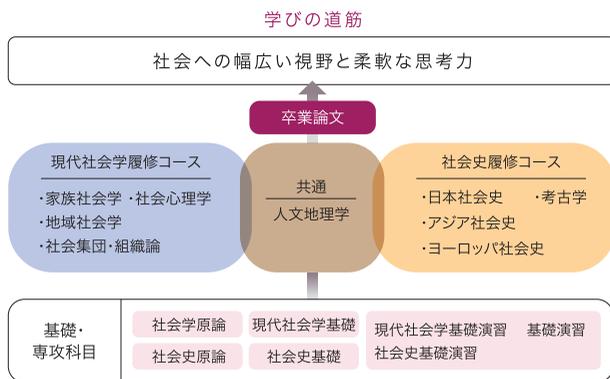
- 岡山大学 教育学部 学校教育教員養成課程
- 香川大学 教育学部 学校教育教員養成課程
- 福山市立大学 教育学部 児童教育学科

現代社会学科

入学定員 60名 → 70名



現代社会の仕組みを読み解く「社会学」と人間社会がここに至るまでの過程を研究する「歴史学(社会史)」の2つの分野をあわせて学ぶことにより、社会への幅広い視野と柔軟な思考力を育てます。



Pick upカリキュラム 宗教社会学、ジェンダー史、社会調査実習、史料講読 など

学びの特徴

全国でも珍しい、社会学と歴史学をかけあわせた学び

現代社会の仕組みやさまざまな問題を分析する「社会学」と今日に至るまでの社会の変化を探究する「歴史学」をあわせて学び、分野を横断しながらトータルに社会的事象を捉える力を身につけます。

2つのコースと少人数制のゼミで、高い専門性を身につける

3年次には、現代社会学履修コースと社会史履修コースに分かれ、「地域社会学」「社会心理学」「日本社会史」「アジア社会史」「考古学」などの少人数制のゼミに所属しながら専門性を高めていきます。

現場での調査をもとに、実践的に社会を学ぶ

フィールドワークを含む多様な調査方法を通して社会を捉えることにより、自ら現状を考え、課題を解決していく力を養います。的確な情報分析や、説得力のあるプレゼンテーションのスキルも学びます。

育成する人材像

過去から現在にいたる幅広い視野、社会現象に関する深い学識と専門性を兼ね備えた人材を育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
- 中学校教諭一種 / 社会
 - 高等学校教諭一種 / 地理歴史・公民
- [資格]
- 社会調査士 ■ 学校図書館司書教諭
 - 社会教育主事(任用) ■ 司書
 - 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 中学校・高等学校教員(社会)
- 公務員
- 金融業界
- 保険業界
- マスコミ業界 など

類似する他大学・学部・学科

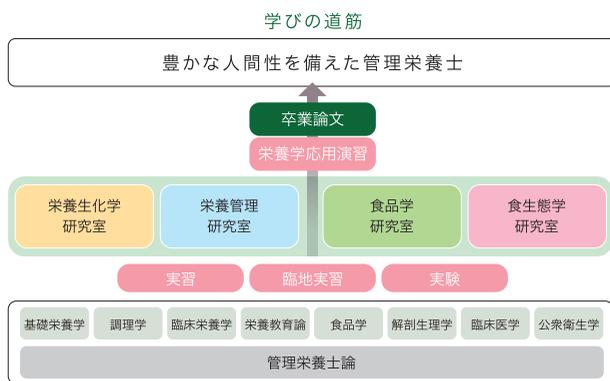
- 岡山大学 文学部 人文学科
- 鳥根大学 法文学部 社会文化学科
- 関西大学 社会学部 社会学科

食品栄養学科

入学定員 80名



生活習慣病をはじめとする疾病の予防や健康の保持増進、あるいは病気の治療などを目的とした「人間の栄養学」を根底から理解し、実践できる管理栄養士をめざします。



Pick upカリキュラム 調理学実習、臨床栄養学、栄養教育論実習、臨床情報管理実習 など

学びの特徴

体系的な学修と少人数グループで実験・実習

基礎演習や管理栄養士論の上にさまざまな科目群を体系的に配置し、適切な栄養指導を行える専門知識や技術を身につけます。実験や実習は少人数のグループで実施し、授業理解や思考力を高めていきます。

4分野の研究室で、食と栄養への理解を深める

3年次から、栄養生化学研究室、栄養管理研究室、食品学研究室、食生態学研究室のいずれかの研究室に属し、個人またはグループで専門的な研究に取り組みます。

事前事後の指導も含めた、臨地実習の充実

臨地実習を学内の学習と連携し、その効果を最大限に高めるため、実習前には実習目的の理解や課題設定などを、実習後には課題の成果発表や情報交換を行い、総合的な教育を実施しています。

育成する人材像

人間の生活と食のあり方を総合的にとらえ、栄養指導の分野から健康づくりに貢献できる人材を育成します。

めざせる免許・資格

- [免許]
- 栄養士
 - 管理栄養士国家試験受験資格
 - 栄養教諭一種
- [資格]
- 食品衛生管理者(任用)
 - 食品衛生監視員(任用)
 - 社会教育主事(任用)
 - 司書 ■ 学芸員 ■ 日本語教員

想定される進路

- 病院
- 福祉施設
- 学校(栄養教諭など)
- 保健所などの行政機関
- 企業(食品開発など)

類似する他大学・学部・学科

- 岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科
- 山口県立大学 看護栄養学部 栄養学科
- 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科

学費および諸納付金(初年次)(2020年度入学者)

学年	区分	英語英文学科	日本語日文学科	現代社会学科	人間生活学科	児童学科	食品栄養学科
初年次	入学金	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円
	授業料	710,000円	710,000円	710,000円	710,000円	710,000円	710,000円
	施設・設備費	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円
	教育充実費	115,000円	115,000円	115,000円	118,000円	118,000円	118,000円
	上記以外の諸納付金	10,610円	10,610円	10,610円	10,610円	10,610円	11,633円
	小計	1,235,610円	1,235,610円	1,235,610円	1,238,610円	1,238,610円	1,239,633円

【参考】類似する私立大学・学部・学科の初年度納入金 1,217,000円～1,440,600円

奨学金制度

名称	区分	金額等	募集人数	募集時期	選定基準
清心ブルー & ゴールド奨学金	減免	授業料4年間全額(284万円)	各学科4名程度	入学前	一般入学試験(前期)成績優秀者で入学後も成績優秀な者(別途基準有)
優秀奨励奨学金	給付	10万円(年額)	28名程度	2年生以上	1.個人…成績優秀者 2.個人・団体…課外活動及び社会・地域活動優秀者
新入生支援奨学金	給付	授業料年額の4分の1(約17万円)	制限なし	1年生	学修意欲が高く ア 給与・年金収入の合計金額500万円以下 イ 給与所得者以外は所得金額234万円以下
クビリー奨学金	給付	授業料年額の2分の1(約35万円)または 授業料年額の4分の1(約17万円)	60名	2年生以上	前年度のGPAが所属学科の上位3分の1以上であり、 修得単位が標準単位数を満たしていること ア 給与・年金収入の合計金額700万円以下 イ 給与所得者以外は所得金額327万円以下
ノートルダム清心女子大学 同窓会奨学金	給付	28万円(年額)	10名以内	2年生以上	人物・学業ともに優れ、経済的に困難な学生で同窓会終身会費を納めている者
自宅通学応援型奨学金	給付	2万円(年額)	制限なし	全学年	1か月の定期代が1万5千円以上の者、もしくはアドバイザー(教員)の推薦を受けた者 ※収入による制限あり
一人暮らし応援奨学金	給付	10万円(年額)	制限なし	1年生	下宿等の学生 ※収入による制限あり
緊急・応急奨学金	給付	学費の全額または2分の1	制限なし	全学年	家計の急変(被災以外) ※収入による制限あり
災害支援奨学金	免除	学費の全額または2分の1	制限なし	全学年	自然災害等による家計の急変 ※収入による制限あり
海外留学生奨学金	給付	留学先大学と本学授業料の差額 (上限100万円)	制限なし	全学年	所定の学力基準を満たし協定大学に留学の者
海外活動支援奨学金	給付	5万円以内	制限なし	全学年	所定の学力基準を満たした者の海外でのボランティア活動等を支援
一般財団法人渡辺和子記念 ノートルダム育英財団奨学金	給付	月額3.5万円	13名程度	2年生以上	人物・学業ともに優れ、将来の社会貢献を期待できる者

その他、日本学生支援機構奨学金や地方自治体等の奨学金もあります。

公共交通機関に恵まれた、 岡山の中心市街地に一番近い大学



中四国地方屈指のターミナルであるJR岡山駅から徒歩約10分ほどの場所にキャンパスが位置。路線バス、在来線を使って通学するケースのほか、新幹線を利用する遠距離通学も可能です。



JR岡山駅から
徒歩10分!

駅から本学への
道案内動画は
こちらをチェック!
(YouTube)



ノートルダム清心女子大学

Tel.086-255-5585

ノートルダム清心女子大学 検索

〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町2-16-9

https://www.ndsu.ac.jp/

お問い合わせは、入試広報部まで

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ハラダ トヨキ 原田 豊己 <平成29年4月>		聖書神学 博士 (伊国)		ノートルダム清心女子大学学長 (平成29.4～令和3.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。